基本編

目次

1 A's（エース）の起動 4

A's（エース）グループ 4
物件管理 5
　新規顧客登録 5
　プラン登録 6
物件概要 7
　建具部材指定 8
クイックメニュー 9
メインメニュー 9
ウィンドウ構成 10
表示の制御 11
　アイコンによる表示の制御 11
　キーによる表示の制御 12
　ホイールマウスによる表示の制御 12
アンドゥ・リドゥ 13
　３Ｄパースのアンドゥ・リドゥ 13
要素選択について 13
ショートカットキー 14
データの保存 15
　作業中のデータの保存 15
　自動データ保存設定 15
　図面編集のデータ保存 16
　終了メニュー 17
　作業中物件の継続読み込み 17
　自動バックアップの復元と設定 18
データの受け渡し 20
　他のパソコンの A's（エース）に 20
　物件管理と物件選択 23
CEDXM(シーデクセマ) 連携 24
　CEDXM インポート（物件管理） 24
　CEDXM インポート（物件選択） 24
　CEDXM エクスポート（CAD データコンバート）
　CEDXM エクスポートの注意点 25

2 プラン図 27

作成するプラン図 27
プラン図の起動 28
　グリッド設定 28
　プラン図の初期画面 28
壁 29
　壁入力のポイント 29
　壁入力寸法表示 29
　壁入力アシスト 29
部屋 31
　主区画 31
　水廻り 32
　収納 33
　その他 33
壁の調整 35
　壁の追加 35
リアルタイム連動 37
建具 38
　建具自動配置 38
　建具の削除 39
　建具呼称配置 40
　建具入力アシスト 41
　建具の右クリック 44
内観部品 45
　部品自動配置 45
　３Ｄ部品－テーブルセット 46
　３次元部品－ティーセット 47
　リアルタイム３Ｄビューアの利用 48
　部品の要素選択 49
　部品の設置高さ 49
　部品のセット配置 50
　カーテン自動配置 51
階段 52
　階段の壁変更 53
　階段変更 54
　ささら桁設定 55
付属品 56
　ポーチ 56
　テラス 57
　ポーチ手摺 58
　換気扇 58
　ウッドデッキ 59
　庇 60
寸法線 61
２階プラン 62
　階層変更 62
　壁 62
　部屋 64
　壁の調整 67
　建具 68
　内観部品 72
　付属品 73
　寸法線 74
画像出力 75
　１階の画像出力 75
　画像登録 75
　２階の画像出力 76
　印刷 77
　画像出力の終了 77
収納率 78
　面積算定 78
　面積表 79
　収納率対象の ON/OFF 79
　有効率の個別変更 80
　収納率の画像出力 80
　収納率のプレゼンボード 81
　画像出力の部材色を戻す 81
プラン図の終了 82
データの保存 82

3 屋根伏図 83

作成する屋根伏図 83
継続読込 83
屋根伏図の起動 84
　屋根自動配置ウィンドウの操作 84
　屋根自動配置の設定 85
地回り範囲の追加 85
屋根自動配置 86
屋根部品 87
屋根化粧材 88
　軒樋 88

竪樋 89
落し口 90
呼び樋・はい樋自動配置 90
雨樋チェック 91
屋根伏図の終了 91

4 高さ設定 92

高さ設定の起動 92
階基準高さ 93
立面表示 94
展開表示 95
一覧表示 96
建具 96
部品 97
高さ設定の終了 97

5 外部意匠配置 98

外部意匠配置の起動 98
部分サイディング 99
バルコニー手摺の部分サイディング 100
付け柱 101
窓モール 102
外部意匠配置の終了 102

6 外構図 103

作成する外構図 103
法規チェックのための外構図とは 103
外構図の起動 104
外構セット配置 105
外構部品の配置 106
法規チェックのために 107
境界条件 107
真北マーク 108
用途地域 108
配置図（画像）の出力 109
出力部材の利用 109
表示部材の利用 110
プラン図での「延焼の恐れのある範囲」「真北マーク」表示 110
外構図の終了 111

7 プランチェック 112

プランチェックの起動 112
チェック結果の確認 113
プランチェックの終了 114

8 家相チェック 115

家相チェックの起動 115
家相盤設定 116
家相盤の配置 117
家相チェック 118
家相盤表示文字編集 119
家相盤の画像出力 120
家相チェックの終了 120
データの保存・終了 121

1 A's（エース）の起動

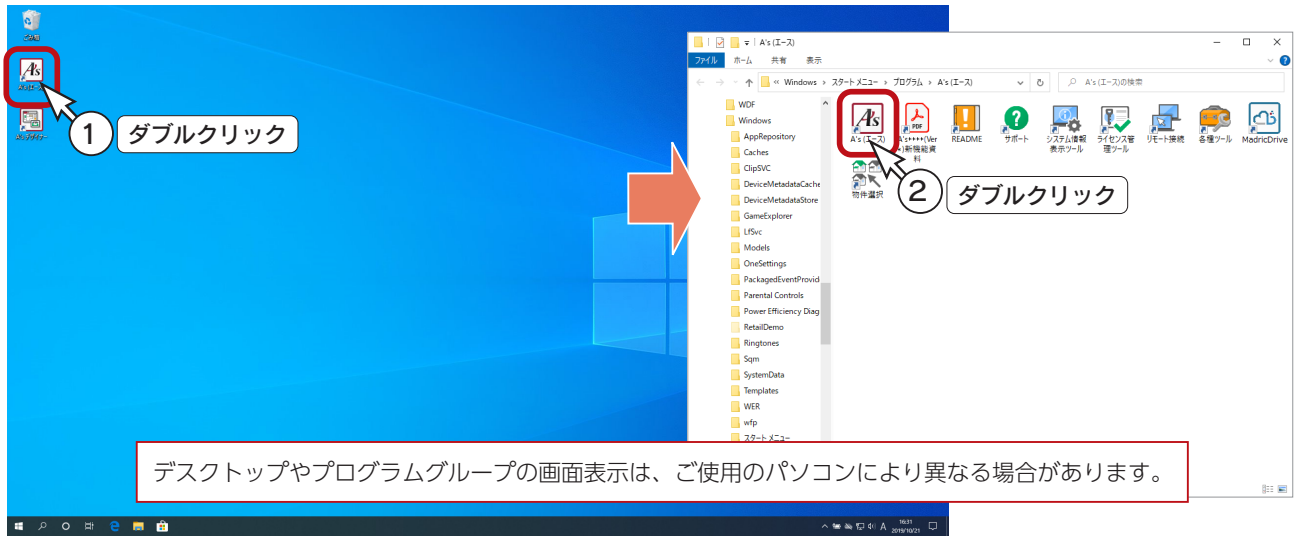
A's（エース）グループ

①デスクトップの (A's（エース）) をダブルクリック

＊「A's（エース)」グループの画面が表示されます。

②グループ内の (A's（エース）) をダブルクリック

＊物件管理の画面が表示されます。



(A's (エース))..... A's（エース）の物件管理を起動

(README) ..... A's（エース）を使用するにあたっての動作環境、注意事項などを記述

(サポート)..... A's（エース）のサポートページを表示（インターネット接続が必要）

(システム情報表示ツール) ..... A's（エース）のインストール先、OS、メモリ、Internet Explorer バージョンなどを表示

(ライセンス管理ツール) ..... ライセンスの管理画面を表示

(リモート接続)..... 弊社のサポートセンターがリモートサポートで利用しているチームビューアを起動

(各種ツール) ..... 各種ツールを表示

(Madric Drive) ..... Madric Drive（オプション）を起動

Madric Drive につきましては、専用マニュアルをご参照ください。

(物件選択) ..... 物件管理をスキップし、物件選択を起動

物件管理

新規顧客登録

①物件管理画面にて をクリック

＊顧客情報入力画面が表示されます。

②顧客 No を入力

＊特に決まりはありませんので、分かりやすいように付けてください。
例えば「0001」と入力します。（10 桁まで入力可能）

③顧客名を入力

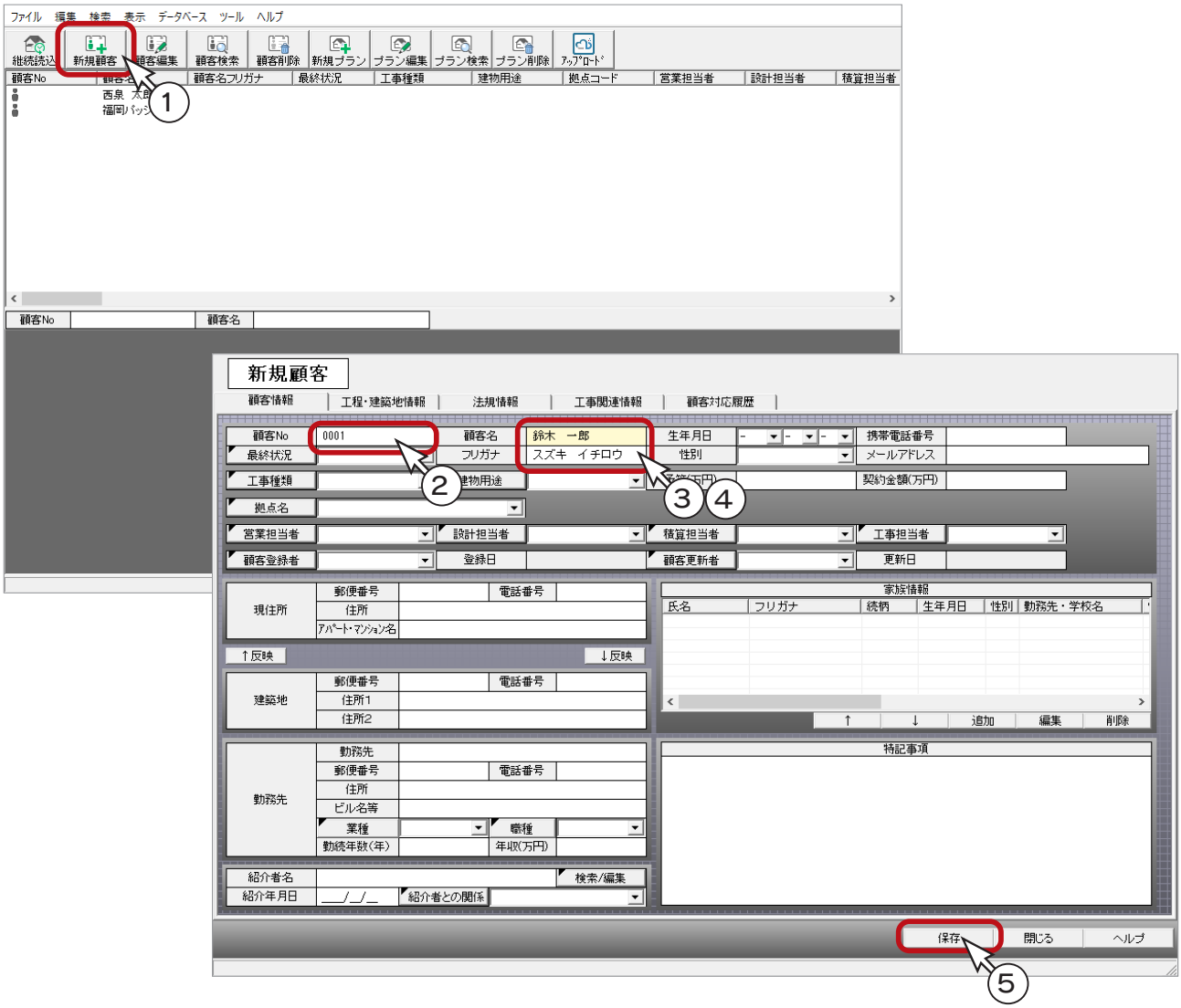
＊例えば「鈴木　一郎」と入力します。

④フリガナを入力

＊その他はここでは省略しますが、必要に応じて入力してください。

⑤「保存」をクリック

＊物件管理の画面に戻ります。
入力した顧客情報が、顧客ビューに表示されます。



プラン登録

①追加した顧客（鈴木　一郎）を選択

②

をクリック

＊プラン登録の画面が表示されます。

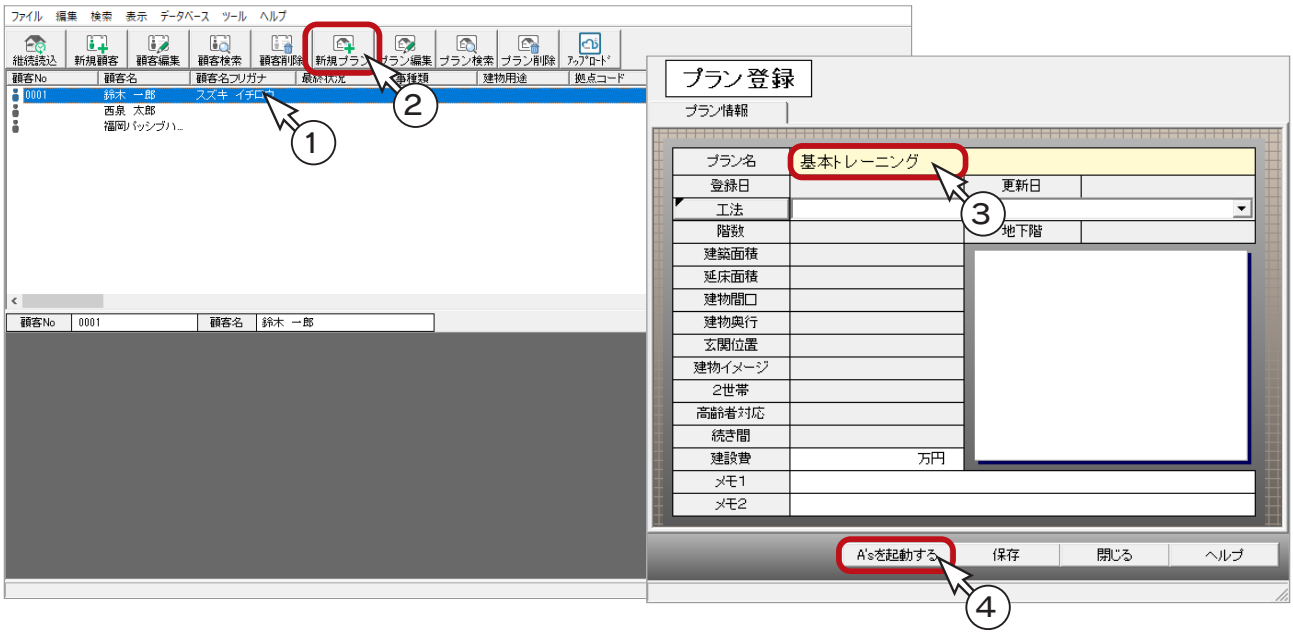
③プラン名を入力

＊例えば「基本トレーニング」と入力します。

＊ プラン名以外は省略しますが、必要に応じて入力してください。

④「A's を起動する」をクリック

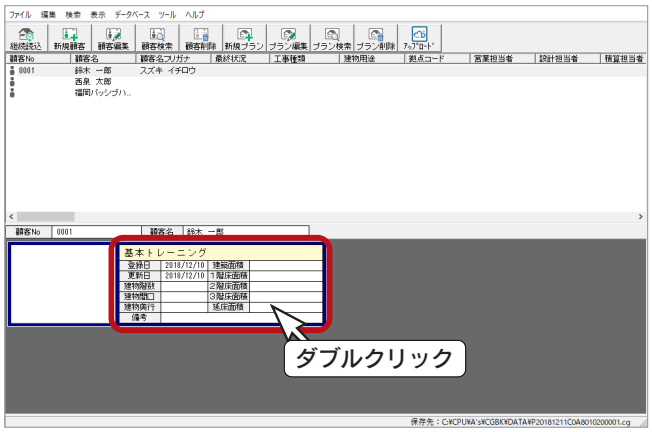
＊物件概要の画面が表示されます。



プラン情報の工法と物件概要の工法は連動していません。
プラン情報の工法は、検索に利用する情報です。

物件管理から起動する場合

上記の④で「保存」をクリックすると、物件概要には進まず、物件管理に戻ります。
物件管理に戻った場合は、画面下のプランをダブルクリックしてください。
なお、サムネイルではなく、登録日等のデータ側をダブルクリックしてください。
クリック後、「編集」メニュー、または右クリックメニューの「A's を起動する」を選択してもかまいません。



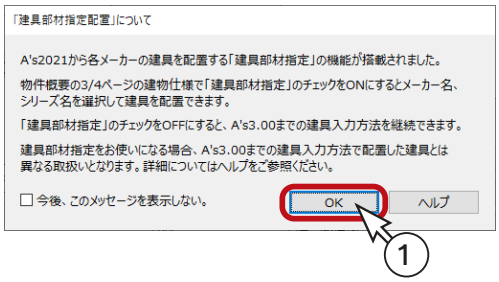
物件概要

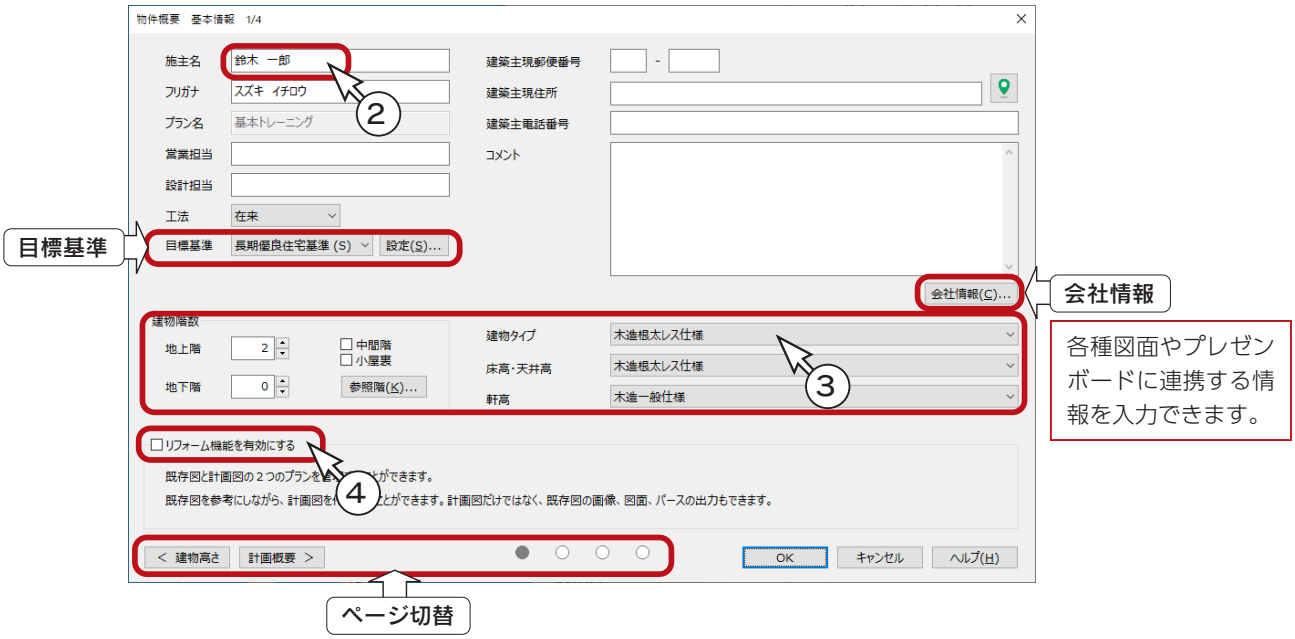
物件概要では施主名や担当者、高さ情報の初期値等の情報を設定します。

「施主名」は自動入力

物件管理から物件概要に進むと、「施主名」には顧客名が自動入力されます。
ただし、インポートした物件は、既に施主名が登録されていますので、自動入力はされません。

①「建具部材指定配置」についてメッセージが表示された場合は、内容をご確認の上、「OK」をクリック　（⇒【基本編－８】参照）
②「施主名」を確認
③「建物階数：地上２階」「建物タイプ：木造根太レス仕様」に設定
　＊その他の設定はここでは省略しますが、必要に応じて入力してください。
④「リフォーム機能を有効にする」は、□であることを確認
　＊チェックが入っている場合は外してください。





各種図面やプレゼンボードに連携する情報を入力できます。

物件概要の反映

物件概要には、基本情報、会社情報、計画概要、建物仕様、建物高さの５画面が用意されています。
ここで入力したデータは、確認申請書や各種図面に反映されます。
会社情報以外は、画面左下のボタン、または〇のクリックにより切り替えが可能です。

リフォーム機能

「リフォーム機能を有効にする」にチェックを入れると、１つの物件で「既存図」と「計画図」という形で２つのプランデータを管理することができます。

目標基準

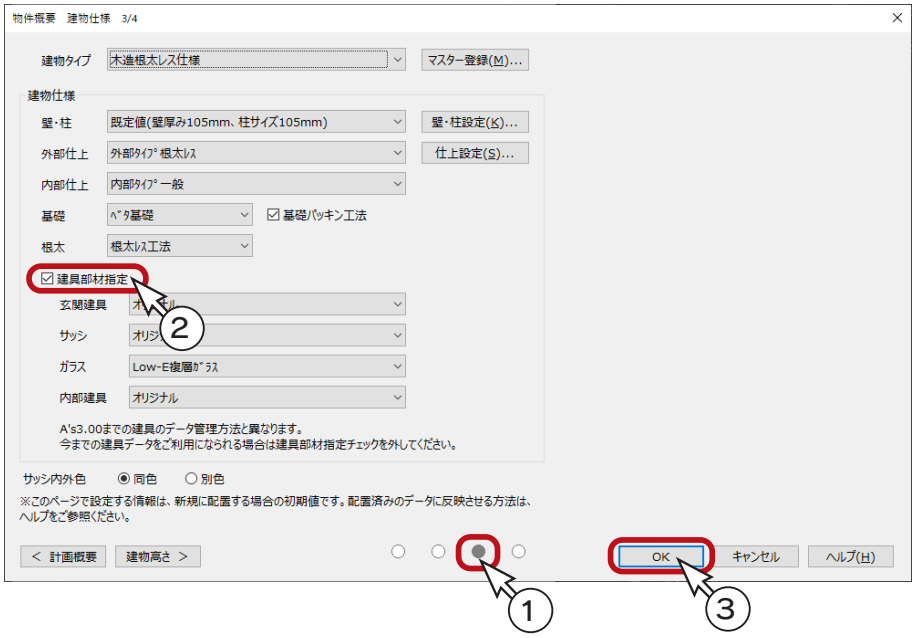
長期優良住宅基準、フラット 35、確認申請基準など、目標とする基準をあらかじめ設定することで、基準達成に向けた設計が可能となります。

項目によっては、 （目標基準ナビゲーションツール）で自動判定し、該当するプログラムに連携することもできます。

建具部材指定

物件概要の 3/4 ページ目「建物仕様」パネルに、「建具部材指定」があります。
建具仕様をあらかじめ指定することにより、プランニングの際に決められた建具リストから選択して入力できます。
自社仕様としてマスター登録しておけば、設計の標準化が図れます。

①物件概要画面左下のボタン、または〇をクリックして、「建物仕様」パネルを表示
②「建具部材指定」が☑であることを確認
　＊チェックが入っていない場合は、入れてください。
③「OK」をクリック
　＊しばらくして、メインメニューとプラン図の画面が表示されます。



建具部材指定 ON/OFF の違い

アプリ	機能		建具部材指定ON	建具部材指定OFF
物件概要		物件概要	メーカー指定可能	メーカー指定不可
プラン図		建具画面表示	薄緑/薄赤塗り	白塗り
		高さ・詳細情報設定	メーカー指定可能	メーカー指定不可
			付属品選択可能	付属品選択不可
			鍵仕様選択可能	鍵仕様選択不可
			配置位置調整可能	配置位置調整不可
			吊元・方向設定可能	吊元・方向設定不可
		建具注記	メーカー名、シリーズ名、シリーズタイプ名、デザイン名、色柄、鍵仕様の表示可能　※1	メーカー名、シリーズ名、シリーズタイプ名、デザイン名、色柄、鍵仕様の表示不可
		建具呼称配置	メーカー指定可能	メーカー指定不可
		建具リスト選択	選択不可	選択・配置可能
		お気に入り登録	同一建具登録可能　※1	同一建具登録不可
			積算関連付け登録不可　※1	積算関連付け登録可能
		建具自動調整	自動調整対象外	自動調整対象（建具呼称配置除く）
		ガラス仕様	システム固定４種類　※1 「Low-E複層ｶﾞﾗｽ」「ﾄﾘﾌﾟﾙｶﾞﾗｽ」 「一般複層ｶﾞﾗｽ」「防火戸用複層ｶﾞﾗｽ」	建具仕様設定ツールで追加変更可能
	建具 右クリックメニュー	スマートメニュー	選択不可	選択可能
		建具タイプ変更	選択不可	選択可能
建具表		付帯物	システム固定7種類　※1 「建具枠」「鴨居」「中鴨居」「敷居」 「網戸」「三方枠ｾｯﾄ」「サッシ枠」	建具仕様設定ツールで追加変更可能
詳細積算	明細 右クリックメニュー	マスター確認	選択不可　※1	選択可能
		マスター登録	選択不可　※1	選択可能
メンテナンス		メンテナンス	建具部材メンテナンス　※1 （Excelで部材名・摘要・価格・工種区分等の編集が可能。各種ツール⇒建具設定）	建具算出編集ツール・建具仕様設定ツール （ツールから追加・編集・削除が可能）

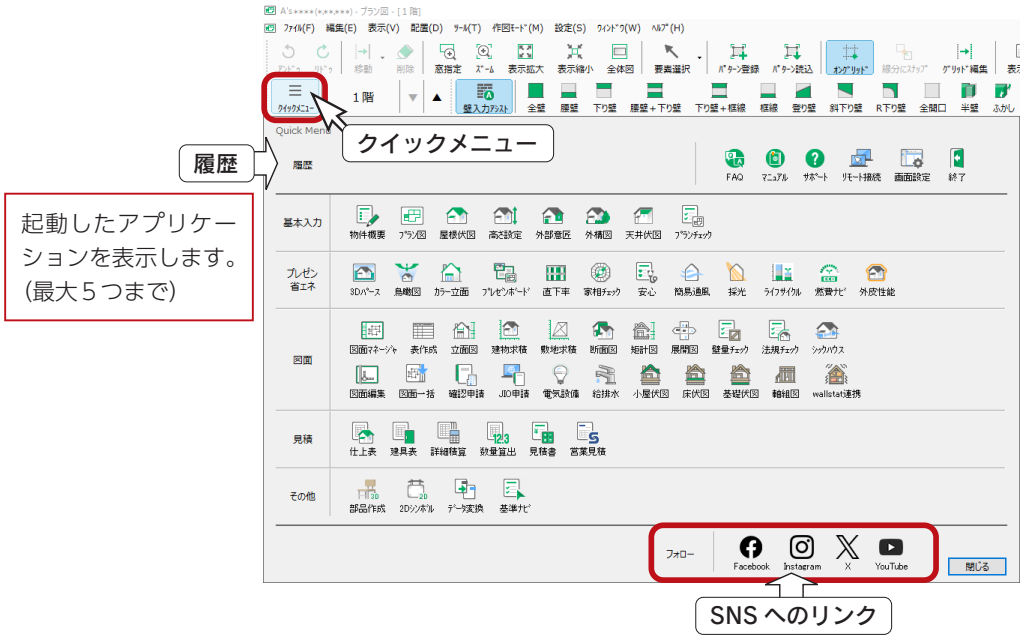
※1　規格外建具（薄赤塗り）は一部建具部材指定OFFの動作となります。

クイックメニュー

本システムは、複数のアプリケーションで構成されています。
そこで、各アプリケーションを起動するための窓口として、クイックメニューと呼ばれる起動ツールを用意しました。

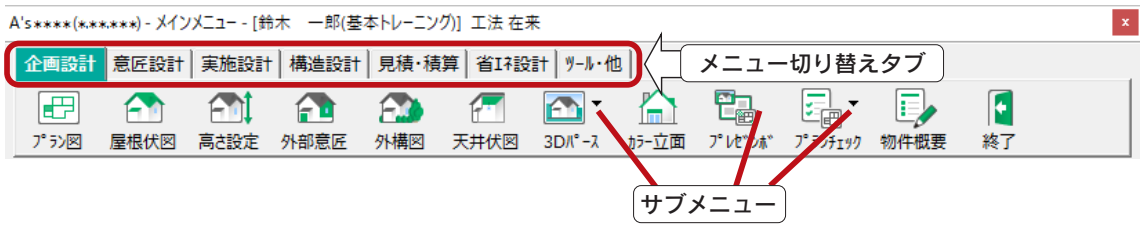
プラン図等の画面で、☰（クイックメニュー）をクリックすると、全アプリケーションのアイコンが表示されます。

アイコンをクリックすると、該当のアプリケーションが起動します。



メインメニュー

クイックメニュー以外に、メインメニューから各アプリケーションを起動することもできます。
メインメニューのアイコンをクリックすると、該当のアプリケーションが起動します。



＊▼は、サブメニューがあることを示しています。
＊メインメニューは、お使いのシステム構成によって異なります。

次回起動時の動作設定

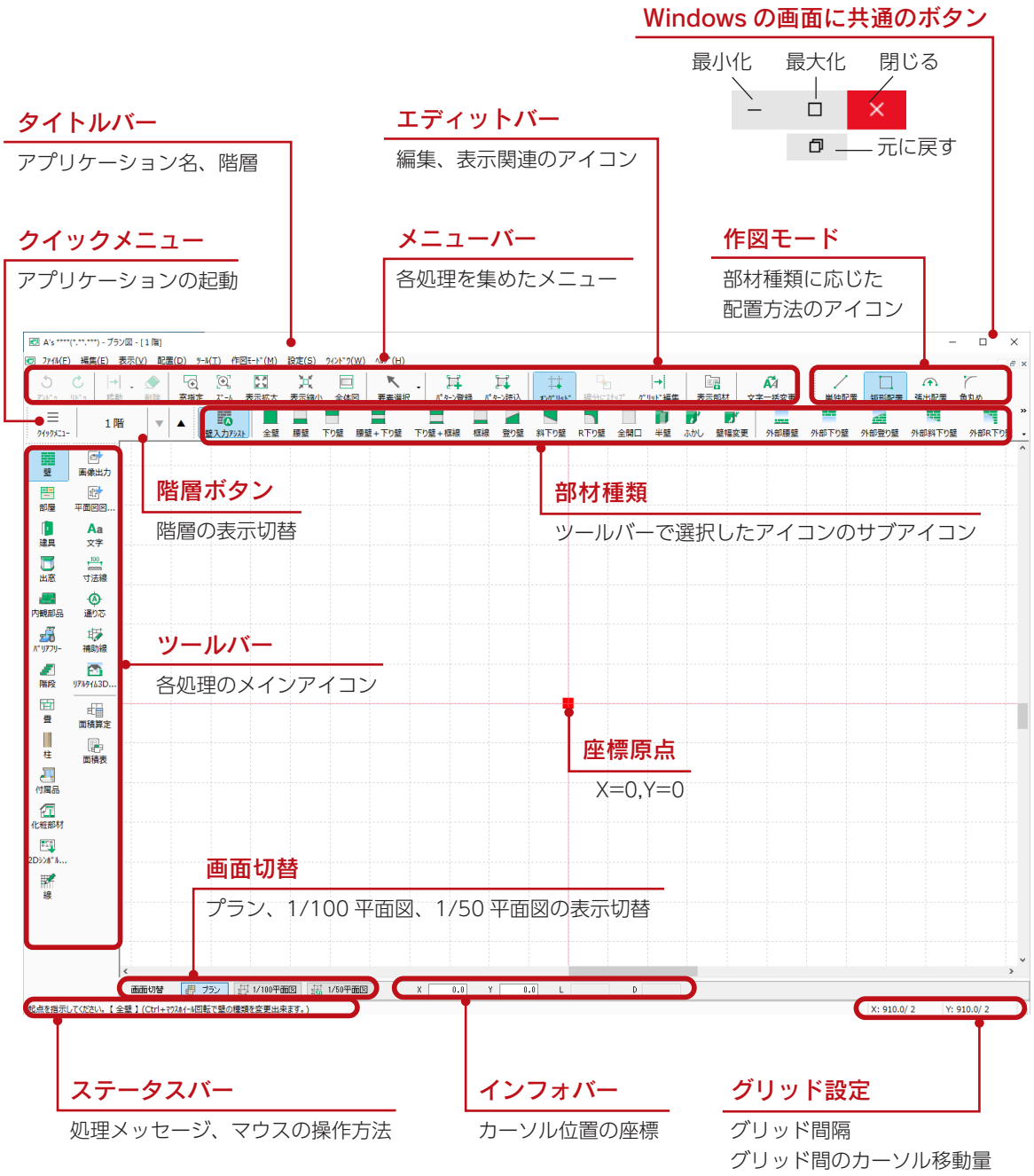
メインメニューの右クリックメニューの「動作設定」では、次回起動時の動作を設定できます。
新規物件起動時、既存物件起動時について、それぞれ「プラン図を起動する」「外構図を起動する」「メインメニューのみ起動する」のいずれかに設定できます。

お試し版について

アイコンに T が表示されているものは、お使いのシステム構成に含まれていないアプリケーションです。
Web ライセンス認証でご利用いただいている場合に、14 日間お試しいただけます。
なお、お使いいただけるアプリケーションのみを表示する場合は、クイックメニュー、またはメインメニュー「ツール・他」タブの（画面設定）にて、設定を変更できます。

ウィンドウ構成

「プラン図」「屋根伏図」等、各アプリケーションは独立したウィンドウを持っていますが、構成はほぼ同じで、操作方法も基本は同じです。例えばプラン図のウィンドウは、以下のような構成になっています。



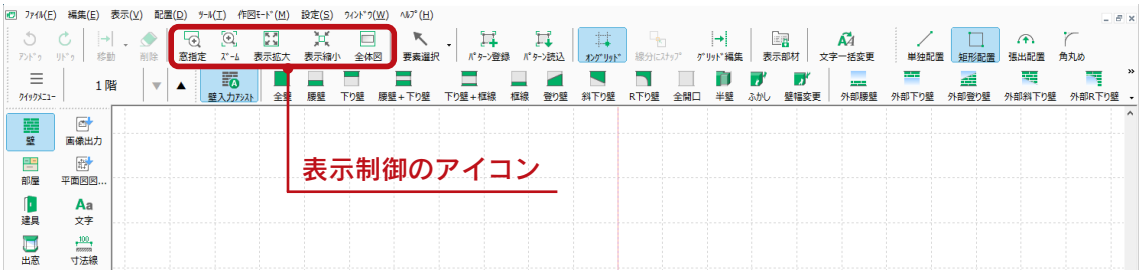
アイコンスタイル

クイックメニュー、またはメインメニュー「ツール・他」タブの（画面設定）にて、アイコンスタイルを変更できます。
本マニュアルで使用しているアイコンスタイルは、「ボタン名を表示する」「大きいアイコン」になっています。

表示の制御

アイコンによる表示の制御

エディットバーに、表示の制御のアイコンが並んでいます。
表示が小さいと、入力ミスに気付きにくいので、できるだけ大きく表示して入力することをお勧めします。



■拡大・縮小

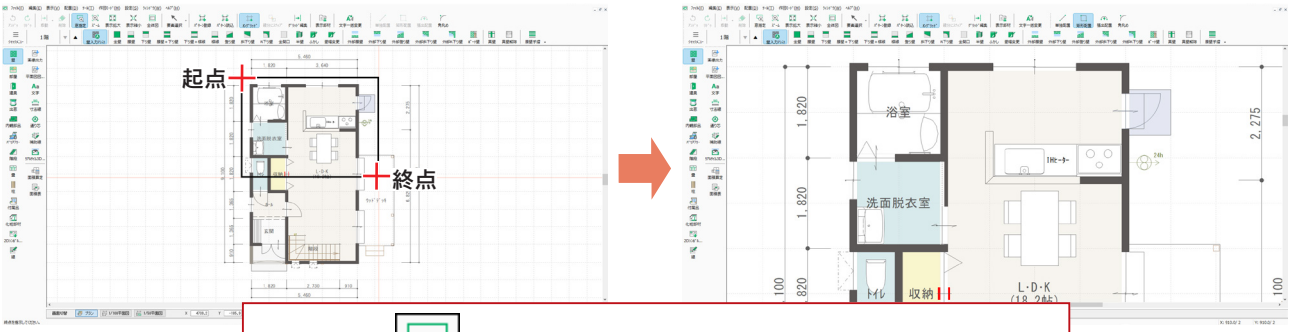
（表示拡大）をクリックすると、表示を一段階拡大します。

（表示縮小）をクリックすると、表示を一段階縮小します。

拡大・縮小率は、「設定」の「画面拡大率」で設定することができます。

■窓指定

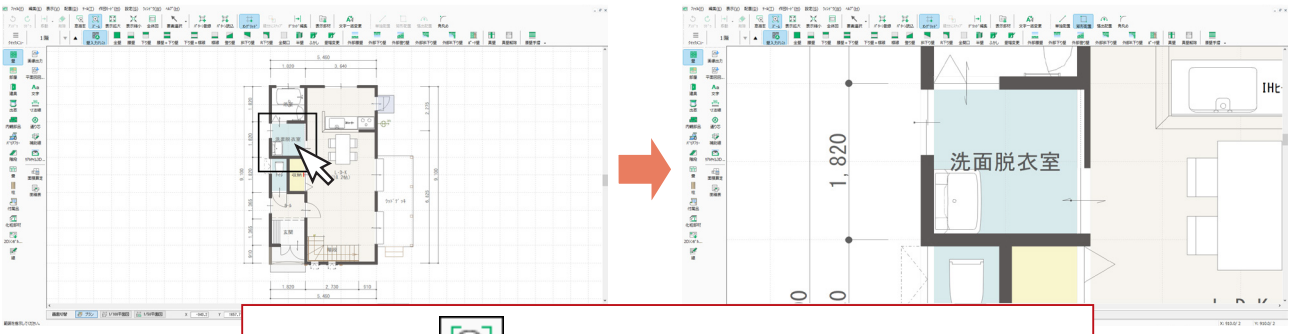
（窓指定）をクリックし、対角２点の矩形で範囲を指定すると、指定した範囲を作業領域に拡大表示します。



窓指定後は、 （全体図）をクリックすると前の表示状態に戻ります。

■ズーム

（ズーム）をクリックし、拡大表示したいポイントを指示すると、指示したポイントを中心に、設定した拡大率で作業領域に拡大表示します。



ズーム後は、再度 （ズーム）をクリックすると前の表示状態に戻ります。
ズーム枠の拡大率は、「設定」の「ズーム枠」で設定することができます。

キーによる表示の制御

画面移動、拡大・縮小表示は、画面上からも操作できますが、キーボードからも操作が可能です。右のキーもご利用ください。

表示拡大 …… [PgDn]
表示縮小 …… [PgUp]
全体図 …… [Shift] ＋ [Home]
再表示 …… [Home]
スクロール …… ↑↓←→

ホイールマウスによる表示の制御

■ホイールのドラッグによる画面移動

ホイールマウスのホイールをドラッグすることによって、画面全体を移動できます。

ホイールを押下げると、が現れますので、その状態でドラッグしてください。

■ホイールのスクロールによる拡大・縮小表示

ホイールマウスのホイールをスクロールすることによって、拡大・縮小表示ができます。

「プラン図」「屋根伏図」など、（表示拡大）、（表示縮小）機能があるアプリケーションすべてで共通です。

スクロールは、作図領域内にあるマウスカーソルの位置を中心に行われます。
マウスカーソルが作図領域外にあるときは、作図領域矩形の中心がスクロールの中心になります。

アンドゥ・リドゥ

（アンドゥ）・・・・・・・・・ウィンドウを開いてから行った作業内容を、逆順に取り消すことができます。
＊入力中のポイントミスは、アンドゥではなく、右クリックで戻ります。

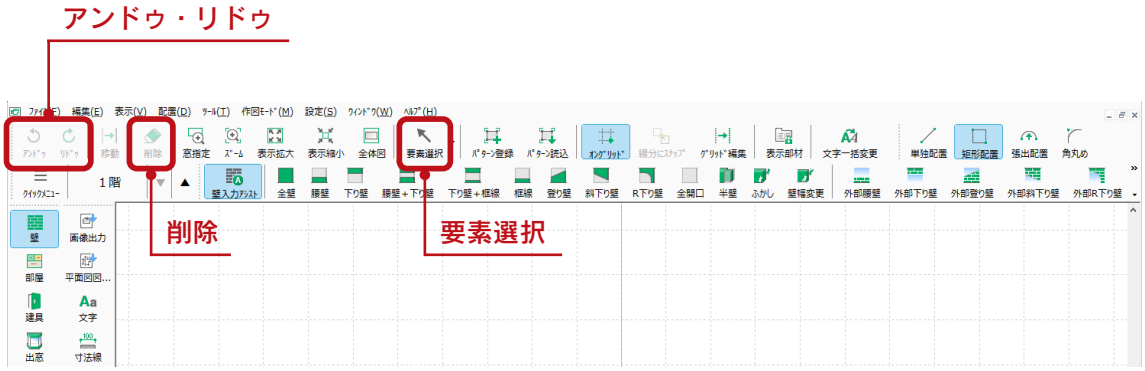
（リドゥ）・・・・・・・・・・・アンドゥの逆です。主にアンドゥしすぎた場合に使用します。

アンドゥとリドゥが効かなくなる処理

1.「高さ設定」と同時に実行し、先に「高さ設定」を終了させた場合
2. [Ctrl] + [S] キーで上書き保存した場合

アンドゥで消えないものは？

（要素選択）でクリック後、 （削除）をクリックしてください。
[Delete] キーを押す、または右クリックメニュー、編集メニューの「削除」を選択してもかまいません。



3D パースのアンドゥ・リドゥ

3D パース、及び鳥瞰図では、右クリックメニューに「アンドゥ」「リドゥ」があります。
また、「表示」⇒「ヒストリー」を選択すると、部材色変更などの操作の履歴が表示され、リストから操作を特定してアンドゥすることもできます。

要素選択について

（要素選択）は、作業順に関係なく、既に入力済みの部材を選択変更（移動、複写、削除など）する場合に使用します。
要素選択後は、主に右クリックメニューから処理を選択します。

ドラッグで範囲選択が可能

要素を矩形範囲で選択することもできます。
要素を囲むようにマウスを対角から対角にドラッグします。

部屋設定後は部屋選択が可能

部屋名設定後は要素選択のモードで部屋の中を指示すると、部屋選択の状態となり部屋の表示色が変わります。

ショートカットキー

頻繁に使用するツールを素早く実行するためのショートカットキーが用意されています。

カテゴリ	目的		キー操作
共通	アンドゥ		Ctrl+Z
	リドゥ		Ctrl+Y
	要素選択		A
	全て選択		Ctrl+A
	削除		Delete
	オングリッド 有効/無効		Ctrl+F
	グリッド 表示/非表示		G
	上階へ		＋
	下階へ		－
	リアルタイム3Dビューア起動		Ctrl+D
プラン図	ツールバー選択	壁	W
		部屋	R
		建具	F
		寸法線	D
	部品配置時自動高さ調整		X
	部品配置時角度固定ON/OFF		H
	面積表 表示/非表示		T

カテゴリ	目的	キー操作
3Dパース	選択モード切替	スペース
	画面キャプチャ	0
	レイトレース1	1
	レイトレース2	2
	ファイナルギャザー	3
	平行移動（左）	A、←
	平行移動（右）	D、→
	平行移動（前）	W、↑
	平行移動（後）	S、↓
	視点平行移動（上）	Q
	視点平行移動（下）	E
	視点回転（見上げる）	I
	視点回転（見下げる）	K
	視点回転（左を向く）	J
	視点回転（右を向く）	L
	画面切り替え	Y
	あおり補正ON/OFF	T
	対面デモ時ツールバーON/OFF	F

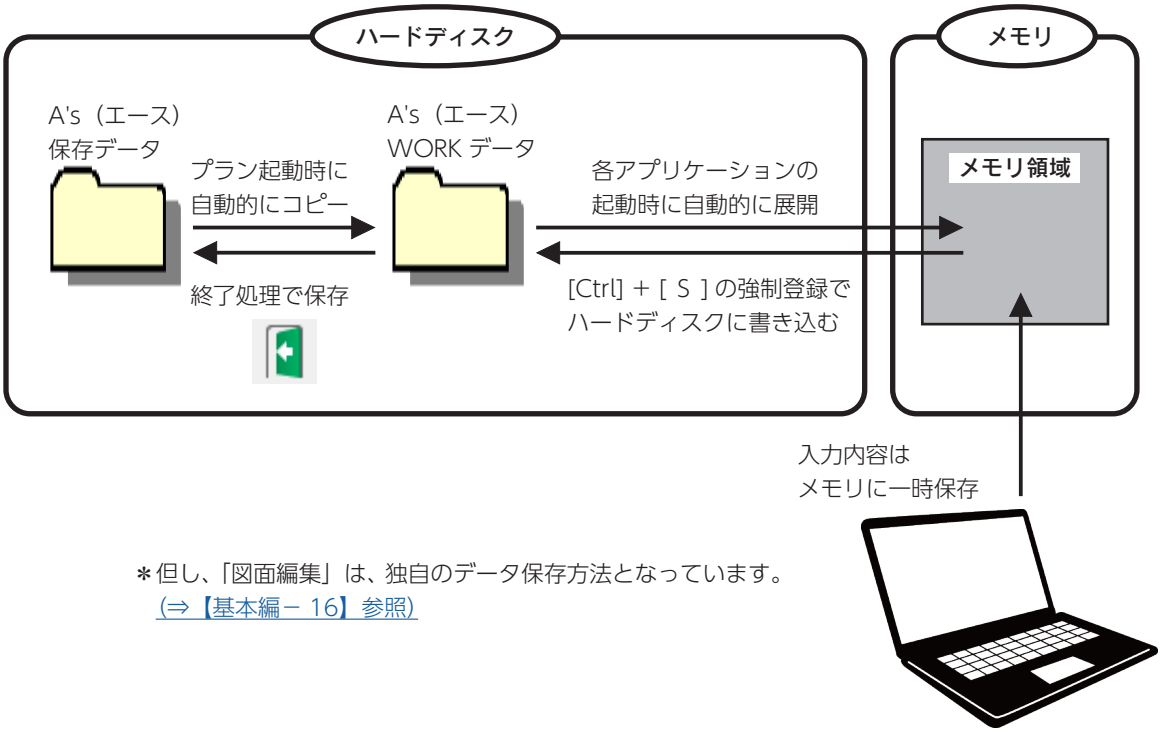
ショートカットキーは、日本語入力モードでは動作しません。

データの保存

作業中のデータの保存

A's（エース）の各処理は、全て WORK フォルダ、及びメモリ上で行っています。

作業後のデータは、クイックメニュー、またはメインメニューの （終了）にて保存したときに一括保存されますが、操作途中に何らかのエラーでパソコンがダウンした場合は、メモリ内のそれまでの処理が全て無効となります。

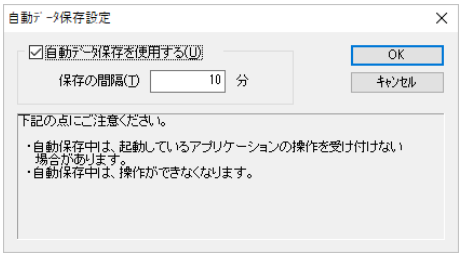


＊但し、「図面編集」は、独自のデータ保存方法となっています。
（⇒【基本編－ 16】参照）

自動データ保存設定

メインメニューのタイトルバーで右クリックし、
「自動データ保存設定」を選択します。
自動データ保存の有無と、有りの場合の間隔を
設定できます。

保存対象：起動中のアプリケーション全て
保存場所：ハードディスクの WORK フォルダ



作業している画面において [Ctrl] + [S] キーを押すことでも、ハードディスクの WORK フォルダに書き込むことができます。
なお、[Ctrl] + [S] キーによる書き込みは、各画面ごとでしか行われません。

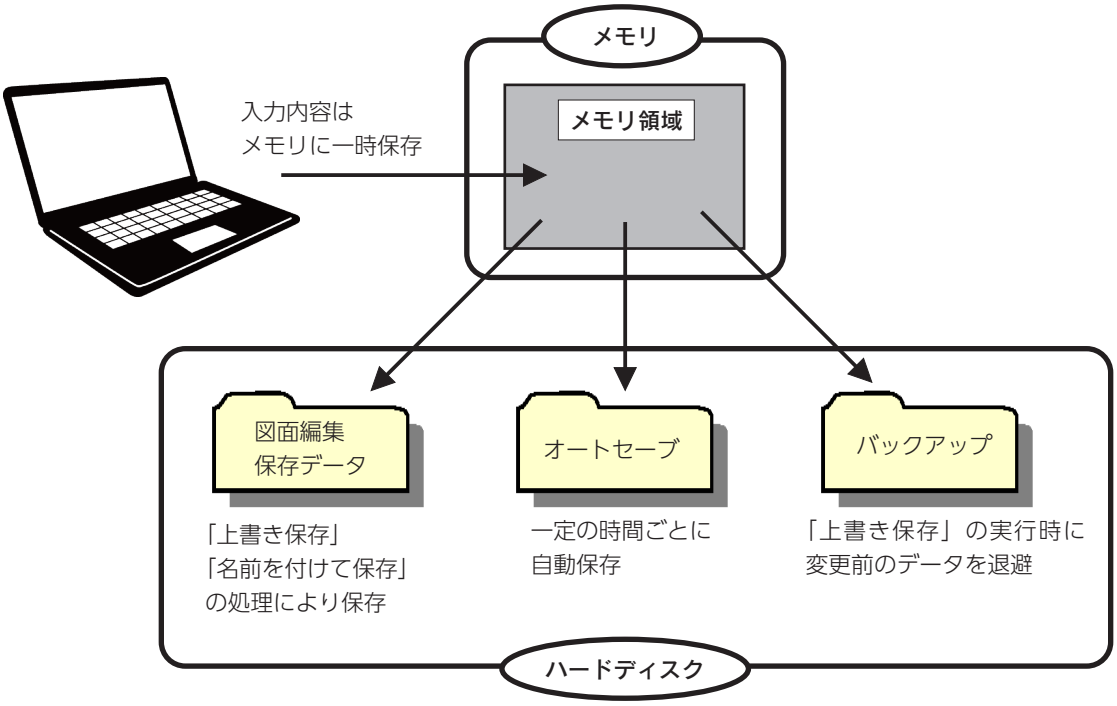
自動保存中は、起動しているアプリケーションの操作を受け付けない場合があります。
また、[Ctrl] + [S] キーによる保存後は、アンドゥ・リドゥが効かなくなります。

図面編集のデータ保存

「図面編集」の処理データは、メモリ上に一時保存されるのは同じですが、WORK フォルダは使用しません。

作業途中でデータをセーブしたい場合は、 (上書き保存) をクリックするだけで正式に保存されます。

（初めて保存する場合は、名前を付けてください。）

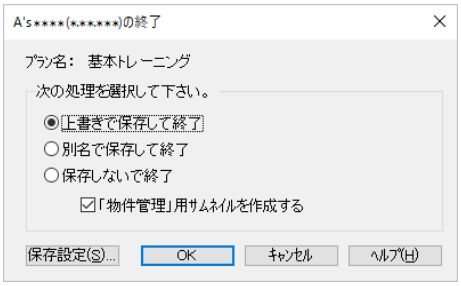


終了メニュー

確実に作業中のデータを保存するには、クイックメニュー、またはメインメニューの (終了) で保存します。

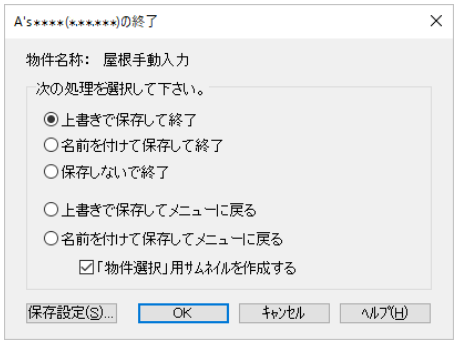
物件管理から起動した場合と物件選択から起動した場合で、メニューは少し異なりますが、終了メニューからの保存処理では、いずれも正式に書き込みを行います。

物件管理の場合



「物件管理」の場合は、終了後「物件管理」の画面に戻ります。

物件選択の場合



保存設定

「物件管理」「物件選択」のいずれの終了メニューでも、「保存設定」をクリックすると、保存方法の設定変更ができます。

【上書き】・・・・・ 作業領域 (WORK フォルダ) の物件データを、DATA フォルダ内の物件データに上書きします。

【置き換え】・・・ 作業領域 (WORK フォルダ) の物件データを、DATA フォルダ内の物件データと置き換えて保存します。作業中にデータを削除した場合、上書き保存では削除したデータが残りますので、置き換え保存を選択してください。

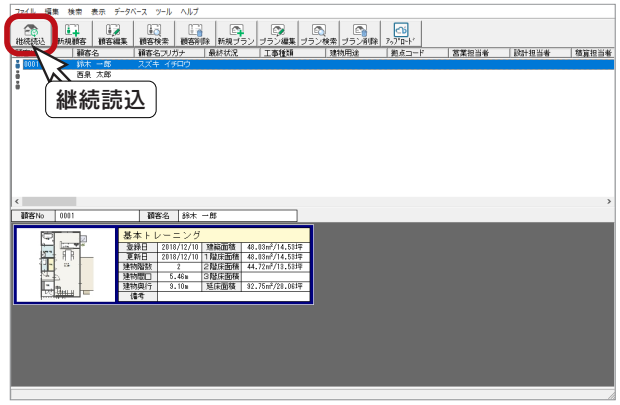
作業中物件の継続読み込み

使用しているパソコンが不安定になり、A's（エース）が異常終了した際は、WORK フォルダに保存されている状態までは復帰させることができます。

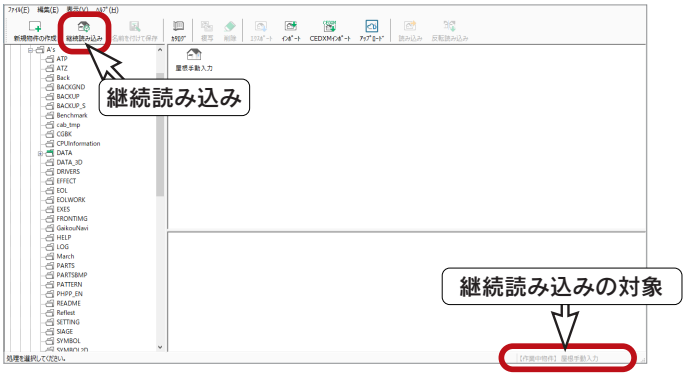
物件管理、物件選択、いずれの場合も、 (継続読み込み) をクリックしてください。

復帰後は、終了メニューから正式に保存してください。

物件管理の場合



物件選択の場合



自動バックアップの復元と設定

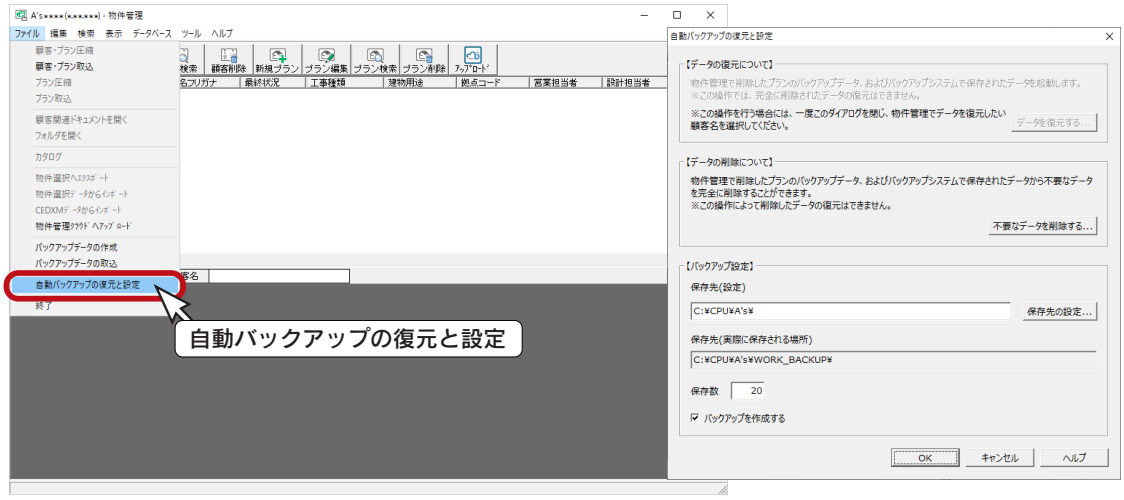
物件管理で削除したプランデータや、上書き保存される編集前のプランデータなどを、自動的にバックアップすることができます。自動バックアップされたプランデータは、復元することができます。

自動バックアップの対象

物件管理で削除したプランデータ	物件管理でプランを削除、または顧客ごとプランを削除した場合に、削除されるプランデータをバックアップします。 ＊物件選択では、削除したプランデータは Windows の「ごみ箱」に移動します。
物件保存時に複製するプランデータ	上書き保存、または名前を付けて保存されるプランの複製を作成しバックアップします。
物件の上書き保存時に更新される直前のプランデータ	既存プランを読み込み編集を加えた後、上書きで保存するときに編集前のプランデータをバックアップします。
強制終了後、継続読込しなかったプランデータ	強制終了後のシステム再起動時に「保存できなかった作業中プラン」を認識すると継続読み込みすることができますが、継続読み込みしなかった場合に削除される作業中プランデータをバックアップします。

■自動バックアップの設定

物件管理にて「ファイル」⇒「自動バックアップの復元と設定」を選択すると、ダイアログが表示されます。
自動バックアップの保存先フォルダと、自動バックアップで保存するプランの上限数を指定します。
「バックアップを作成する」を OFF にすると、自動バックアップを行いません。

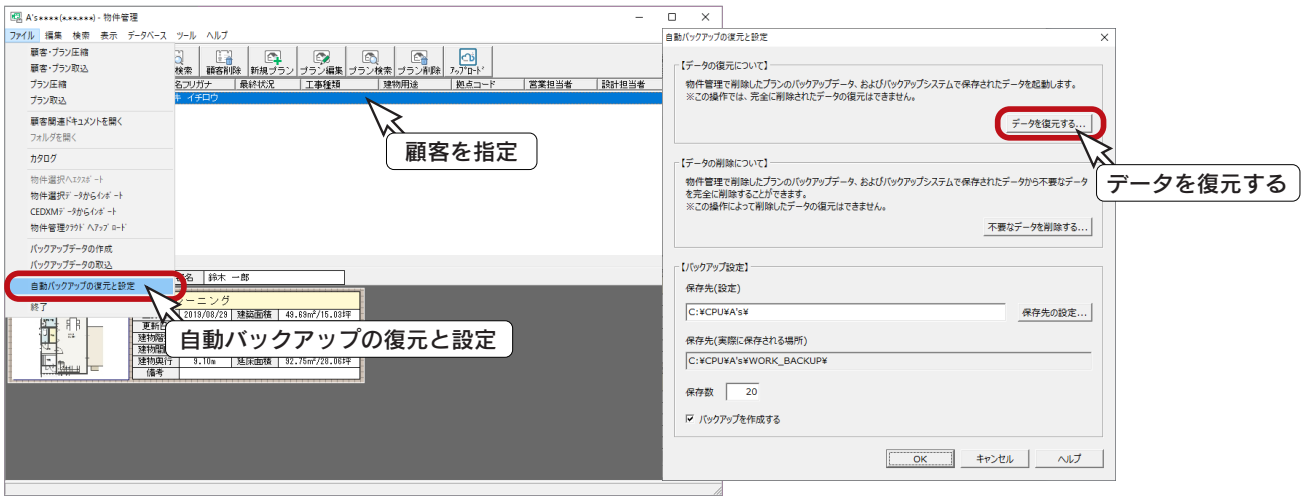


保存数の上限を大きくすると、バックアップデータを保存するのに必要な空き容量も多くなります。
お使いの環境にあわせて保存数を設定してください。

バックアップデータの保存先として「外付けハードディスク」や「USB メモリ」などのメディアを利用すると、それらを取り外したときにバックアップが正常に動作しなくなります。
再度接続し直しても、同じ環境を再現できずにバックアップが正常に動作しないこともありますので、ドライブが変化していないことを確認するか、再度設定を行ってください。

■自動バックアップデータの復元

物件管理にて顧客を指定してから、「ファイル」⇒「自動バックアップの復元と設定」を選択します。
「データを復元する」をクリックし、復元する対象のバックアップデータを選択して、「OK」をクリックします。



データの受け渡し

保存したデータの受け渡しについて、概要を説明します。

操作の詳細につきましては、ヘルプ、FAQ をご覧ください。

他のパソコンの A's（エース）に

複数台のパソコンで A's（エース）をご利用で、他のパソコンにデータを受け渡す場合は、データを圧縮して保存し、USB メモリなどの媒体や、共有フォルダ、メールを介して受け渡すことができます。
A's（エース）で、データを圧縮保存する方法には、以下の種類があります。

データ圧縮の種類

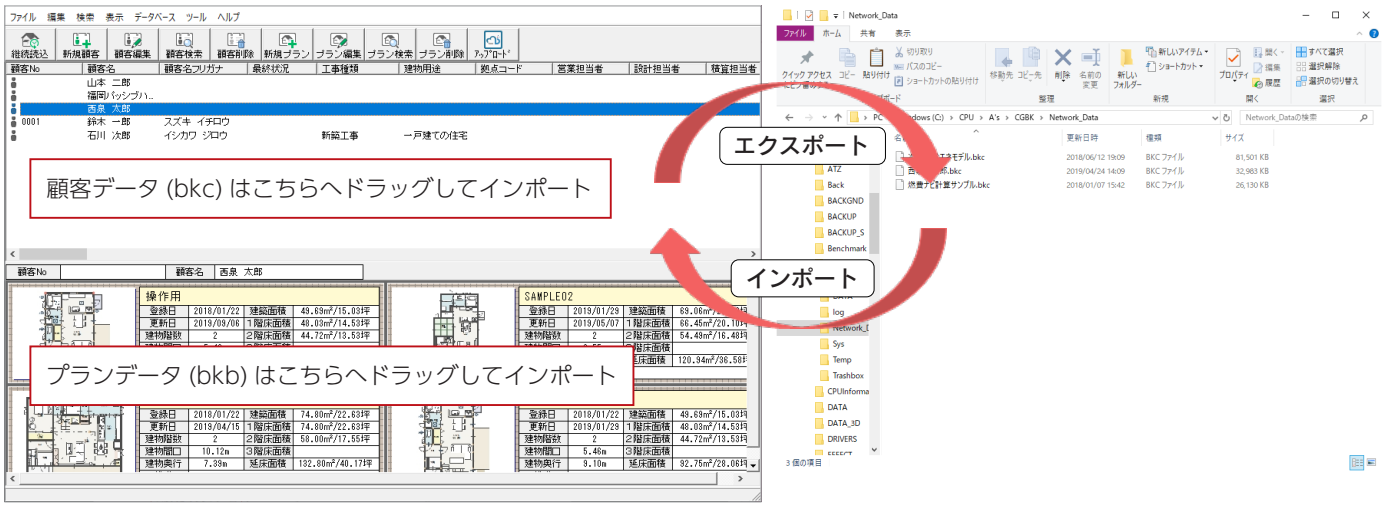
アプリケーション	圧縮処理	ファイルの拡張子	取込処理
物件管理	顧客をドラッグ＆ドロップ	.bkc	顧客ビューへドラッグ＆ドロップ
物件管理	プランをドラッグ＆ドロップ	.bkb	プランビューへドラッグ＆ドロップ
物件管理	顧客・プラン圧縮	.bkc	顧客・プラン取込
物件管理	プラン圧縮	.bkb	プラン取込
物件管理	バックアップデータの作成	.bka	バックアップデータの取込
物件選択	エクスポート	.cgp	インポート

取込後編集した内容は、元データには反映されません。

■ ドラッグ＆ドロップによるインポート / エクスポート

物件管理とエクスプローラー間で、顧客、またはプランデータを、ドラッグ＆ドロップにより、インポート / エクスポートすることができます。

物件管理　　**エクスプローラー**

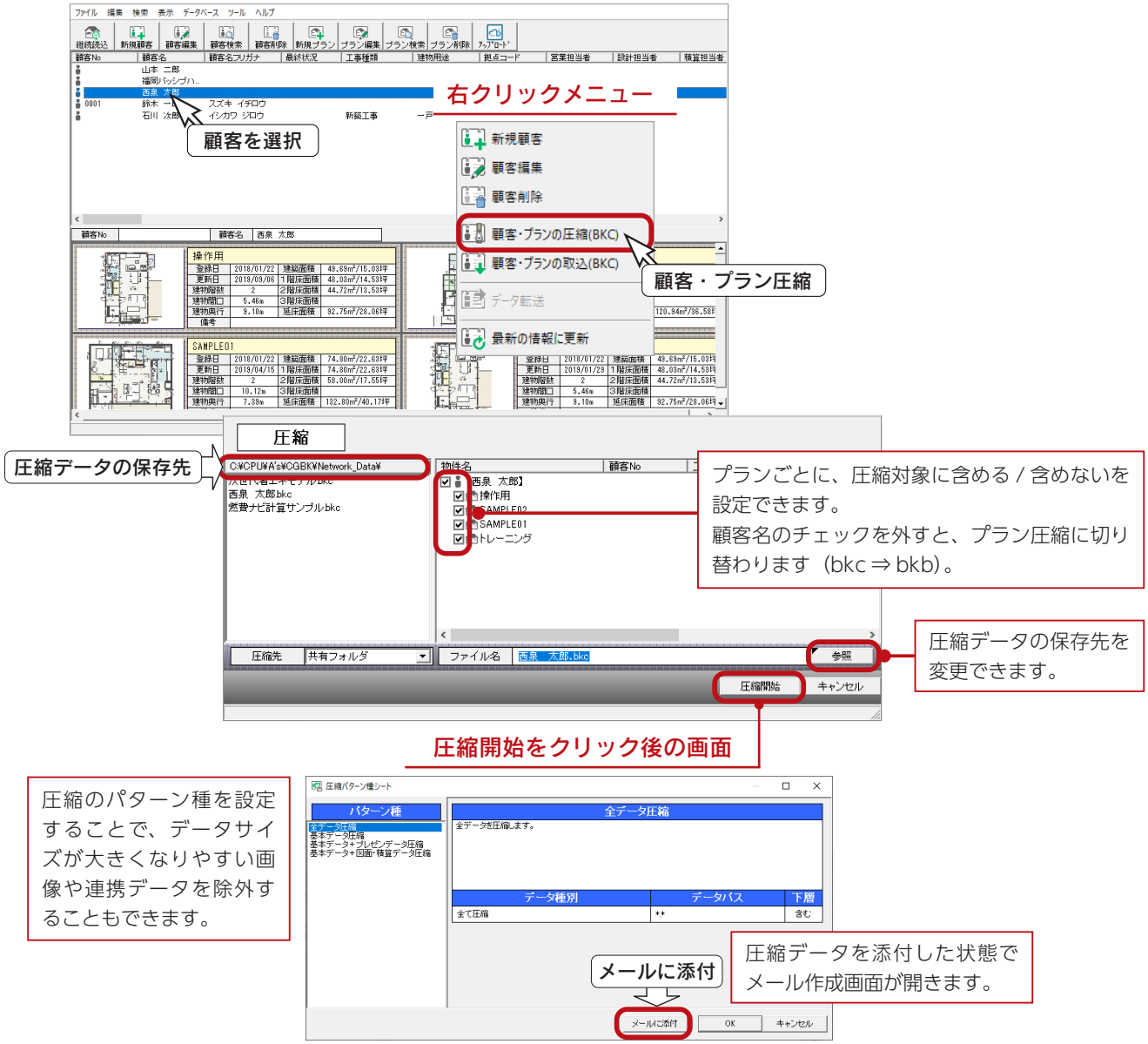


プランのエクスポートは複数選択も可能

[Ctrl] キー併用で、複数のプランデータを選択し、エクスポートすることも可能です。

■設定して圧縮

顧客内のプランごとに圧縮対象に含める / 含めないを設定したり、画像や連携データを含める / 含めないを設定したりする場合は、「顧客・プラン圧縮」、または「プラン圧縮」をご利用ください。
顧客、またはプランを選択して、右クリックメニューの「顧客・プラン圧縮」、または「プラン圧縮」を選択してください。
「ファイル」メニューから選択することもできます。
以下は、「顧客・プラン圧縮」の例です。

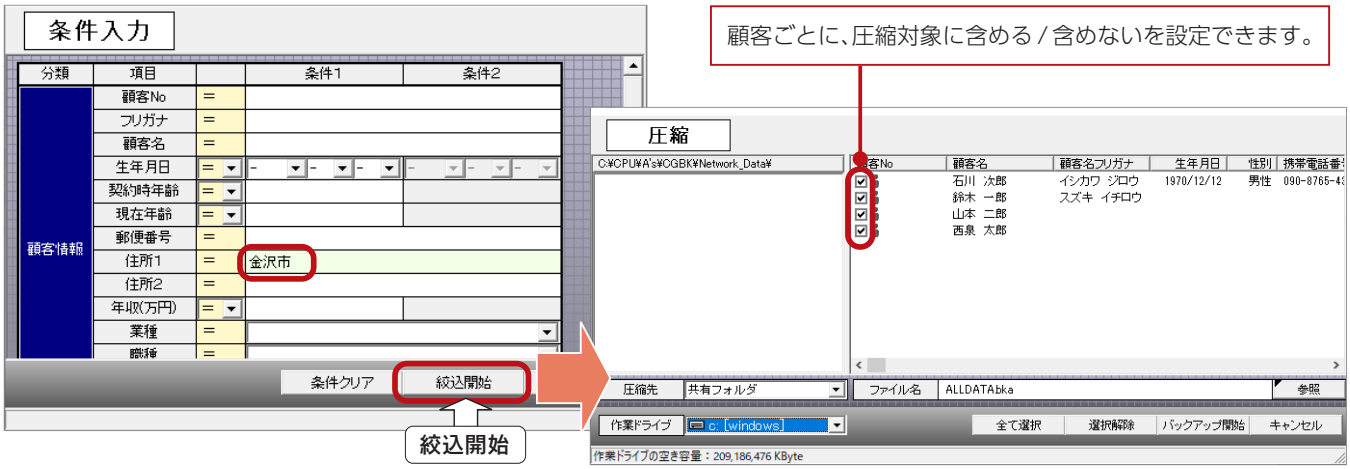


■圧縮データ (bkc または bkb) の取込

「顧客･プラン圧縮」､または「プラン圧縮」で保存したデータも､ファイル形式は､ドラッグ＆ドロップでエクスポートしたデータと同じです。
受け取り側のパソコンにて、A's（エース）の物件管理を起動し、エクスプローラーからドラッグ＆ドロップによりインポートすることができます。なお、USB メモリから直接インポートすることも可能です。
bkc の取込で、顧客内のプランごとに取込対象に含める / 含めないを設定する場合は、顧客ビューの右クリックメニュー、またはファイルメニューの「顧客・プラン取込」をご利用ください。
また、bkb の取込の際は、あらかじめ取り込む顧客を選択した状態で、「顧客・プラン取込」をご利用ください。

■バックアップデータの作成

条件にあった顧客・プランデータを一括で圧縮して保存することができます。
物件管理にて、「ファイル」⇒「バックアップデータの作成」を選択します。
条件を入力し、「絞込開始」をクリックすると、条件に該当した顧客が表示されます。
以下は、住所１に「金沢市」を入力した例です。



条件入力で何も条件を付けず「絞込開始」をクリックすると、全ての顧客が圧縮対象になりますが、データが大きくなりすぎる場合もありますので、「圧縮」の画面で各顧客のチェックを切り替え、３～４顧客程度に小分けされることをおすすめします。

バックアップデータの取込

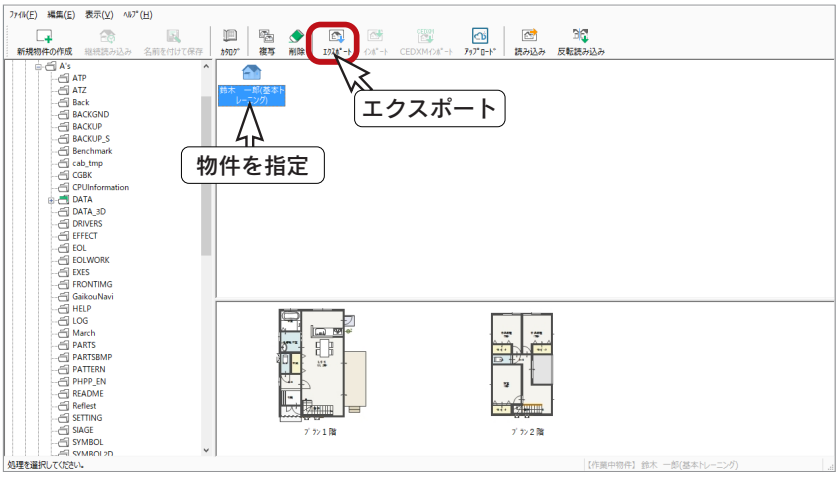
受け取り側パソコンの物件管理にて、「ファイル」⇒「バックアップデータの取込」を実行します。

■物件選択でエクスポート

物件選択で作成・管理している物件データを、圧縮して保存することができます。

物件選択にて、物件を指定してから、 （エクスポート）をクリックします。

「編集」⇒「エクスポート」を選択してもかまいません。



インポートは物件を選択しない状態で

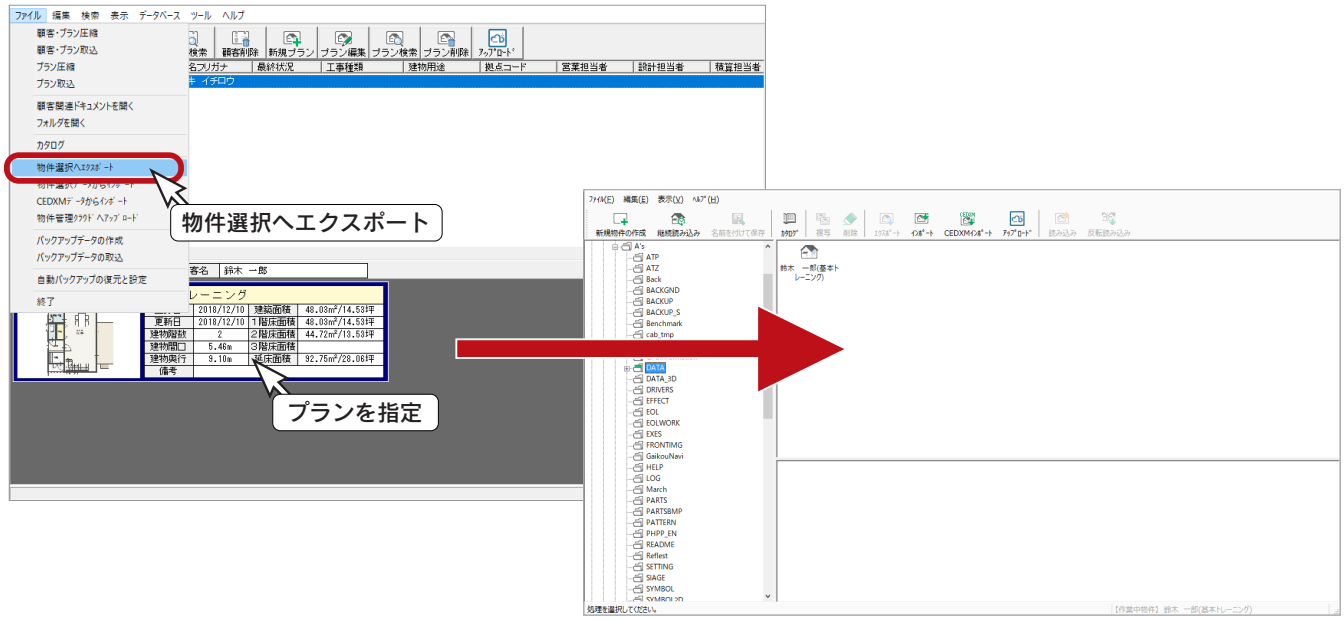
エクスポートしたデータをインポートするときは、物件を選択しない状態で、 （インポート）をクリック、または「編集」⇒「インポート」を選択してください。

物件管理と物件選択

物件管理と物件選択では、データの保存先が異なりますが、相互に保存データを変換できるようになっています。

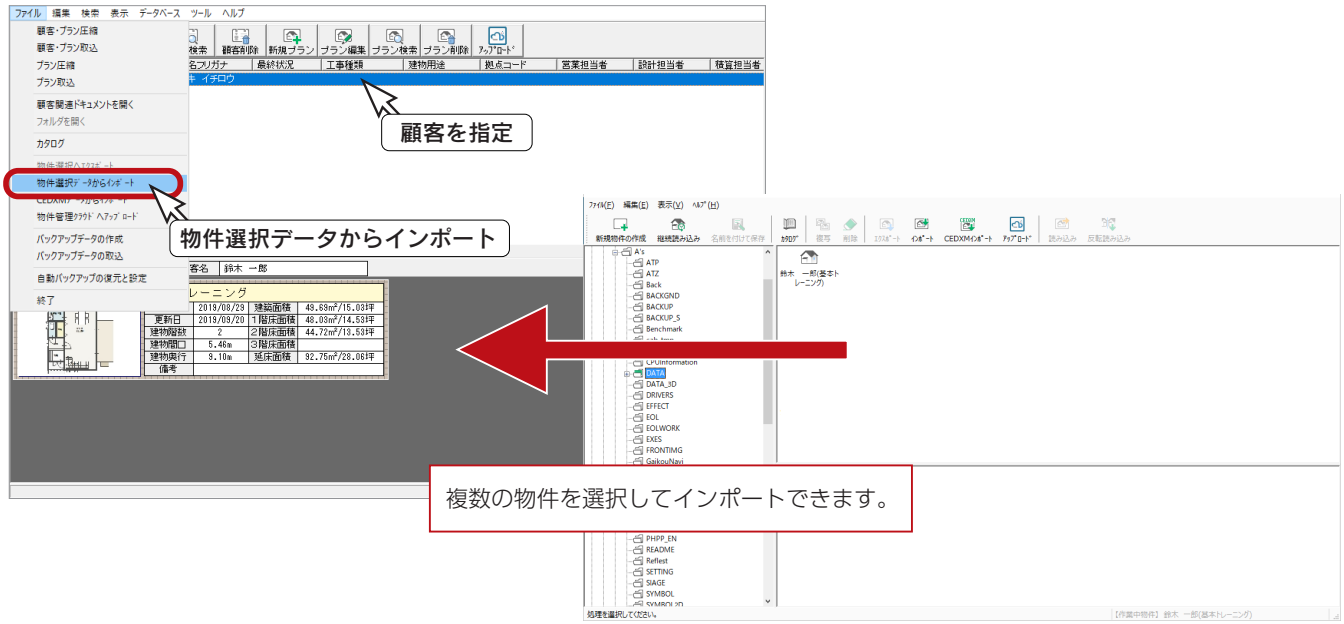
■物件管理のデータを物件選択に

物件管理にて、物件選択に移動したいプランを指定して、「ファイル」⇒「物件選択へエクスポート」を選択します。



■物件選択のデータを物件管理に

物件管理にて、顧客を指定してから、「ファイル」⇒「物件選択データからインポート」を選択します。
新規の顧客にインポートする場合は、事前に顧客を登録します。



CEDXM(シーデクセマ) 連携

CEDXM のデータを、A's（エース）で読み込んだり、A's（エース）のデータを、CEDXM 形式で出力することができます。
CEDXM は、プレカット CAD 連携のために開発されたフォーマットです。

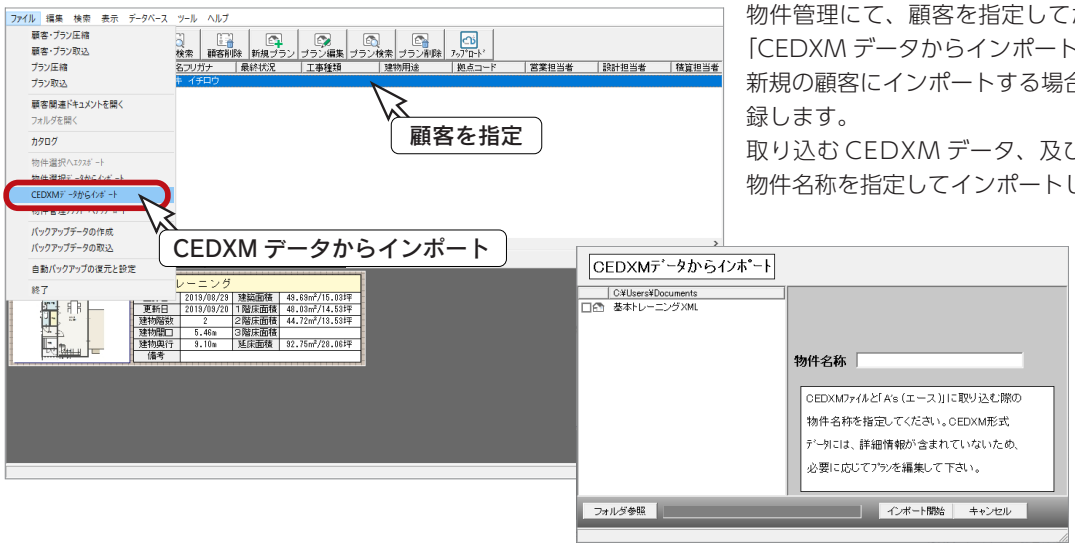
連携可能な他社製 CAD データ

CEDXM ファイルの入出力に対応しているソフトウェア（意匠 CAD、プレカット CAD）は、CEDXM 評議会のホームページの「連携 CAD 一覧」のページをご参照ください。

CEDXM 評議会
http://www.cedxm.com/

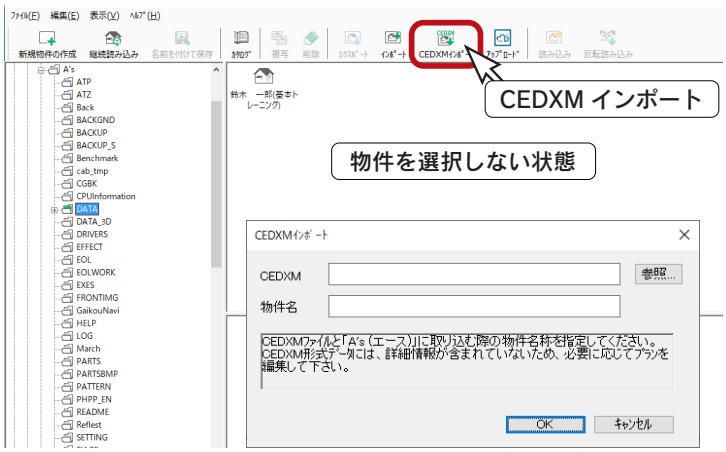
CEDXM 評議会 ⇒ 連携 CAD 一覧
http://www.cedxm.com/about/list/

CEDXM インポート（物件管理）



物件管理にて、顧客を指定してから、「ファイル」⇒「CEDXM データからインポート」を選択します。
新規の顧客にインポートする場合は、事前に顧客を登録します。
取り込む CEDXM データ、及び A's（エース）での物件名称を指定してインポートします。

CEDXM インポート（物件選択）



物件選択にて、物件を選択しない状態で、

(CEDXM インポート) をクリックします。

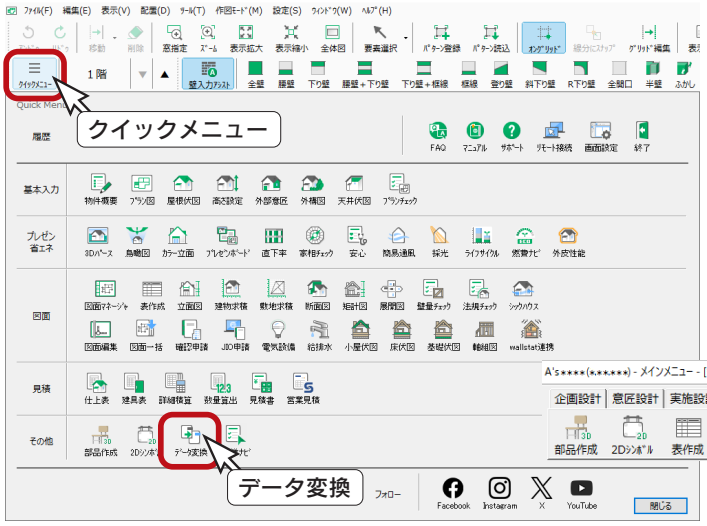
「編集」⇒「CEDXM インポート」を選択してもかまいません。

＊物件を選択している状態だと、「CEDXM インポート」はグレー化して選択できません。

取り込む CEDXM データ、及び A's（エース）での物件名を指定してインポートします。

インポート後は、必要に応じて、「プラン図」で編集を行ってください。
CEDXM データには、建具情報、部屋属性がありませんが、通風、採光、ライフサイクルコストの各シミュレーションでは、開口サイズを取得できますので、そのまま利用することができます。

CEDXM エクスポート（CAD データコンバート）

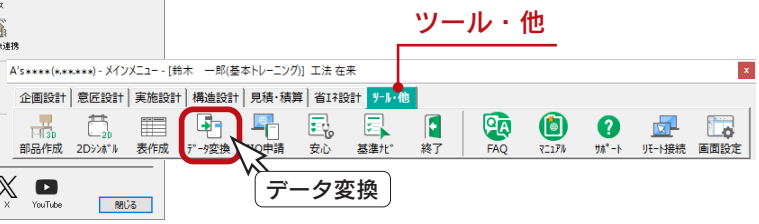


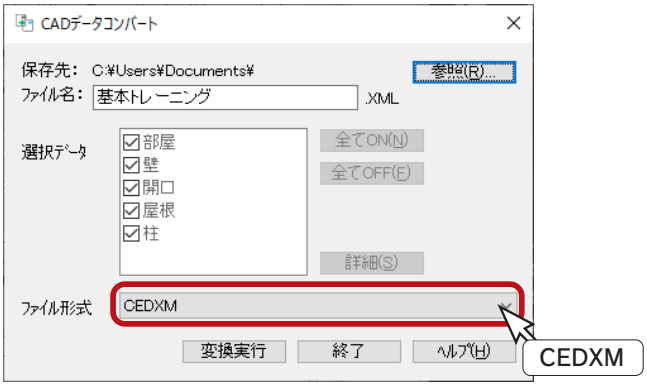
エクスポートの前に、次項の注意点をご確認ください。

クイックメニュー、またはメインメニューの

（データ変換）をクリックしてください。

メインメニューでは、「ツール・他」タブにあります。





CAD データコンバートが起動します。
ファイル名、選択データを設定後、ファイル形式を「CEDXM」にして、「変換実行」をクリックします。

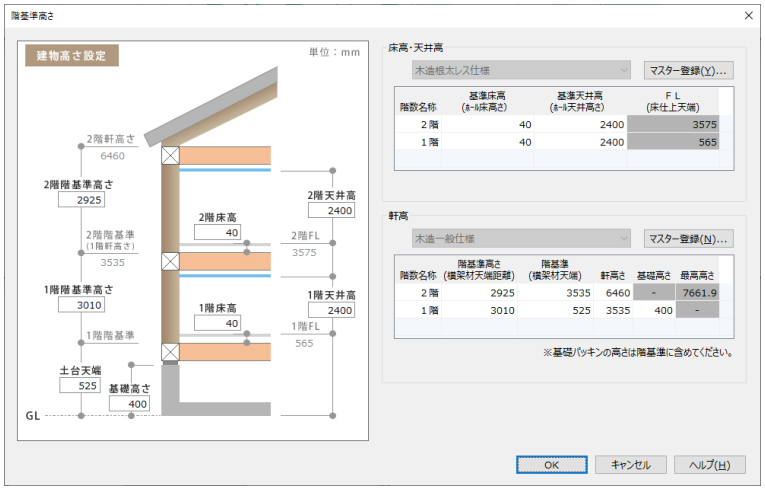
選択データに構造情報は含まれないため、Wallstat 等の耐震シミュレーション等にはそのまま使用できません。

CEDXM エクスポートの注意点

プレカット CAD 連携をスムーズに行うために、エクスポートの前に、以下の内容をご確認ください。

■高さ情報の確認

「高さ設定」の「階基準高さ」で設定されている情報が、正しいことを確認してください。
この画面で設定されている情報が、CEDXM ファイルに出力されます。



新規物件の作成時（「プラン図」を起動する前）は、物件概要の 4/4 ページの「建物高さ」で設定した情報が、物件データの初期値になります。

■壁／柱は、オングリッドで入力

「プラン図」で壁／柱／開口等を入力するときは、オングリッドで入力してください。
間崩れがある場合は、補助線を引いて入力します。

＊オングリッドを外した状態で入力すると、壁／柱／開口等の各情報が不正確な情報として出力されてしまいますので、ご注意ください。

■柱のサイズは、実寸法を指定して入力

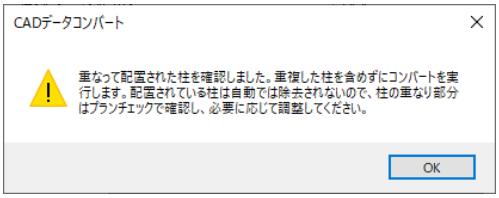
「プラン図」で配置した柱のサイズが、CEDXM ファイルに出力されます。

＊パースや図面作成のために、実寸法とは異なる柱サイズで入力している場合は、ご注意ください。

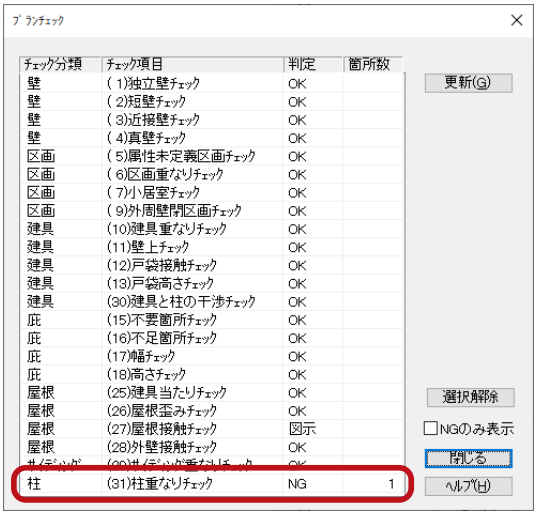
1F の通し柱と同じ位置に、2F に管柱が配置されている場合、2F の管柱を CEDXM ファイルに出力しません。また柱が重なって配置されている場合は、CEDXM ファイル出力時に警告が表示されます。「プランチェック」で柱の重なりをチェックしてください。

＊ A's（エース）Ver 3.00.004 以前のプログラムでは、特定の操作を行うと柱が重なったまま CEDXM 出力されてしまう現象がありますので、最新版にアップデートしてご利用ください。

警告



プランチェック



■柱の重なりについて

A's（エース）では、同じ位置に柱が配置されないように制御しています。

＊手動配置では、配置済みの柱と同じ位置に柱を配置した場合、配置済みの柱を削除してから配置されます。
＊自動配置では、通し柱を配置した位置には、2F で隅柱／管柱は配置されません。

ただし、以下の操作手順では、柱を重ねて配置できますので、ご注意ください。

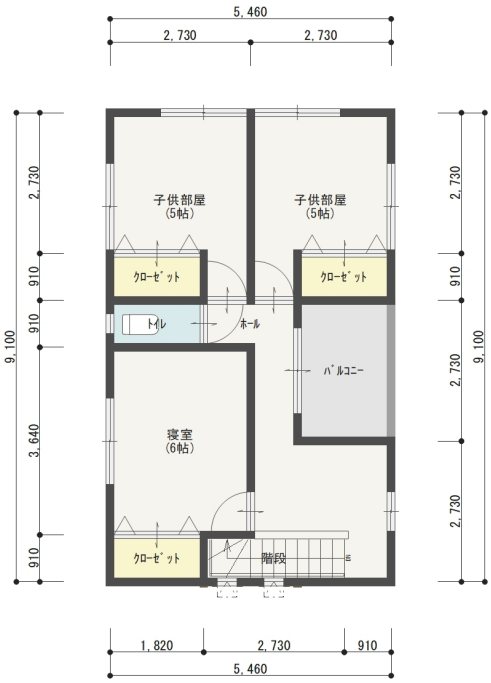
＊ 1F で通し柱を配置した位置に、2F で管柱を手動配置できます。
＊ 2F で管柱を配置した位置に、1F で通し柱を手動配置できます。
＊移動／複写コマンドを使用すると、柱が存在する位置に柱を移動／複写できます。

2 プラン図

作成するプラン図

■1階

■2階



プラン図の起動

新規作成の物件では、物件概要設定後、プラン図の画面が表示され、グリッド設定に関するメッセージが表示されます。

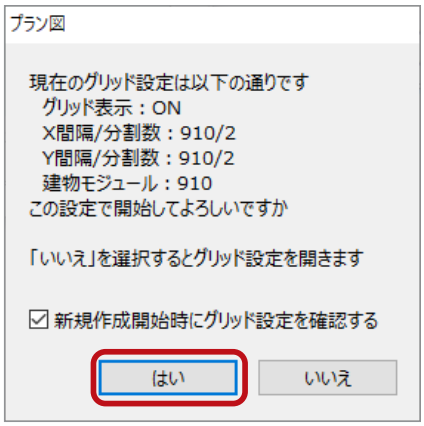
グリッド設定

初期設定（表示:ON、ＸＹともに間隔 / 分割数:910/2、建物モジュール:910）でよい場合は、「はい」をクリックします。設定を変更する場合は、「いいえ」をクリックすると、グリッド設定のダイアログが表示されます。

ここでは、「はい」をクリックしてください。
作図中、グリッド設定は画面右下に表示され、いつでも確認、変更が可能です。

間隔・分割数の組み合わせについて

グリッド設定で分割位置が割り切れないようなグリッド間隔・分割数の組み合わせを指定した場合は、割り切れる組み合わせにされることをお勧めするメッセージが表示されます。



プラン図の初期画面

プラン図の画面は、初期はツールバーの（壁）が押されており、（壁入力アシスト）で、（矩形配置）が選択されています。（オングリッド）も押し下げられています。また、画面切替は「プラン」の状態です。

ON にすると、グリッドにスナップします。
通常は ON のまま入力してください。
誤って OFF にしないように気を付けましょう。

「プラン」の状態で操作していきます。
「1/100 平面図」、「1/50 平面図」でも作図・編集が可能で、各画面はリアルタイムに連動します。

文字の上をクリックすると
ダイアログが表示されます。

壁

壁入力のポイント

1. 始めは、外壁・間仕切壁を区別しないで「全壁」で入力します。
   「部材自動認識配置」機能により「框線」「下り壁＋框線」等に自動的に変更されます。

2. 壁は重複して入力してもかまいません。上書きすることで、壁の種類を任意に変更することもできます。
   入力するたびに最適化（同位置にある部材を一つとして処理）されます。
   また、入力時は一本の壁であっても、他の壁と交差した時点で自動分割されます。

壁入力寸法表示

壁入力時に、ＸＹ寸法をラバーバンド表示することができますが、「設定」⇒「入力時寸法表示」⇒「壁入力寸法表示」により、「芯寸法」「内法寸法」のいずれか、または両方表示、両方非表示にも設定が可能です。
「内法寸法」表示の場合は、壁厚の指定も可能で、指定した壁厚を考慮してラバーバンドで内法寸法が表示されます。

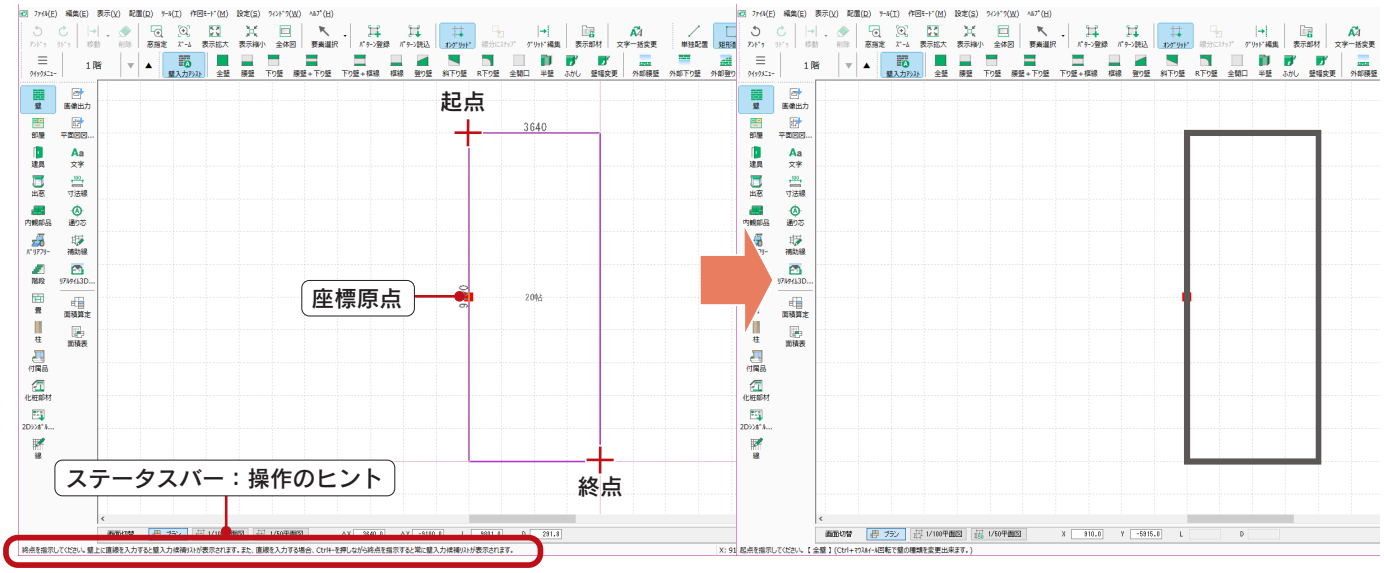
壁入力アシスト

それでは、壁を入力していきましょう。
建具部分や開口部分は気にせず、入力していきます。

①（壁）⇒（壁入力アシスト）⇒（矩形配置）を確認
②ステータスバーに【全壁】の表記があることを確認
　＊異なる場合は [Ctrl] ＋マウスホイールで変更できます。
③下図のように、起点－終点を指示
　＊ 3640 × 9100（20 帖）の区画を取ります。
　＊作図位置は座標原点（赤色の■）を参考にしてください。

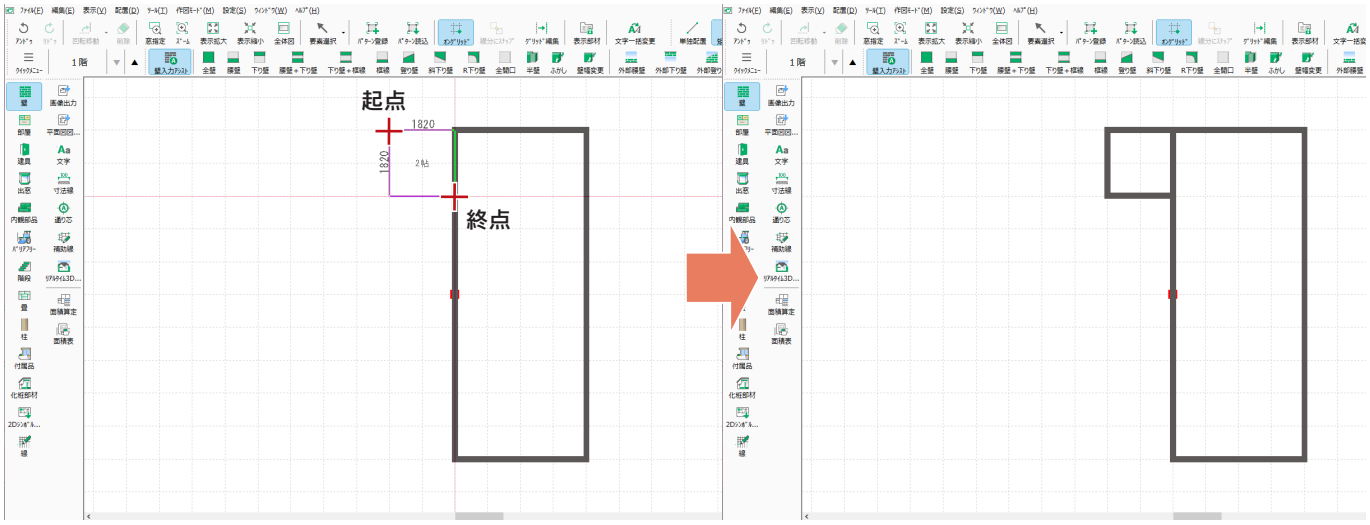
ここで説明する入力方法は一例です。
他の入力方法もあります。

必ず（オングリッド）が押し下げられた状態で入力します。

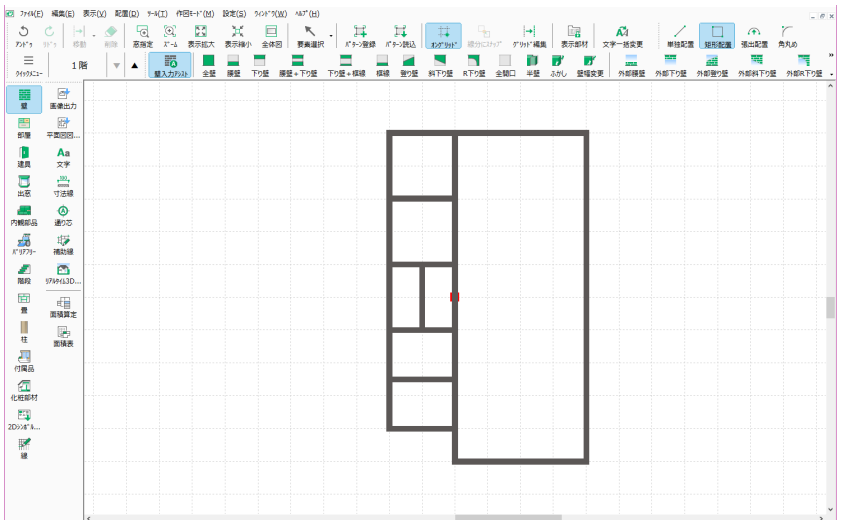


[Ctrl] ＋マウスホイールで壁の種類を変更できます。

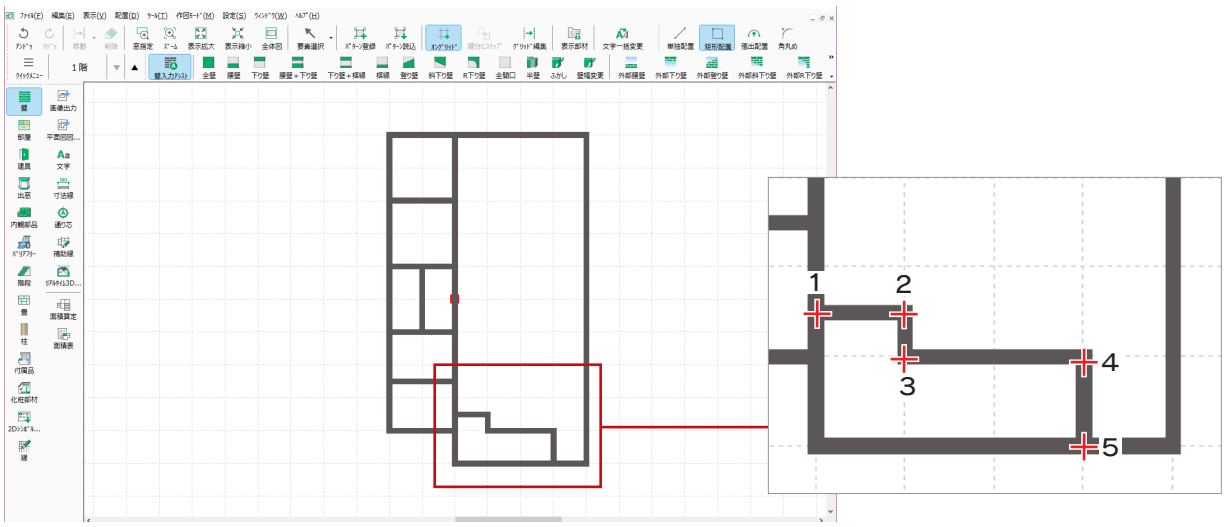
④続けて、下図のように起点－終点を指示
　＊壁は重ねて入力してもかまいません。



⑤続けて、下図のように全壁を矩形配置



⑥続けて、下図のように、１～５を指示
⑦右クリック



部屋

「全壁」で間取りを入力後、部屋名設定を行います。
部屋名設定は、部屋名を示す文字を入力すると同時に、床・天井面の生成、建具の面材・高さ判定の基準となります。

主区画

①ツールバーの (部屋) をクリック

＊ショートカットキーは［R］です。　(日本語入力 OFF で有効)

② (部屋) を確認

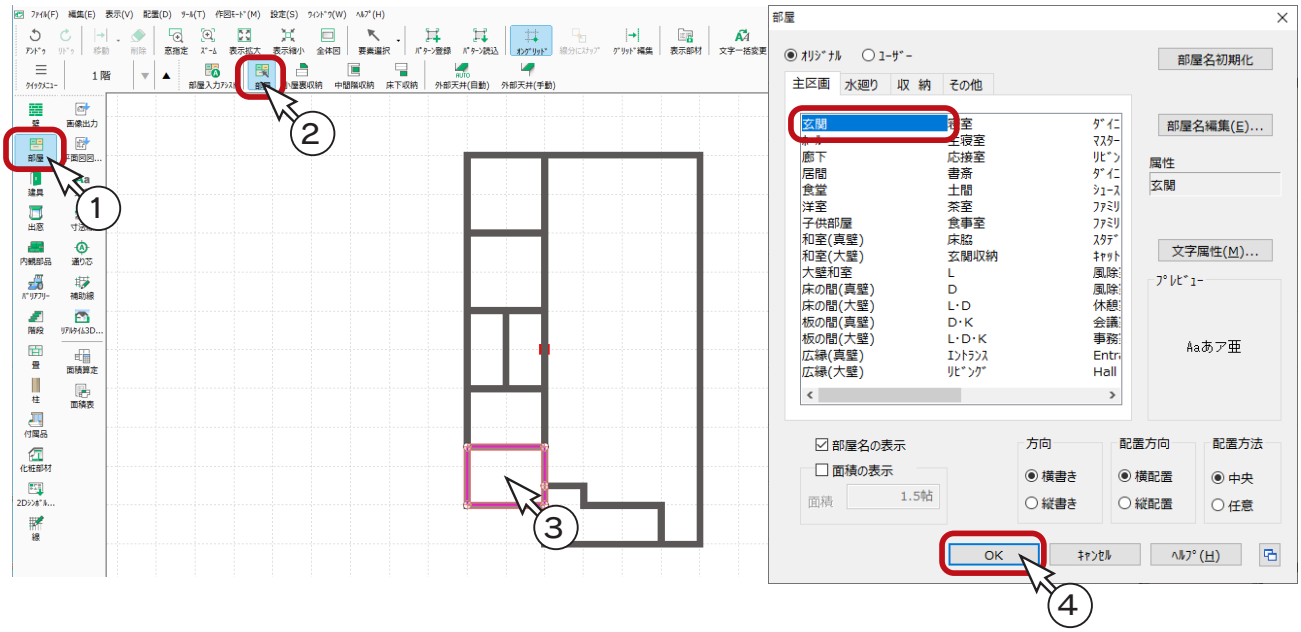
＊部屋入力アシストのダイアログが表示された場合は、「閉じる」をクリックしてから、 (部屋) をクリックしてください。

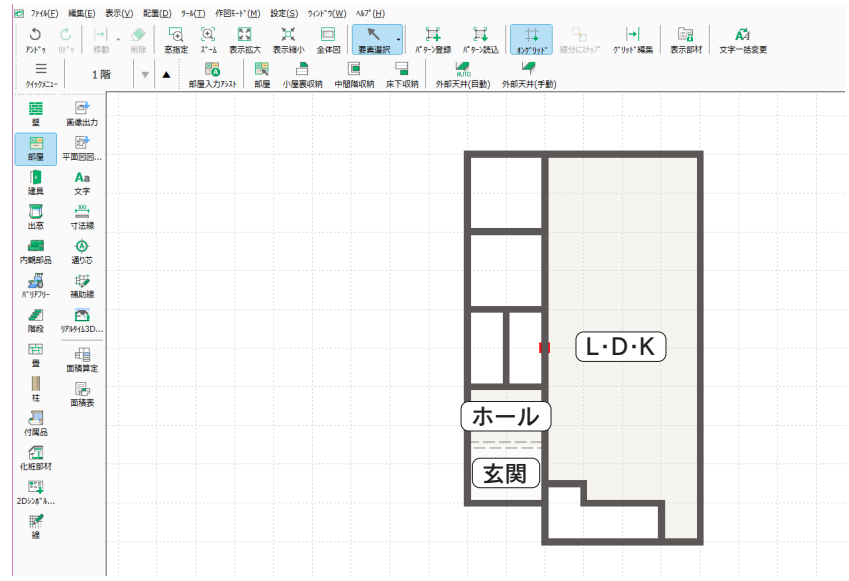
③玄関にする部屋の中をクリック

＊部屋のダイアログが表示されます。

④「玄関」をクリックし、「OK」をクリック

＊「玄関」をダブルクリックしてもかまいません。玄関が設定されます。



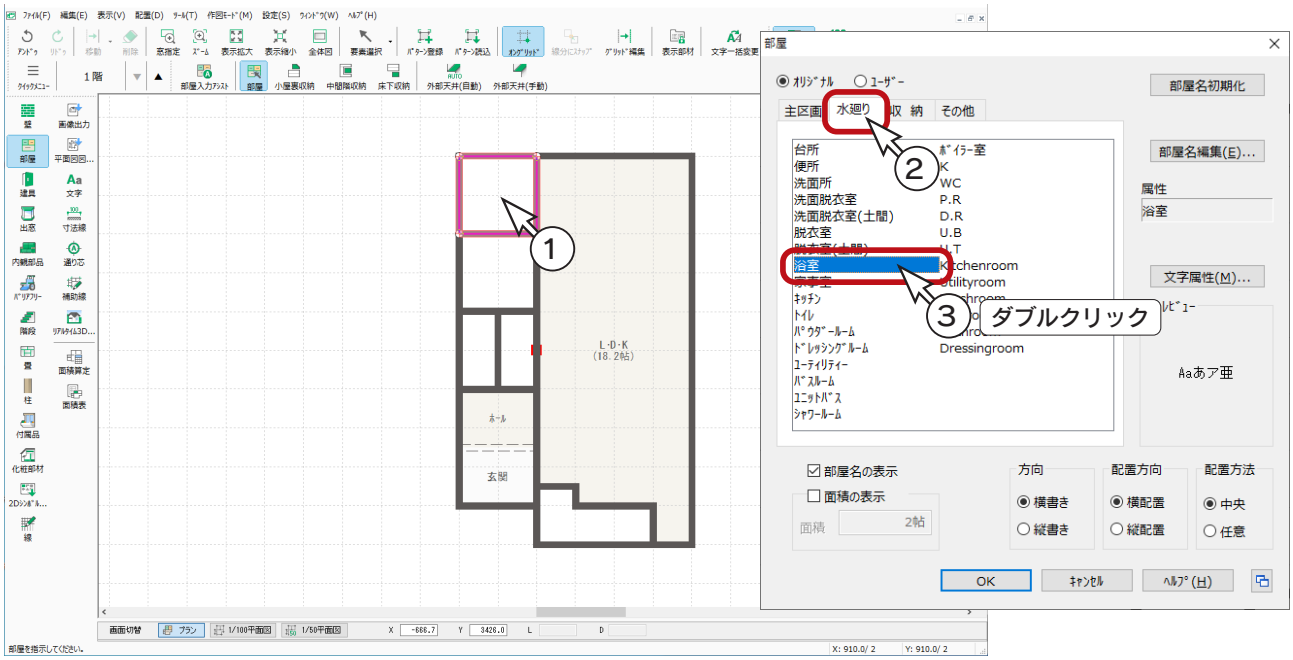


⑤続けて、他の主区画の部屋を設定

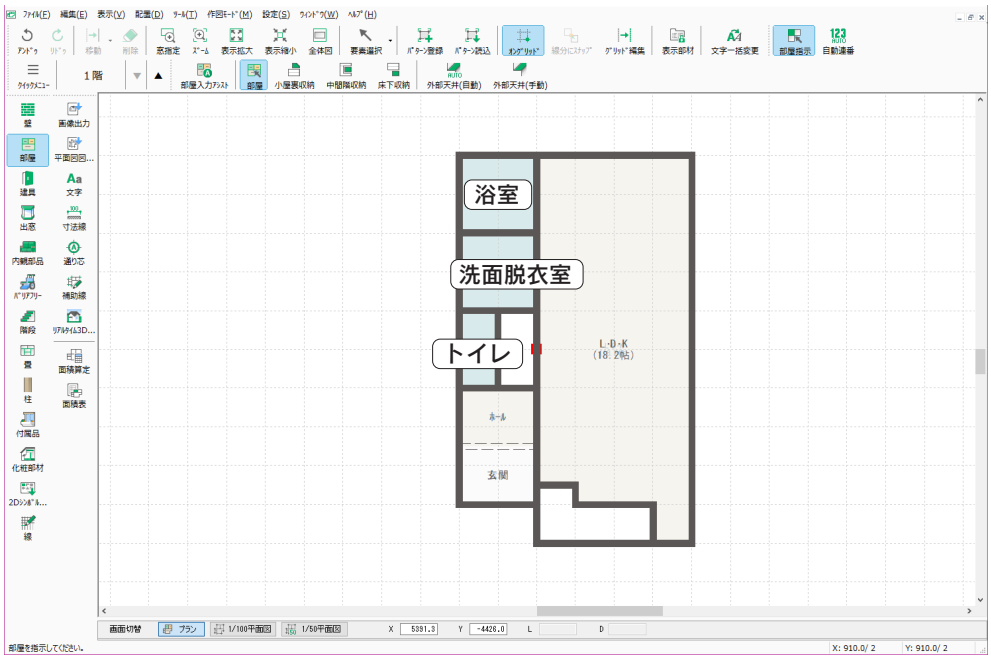
＊主区画は他に、ホール、L･D･K を設定します。

水廻り

①浴室にする部屋の中をクリック
　＊部屋のダイアログが表示されます。
②「水廻り」をクリック
　＊水廻りの部屋名一覧が表示されます。
③「浴室」をダブルクリック
　＊浴室が設定されます。

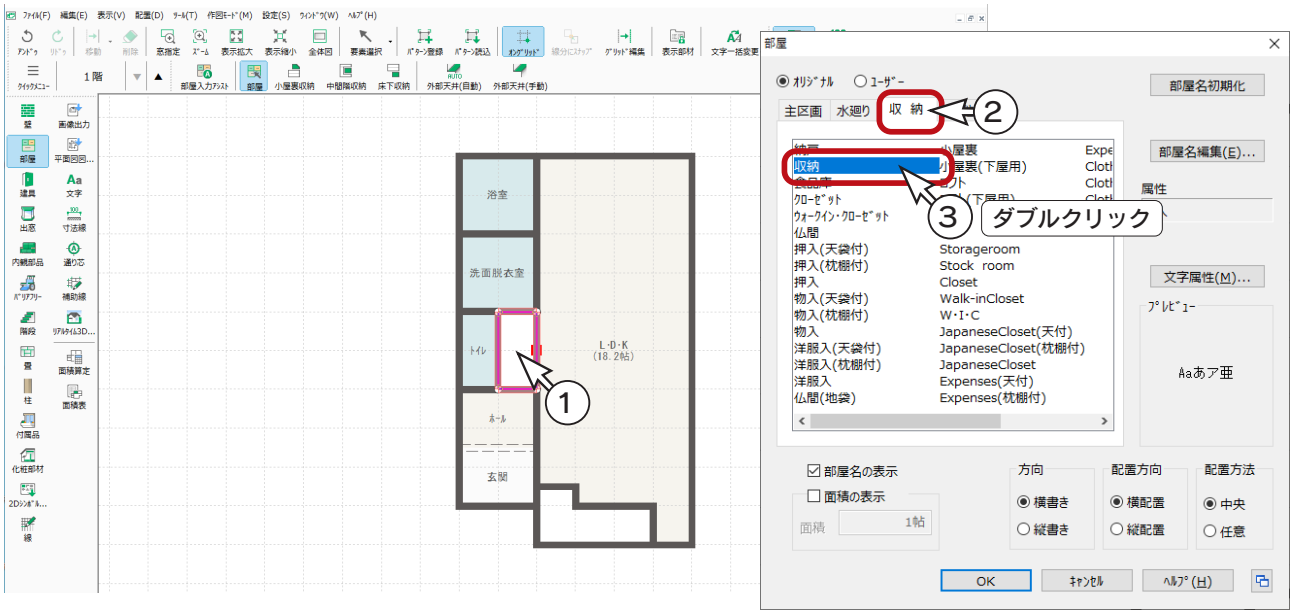


④続けて、他の水廻りの部屋を設定
　＊水廻りは他に、洗面脱衣室、トイレを設定します。



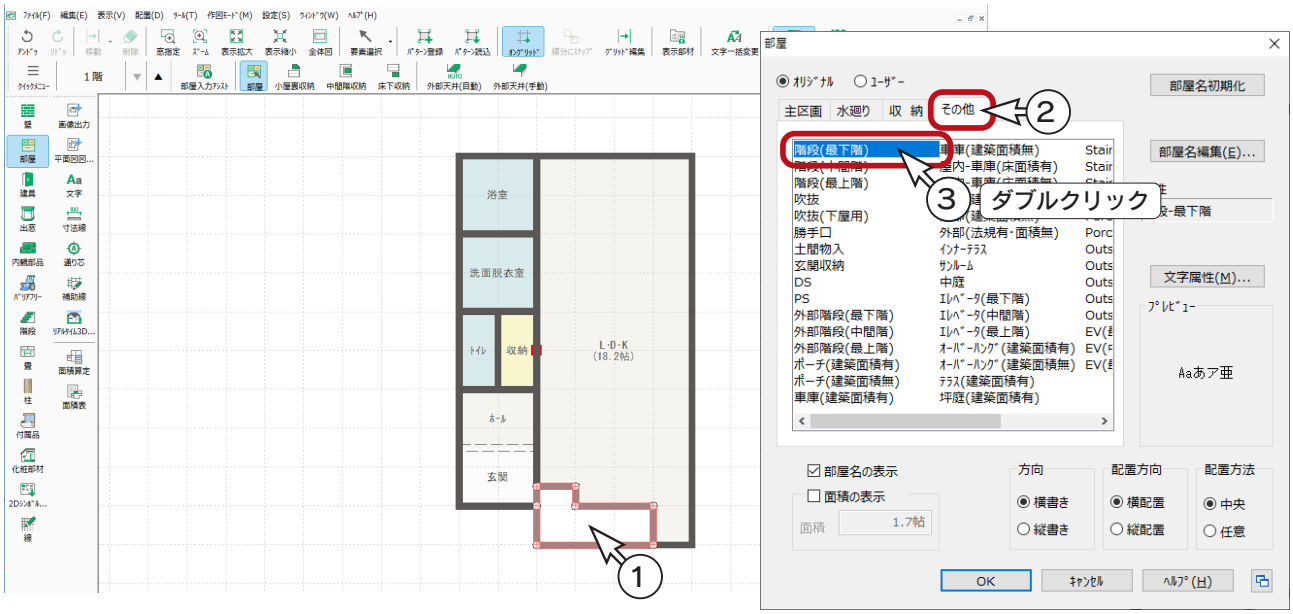
収納

①収納にする部屋の中をクリック
②部屋のダイアログが表示されるので、「収納」タブをクリック
③「収納」をダブルクリック



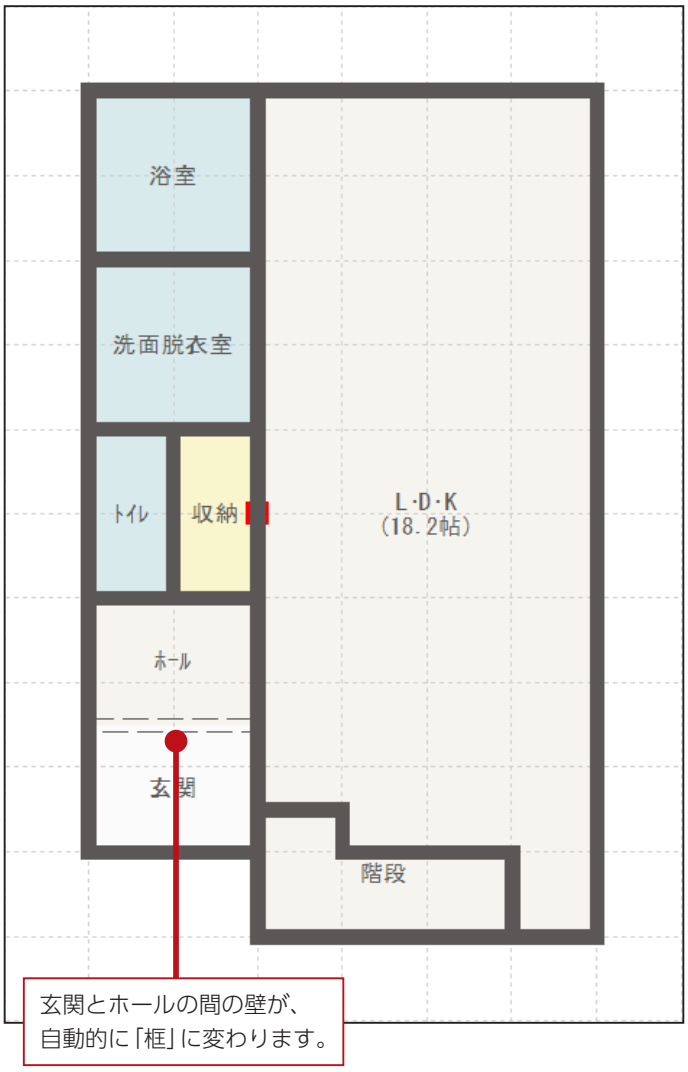
その他

①階段にする部屋の中をクリック
②部屋のダイアログが表示されるので、「その他」タブをクリック
③「階段 (最下階)」をダブルクリック



部屋名の（　）

部屋名に半角の「(」が付いている場合は、「(」以降は画面に表示されません。
例えば、「押入 (天袋付)」は「押入」、「階段 (最下階)」は「階段」と表示されます。



部材自動認識配置

部屋名設定により、部屋と部屋の間の壁を自動認識して、框や下り壁などの部材を配置（変更）します。
本トレーニングでは、玄関とホールの間の壁が、自動的に框に変わります。

部屋名の変更は？

（部屋入力アシスト）の場合は、「区画を自動選択」が OFF の状態で設定済みの部屋をクリックすると、部屋名を再設定することができます。

また、（要素選択）で設定済みの部屋を選択後、右クリックメニューの「部屋名変更」でも変更可能です。

３種類の階段の違い

階段は、設定された部屋名により、３次元化の際、
自動で床抜き・天井抜きを行います。
ただし、階段下には天井面が自動生成されます。

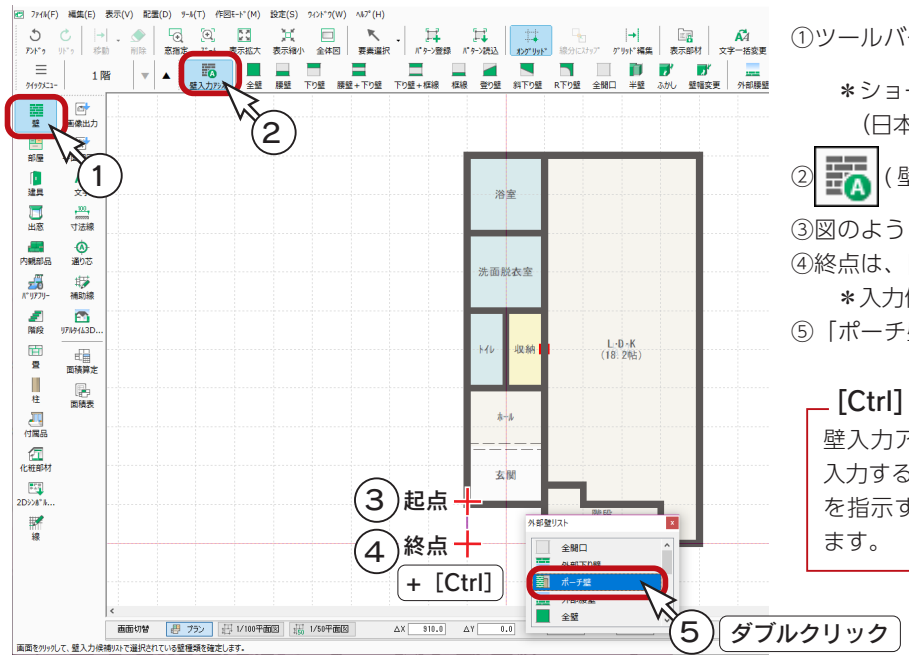
「階段（最下階）」.....天井抜き
「階段（中間階）」.....床抜き・天井抜き
「階段（最上階）」.....床抜き

壁の調整

壁の移動や追加、種類変更は、部屋設定後でも自由にできます。

壁の追加

■ポーチ壁



①ツールバーの (壁) をクリック

＊ショートカットキーは［W］です。
（日本語入力 OFF で有効）

② (壁入力アシスト) を確認

③図のように、起点をクリック

④終点は、[Ctrl] キーを押しながらクリック

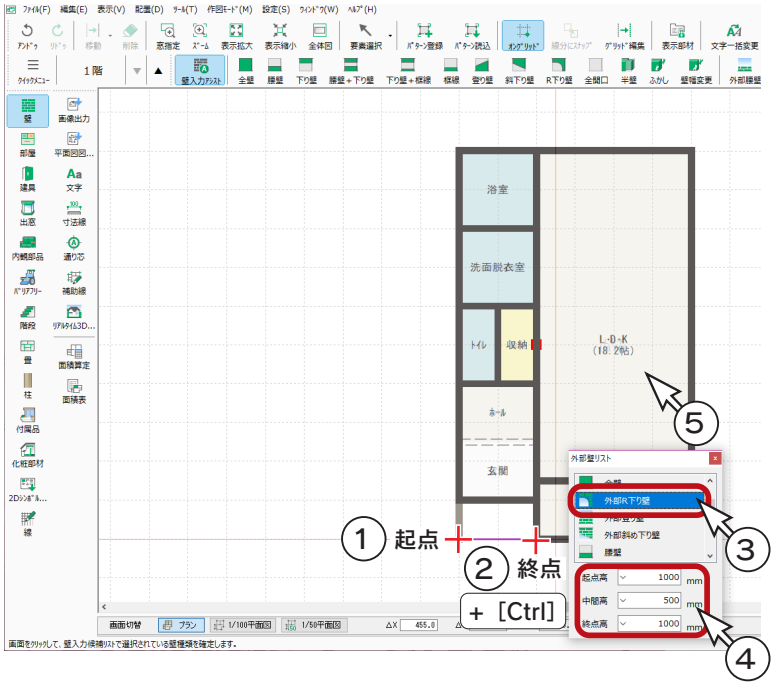
＊入力候補リストが表示されます。

⑤「ポーチ壁」をダブルクリック

[Ctrl] キーで入力候補リスト

壁入力アシストで壁の無いところへ直線で入力する場合、[Ctrl] キーを押しながら終点を指示すると、入力候補リストが表示されます。

■外部 R 下り壁



①図のように、起点をクリック

②終点は、[Ctrl] キーを押しながらクリック

＊入力候補リストが表示されます。

③「外部 R 下り壁」を選択

④下り寸法を確認

＊ここでは、起点高・終点高 1000mm、中間高 500mm を使用します。

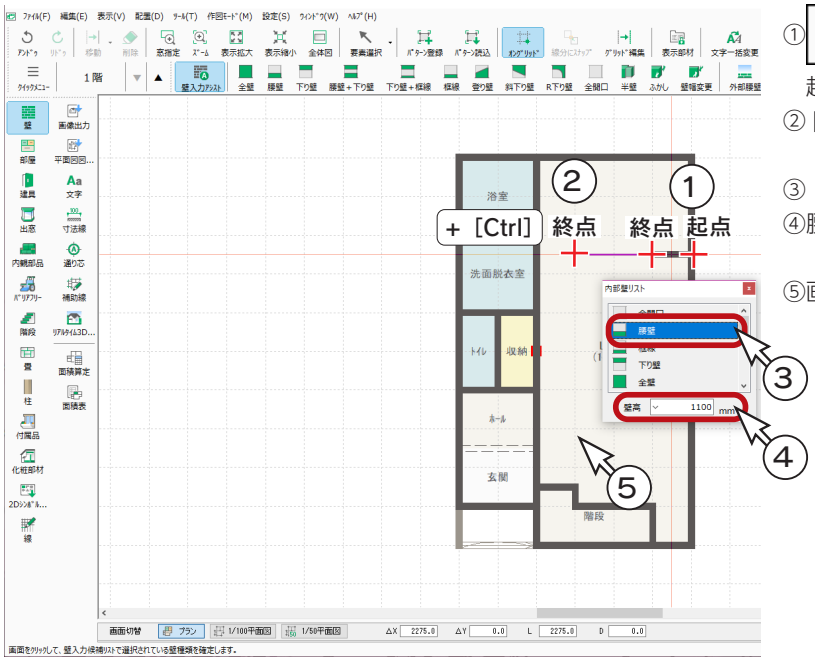
⑤画面内でクリック

＊「外部 R 下り壁」をダブルクリックしてもかまいません。

リストの下が画面外に切れて表示されない場合は、リストのタイトル部分をドラッグして位置を上げることができます。
また、ズームでポーチ位置を大きく表示させると、操作しやすくなります。

■キッチンの間仕切り

キッチンの間仕切り壁も追加しましょう。



①（壁入力アシスト）のまま、図のように、起点－終点をクリック

② [Ctrl] キーを押しながら次の終点をクリック

＊入力候補リストが表示されます。

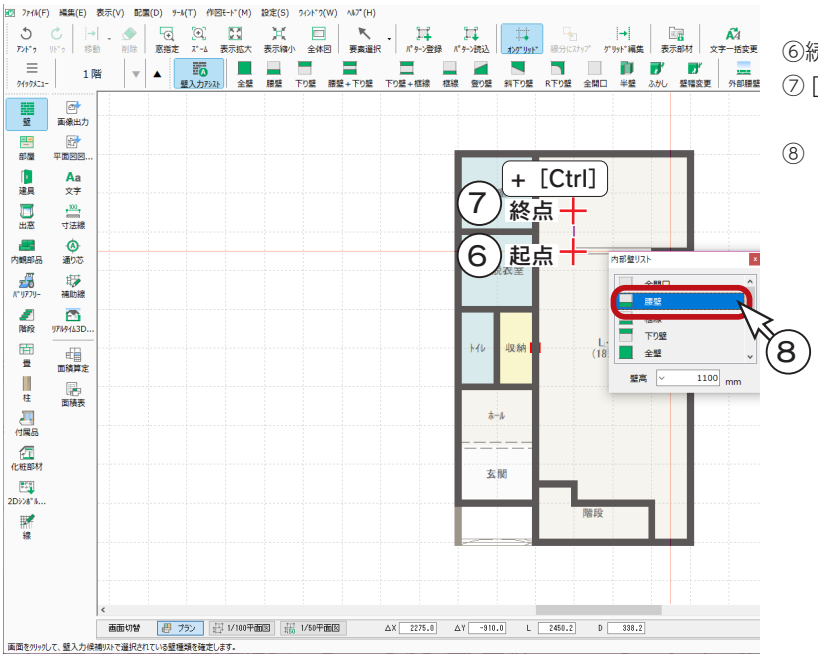
③「腰壁」を選択

④腰高を確認

＊ここでは、1100mm を使用します。

⑤画面内でクリック

＊「腰壁」をダブルクリックしてもかまいません。



⑥続けて、起点をクリック

⑦ [Ctrl] キーを押しながら終点をクリック

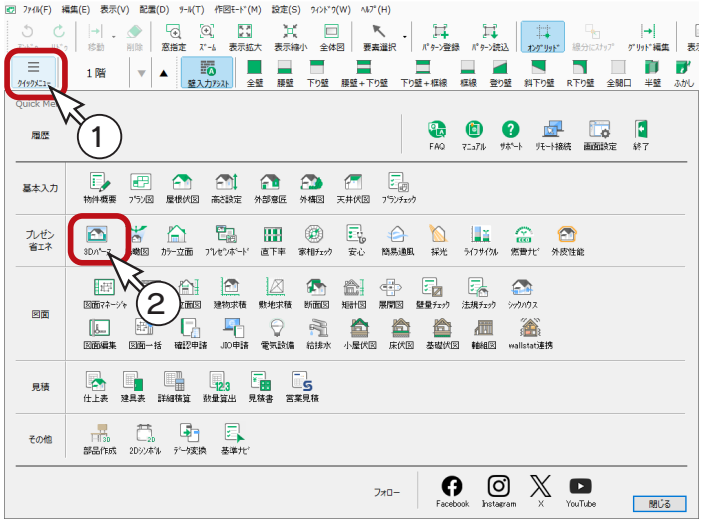
＊入力候補リストが表示されます。

⑧「腰壁」をダブルクリック

壁の種類は、入力済みの壁を（要素選択）で指示後、右クリックメニューの「属性変更」により変更できるほか、上書き入力することでも、任意に変更することができます。

リアルタイム連動

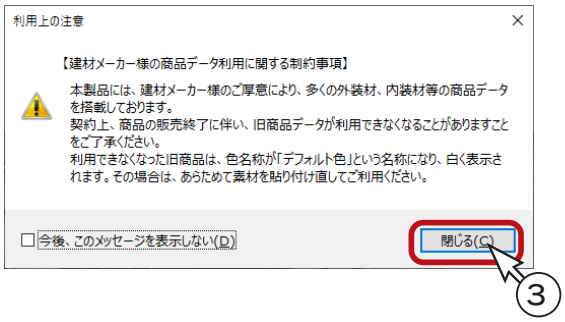
本システムの 2 次元と 3 次元のアプリケーションはリアルタイム連動しており、3 次元で確認しながら 2 次元を入力したり、3 次元上で編集して 2 次元に反映させたりすることも可能です。
「3D パース」も起動してみましょう。



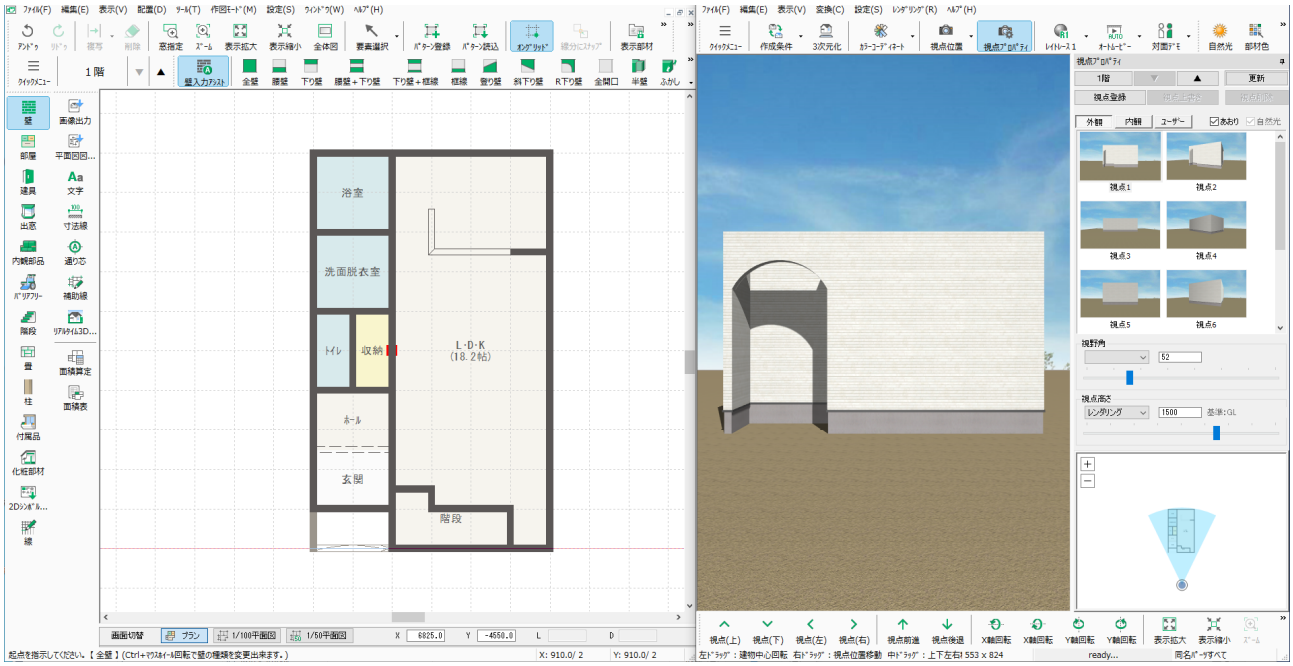
①（クイックメニュー）をクリック

②（3D パース）をクリック

③利用上の注意が表示されるので、内容を確認の上、「閉じる」をクリック
＊「今後、このメッセージを表示しない」のチェックが可能です。
＊ 3D パースの画面が表示されます。



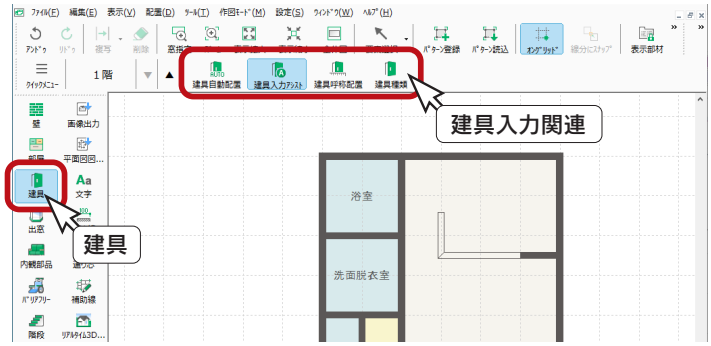
デスクトップに 2 つのアプリケーションが並ぶようにそれぞれの画面サイズを調整してください。
以下の表示では、 3D パースも表示調整しています。



建具

建具を配置しましょう。

ツールバーの (建具) をクリックすると、建具入力関連のアイコンが表示されます。



建具アイコンカスタマイズ

(建具種類) をクリックすると、(引違)、(片引) など、建具種類を選択して配置することができます。
建具種類は多いので、「設定」⇒「建具設定」⇒「建具アイコンカスタマイズ」にて、各建具アイコンの表示 / 非表示を設定できるようになっています。

建具自動配置

ここでは、自動配置を実行し、配置状態を確認してから調整しましょう。

①ツールバーの (建具) をクリック

② (建具自動配置) をクリック

③ダイアログが表示されるので、「一括」をクリック
＊建具自動配置が実行されます。

3D パースがリアルタイム連動しない？

3D パース画面の「設定」⇒「リアルタイム連動」により、ON/OFF が可能になっており、設定によっては建具を配置しても表示が変わらない場合があります。
その場合は、設定を変更後、3D パースを再起動してください。

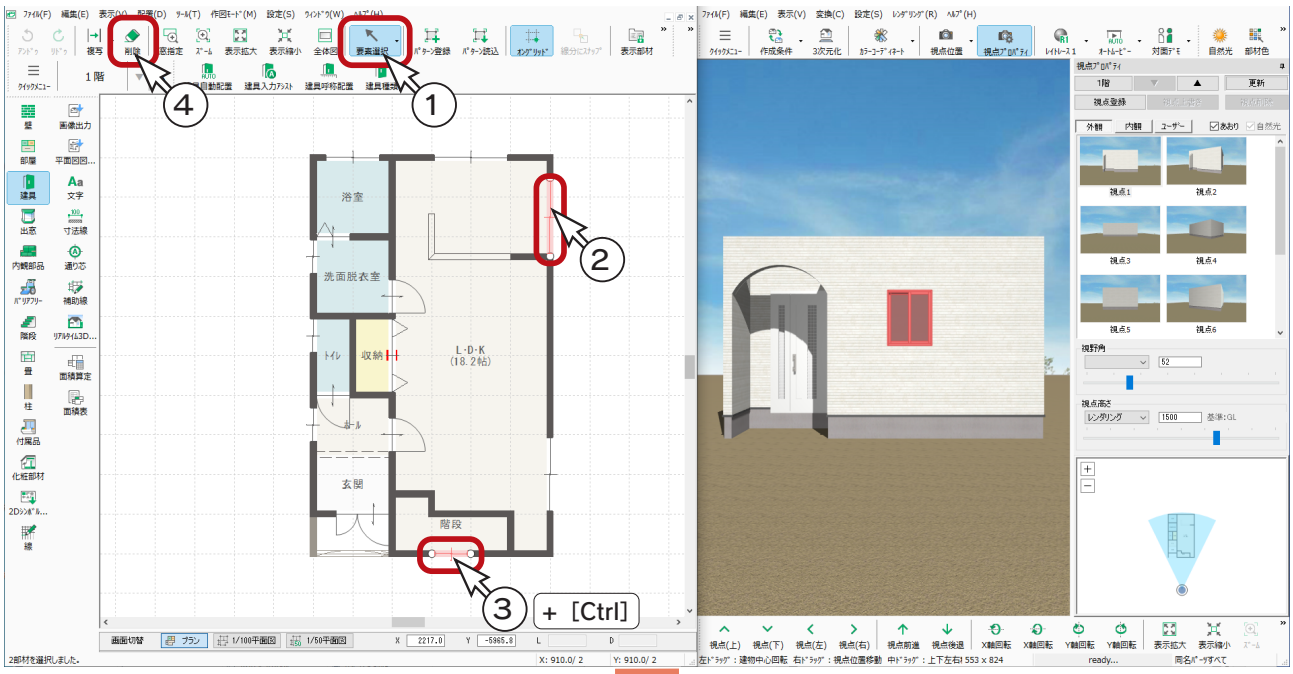
建具の削除

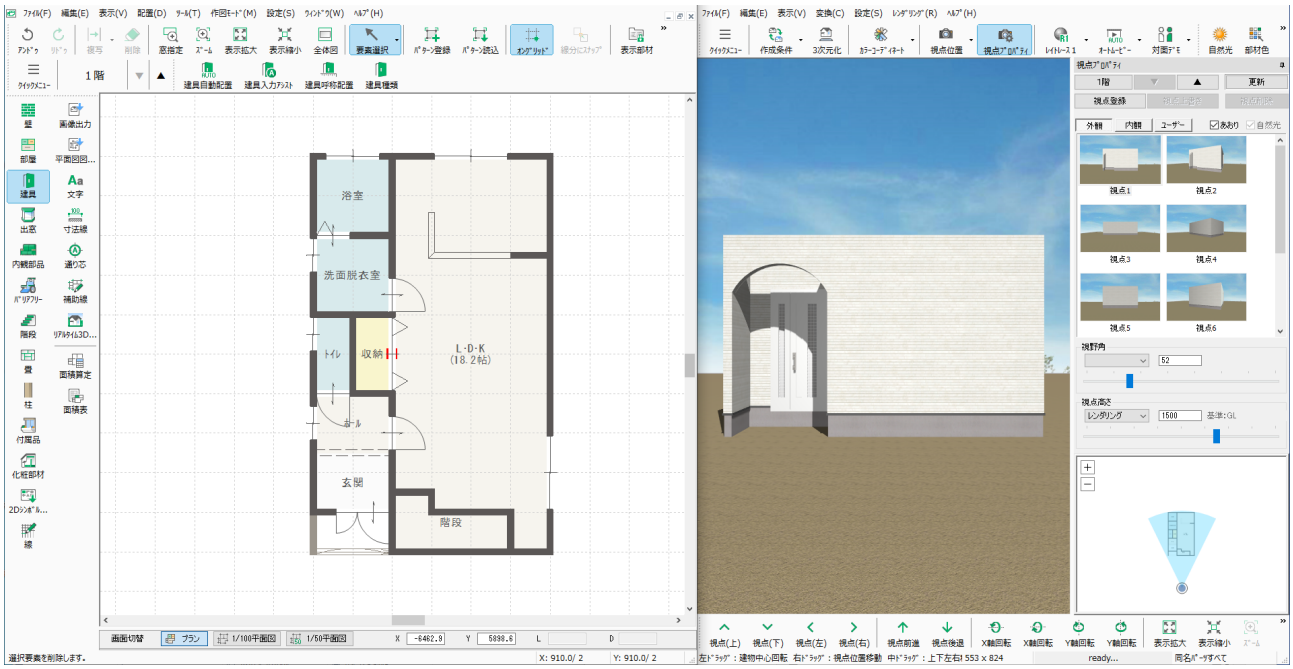
自動配置の状態を確認し、削除を行います。

①（要素選択）をクリック
②L･D･K 右上の建具を指示
③[Ctrl] キーを押しながら、階段の建具を指示
④2つが選択状態になったら、（削除）をクリック
＊[Delete] キーを押してもかまいません。

[Ctrl] キーで複数選択

1つの要素を選択後、[Ctrl] キーを押しながら別の要素を選択すると、複数の要素を同時に編集対象にすることができます。
なお、選択済みの要素を [Ctrl] キーを押しながら指示すると、選択解除となります。





建具呼称配置

（建具呼称配置）を使用して、建具を追加してみましょう。

① （建具呼称配置）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

②建具種類の「勝手口ドア（桝格子）」をクリック

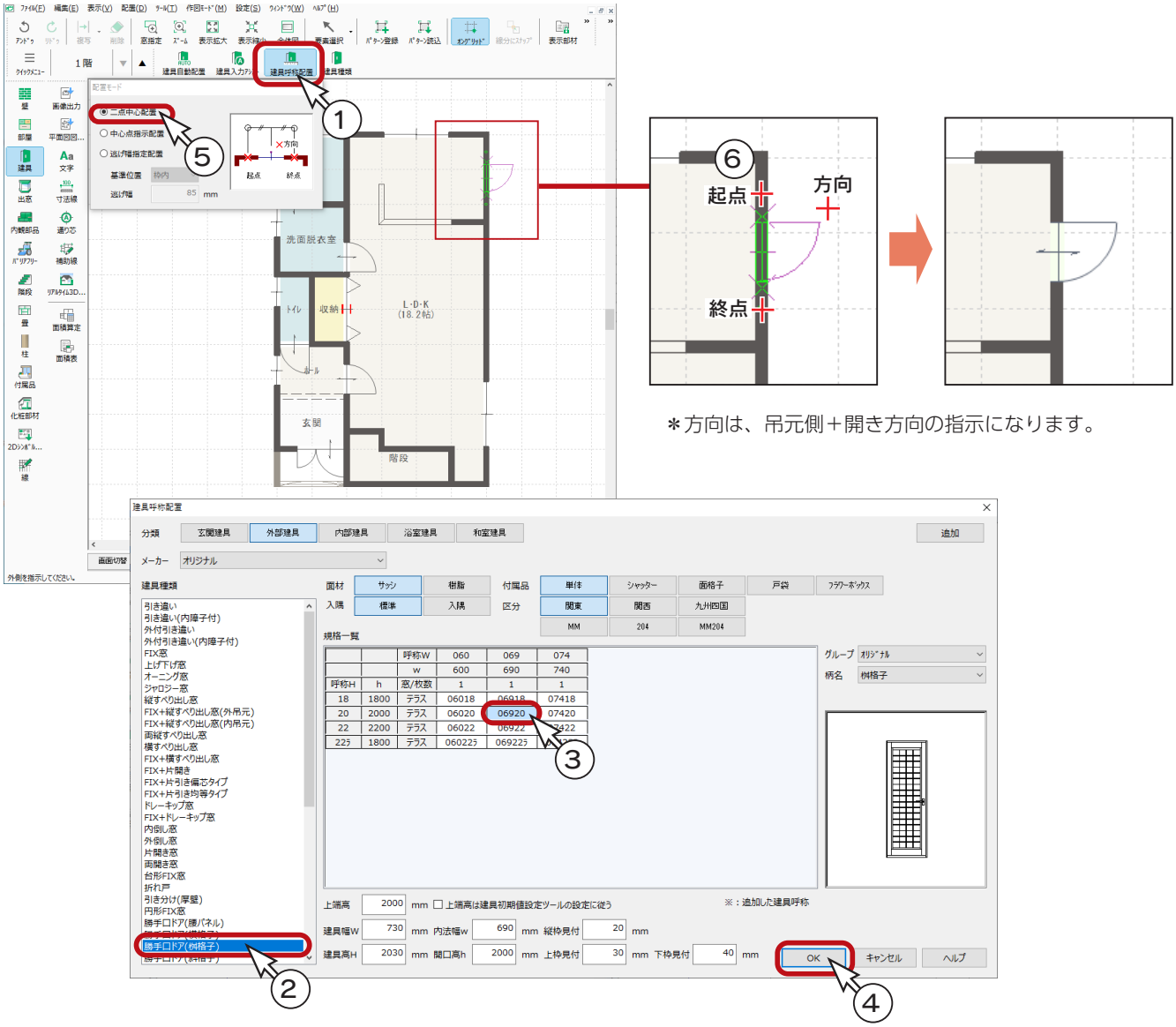
③規格一覧の「06920」をクリック

④「OK」をクリック

⑤配置モードが「二点中心配置」であることを確認

⑥図のように、起点ー終点ー方向を指示

＊建具が配置されます。

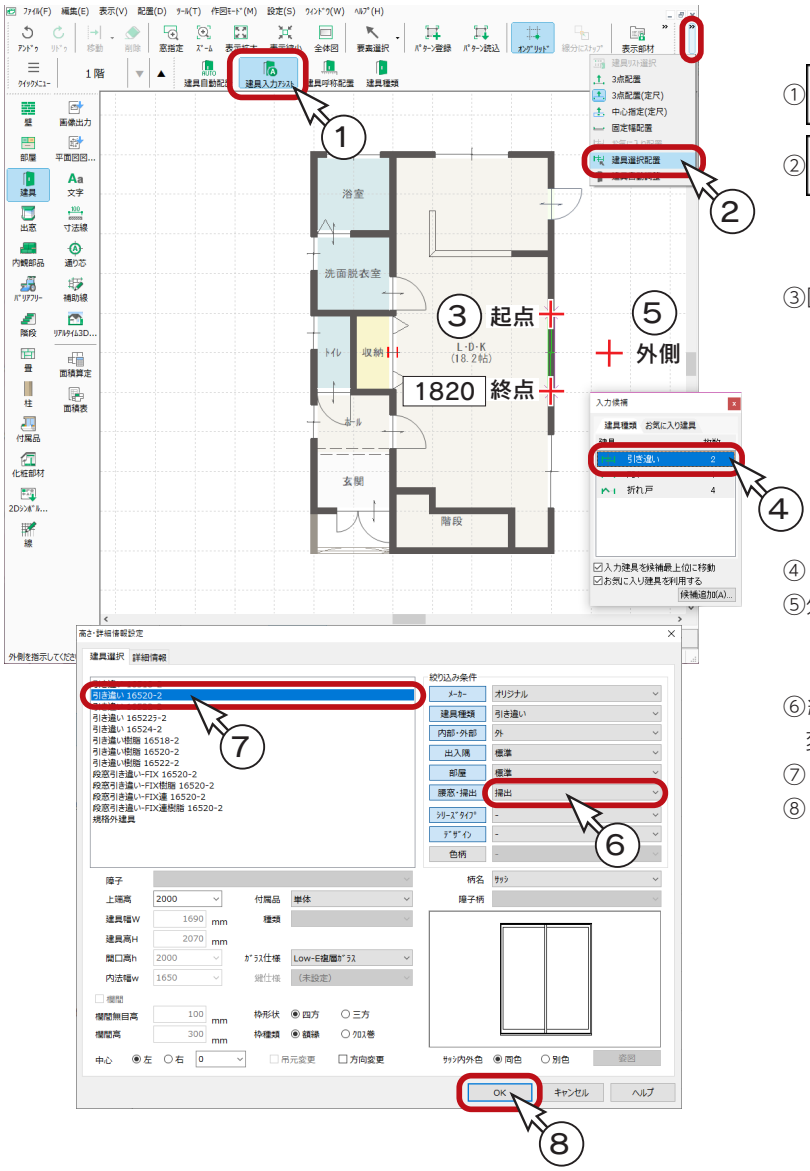


＊方向は、吊元側＋開き方向の指示になります。

建具入力アシスト

（建具入力アシスト）を使用して、建具を追加してみましょう。

■引き違い



① （建具入力アシスト）をクリック

② （建具選択配置）をクリック

＊アイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

③図のように、起点一終点をクリック

＊終点は入力幅「1820」となる位置でクリックします。
なお、外部建具は内法幅も表示されます。

＊入力候補が表示されます。
建具をお気に入り登録していると、最初に「お気に入り建具」が表示されますので、「建具種類」を表示してください。

④「引き違い」を選択

⑤外側でクリック

＊高さ・詳細情報設定のダイアログが表示されます。

⑥絞り込み条件の「腰窓・掃出」を「掃出」に変更

⑦「引き違い 16520-2」を選択

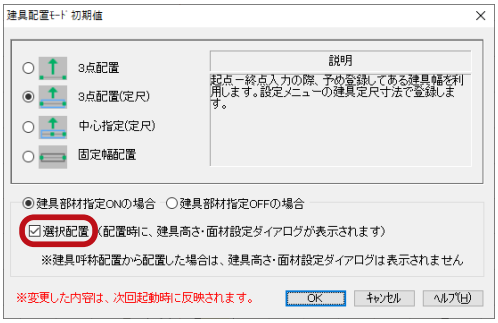
⑧「OK」をクリック

＊建具が配置されます。

■建具選択配置について

（建具入力アシスト）、 （建具種類）の入力では、上記のように （建具選択配置）をクリックすることで、入力時に高さ・詳細情報設定のダイアログが表示されます。

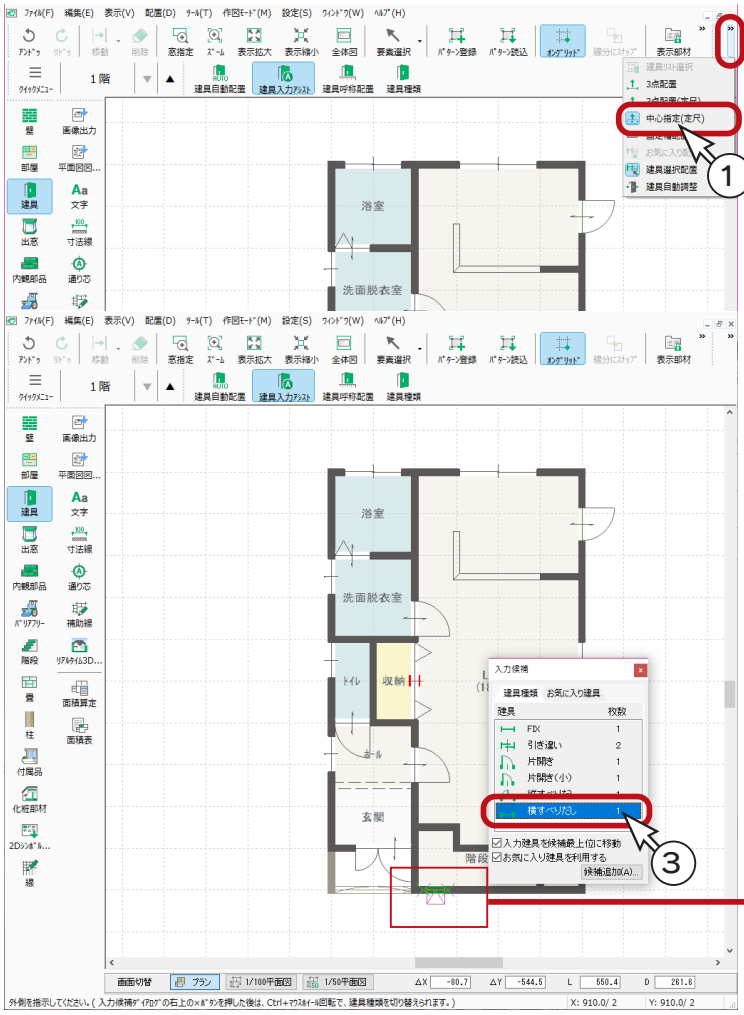
また、「設定」⇒「建具設定」⇒「建具配置モード 初期値」に、「選択配置」のチェックがあり、チェックを入れておくと、 （建具選択配置）がクリックされた状態が初期値となります。



「選択配置」のチェックを変更した場合は、「プラン図」を再起動後の配置時から反映されます。

■横すべりだし 1

横すべりだしは、作図モードを変更して追加してみましょう。



①作図モードを（中心指定（定尺））に設定

＊アイコンが表示されていない場合は、 を クリックしてください。

②図のように、中心点ー終点を指示

＊終点は入力幅「535」となる位置でクリックします。

なお、外部建具は内法幅も表示されます。

＊入力候補が表示されます。

③「横すべりだし」を選択

④外側でクリック

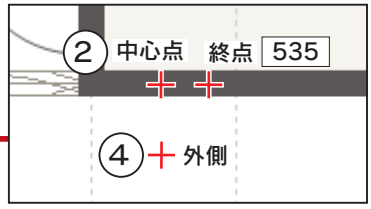
＊高さ・詳細情報設定のダイアログが表示されます。

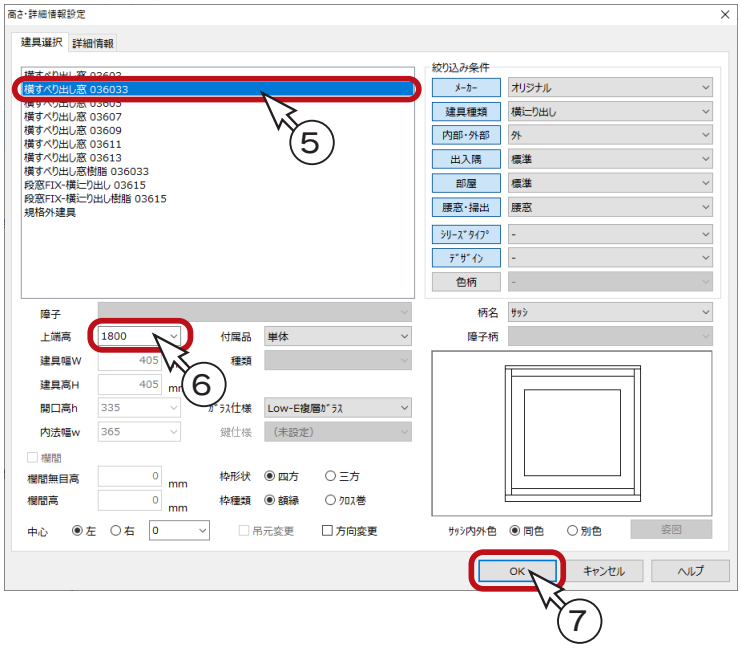
⑤「横すべり出し窓 036033」を選択

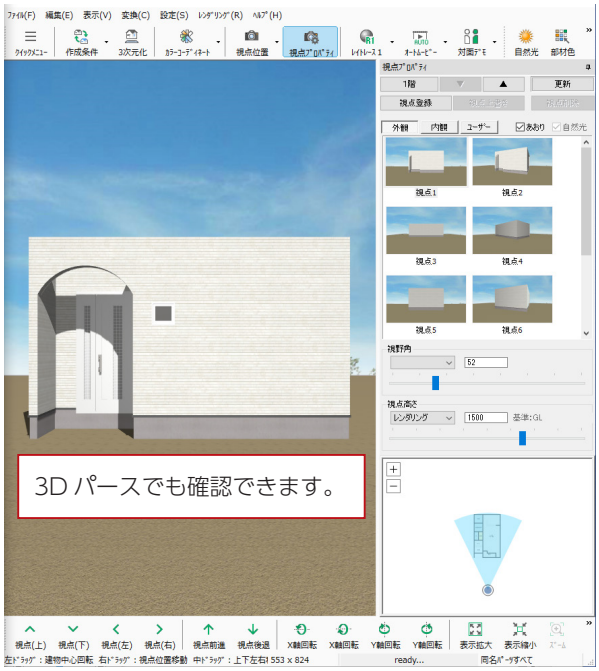
⑥上端高を「1800」に変更

⑦「OK」をクリック

＊建具が配置されます。

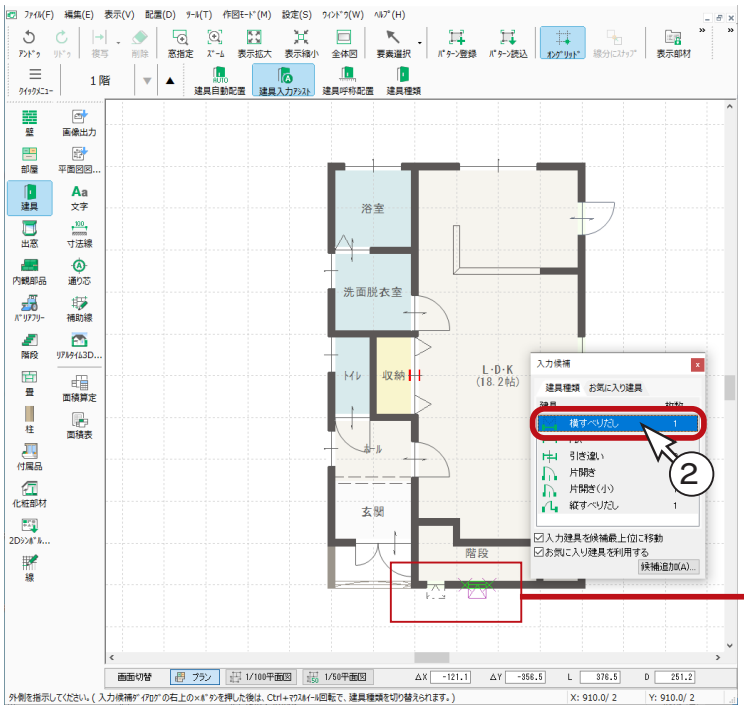




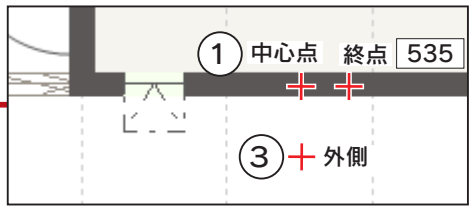


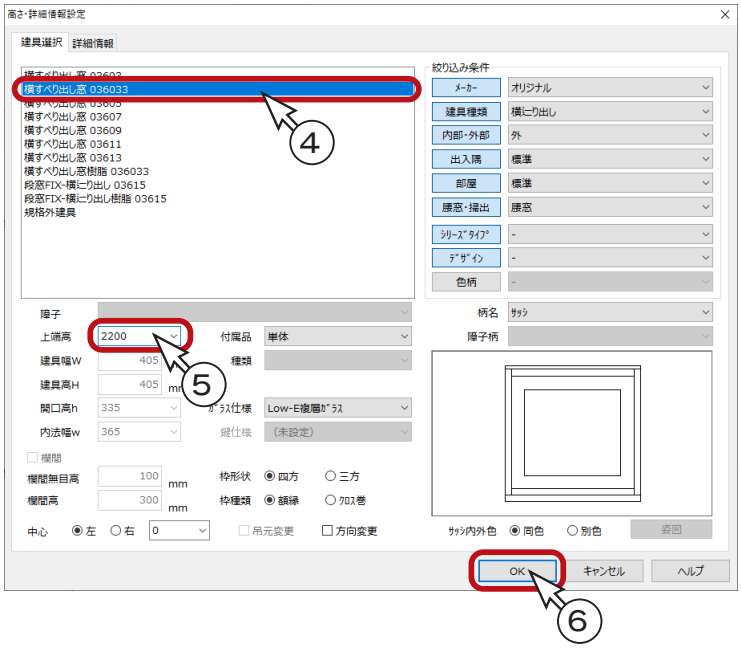
■横すべりだし 2

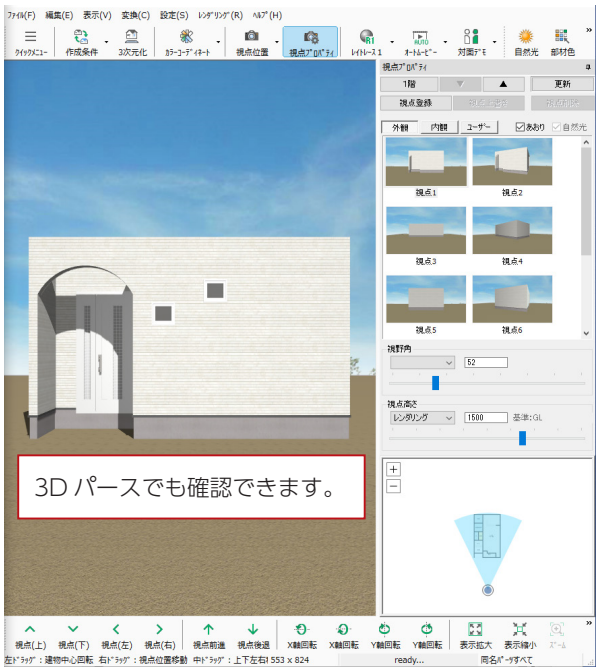
同様に、横すべりだしをもう一つ追加します。



①図のように、中心点ー終点を指示
　＊終点は入力幅「535」となる位置でクリックします。
　＊入力候補が表示されます。
②「横すべりだし」を選択
③外側でクリック
　＊高さ・詳細情報設定のダイアログが表示されます。
④「横すべり出し窓 036033」を選択
⑤上端高を「2200」に変更
⑥「OK」をクリック
　＊建具が配置されます。





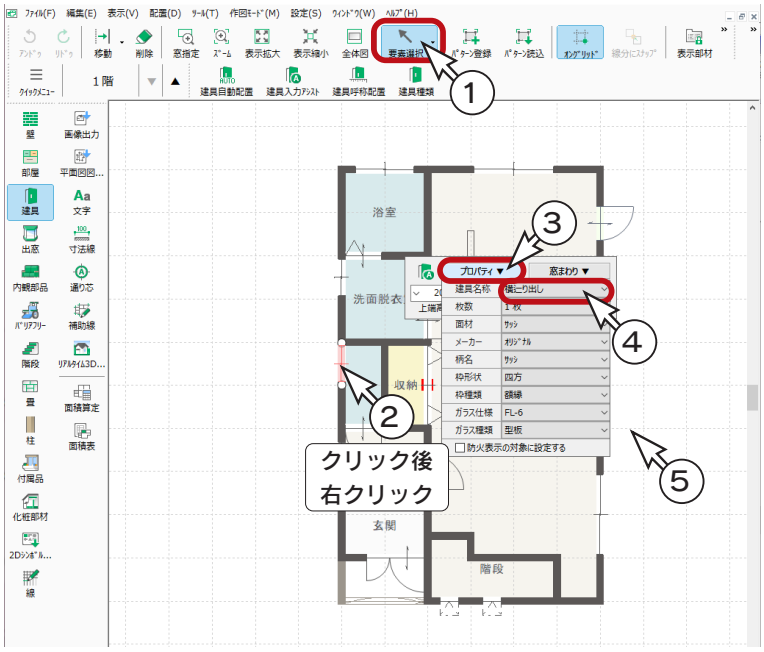


建具の右クリック

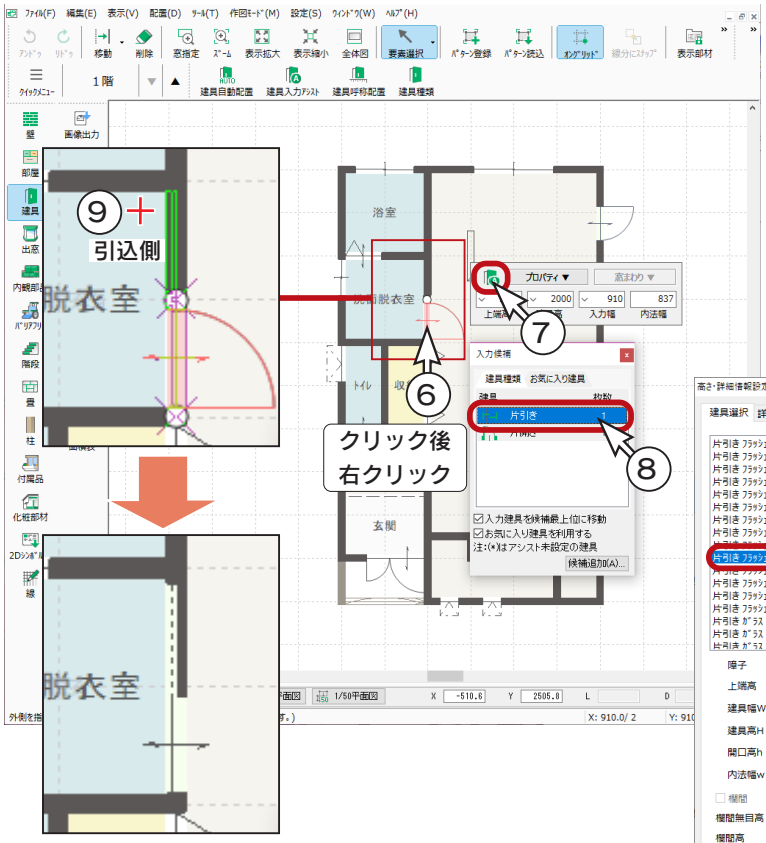
（建具自動配置）で配置した建具は、（要素選択）で選択して右クリックすると、右クリックメニューとスマートメニューが表示されます。建具タイプ変更や高さ設定が可能です。
ここでは、スマートメニューを使用してみましょう。

スマートメニュー

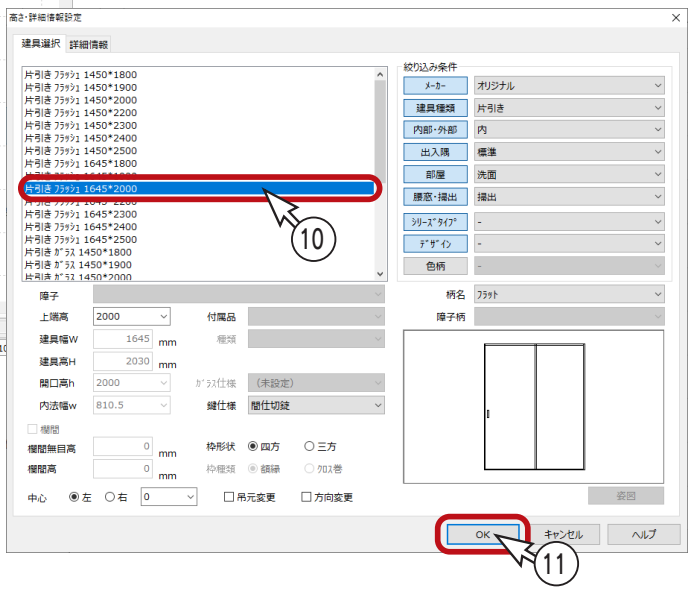
「建具部材指定」で入力した建具では、スマートメニューは表示されません。



①（要素選択）をクリック
②トイレの窓をクリック後、右クリック
③スマートメニューの「プロパティ」をクリック
④建具名称を「横辷り出し」に変更
⑤画面内の余白でクリック



⑥洗面脱衣室の扉をクリック後、右クリック
⑦スマートメニューの（建具入力アシスト）をクリック
⑧「片引き」を選択
⑨洗面脱衣室側でクリック
　＊引込側を設定します。
　＊高さ・詳細情報設定のダイアログが表示されます。
⑩「片引きフラッシュ 1645 ＊ 2000」を選択
⑪「OK」をクリック
　＊建具が変更されます。



内観部品

部品自動配置

玄関キャビネットと設備部品を自動配置してみましょう。

① （内観部品）をクリック

② （部品自動配置）をクリック

＊部品自動配置のダイアログが表示されます。

③「標準仕様」に設定

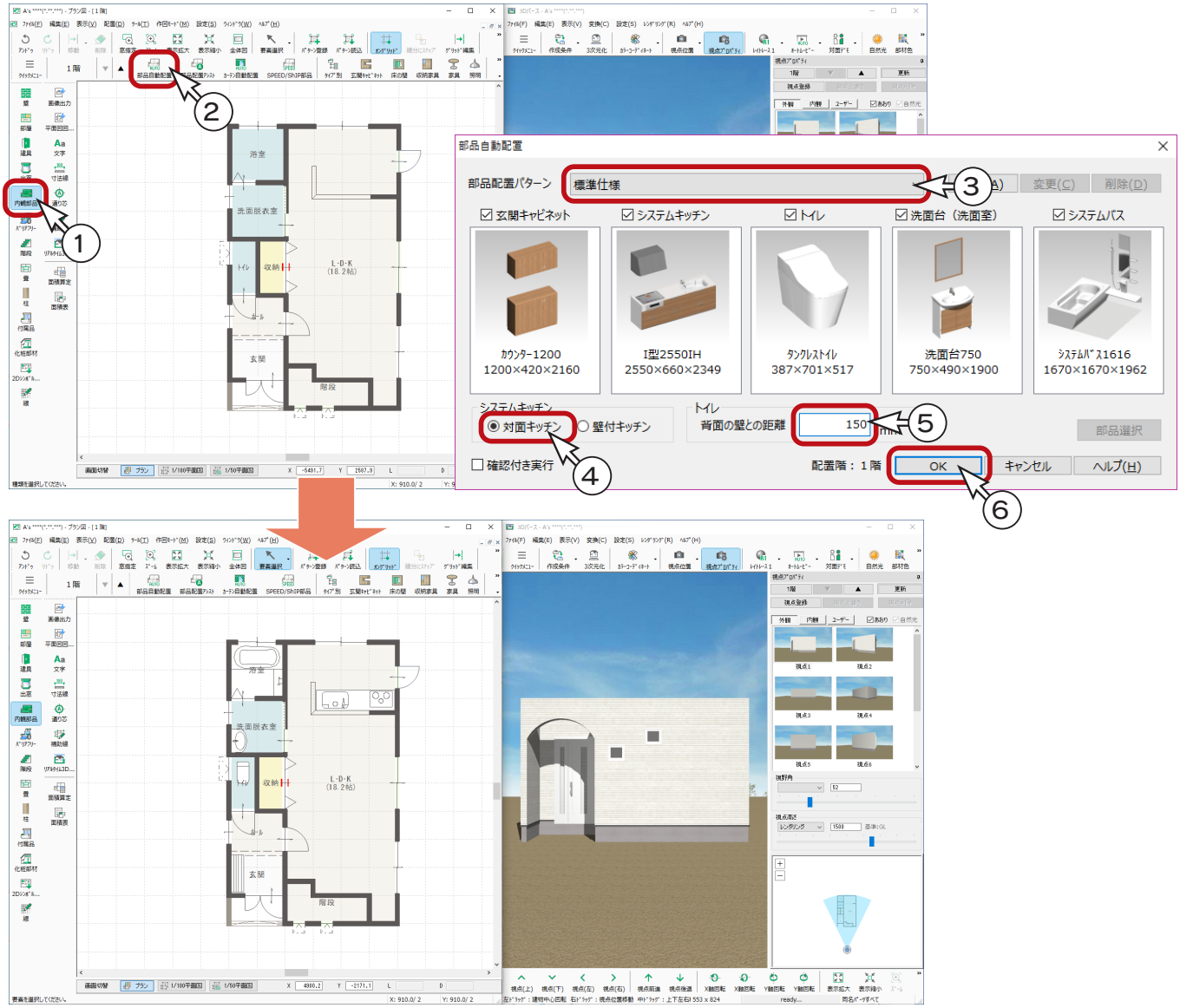
＊すべての部品にチェックが入ります。

④システムキッチンは「対面キッチン」を選択

⑤トイレ背面の壁との距離を 150 mmに設定

⑥「OK」をクリック

＊部品が自動配置されます。

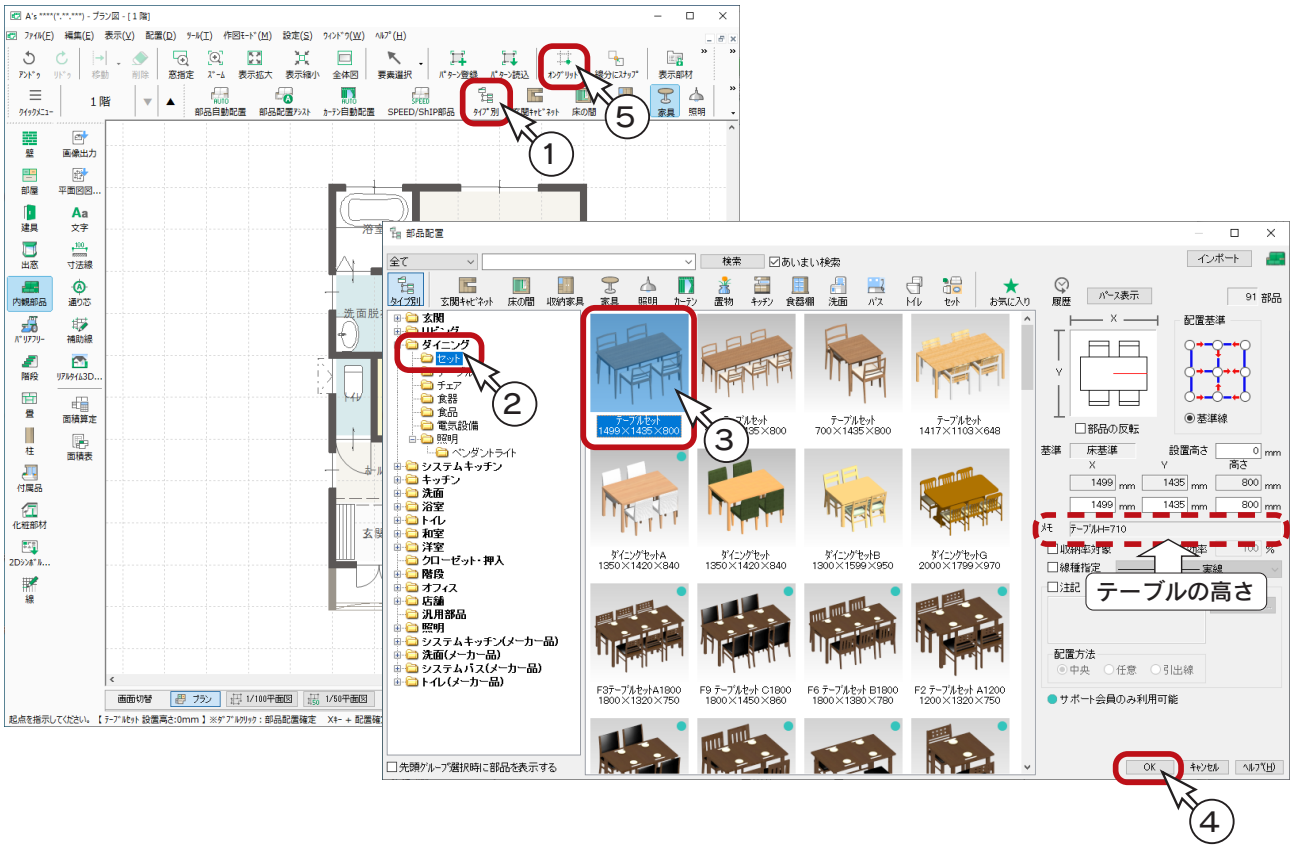


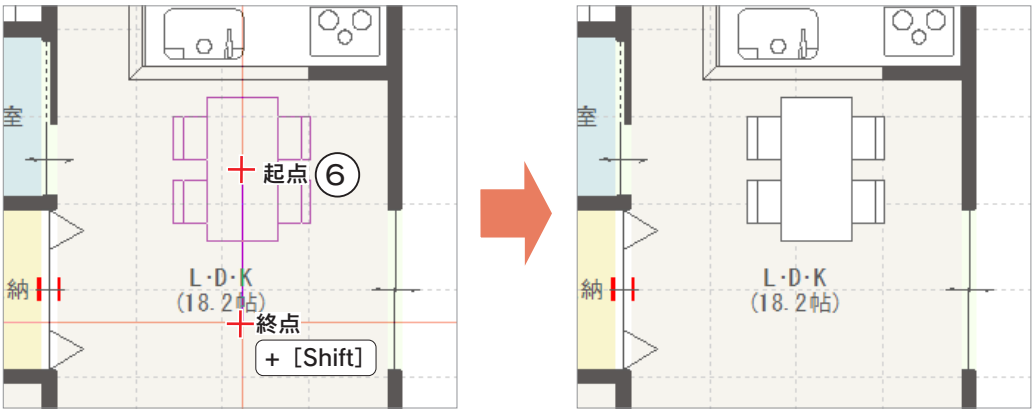
部品自動配置のダイアログで、サムネイルをダブルクリックすると、部品を変更することができます。

3D 部品－テーブルセット

自動配置の部品以外にも、多種多様な部品が用意されています。
テーブルセットを配置してみましょう。

①（タイプ別）をクリック
②左のツリーから「ダイニング」⇒「セット」をクリック
③４人用の「テーブルセット」をクリック
④「OK」をクリック
⑤（オングリッド）をクリックし、カーソルの動きをフリーにする
　＊グリッドに関わらず、自由に配置できるようになります。
⑥図のように、起点－終点を指示
　＊垂直に配置するには、[Shift] キーを押しながら終点を指示します。
⑦右クリック
　＊部品配置ダイアログに戻ります。





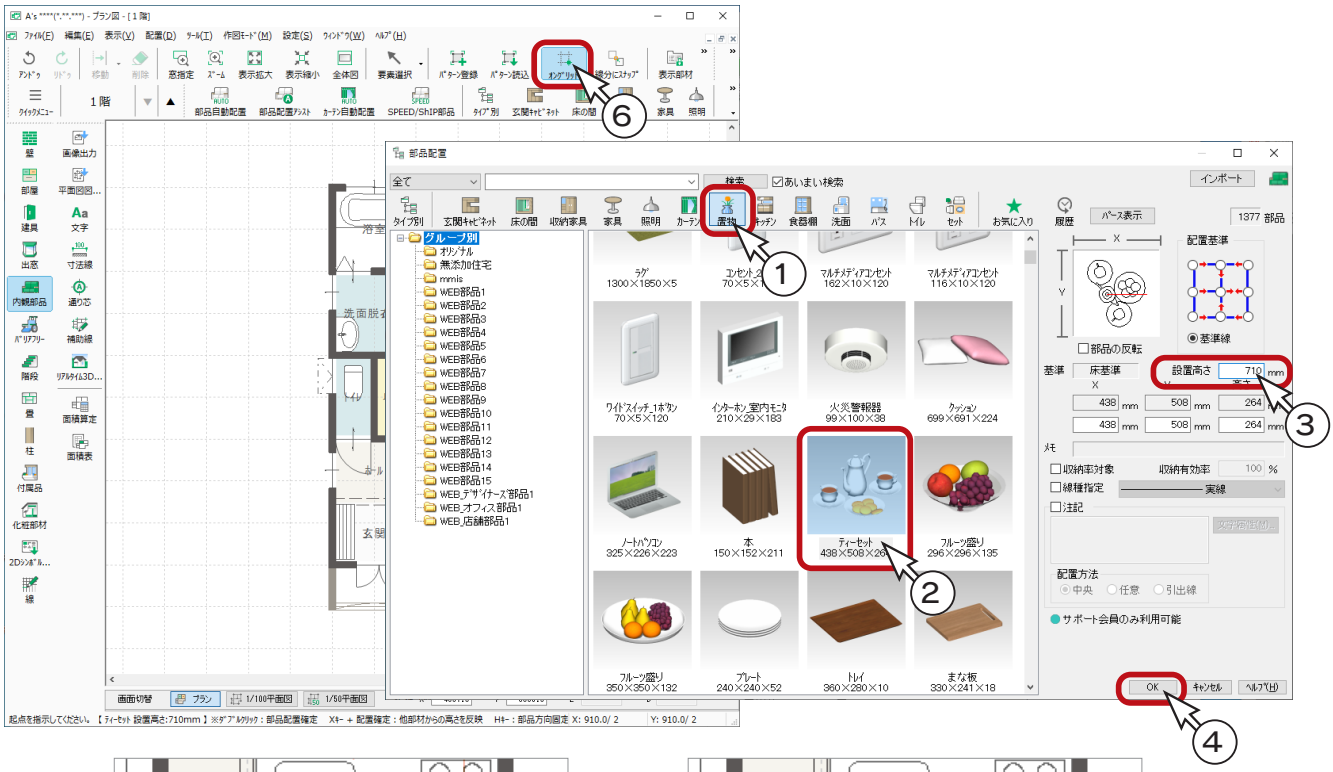
３次元部品－ティーセット

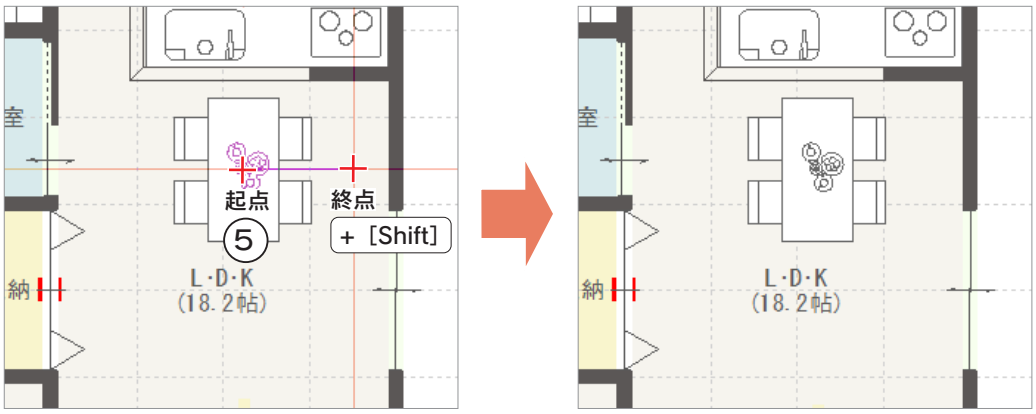
テーブルの上に、ティーセットを配置してみましょう。

①部品配置ダイアログの (置物) をクリック

＊ダイアログが表示されない場合は、入力画面の (置物) をクリックしてください。

②「ティーセット」をクリック
③設置高さを「710」mm に設定
＊「テーブルセット」のメモの「テーブルH＝ 710」をもとに設定します。(⇒前ページ参照)
④「OK」をクリック
⑤図のように、起点－終点を指示
⑥ (オングリッド) をクリックし、カーソルの動きをオングリッドに戻す





部品のプロパティ

ダイアログの右側で、配置する部品のサイズや設置高さを変更できます。
線種指定や注記の入力も可能です。

また、 (要素選択) で配置した部品をダブルクリックすることで、プロパティを表示し、変更が可能です。

リアルタイム３Ｄビューアの利用

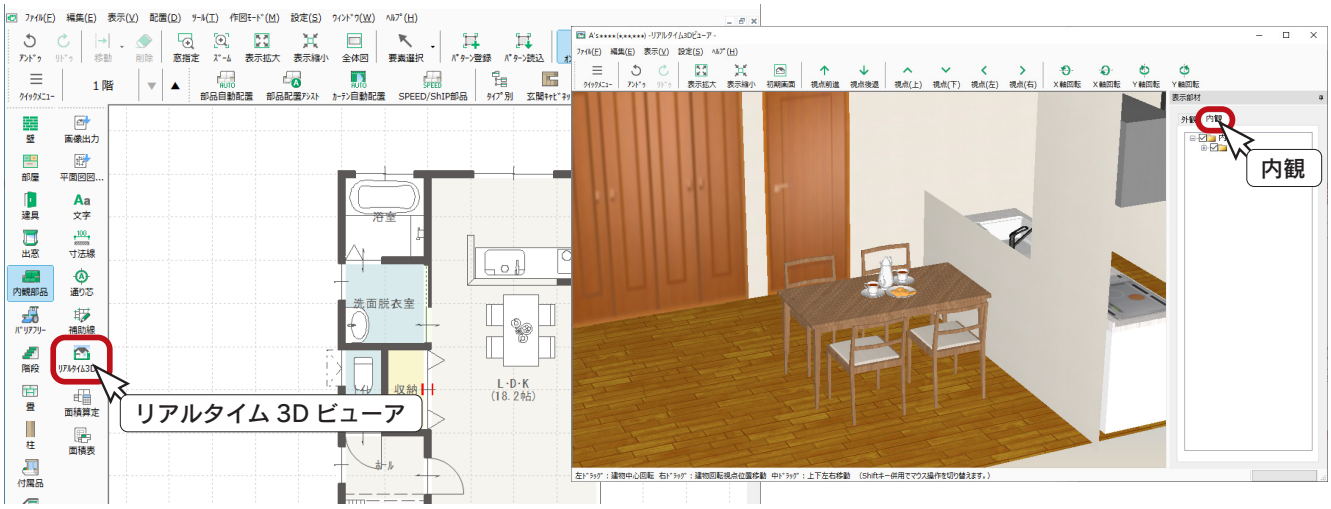
リアルタイム３Ｄビューアでは、３Ｄ表示で確認しながら、部品の移動や高さ調整をすることができます。

■基本のマウス操作

（リアルタイム３Ｄビューア）をクリックすると、リアルタイム３Ｄビューアが起動します。

表示部材は「内観」を選択し、右のマウス操作を参考に、確認したい部品の付近を拡大表示してください。
ここでは、ダイニングテーブルを拡大表示しています。

マウス操作	動作	ポインタ	マウス操作	動作	ポインタ
左ドラッグ	建物中心回転		Shift ＋ 左ドラッグ	視点中心回転	
右ドラッグ	建物回転 視点位置移動		Shift ＋ 右ドラッグ	視点位置移動	
中ドラッグ	上下左右移動				



■部品の移動

リアルタイム３Ｄビューア上の部品をクリックすると、赤のワイヤー表示になります。
その状態でドラッグすることで、自由に移動させることができます。

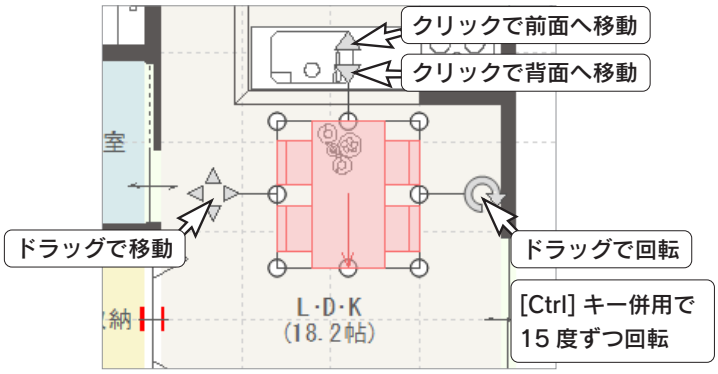
■部品の高さ変更

リアルタイム３Ｄビューア上の部品を指示後、ダブルクリック、または右クリックメニューの「プロパティ」を選択すると、部品の設置高を確認、変更することができます。右は、ティーセットの例です。

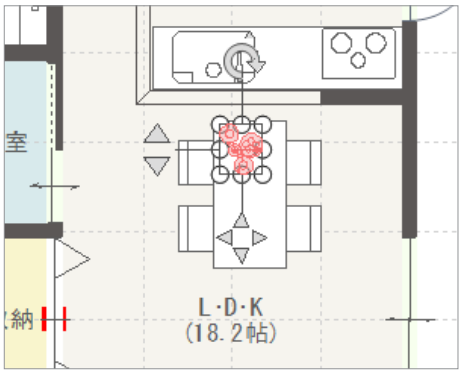
部品の要素選択

要素選択で部品を選択すると、周囲にハンドルが表示され、移動や回転、前面・背面へ移動させる操作アイコンも表示されます。画面拡大率にかかわらず、ハンドルやアイコンの大きさは変わりません。

テーブルセットを選択した例



ティーセットを選択した例

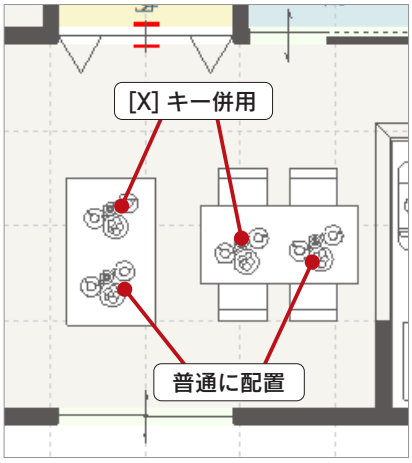


＊小さい部品でも移動や回転が容易です。

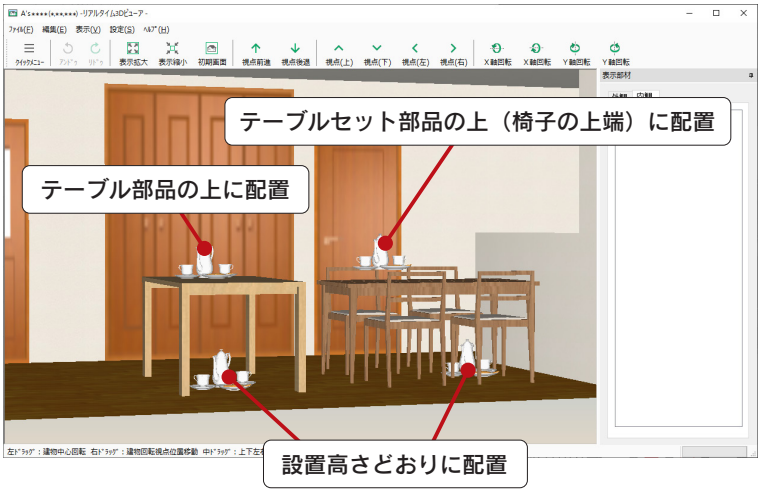
部品の設置高さ

プラン図で部品を配置する際に、部品配置時にキーボードの [X] キーを押しながら配置することで、重なって配置した部品の高さを認識し、自動的に設置高さを調整します。

ティーセットを配置した例



リアルタイム 3D ビューアで設置高さを確認



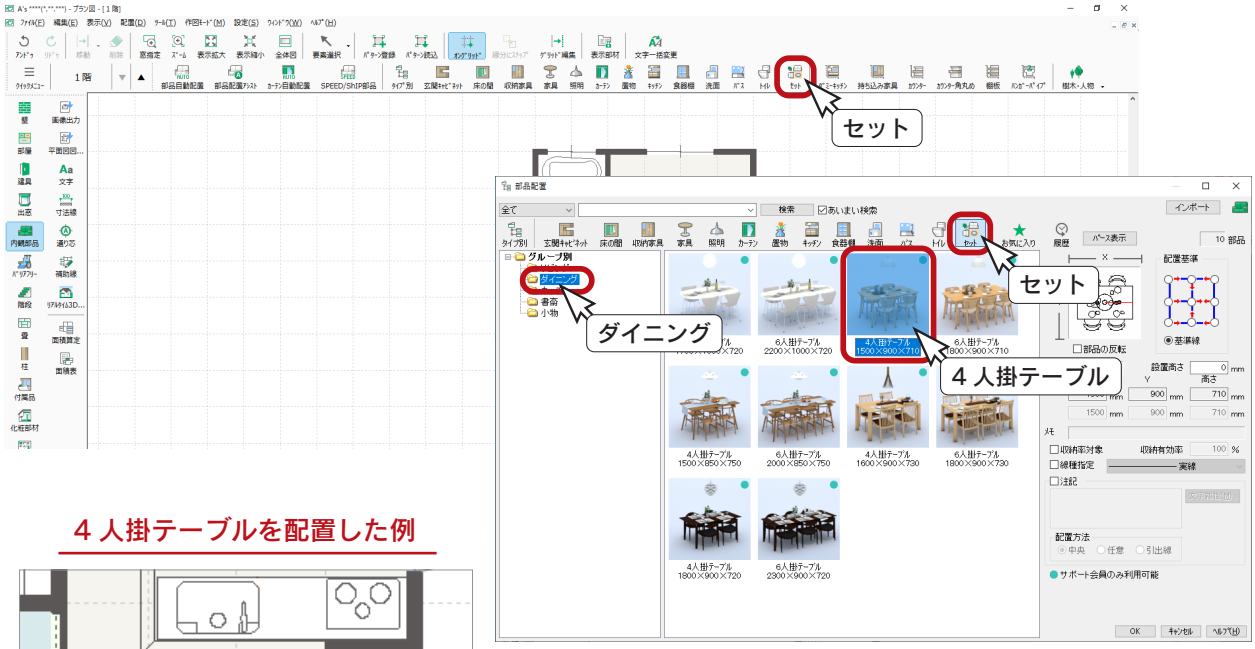
上記のテーブルセットは、テーブルと椅子がまとまった 1 つの部品になっていますので、部品の高さは椅子の上端になります。
セット配置であればテーブルと椅子が別々なので、テーブルの高さを対象にできます。
(⇒次ページ参照)

部品のセット配置

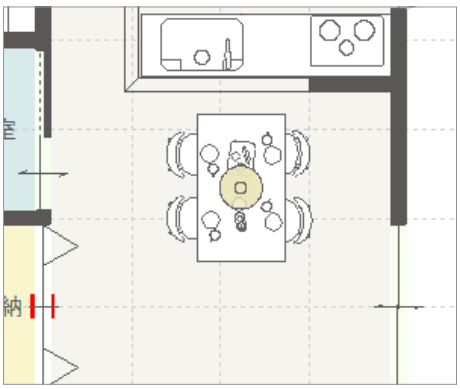
テーブルと椅子、テーブル上の食器やカトラリーなど、複数の既存部品を「セット」で配置できます。
配置後は、それぞれの部品の移動、回転、削除などもできます。
部品をひとつずつ配置する手間がなく、入力作業の省力化に繋がります。

部品のセット配置は、サポート会員期間中のみ利用可能です。

（内観部品）⇒（セット）、または（タイプ別）をクリック後の部品配置ダイアログの（セット）をクリックすると、セット配置の部品が表示されます。



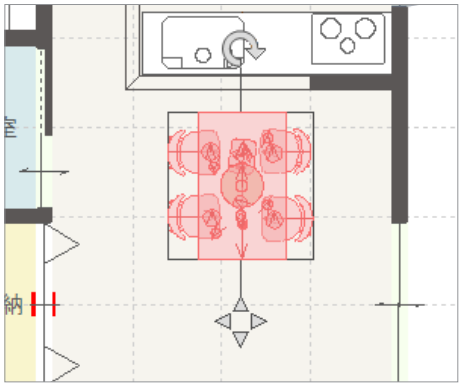
4 人掛テーブルを配置した例



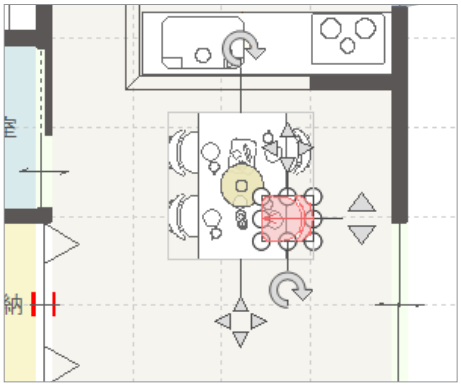
通常の部品と同様の操作で配置します。
左は、「ダイニング」⇒「4 人掛テーブル」を配置した例です。

セット配置の部品は、セット全体をまとめて移動、回転したり、
個別の部品だけを操作したりすることができます。
最初のクリックでセット全体が選択状態になります。
その後、椅子をクリックすると、椅子 1 つを選択できます。

セット全体を選択



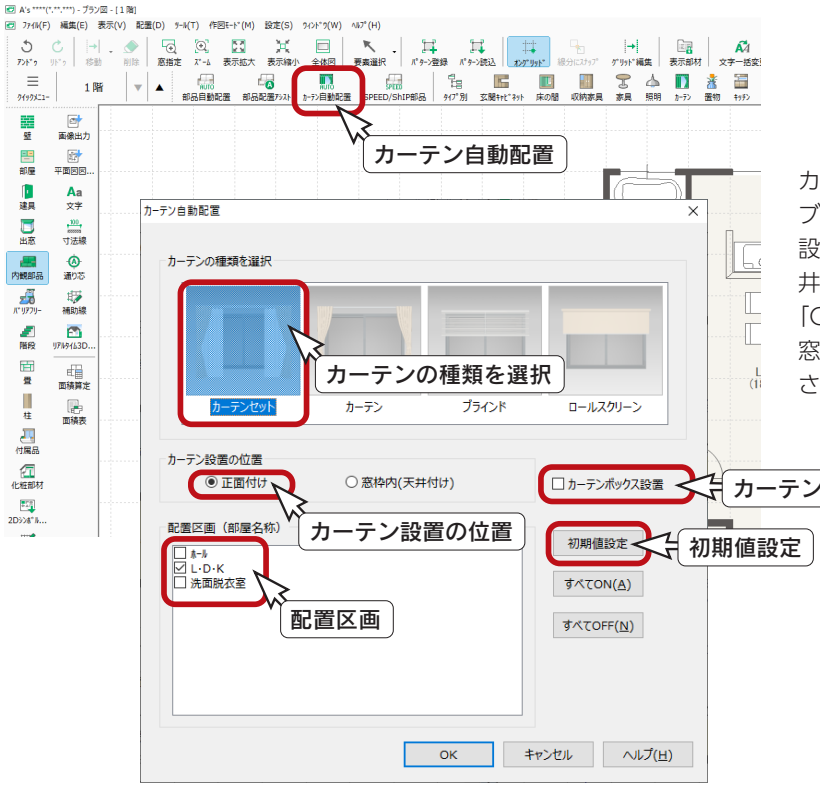
椅子 1 つを選択



カーテン自動配置

窓サイズに合わせて、カーテン部品を自動配置することができます。
作業時間短縮とパース表現の向上に繋がります。

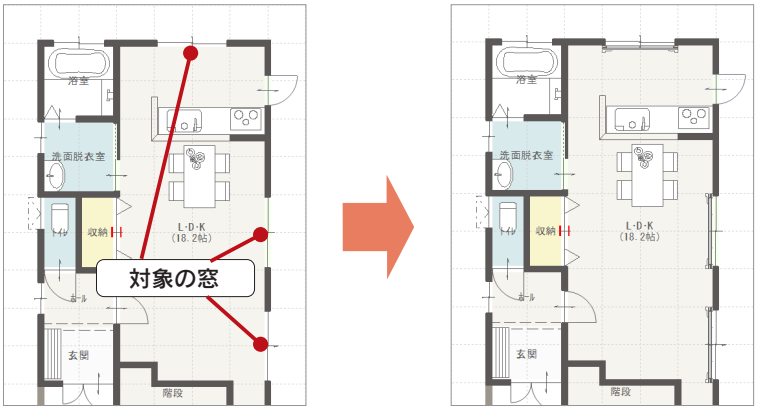
（内観部品）⇒ （カーテン自動配置）をクリックすると、カーテン自動配置のダイアログが表示されます。



カーテンの種類は、カーテンセット、カーテン、ブラインド、ロールスクリーンから選択できます。設置の位置、カーテンボックスの有無（窓枠内（天井付け）の場合は設置不可）、配置区画を選択し、「OK」をクリックしてください。
窓のサイズに合わせて、カーテン部品が自動配置されます。

部屋属性ごとに、カーテン自動配置対象にする / しないの初期値を設定できます。

L･D･K にカーテンセットを自動配置した例



サッシ、樹脂の窓が対象となりますが、以下の建具は対象外になります。

【除外対象建具種類】
- 玄関
- 勝手口
- コーナー
- ハイサイドライト
- 円弧 FIX

【除外対象条件】
- 引違二重等の「内障子付き」
- 真壁和室の建具

また、以下に示すサイズ外の建具も自動配置の対象外になります。

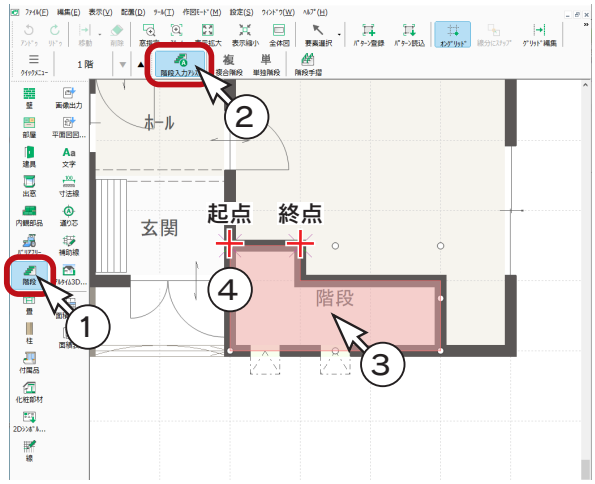
【カーテンセット・カーテン】
- 建具幅：1,000mm ～ 3,650mm
- 建具高：800mm ～ 2,600mm

【ブラインド・ロールスクリーン】
- 建具幅：600mm ～ 3,470mm
- 建具高：500mm ～
  （高さの上限はありません）

階段

階段を配置してみましょう。ここでは、 （階段入力アシスト）を使用します。

実際に階段を登るイメージで入力することができます。



① （階段）をクリック

② （階段入力アシスト）を確認

③階段の部屋の中をクリック

④登り口を起点ー終点で指示

　＊内部階段入力のダイアログが表示されます。

⑤壁付手摺の取付位置「左」のチェックを外す

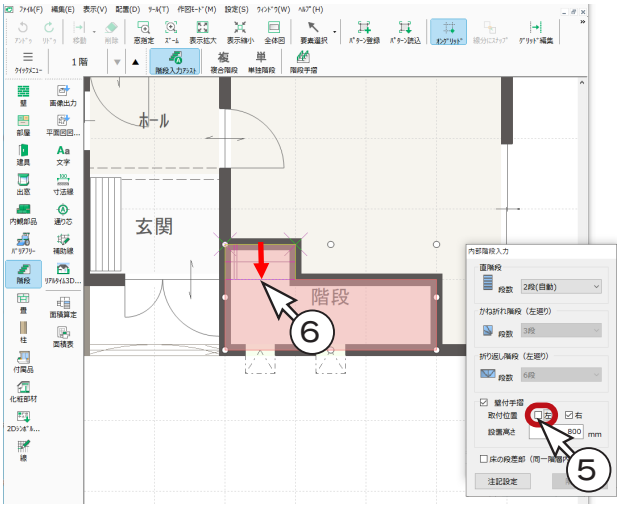
⑥登り口から直階段の２段目の位置をクリック

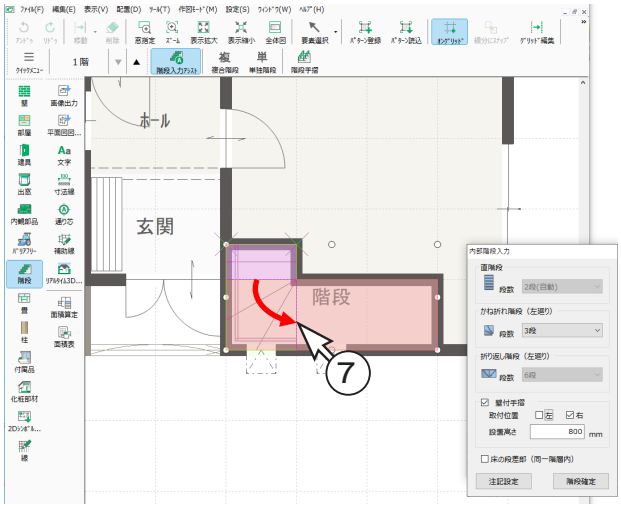
⑦左廻りにマウスを移動し、かね折れ階段の３段でクリック

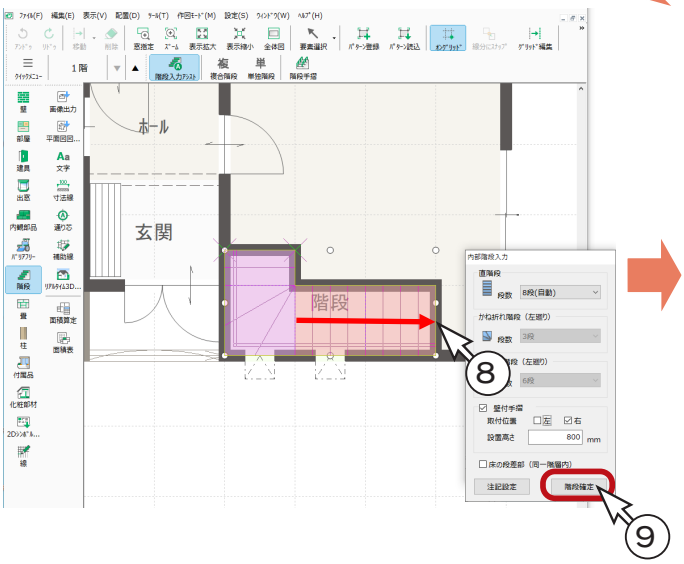
⑧さらに、直階段を８段登ってクリック

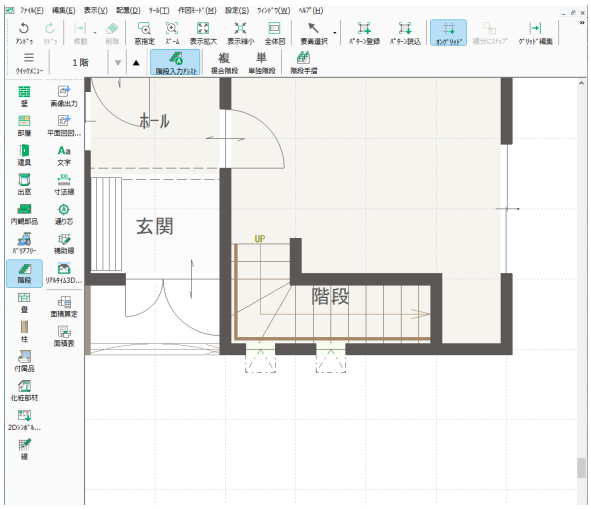
⑨「階段確定」をクリック

　＊階段が配置されます。



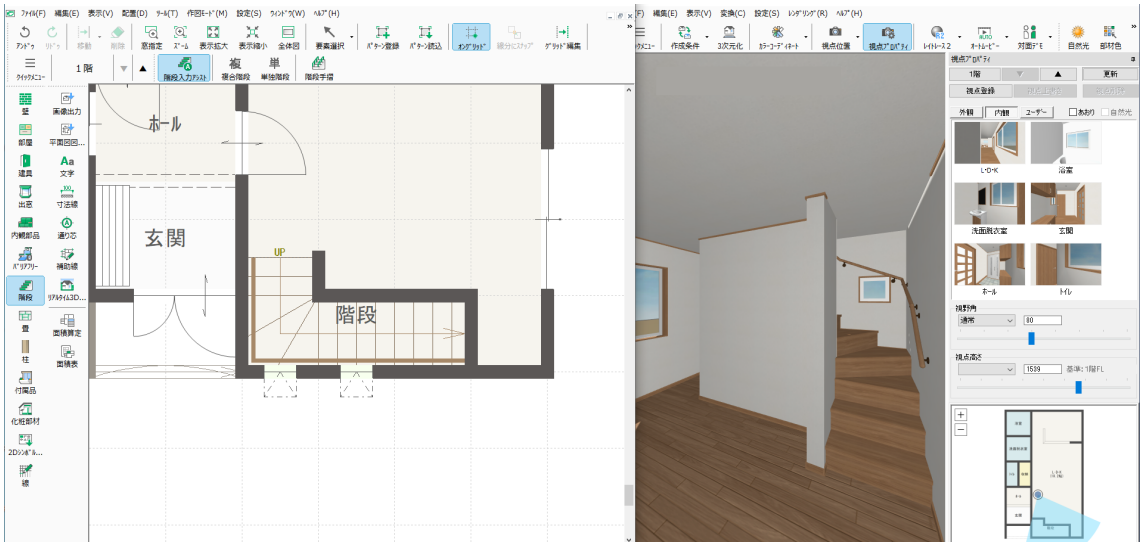


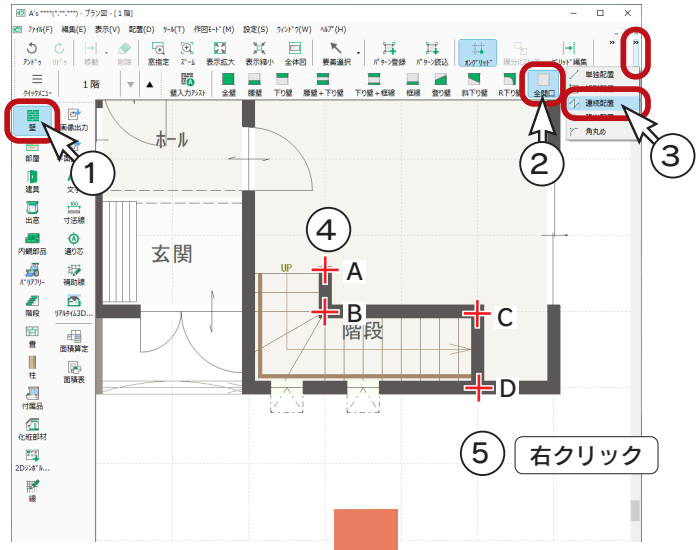




階段の壁変更

入力した階段を 3D パースで確認すると、以下のようになります。
L･D･K 側の壁を、全開口に変更してみましょう。





①（壁）をクリック

②（全開口）をクリック

③作図モードを（連続配置）に設定

＊アイコンが表示されていない場合は、
をクリックしてください。

④図のように、A ～ D を指示

⑤右クリック

階段変更

入力済みの階段は、詳細を確認、変更することができます。

①（要素選択）をクリック

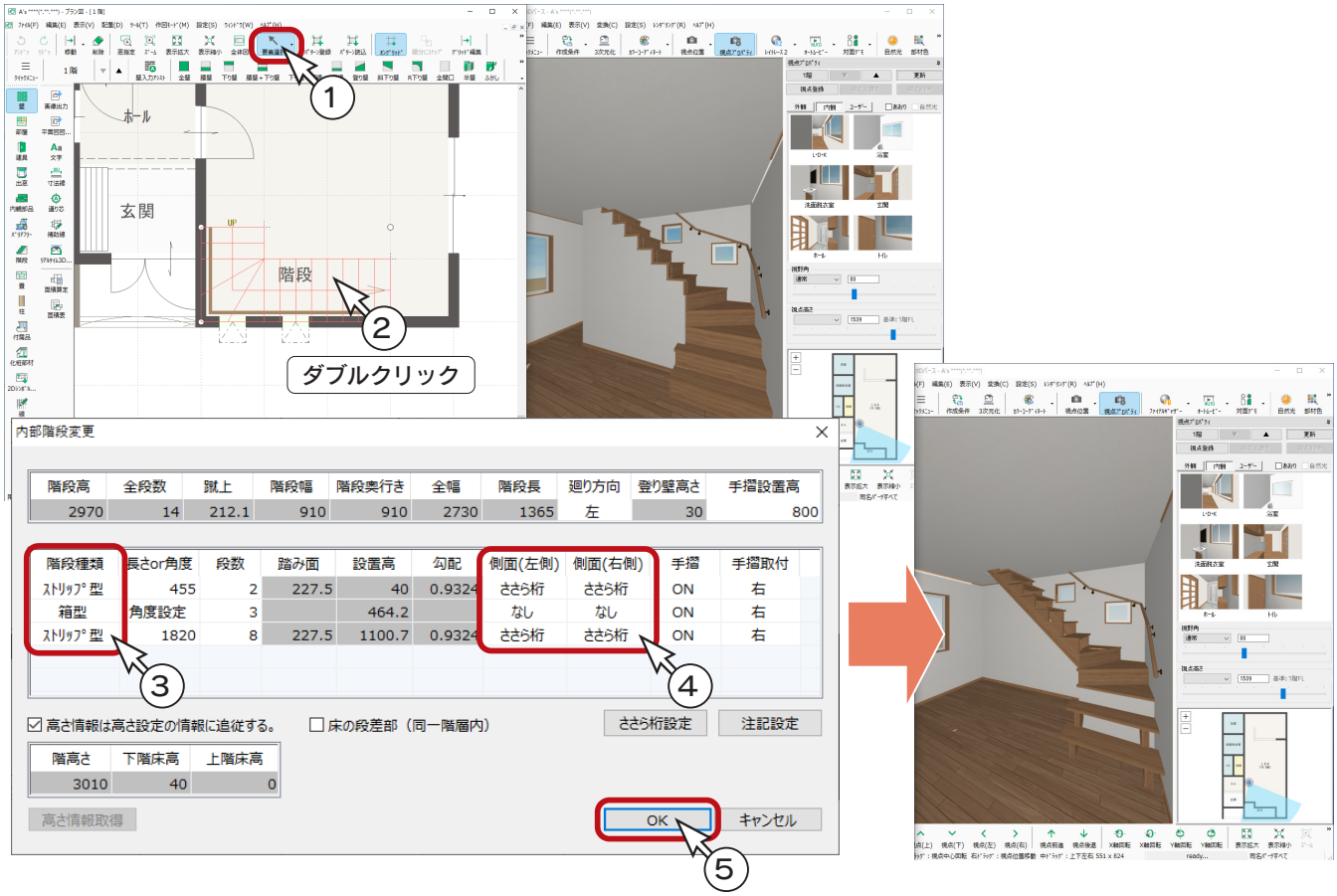
②階段をダブルクリック、または右クリックメニューの「階段変更」を選択

＊ダイアログが表示されます。

③直階段部分の階段種類を「ストリップ型」に変更

④直階段部分の幅木（左側）、幅木（右側）を「ささら桁」に変更

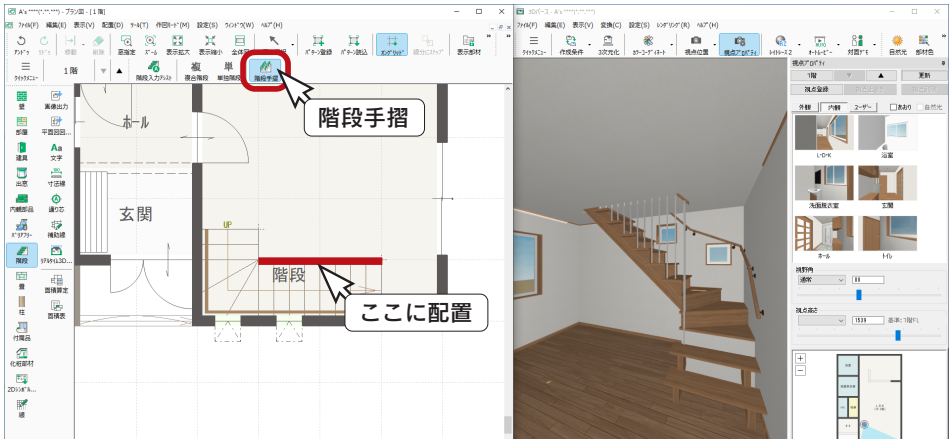
⑤「OK」をクリック



階段手摺

（階段）⇒（階段手摺）を使用すると、手摺種類、手摺高さを指定して、手摺を配置することができます。

以下は、「I 型アイアン」の手摺を配置した例です。



ささら桁設定

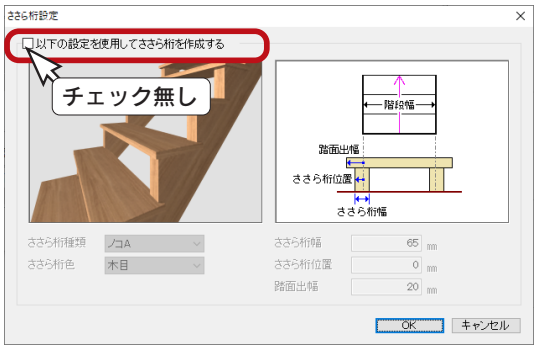
階段種類をストリップ型に設定した場合に、ささら桁の種類、色、幅、位置などを設定できます。

（階段入力アシスト）で入力した階段の変更時のダイアログと、複（複合階段）の入力時及び変更時のダイアログに、「ささら桁設定」があります。

階段入力アシストの例

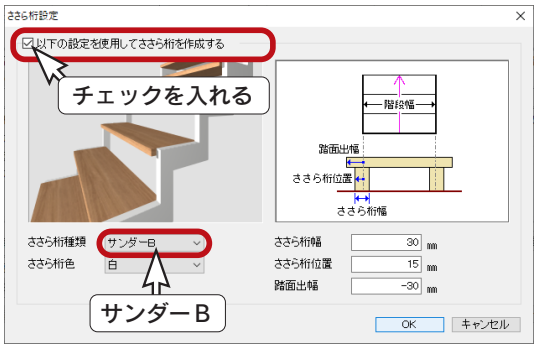
複合階段（かね折れ階段）の例

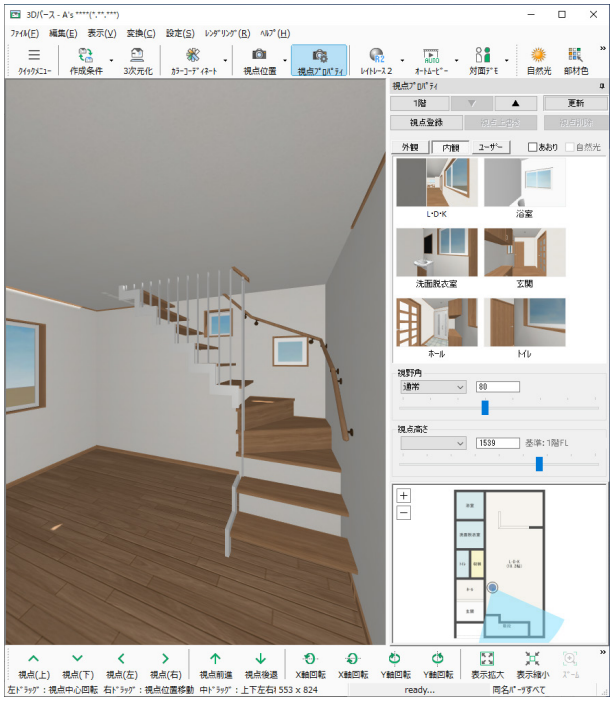
ささら桁設定の初期表示



初期表示では、「以下の設定を使用してささら桁を作成する」がチェック無しになっています。
これにチェックを入れることで、ささら桁の種類、色、幅、位置などを設定できます。

サンダーＢに設定した例





ささら桁種類は、「ノコ」、「セミクローズ」、「クローズ」、「サンダー」から選択できます。
「ささら桁色」や、「ささら桁幅」、「ささら桁位置」、「踏面出幅」の数値を指定できます。
踊り場、かね折れ部分のストリップ型にも対応します。

付属品

（付属品）では、ポーチ、テラス、バルコニー、ウッドデッキなど、３Ｄパースにも関連した部品を配置することができます。

ポーチ

ポーチを階段状に入力してみましょう。

① （全体図）をクリック

② （付属品）をクリック

③ （ポーチ）をクリック

＊ポーチ設定が表示されます。

④「＊ポーチ（上段）,350,350」に設定し、「OK」をクリック

⑤上段の起点ー終点を指示

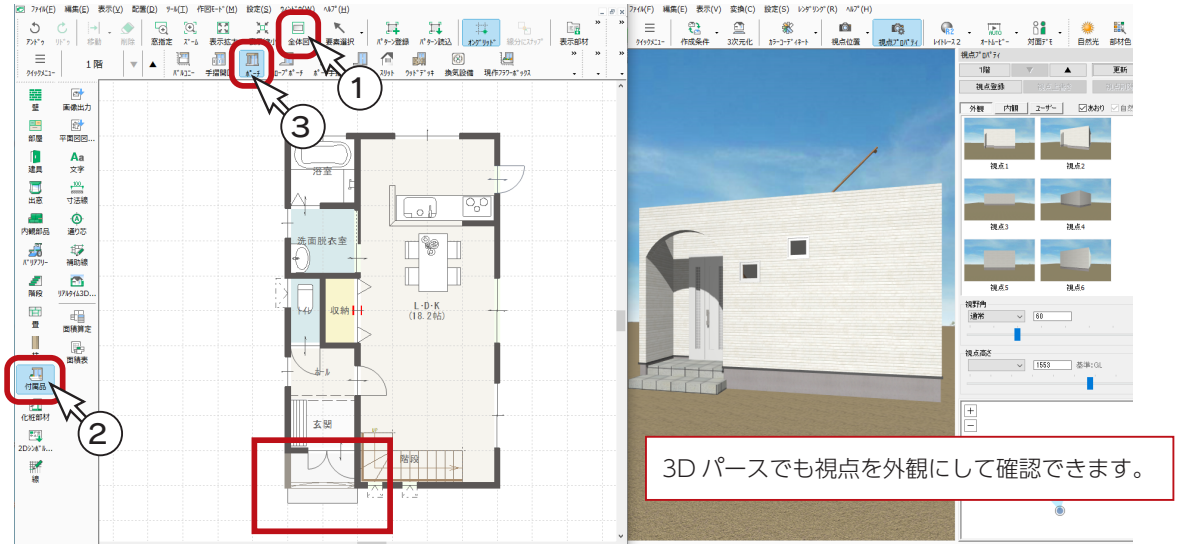
⑥右クリックし、ポーチ設定に戻る

⑦「＊ポーチ（下段）,175,175」に設定し、「OK」をクリック

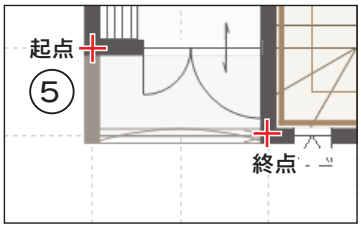
⑧下段の起点ー終点を指示

ポーチ・テラスのサイズパターン

ポーチ・テラスは、あらかじめ登録されているサイズパターン（＊付き）から選択して配置することができます。
任意のサイズパターンの登録も可能です。

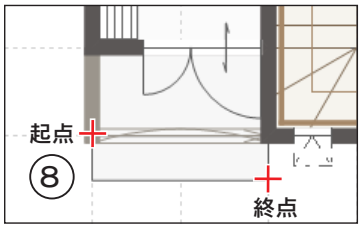


上段



⑥ 右クリック

下段



テラス

テラスを使用して、勝手口の入り口を入力してみましょう。
ポーチと同様に、階段状に入力します。

① （テラス）をクリック

＊テラス設定が表示されます。

②「＊勝手口（上段）,400,400」に設定し、「OK」をクリック

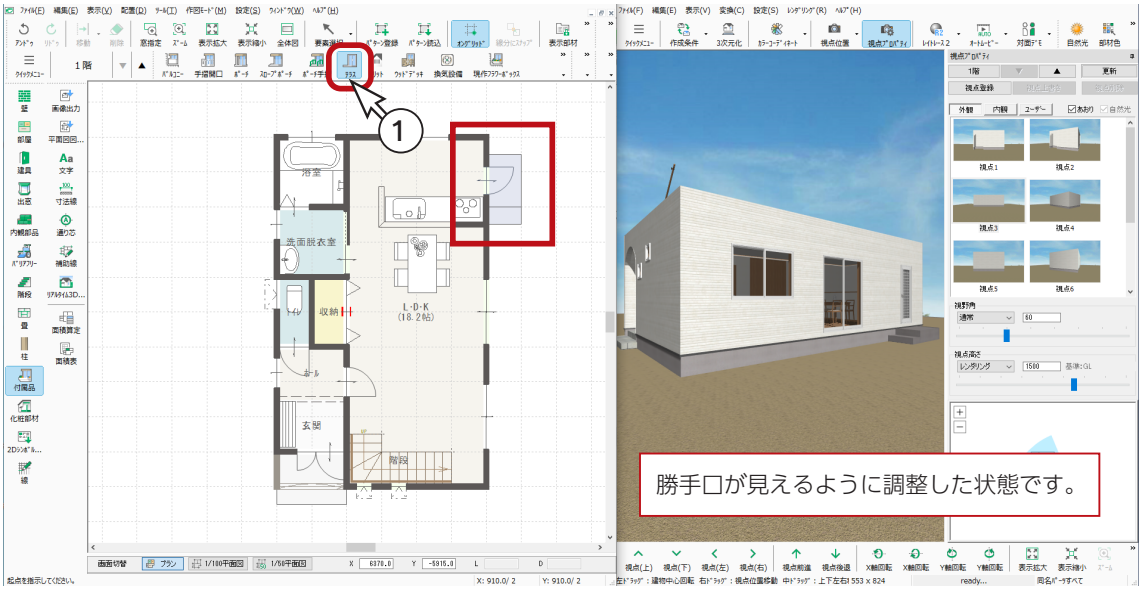
③上段の起点ー終点を指示

④右クリック

＊テラス設定に戻ります。

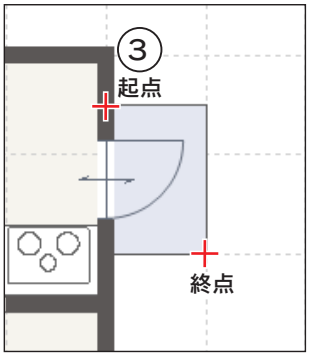
⑤「＊勝手口（下段）,200,200」に設定し、「OK」をクリック

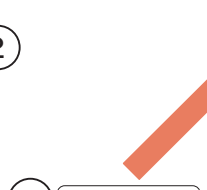
⑥下段の起点ー終点を指示

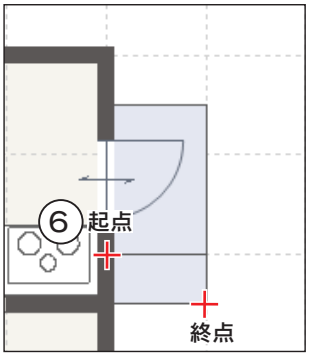


上段

下段







ポーチ手摺

勝手口の入り口に、手摺を付けてみましょう。

① （ポーチ手摺）をクリック

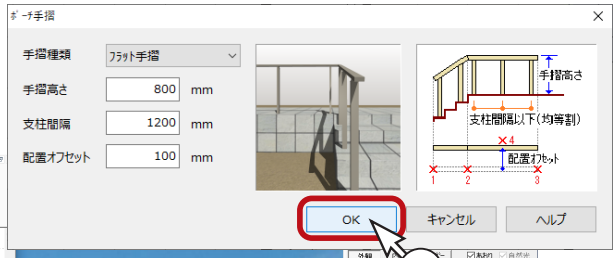
＊ダイアログが表示されます。

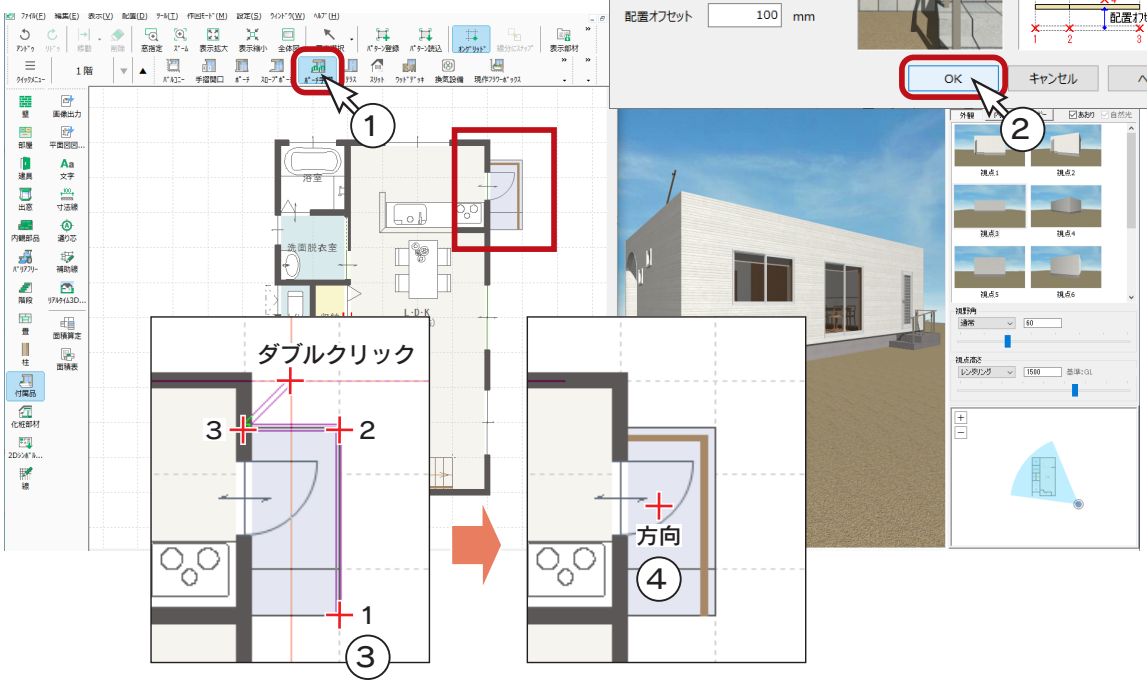
②手摺種類などを設定し、「OK」をクリック

＊ここでは、初期設定値を使用します。

③図のように、１～３を指示後、ダブルクリック

④手摺を付ける方向を指示





換気扇

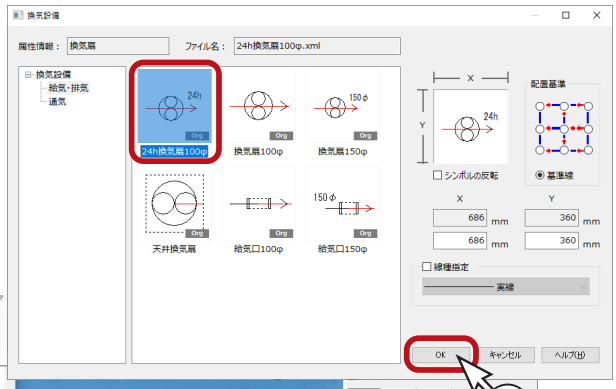
① （換気設備）をクリック

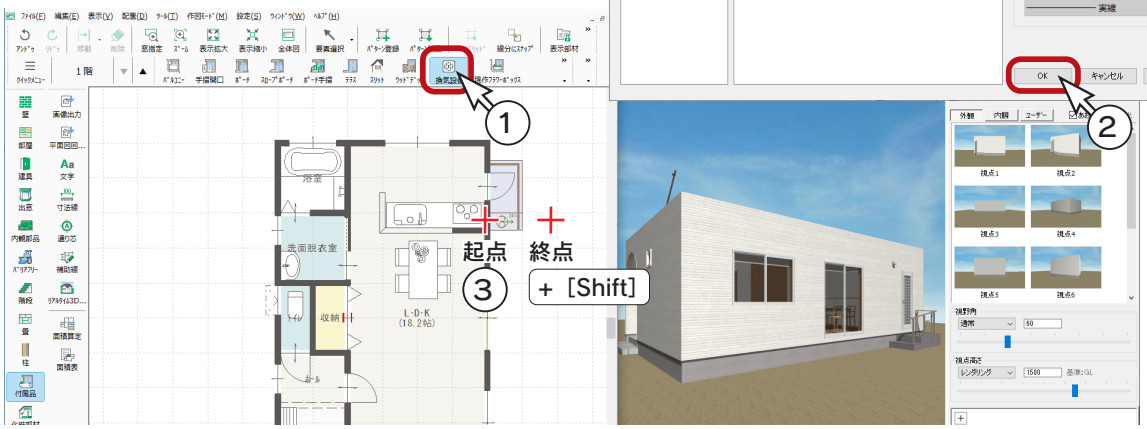
＊ダイアログが表示されます。

②「24h 換気扇 100 φ」を選択し、「OK」をクリック

③勝手口横に、起点ー終点を指示

＊水平に配置するには、[Shift] キーを押しながら終点を指示します。





ウッドデッキ

① （ウッドデッキ）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

②手摺種類を「なし」に変更

③入り口個数を「2」に変更

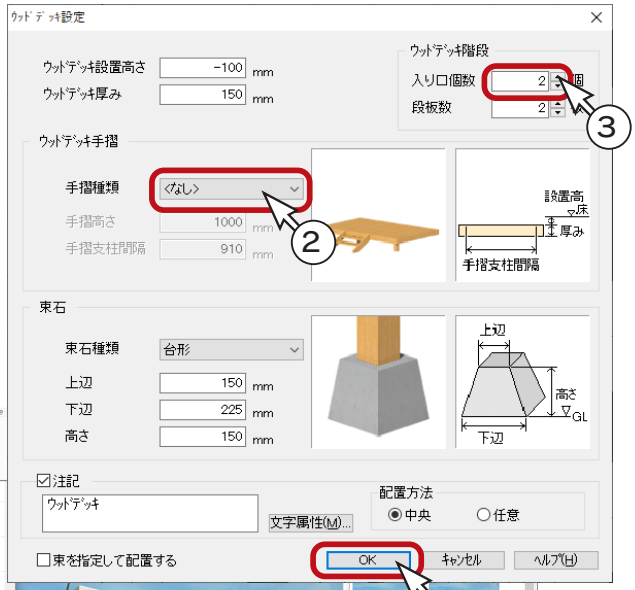
④「OK」をクリック

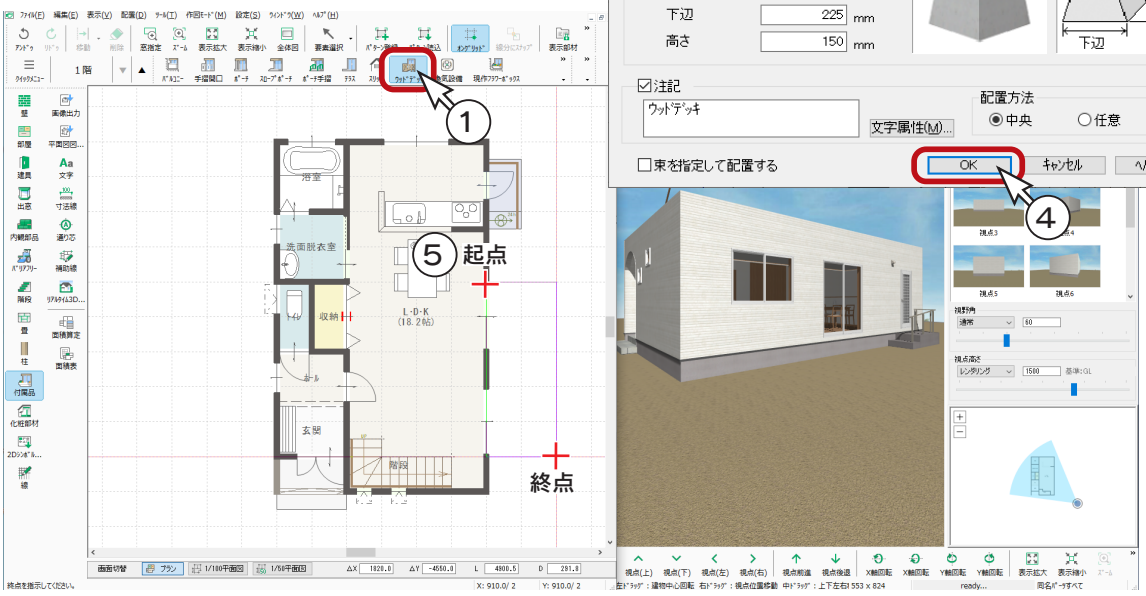
⑤ウッドデッキの範囲を、起点ー終点で指示

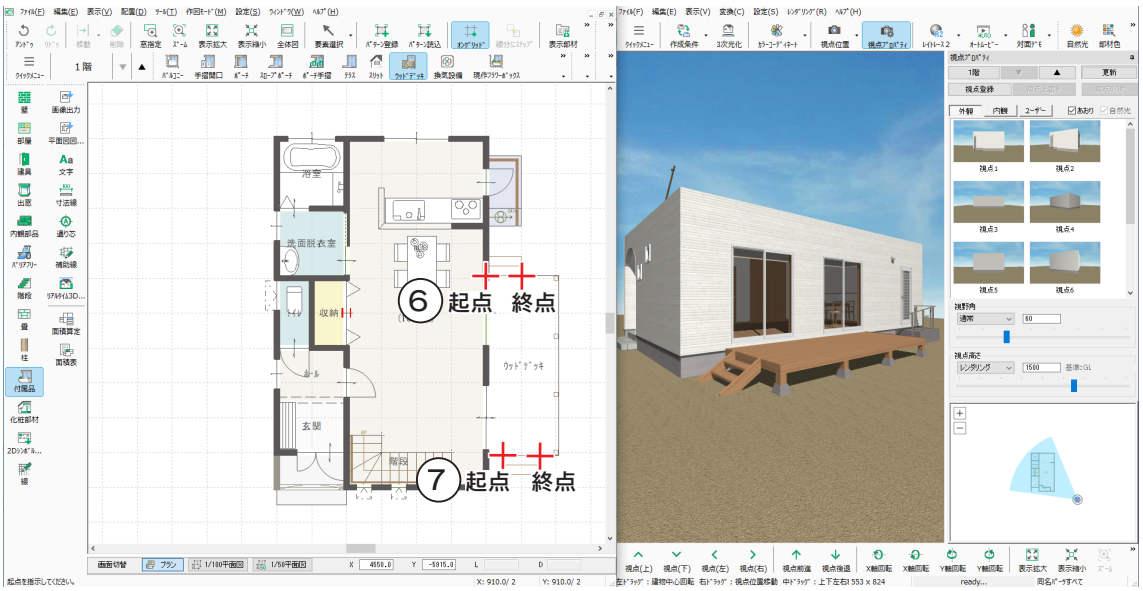
⑥１つ目の階段の入り口を、起点ー終点で指示

⑦２つ目の階段の入り口を、起点ー終点で指示

＊入り口は、どちらを先に指示してもかまいません。







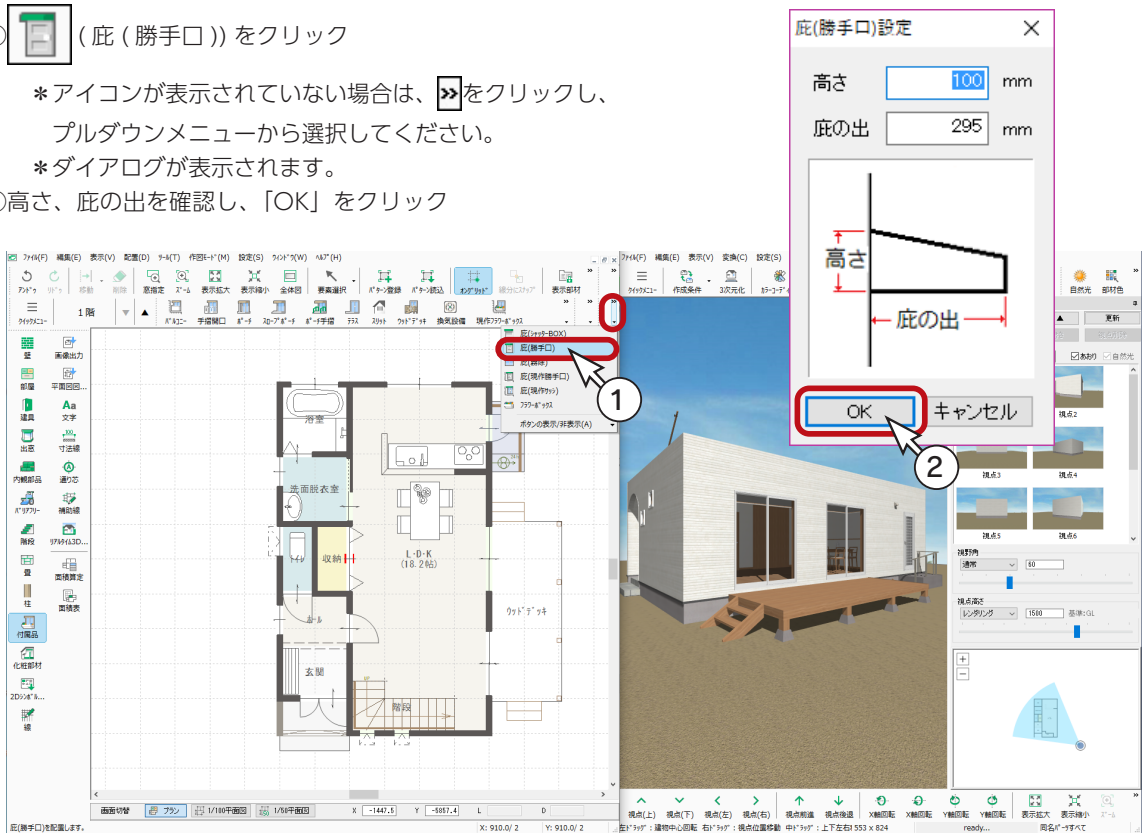
ウッドデッキの配置により、手前の腰窓は、掃き出し窓に自動的に変わります。

庇

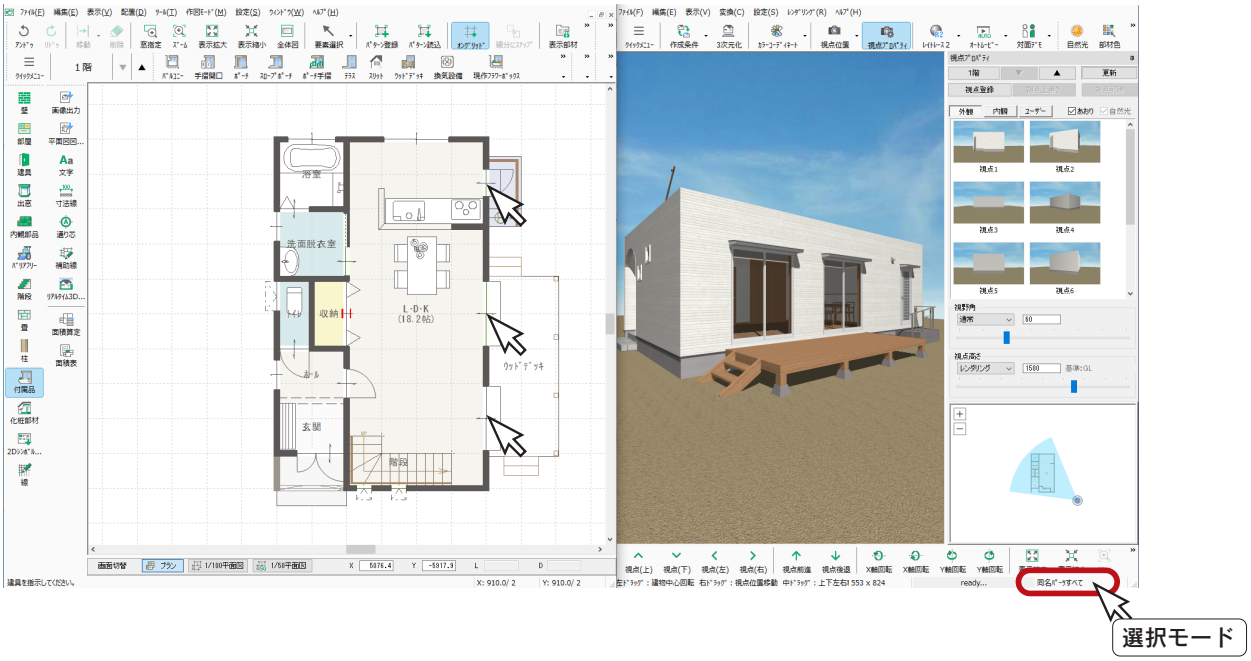
①（庇（勝手口））をクリック

＊アイコンが表示されていない場合は、»をクリックし、
プルダウンメニューから選択してください。
＊ダイアログが表示されます。

②高さ、庇の出を確認し、「OK」をクリック



③図の３つの建具をクリック



3D パース上で部材編集

3D パース上で部材をダブルクリックすることで、各種設定を変更することができます。
画面右下の選択モードをクリックして「パーツ」または「同名パーツ」にすることにより、右クリックメニューの「プロパティ」から各種設定を変更することも可能です。
例えば、庇をダブルクリック、または選択後右クリックし、「プロパティ」⇒「設定」を選択すると、高さや庇の出を変更することができます。

寸法線

寸法線を入力してみましょう。

①ツールバーの（寸法線）をクリック

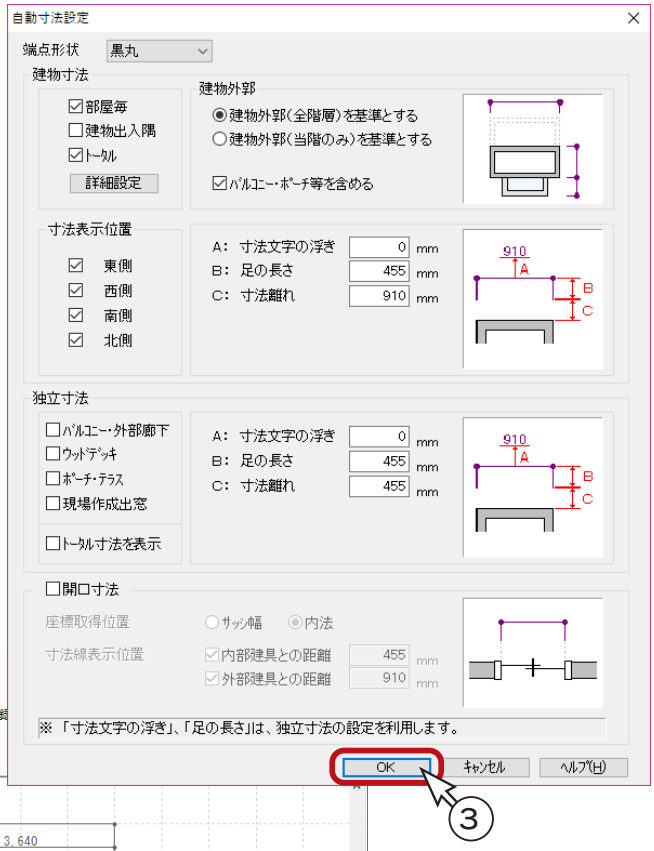
＊ショートカットキーは［D］です。
（日本語入力 OFF で有効）

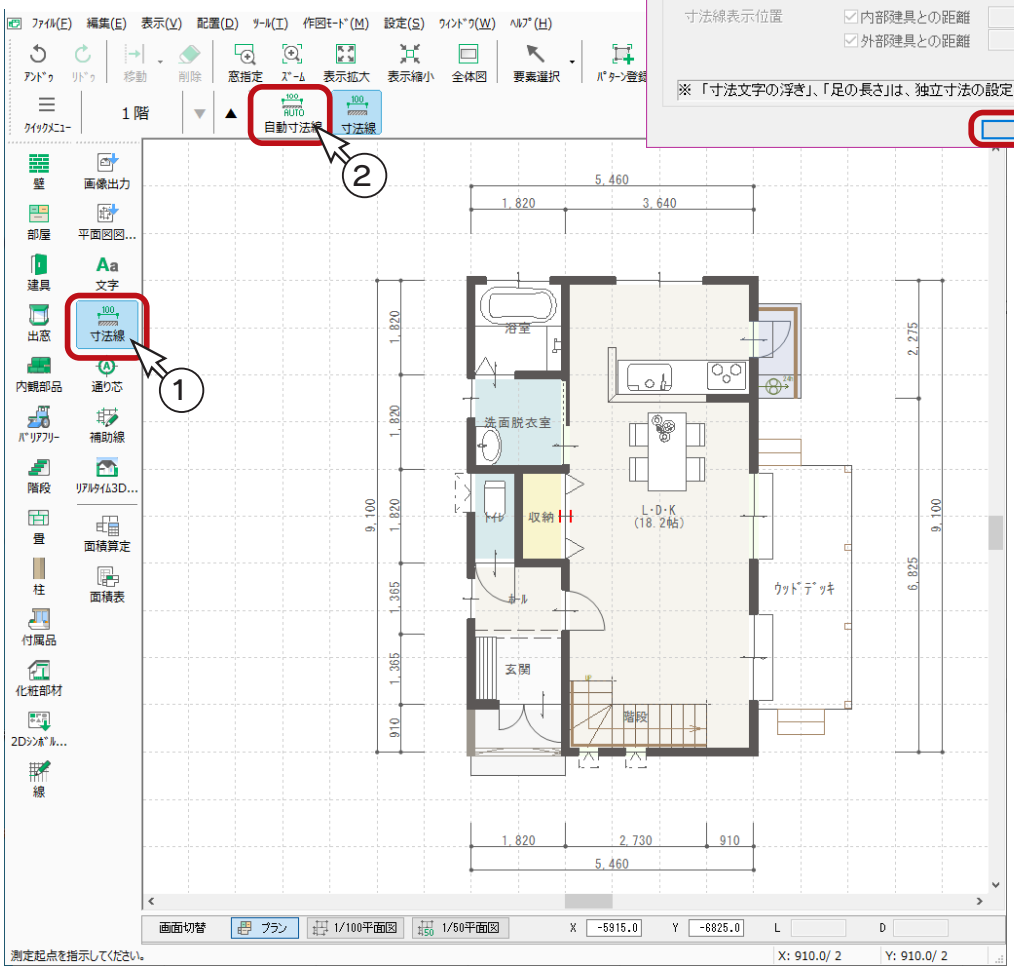
②（自動寸法線）をクリック

＊自動寸法設定のダイアログが表示されます。
＊ここでは、初期設定値を使用します。

③「OK」をクリック

＊寸法線が自動入力されます。





上の画面は、（表示縮小）により、寸法線が見えるように調整した状態です。

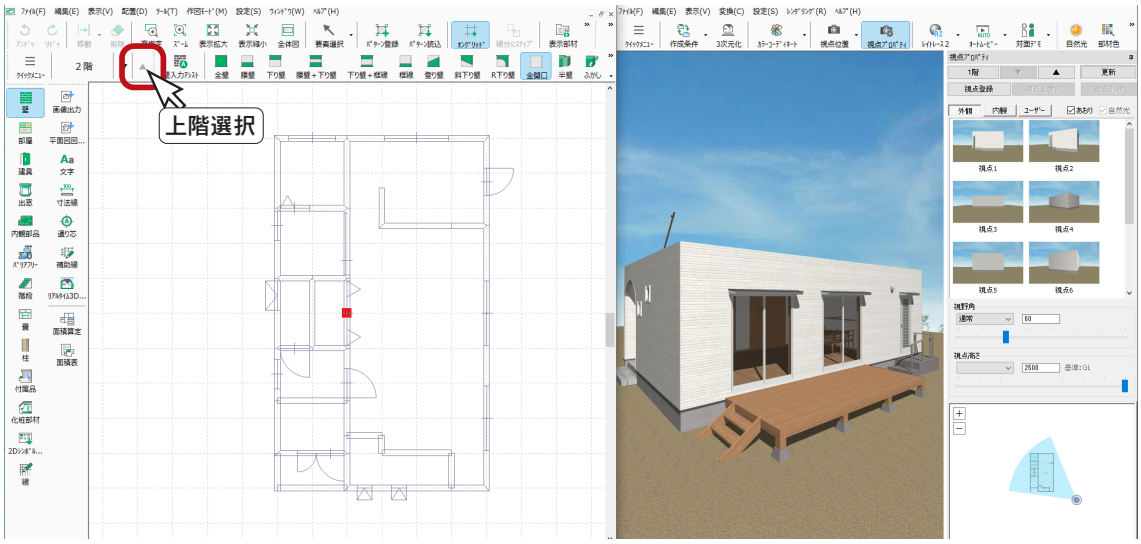
２階プラン

階層変更

１階間取り図が完成したら、次に２階間取り図を作成してみましょう。

階層ボタンの (上階選択) をクリックしてください。ショートカットキーは［+］です。(日本語入力 OFF で有効)

２階プランのウィンドウが開き、１階プランが下図に表示されます。



壁

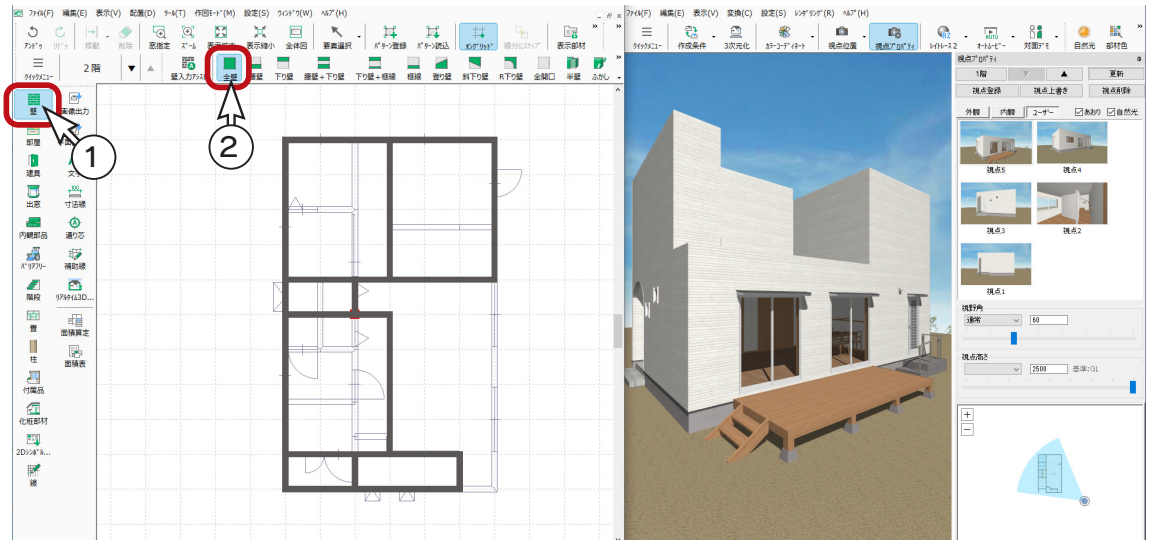
①ツールバーの (壁) をクリック

＊ショートカットキーは［W］です。(日本語入力 OFF で有効)

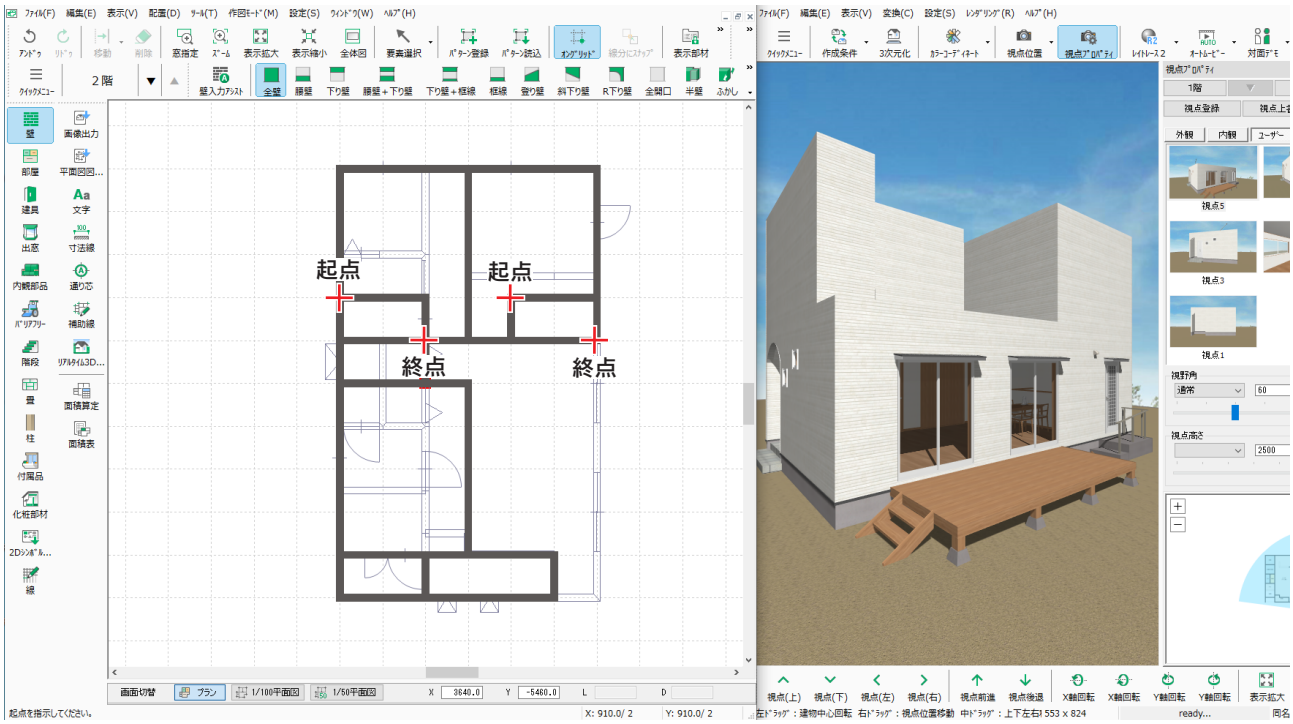
② (全壁) をクリック

＊ (壁入力アシスト) でもかまいません。

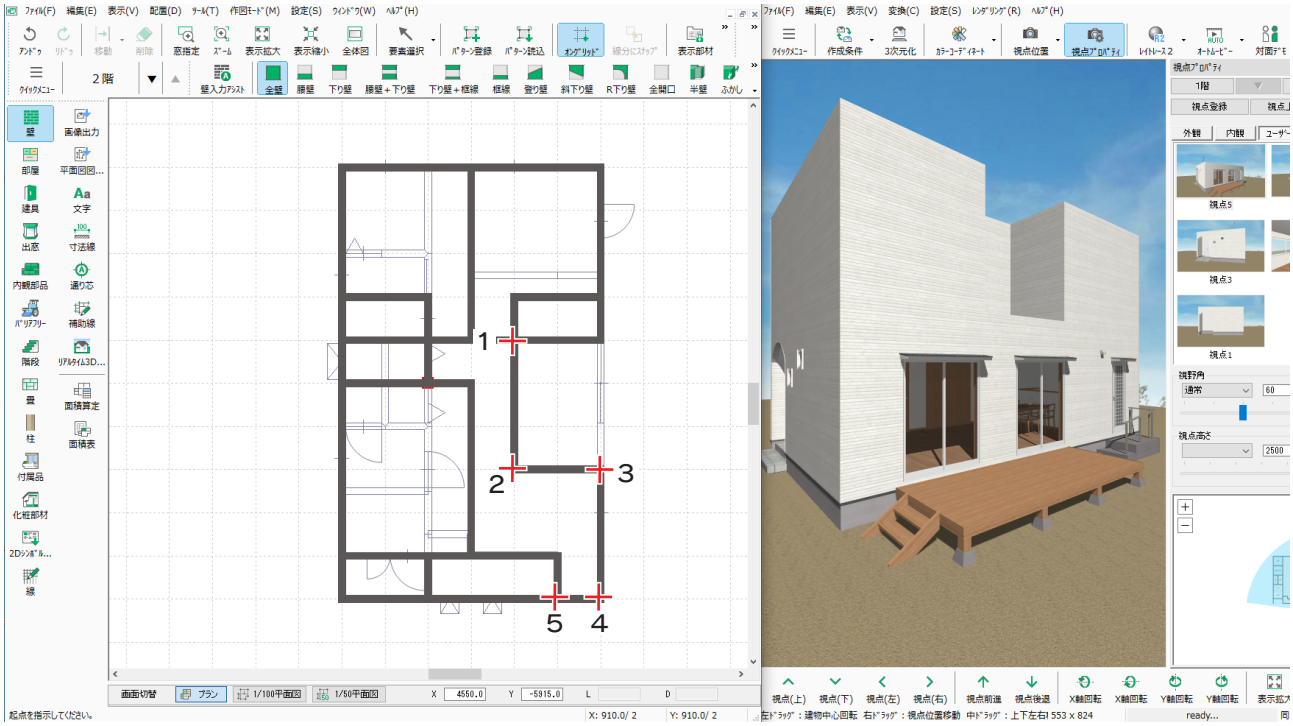
＊ (矩形配置) で、下図に重ねるように入力します。



③続けて、図のように、2 ヶ所に起点ー終点を指示



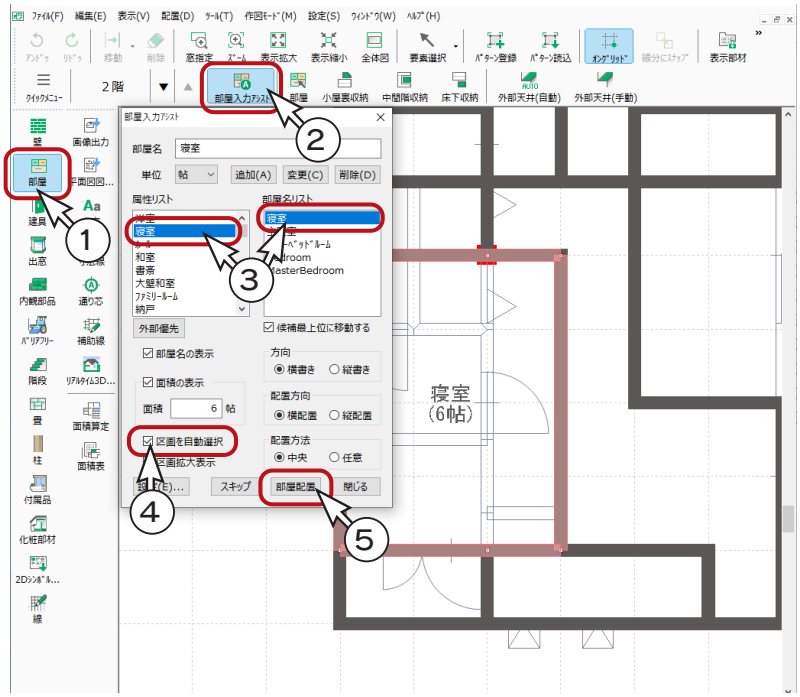
④続けて図のように、1～5を指示
⑤右クリック



部屋

「全壁」で間取りを入力後、部屋名設定を行います。ここでは、 （部屋入力アシスト）を使ってみましょう。

■寝室



①ツールバーの （部屋）をクリック

＊ショートカットキーは［R］です。
（日本語入力 OFF で有効）

② （部屋入力アシスト）をクリック

＊一番広い部屋が選択された状態で、部屋入力アシストのダイアログが表示されます。ダイアログが表示されない場合は、「寝室」にする部屋をクリックしてください。

③属性を「寝室」、部屋名を「寝室」に設定

④「区画を自動選択」にチェックが入っていることを確認

＊入っていない場合は、チェックを入れてください。

⑤「部屋配置」をクリック

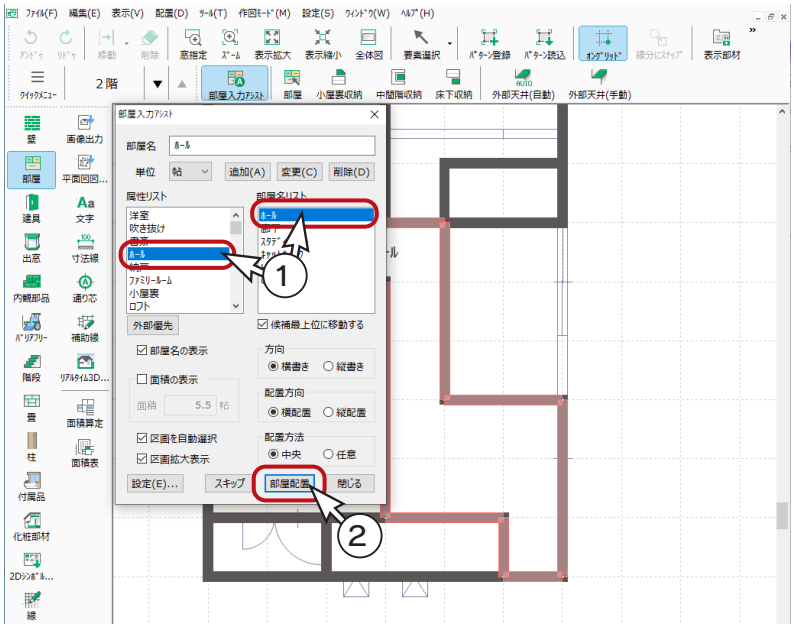
＊「寝室」が設定され、自動的に次の部屋設定に進みます。

＊部屋名リストの「寝室」または区画の「寝室」をダブルクリックして、次の部屋設定に進むこともできます。

候補最上位に移動する

「候補最上位に移動する」にチェックが入っていると、部屋名の選択により、部屋名リストの表示順が変わりますので、お使いの状況により、表示は異なります。

■ホール



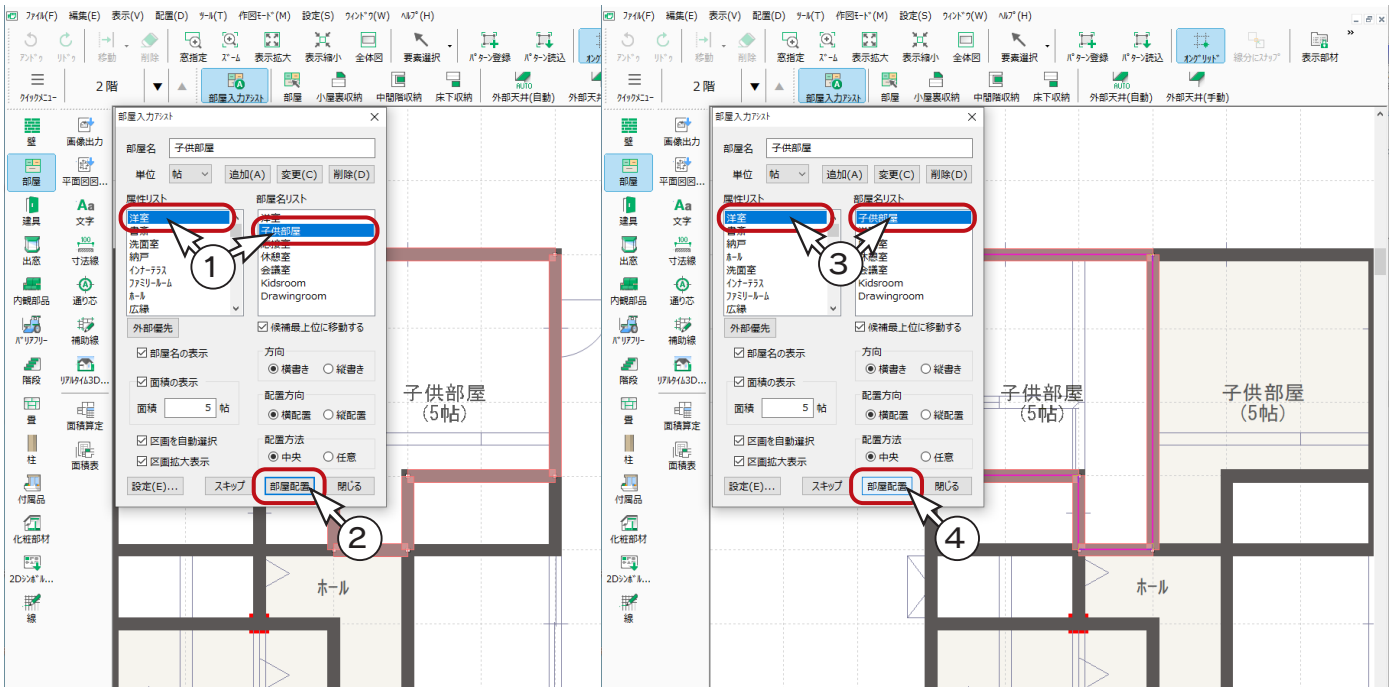
①属性を「ホール」、部屋名を「ホール」に設定

②「部屋配置」をクリック

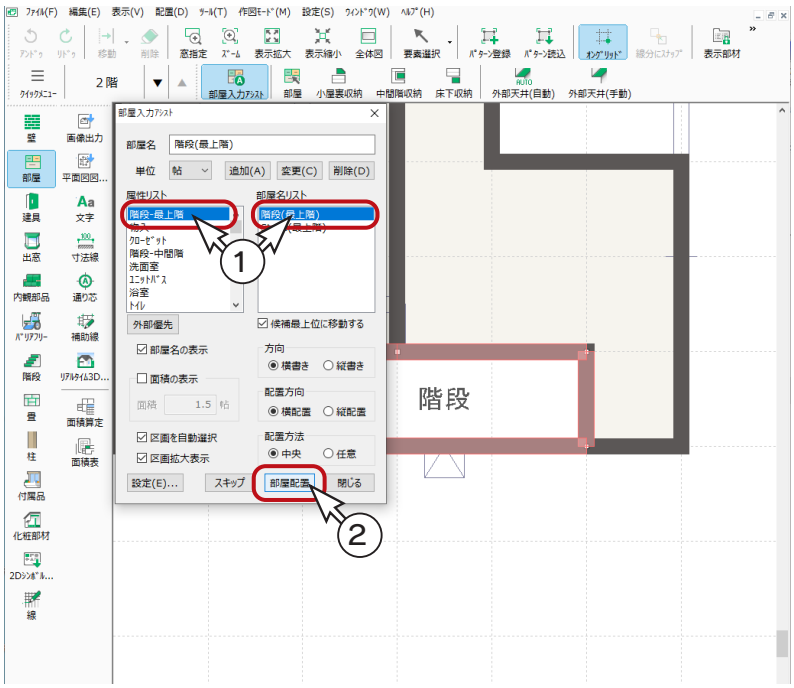
＊「ホール」が設定され、自動的に次の部屋設定に進みます。

■子供部屋（2 ヶ所）

①属性を「洋室」、部屋名を「子供部屋」に設定
②「部屋配置」をクリック
　＊「子供部屋」が設定され、自動的に次の部屋設定に進みます。
③属性「洋室」、部屋名「子供部屋」を確認
④「部屋配置」をクリック
　＊ 2 ヶ所目の「子供部屋」が設定され、自動的に次の部屋設定に進みます。



■階段-最上階

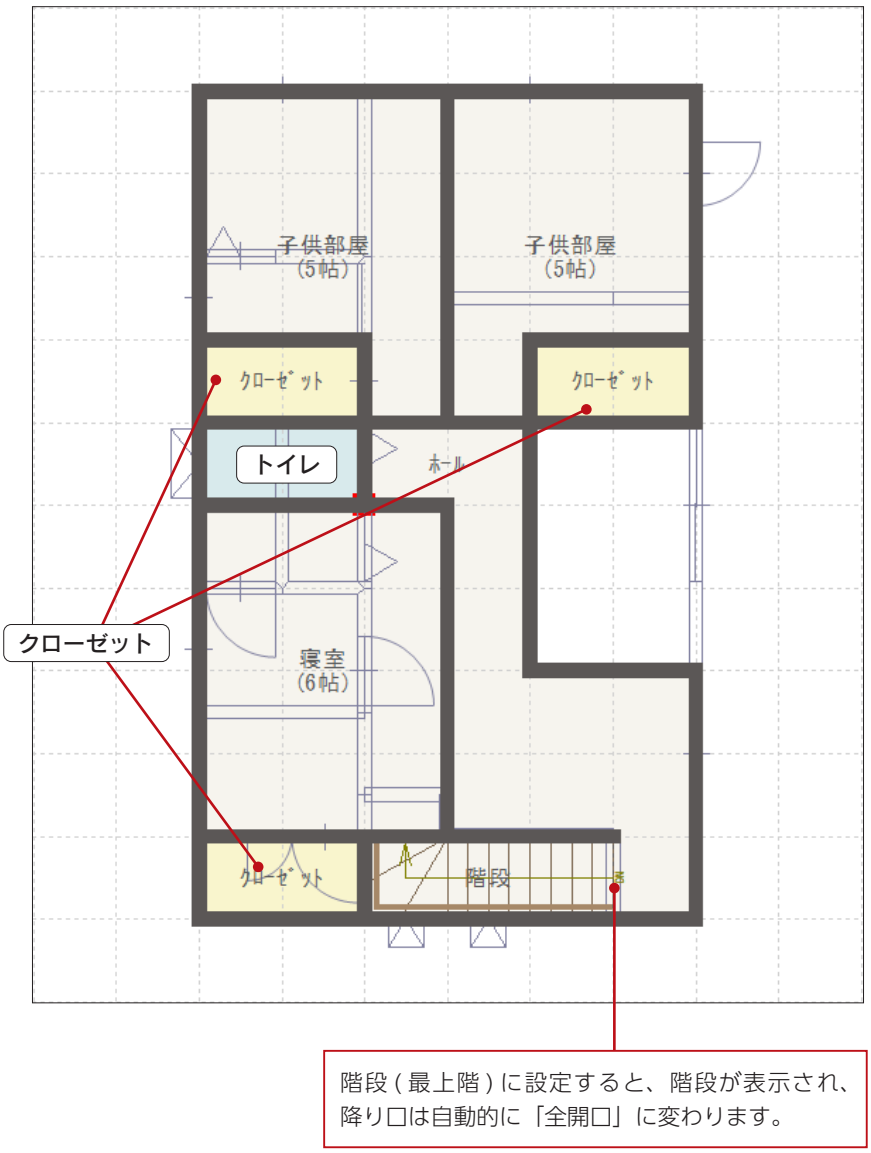


①属性を「階段-最上階」、部屋名を「階段 (最上階)」に設定
②「部屋配置」をクリック
　＊「階段」が設定され、自動的に次の部屋設定に進みます。

■トイレ・クローゼット

残りは、トイレとクローゼット（3 ヶ所）を設定しますが、部屋の大きさが同じなので、壁の入力順により、設定順が異なる場合があります。
以下のように、部屋名設定してください。

（部屋入力アシスト）ではなく、 （部屋）に切り替えて設定してもかまいません。



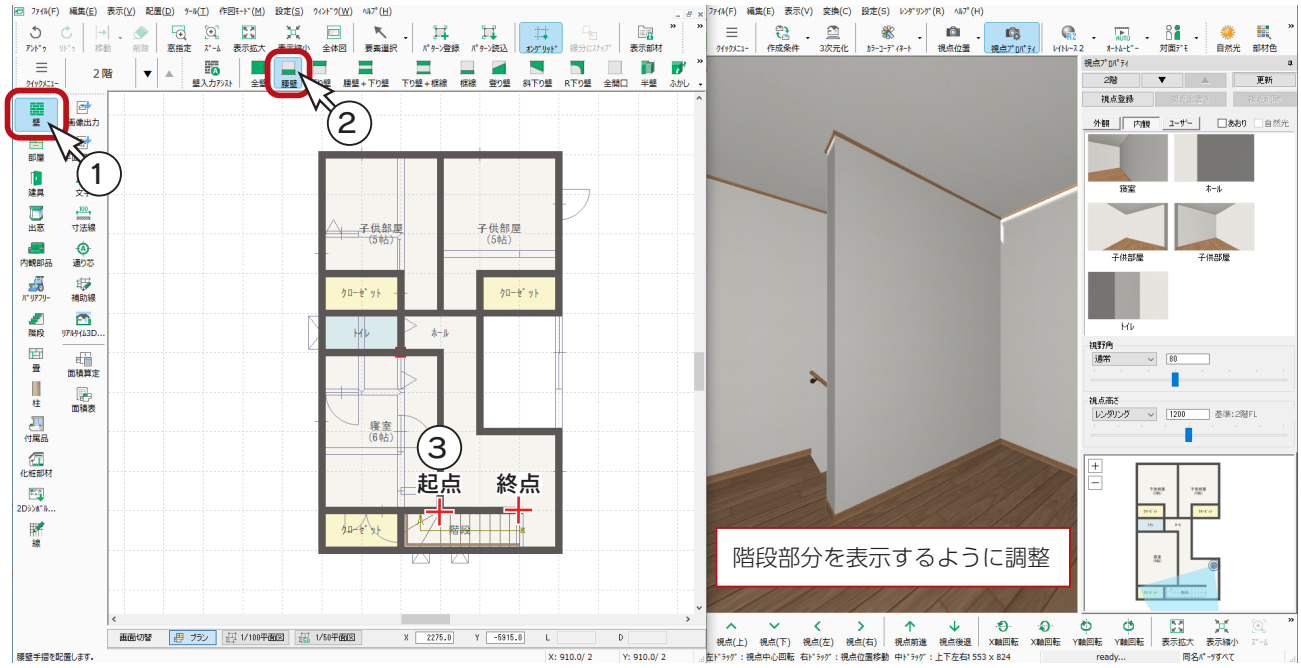
壁の調整

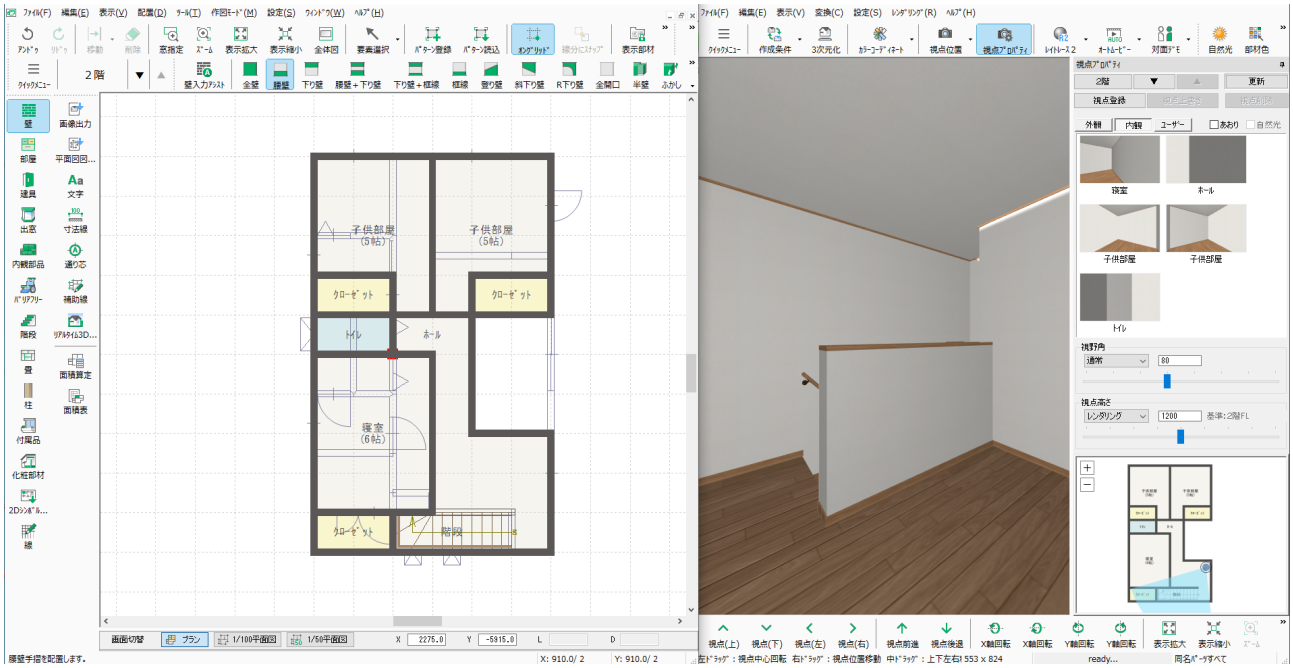
階段部分の全壁を、腰壁に変更しましょう。

① （壁）をクリック

② （腰壁）をクリック

③図のように、起点ー終点を指示





建具

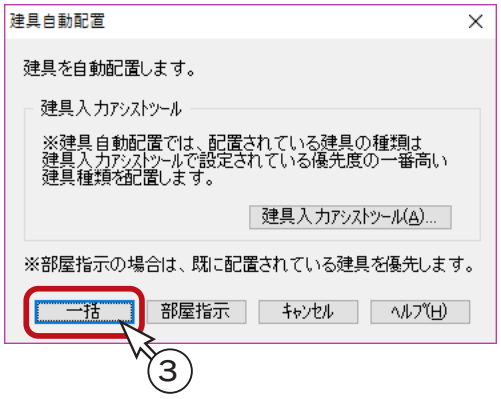
■建具自動配置

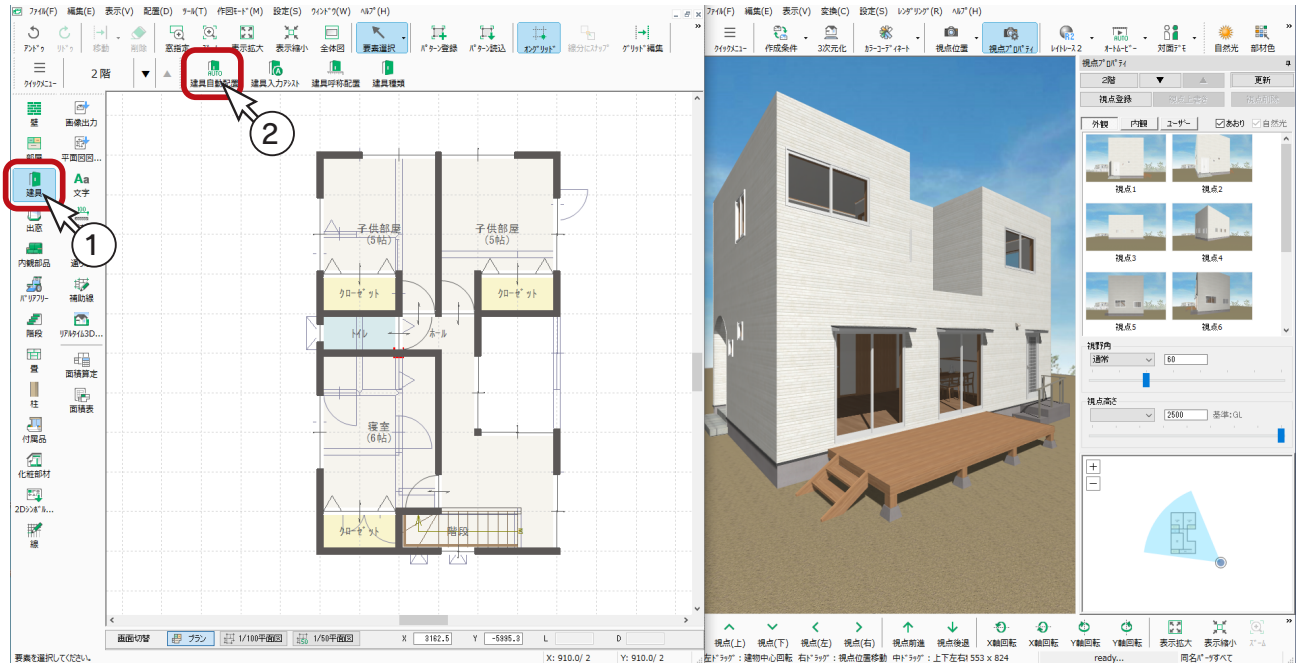
①ツールバーの (建具) をクリック

② (建具自動配置) をクリック

③ダイアログが表示されるので、「一括」をクリック

＊建具自動配置が実行されます。

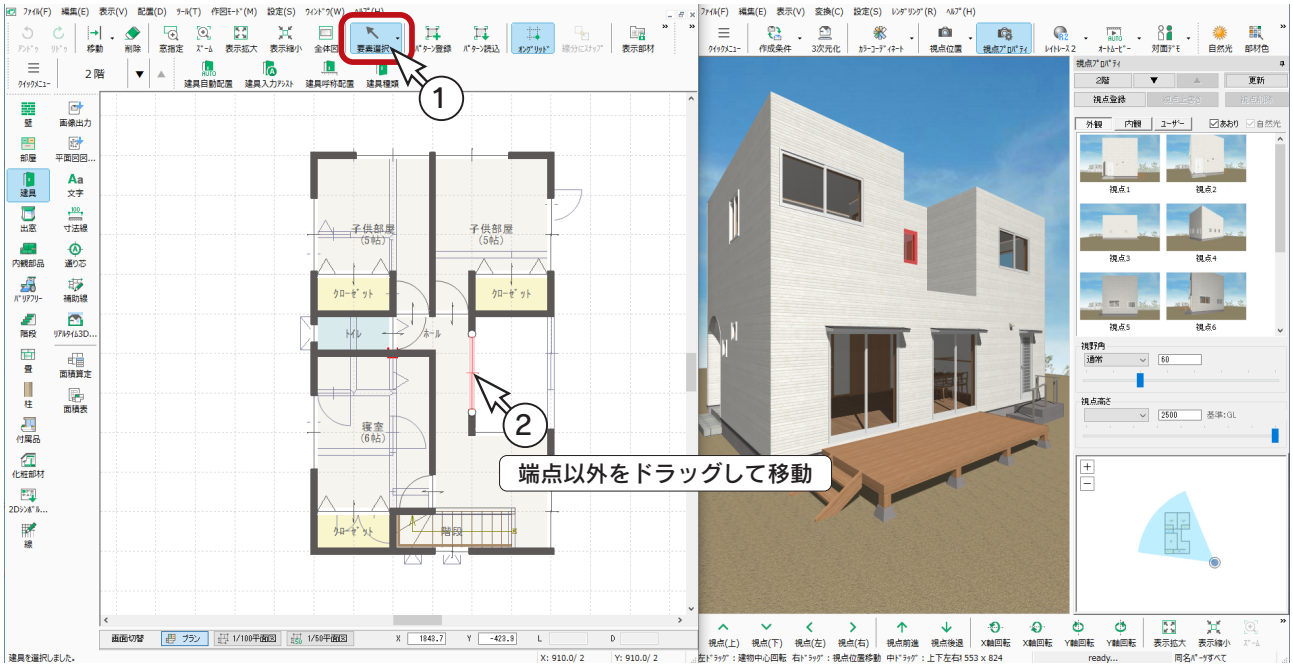




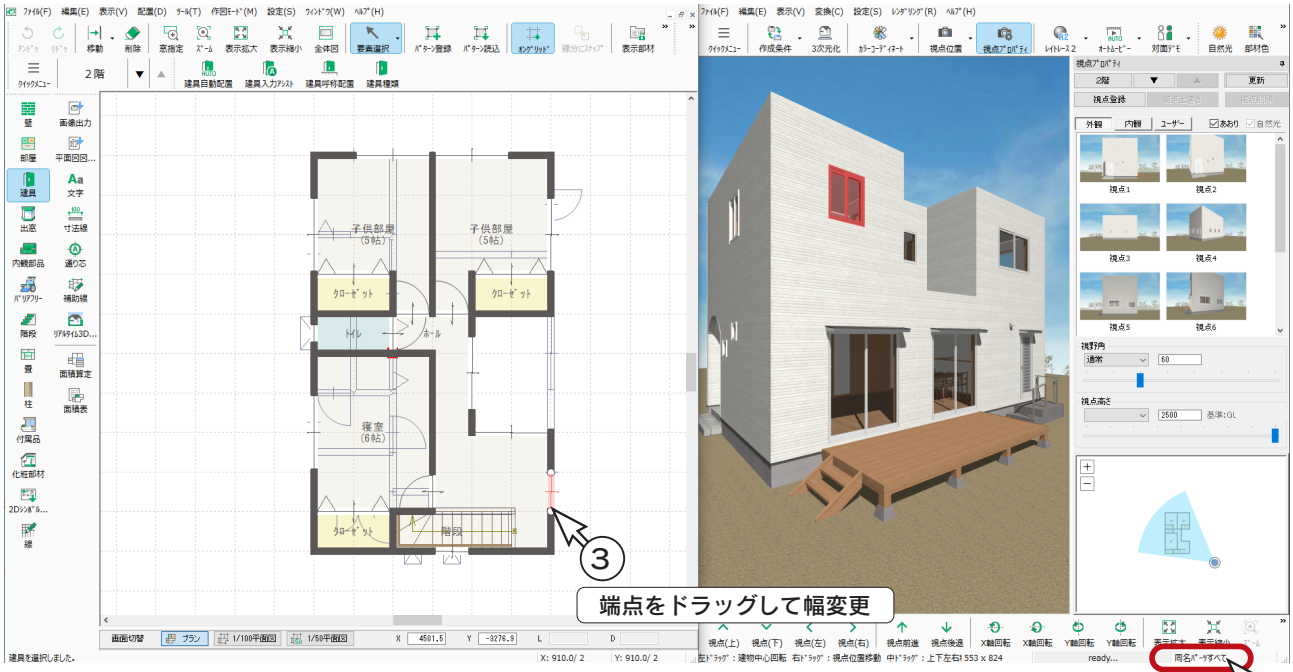
■建具の移動、幅変更

① （要素選択）をクリック

②図の建具をクリックし、建具の端点以外をドラッグして、壁の中央に移動



③図の建具をクリックし、端点をドラッグして、サイズを「910」に変更



3D パース上で移動・幅変更

3D パースの画面右下の選択モードをクリックして「パーツ」または「同名パーツ」にすることにより、3D パース上で建具を移動したり、幅変更したりすることができます。
建具をクリック後右クリックし、「プロパティ」の「数値入力移動」または「幅変更」を選択します。

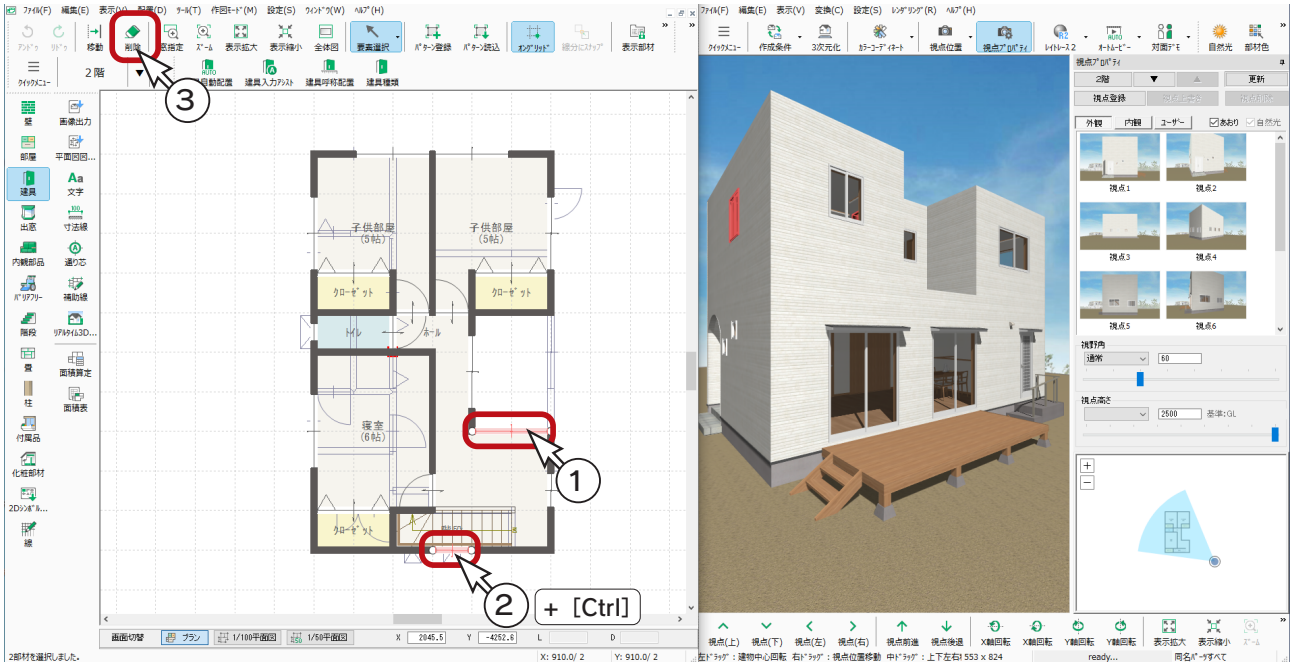
■建具の削除

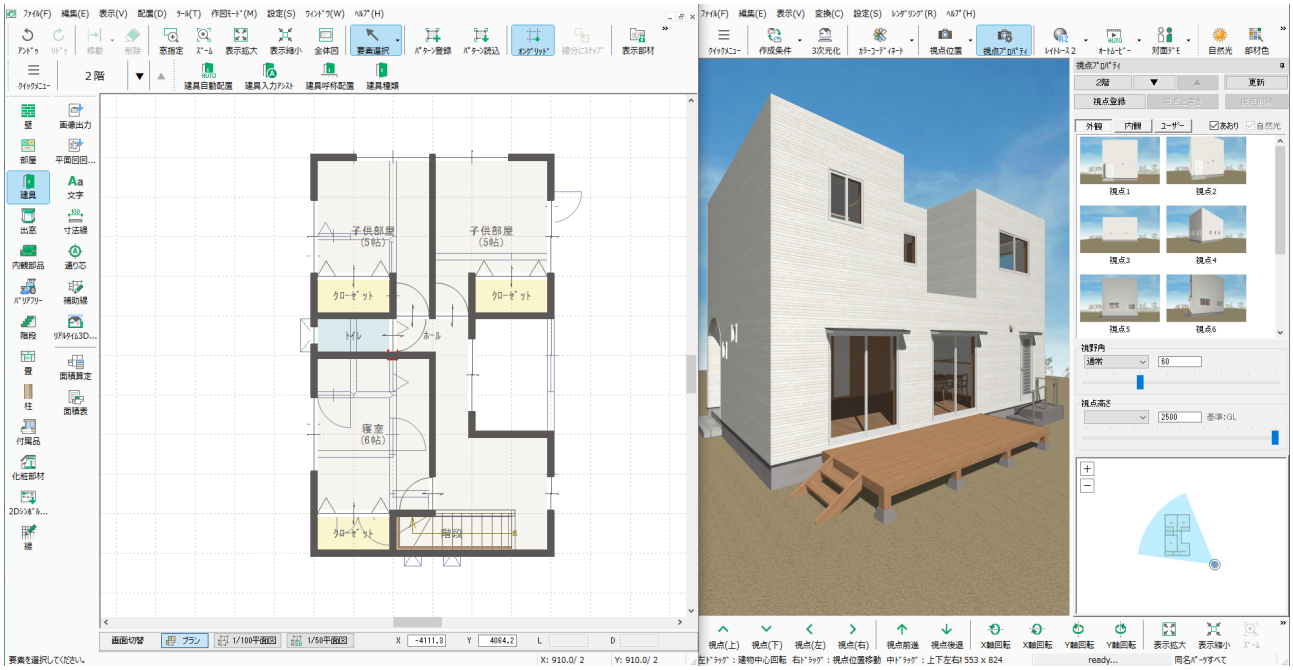
① （要素選択）のまま、図の建具を指示

②[Ctrl] キーを押しながら、階段の建具を指示

③2つが選択状態になったら、 （削除）をクリック

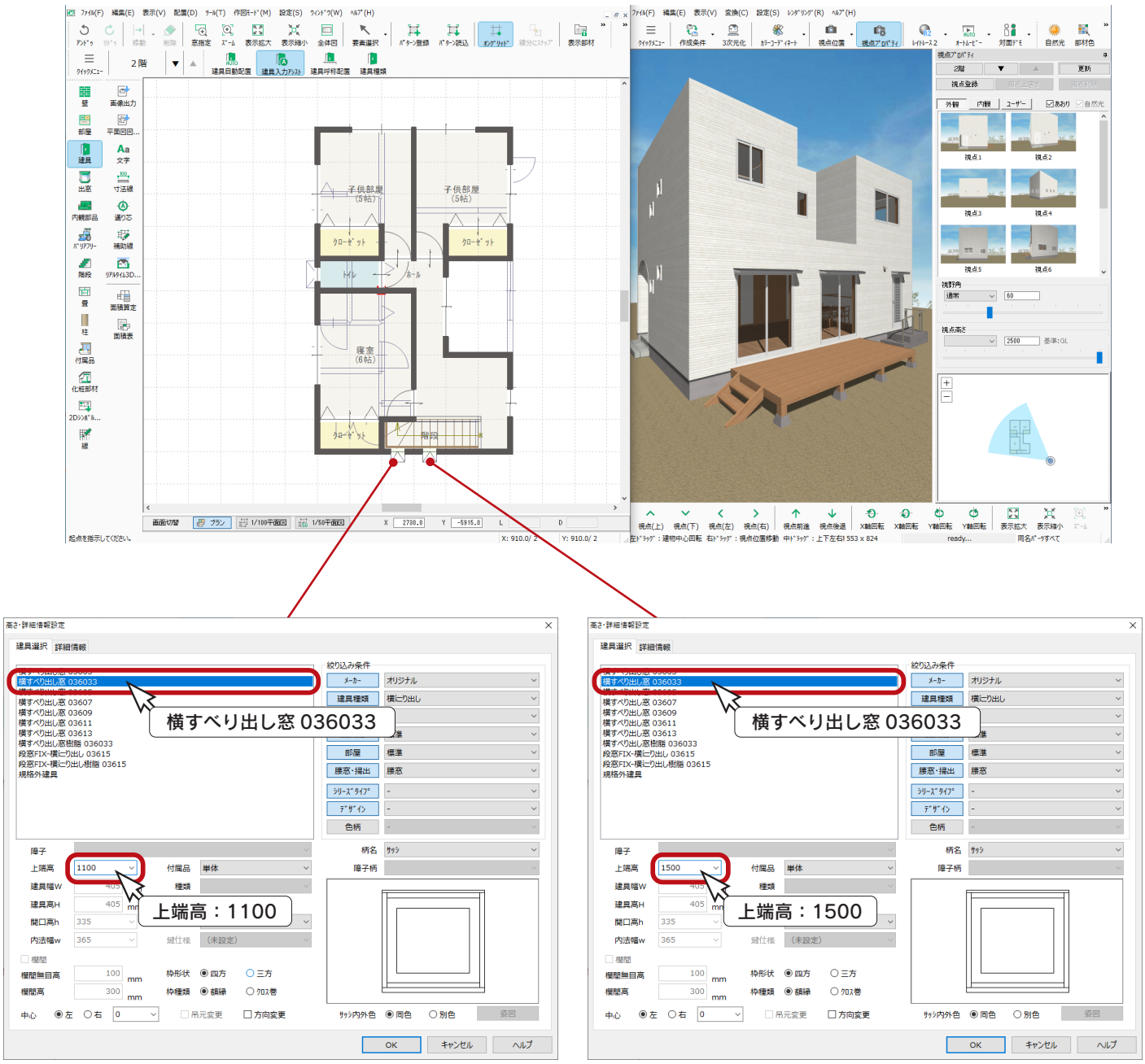
＊[Delete] キーを押してもかまいません。





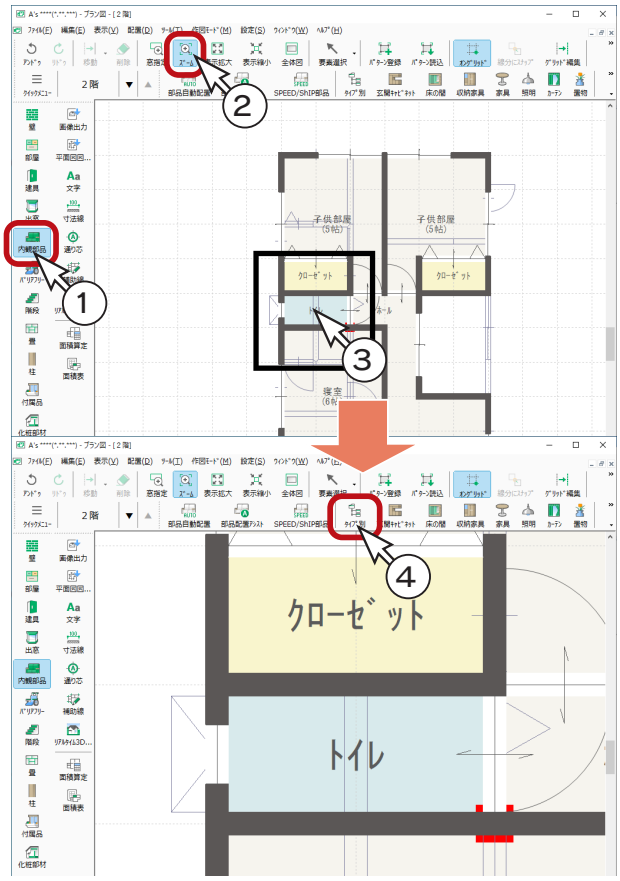
■建具の追加

1 階の横すべりだしと同じ位置に、横すべりだしを追加してみましょう。
操作方法も 1 階と同じですが、上端高がそれぞれ異なります。　（⇒【基本編－ 42,43】参照）

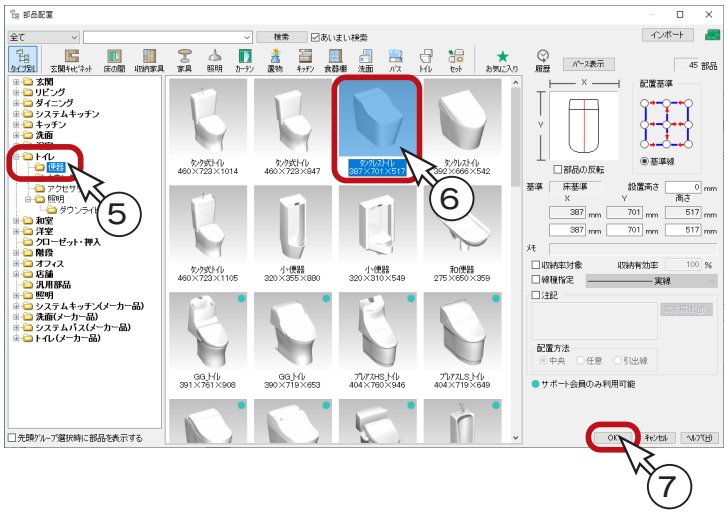


内観部品

2 階は、トイレの部品だけ配置してみましょう。
ここでは、[H] キーによる角度固定を利用します。



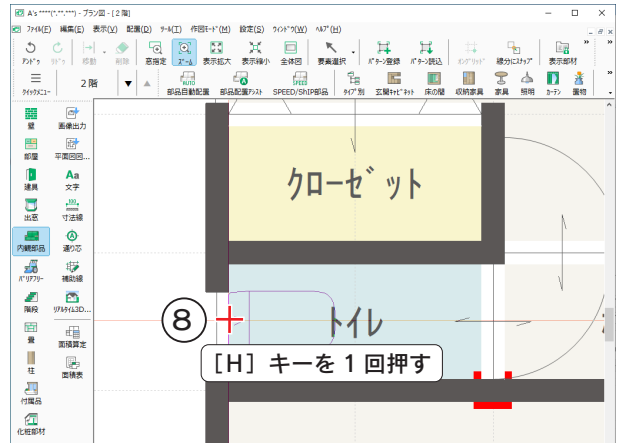
①（内観部品）をクリック
②（ズーム）をクリック
③トイレを指示して拡大表示
④（タイプ別）をクリック
⑤左のツリーから「トイレ」⇒「便器」をクリック
⑥「タンクレストイレ」をクリック
⑦「OK」をクリック

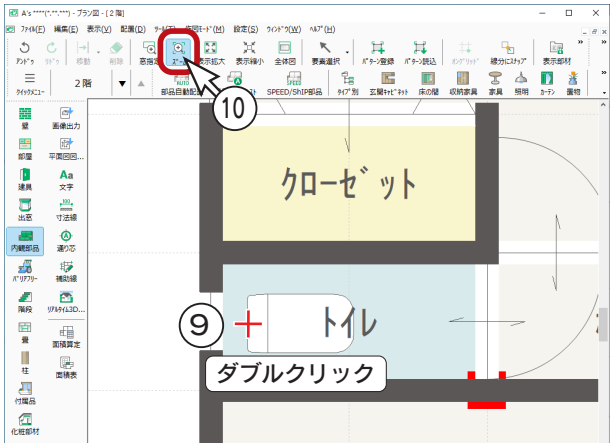


■部品の壁配置モード

壁配置モードで部品を配置する際に、起点を壁にスナップした時点で部品が壁に沿った向きになります。
また、キーボードの [H] キーで、角度固定の ON/OFF ができ、起点を壁にスナップしてから [H] キーを押すことで、角度を固定したまま、壁から離れた位置に部品を配置することができます。

⑧部品をトイレの壁にスナップした状態で、キーボードの [H] キーを 1 回押す（押したままにはしない）
⑨壁から少し離した位置でダブルクリック
　＊部品が配置されます。
⑩（ズーム）をクリックして表示を戻す





付属品

■バルコニー

①ツールバーの （付属品）をクリック

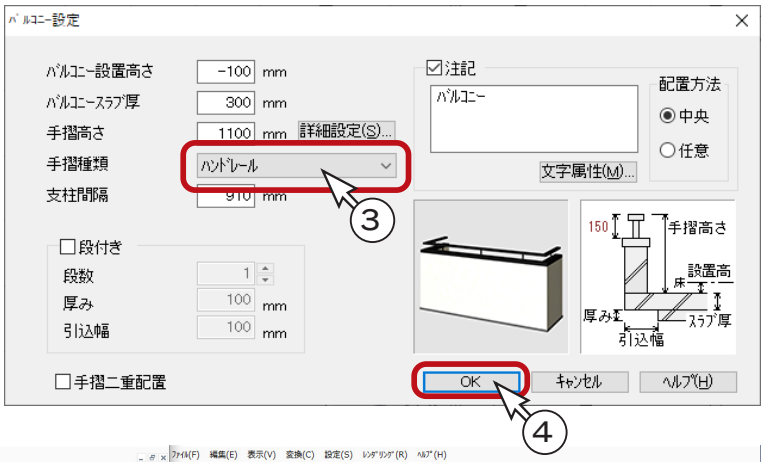
② （バルコニー）をクリック

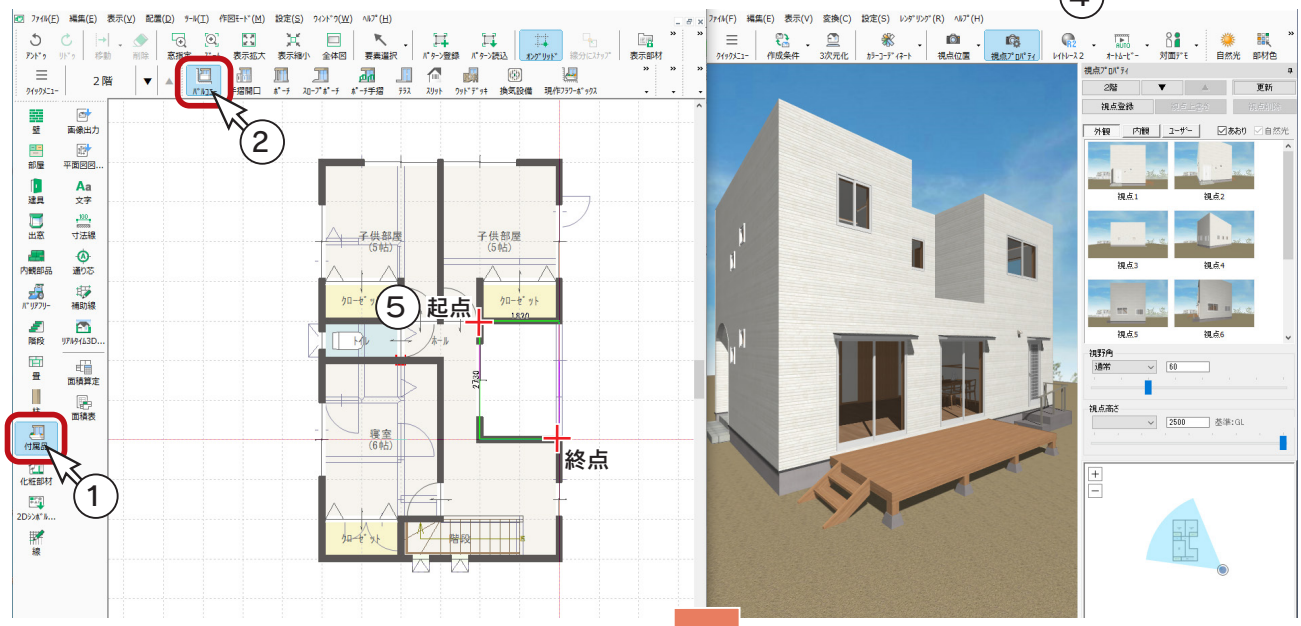
＊ダイアログが表示されます。

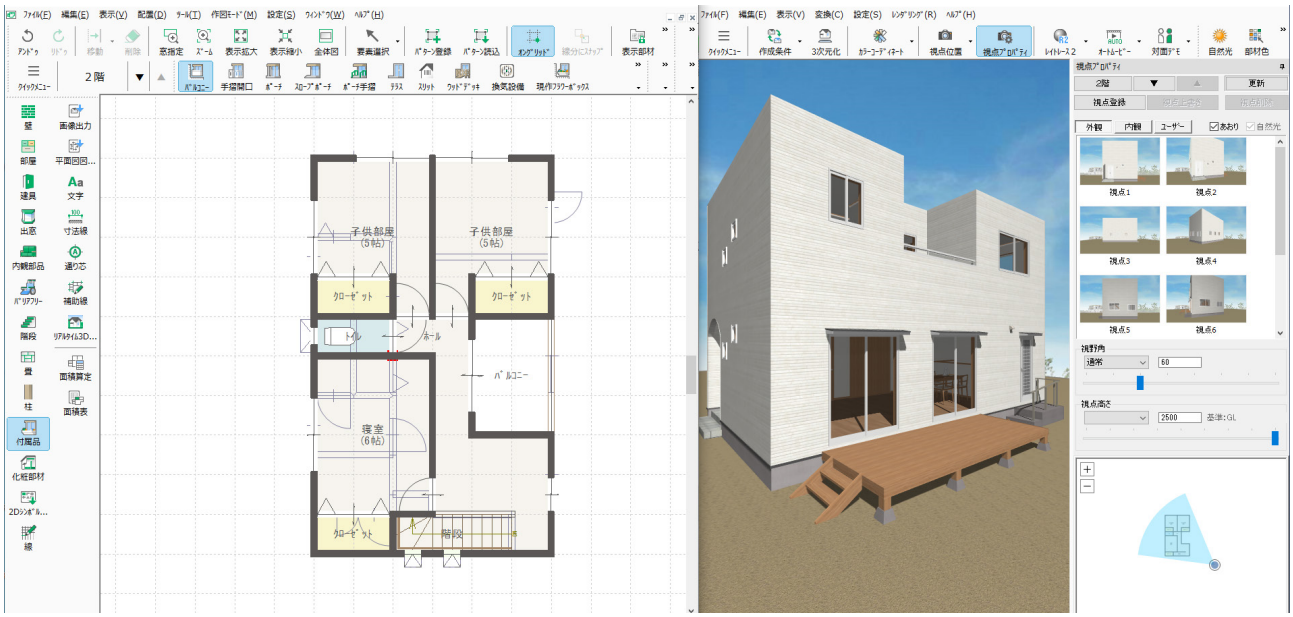
③手摺種類を「ハンドレール」に設定

④「OK」をクリック

⑤図のように、起点－終点を入力







寸法線

①ツールバー（寸法線）をクリック

②（自動寸法線）をクリック

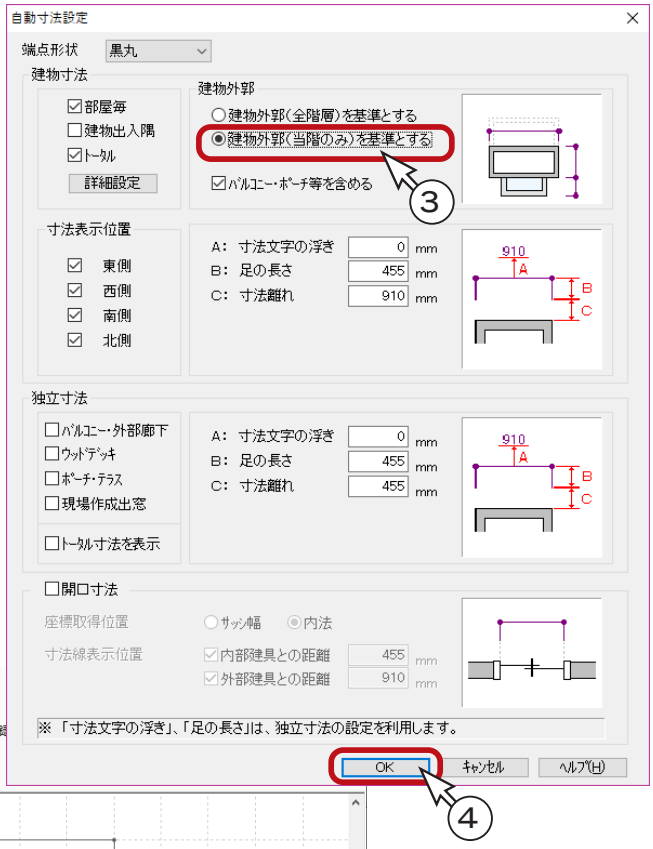
＊自動寸法設定のダイアログが表示されます。

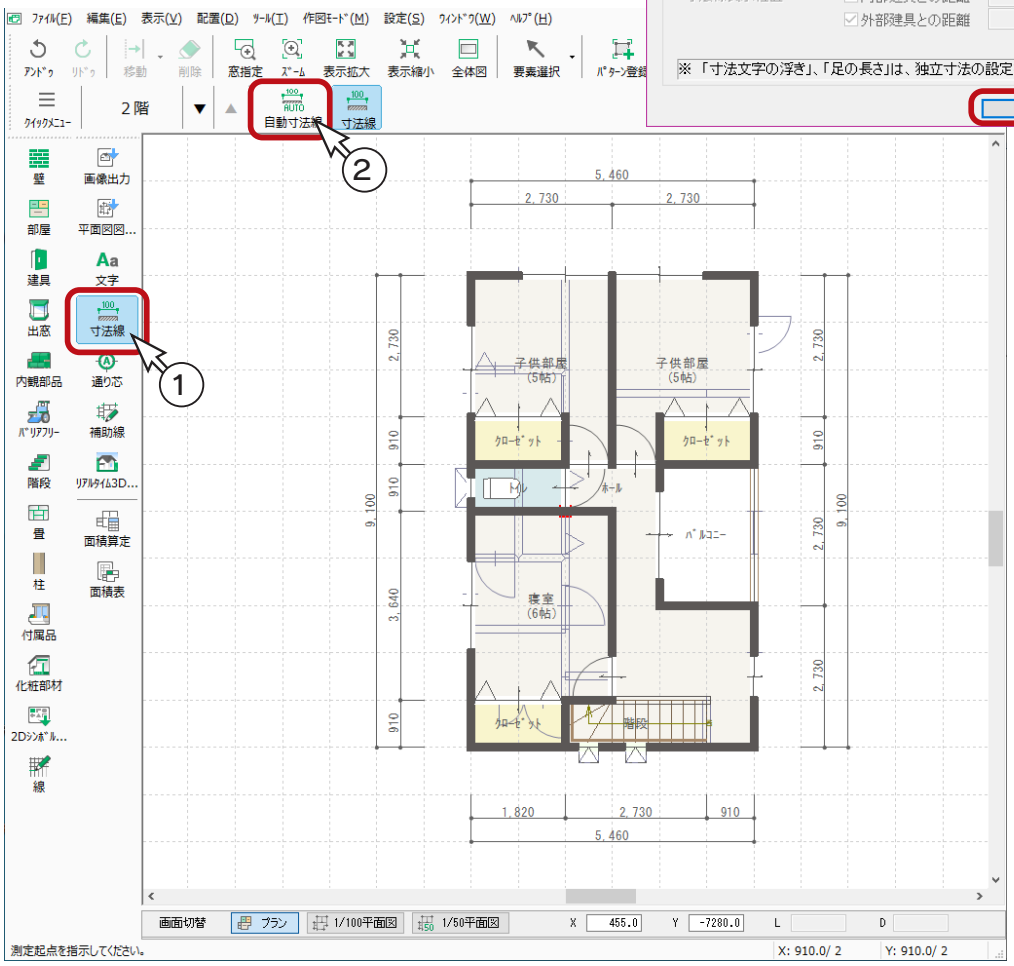
③「建物外郭（当階のみ）を基準とする」に設定

＊下屋部分を考慮しない設定にします。

④「OK」をクリック

＊寸法線が自動入力されます。





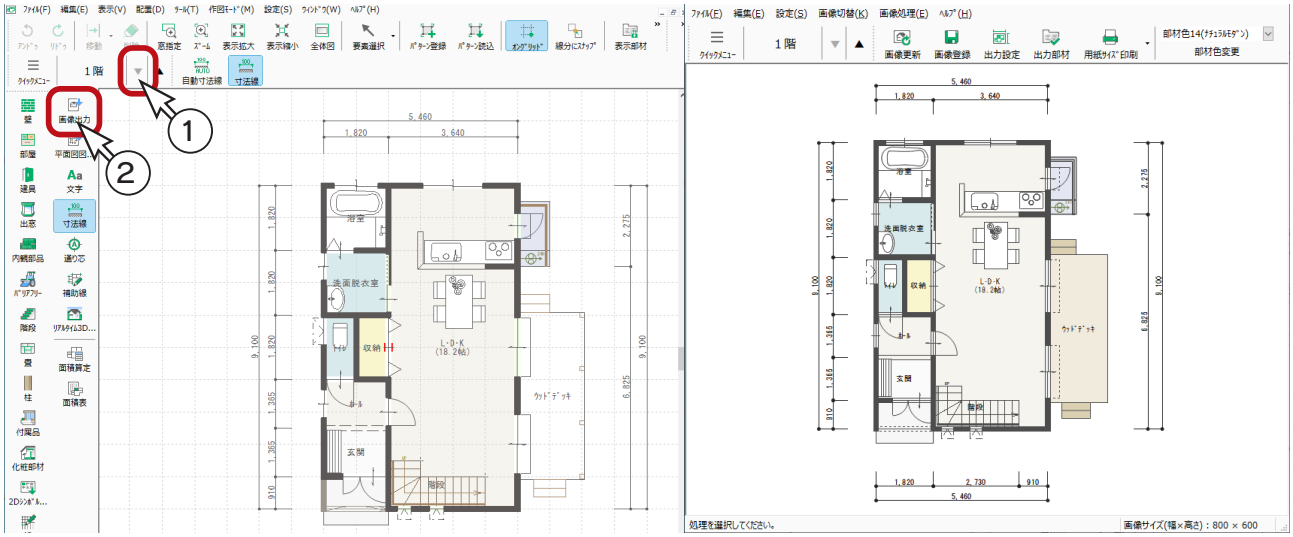
画像出力

1階の画像出力

①▼（下階選択）をクリックし、1階のプラン図を表示

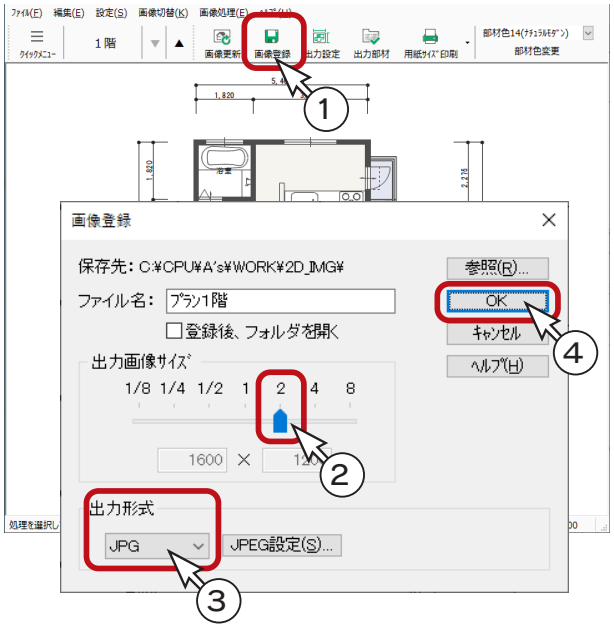
②ツールバーの（画像出力）をクリック

＊処理後、別ウィンドウに平面図のカラー画像が表示されます。



画像登録

「画像出力」の画面に表示している画像を、名前を付けて保存することができます。



①（画像登録）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

②出力画像サイズが「2」であることを確認

③出力形式が「JPG」であることを確認

＊「JPG」は、ファイルサイズが小さく、データの受け渡しに適しています。

④「OK」をクリック

出力画像サイズを1倍以外に設定すると、指定したサイズで画像の再作成処理が行われるため、1倍で保存した場合と比較すると保存に時間を要します。

「登録後、フォルダを開く」にチェックを入れると、保存先のフォルダを素早く開くことができます。

表示している画像は、「編集」⇒「コピー」を選択、または [Ctrl] ＋ C でコピーできます。
[Ctrl] ＋ V で、ワード・エクセル・パワーポイントなどに貼り付けが可能です。

２階の画像出力

１階の平面図 (画像) を作成したら、次に２階の平面図 (画像) を作成してみましょう。

①「画像出力」画面の ▲ (上階選択) をクリック

＊２階プランの平面図のカラー画像が表示されます。

② (画像登録) をクリック

＊ダイアログが表示されます。

③出力画像サイズが「２」、出力形式が「JPG」であることを確認し、「OK」をクリック

各階画像出力サイズの統一について

(出力設定) の「各階の出力位置・縮尺を合わせる」にチェックが入っていると、各階の画像出力の建物位置と縮尺を一致させることができます。

印刷

「画像出力」の画面に表示している画像を、印刷することができます。

の横の

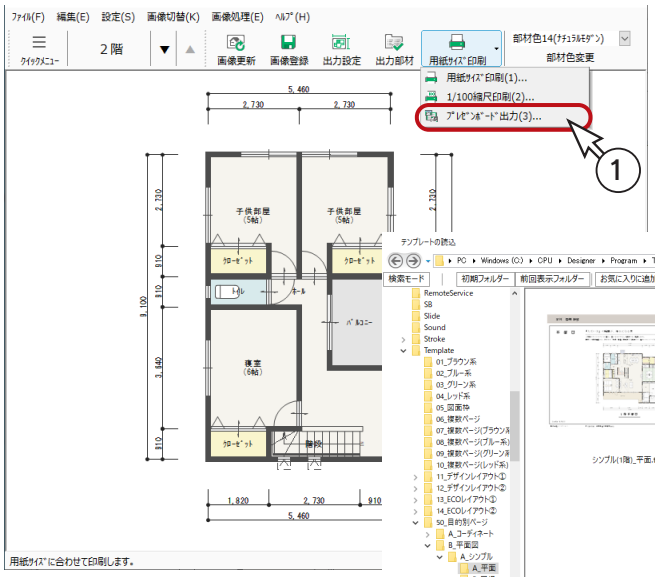
をクリックするとメニューが表示されるので、目的により、いずれかを選択します。

・用紙サイズ印刷 ･････････ 設定した用紙サイズの印刷可能範囲に、自動レイアウトで印刷します。
用紙サイズに合わせて伸縮します。

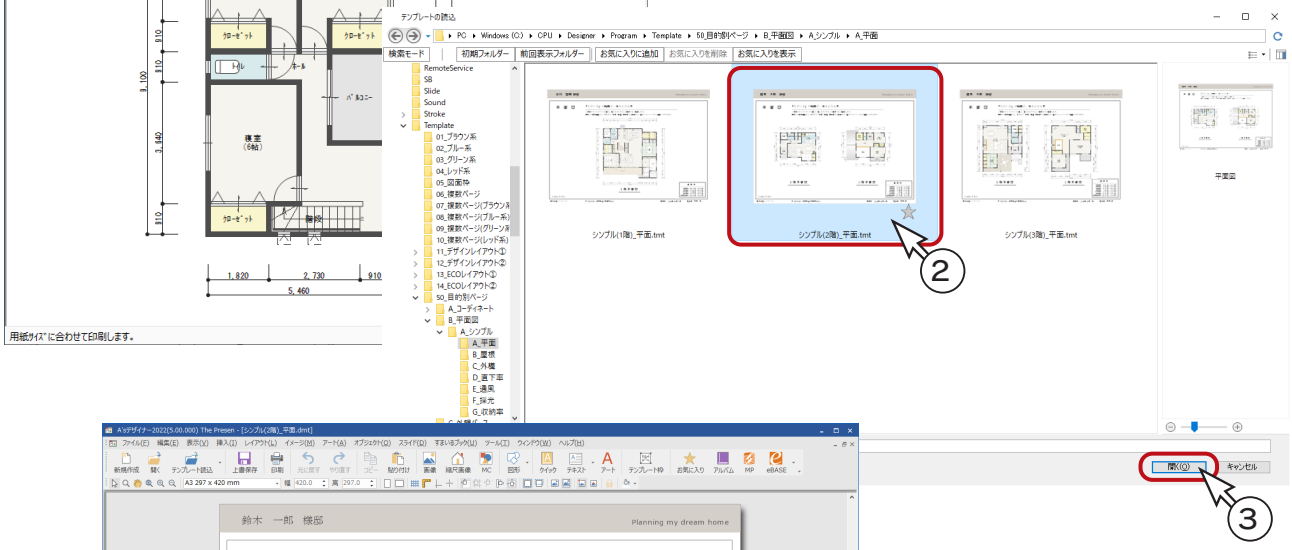
・1/100 縮尺印刷･････････ 1/100 縮尺で印刷します。画像の DPI 値を利用します。

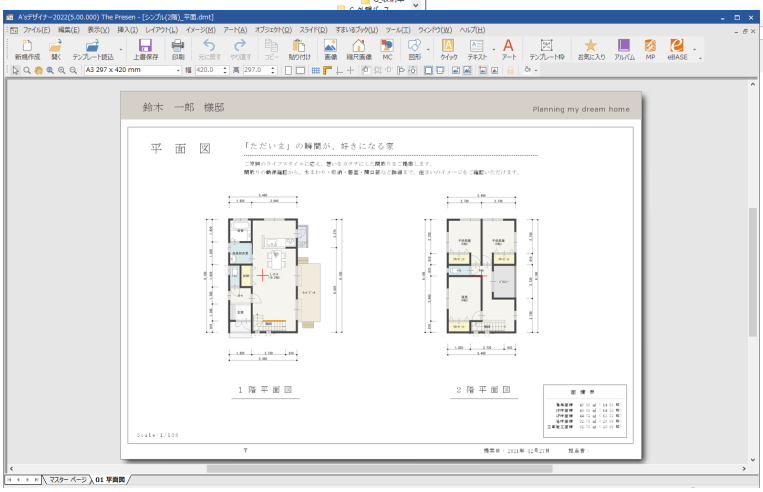
・プレゼンボード出力 ････ A's デザイナーのテンプレートを選択し、自動レイアウトします。

■ プレゼンボード出力の例



①印刷のメニューから「プレゼンボード出力」を選択
②テンプレートの読込画面になるので、テンプレートを選択
③「開く」をクリック
＊プレゼンボード用の画像を出力後、A's デザイナーが起動し、自動的にレイアウトします。





以後の操作は、A's デザイナーで行います。
詳細につきましては、A's デザイナーのマニュアル・ヘルプをご参照ください。

画像出力の終了

平面図 (画像) の作成が終わったら、タイトルバー右端の ✕ (閉じる)、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。

収納率

プランの床面積に対する収納部分の面積比率（収納率）を算出することができます。
一定割合の収納があることが、住み良い間取りの目安のひとつで、収納率を確認しながら、間取りを検討することができます。

収納率の対象は、部屋、内観部品です。

面積算定

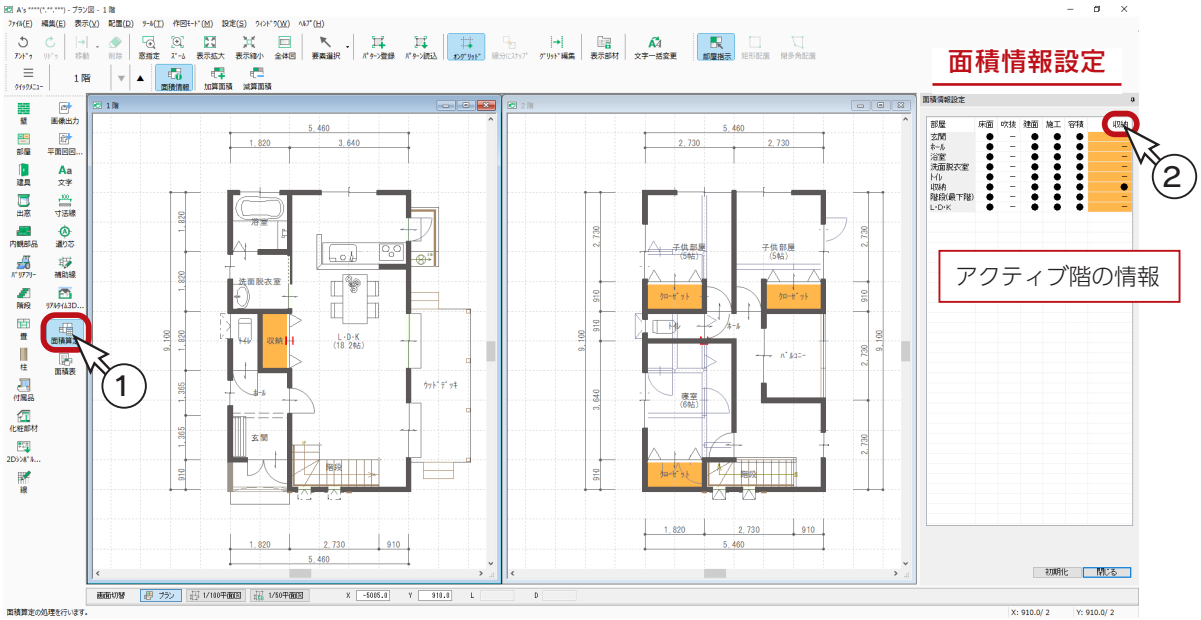
① （面積算定）をクリック

＊面積情報設定が表示されます。

②「収納」列のタイトルをクリック

＊収納率対象の部屋が色付きで表示されます。

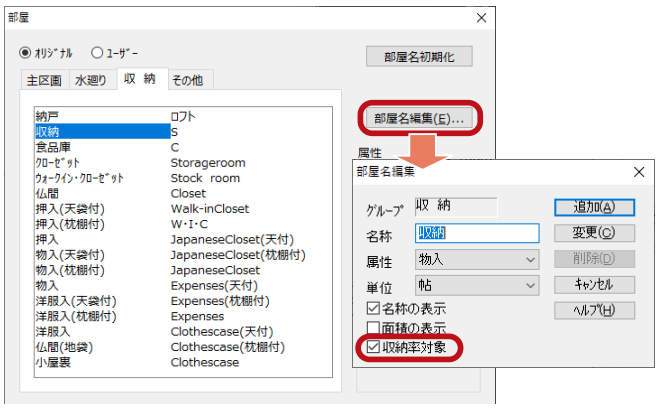
＊以下の表示は、プラン図画面を最大表示後、「ウィンドウ」⇒「並べて表示」を選択しています。



■収納率対象の部屋

部屋設定で、「収納」タブの部屋に設定した場合は、
自動的に収納率対象になります。
部屋名編集に、「収納率対象」の ON/OFF があります。

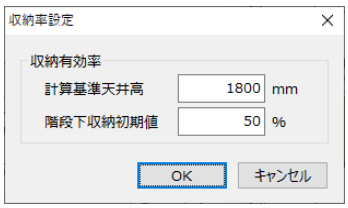
旧バージョンのデータに設定されている収納は、
自動的に収納率対象になりません。



■収納率設定

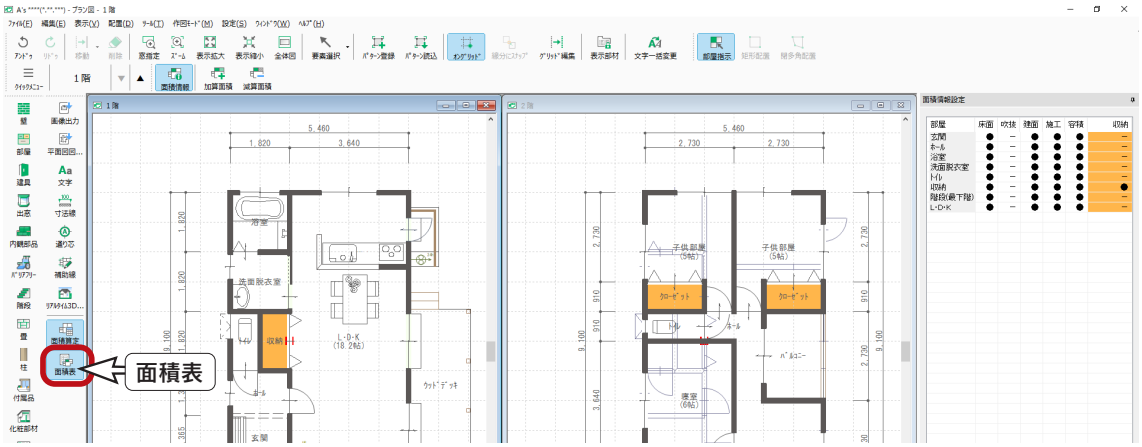
「設定」⇒「収納率設定」にて、以下の項目を設定できます。

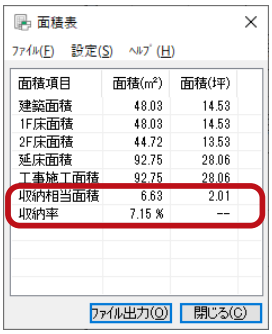
・計算基準天井高 ・・・・・ 初期設定：1800mm
・階段下収納初期値 ・・・ 初期設定：50%



面積表

（面積表）をクリックすると、面積表が表示され、収納相当面積と収納率を確認できます。





■収納率の算定

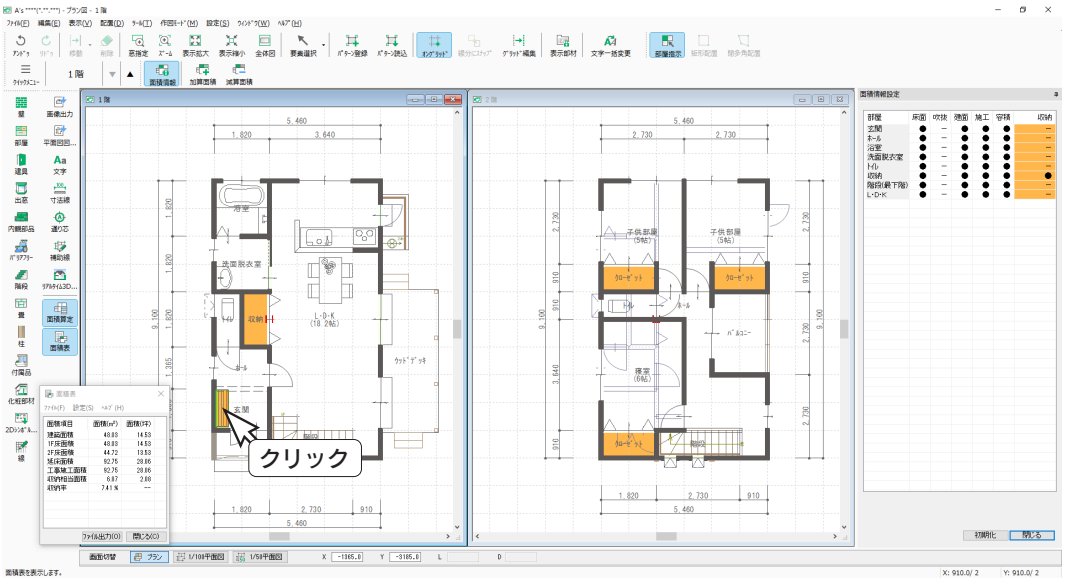
収納率は、以下の計算式で算定します。

収納相当面積 / 延床面積

（収納相当面積＝収納対象区画面積＋収納対象部品の水平投影面積）

収納率対象の ON/OFF

面積情報設定の●は収納率対象に含み、－は非対象です。
プラン図上の部屋をクリックすると、●－が切り替わります。面積情報設定の●－を直接クリックしても切り替わります。
また、プラン図上の部品をクリックして、収納率対象に設定することができます。
以下の例では、玄関キャビネットをクリックしています。



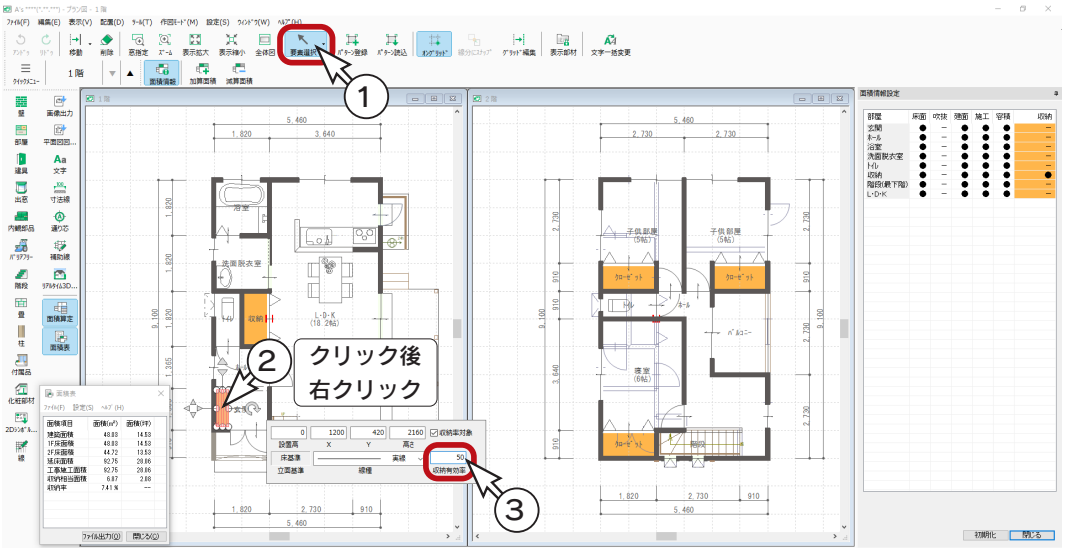
有効率の個別変更

部屋の天井高さや部品の高さ形状により、有効率を 0 ～ 100% で指定可能です。
玄関キャビネットの有効率を変更してみましょう。

① (要素選択) をクリック

②玄関キャビネットをクリック後、右クリック
　＊右クリックメニューとスマートメニューが表示されます。

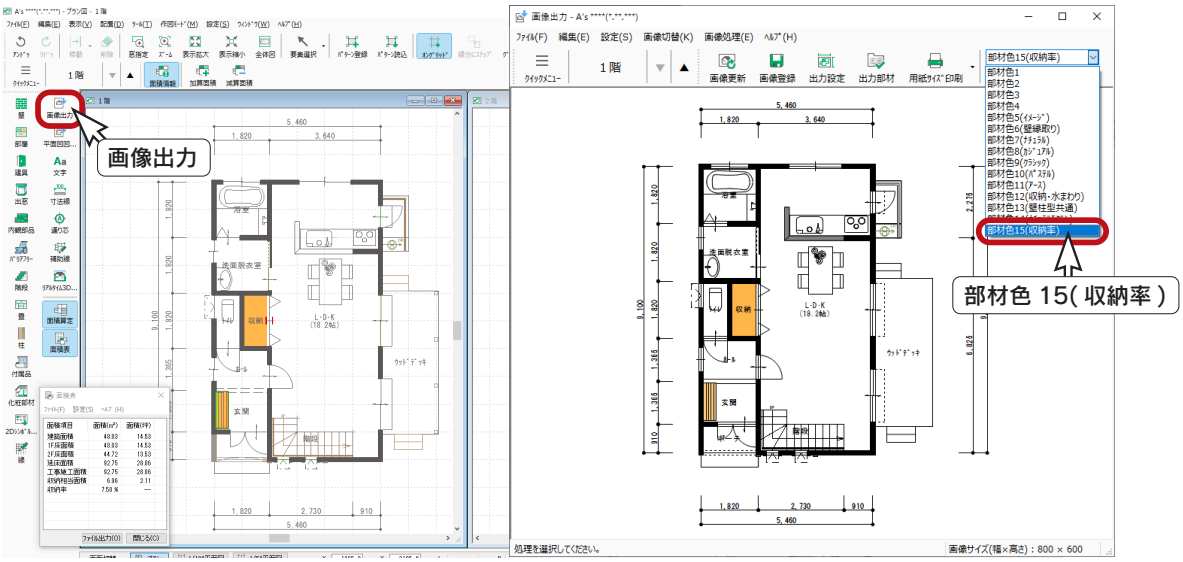
③収納有効率を「50」に変更し、画面内の余白でクリック
　＊収納相当面積と収納率に追加されます。



収納率の画像出力

収納率を画像出力することができます。

ツールバーの (画像出力) をクリックして画像出力の画面を表示し、部材色変更で「部材色 15(収納率)」を選択してください。

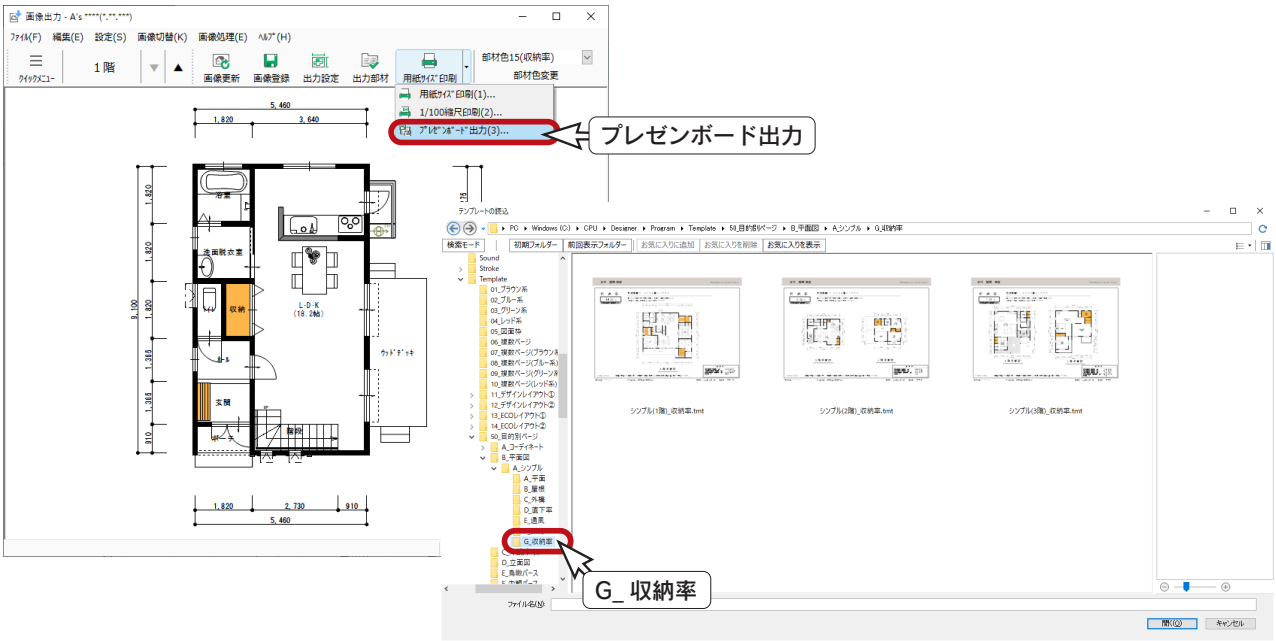


収納率対象の部屋と部品が色付きで表示されます。
有効率に応じて、色の濃度が変わります。

収納率のプレゼンボード

画像出力の画面から、収納率のプレゼンボードを出力することができます。
印刷のメニューから「プレゼンボード出力」を選択すると、テンプレート読込の画面になりますので、収納率のテンプレートを選択してください。初期は、以下のフォルダにあります。

Designer¥Program¥Template¥50_ 目的別ページ ¥B_ 平面図 ¥A_ シンプル ¥G_ 収納率



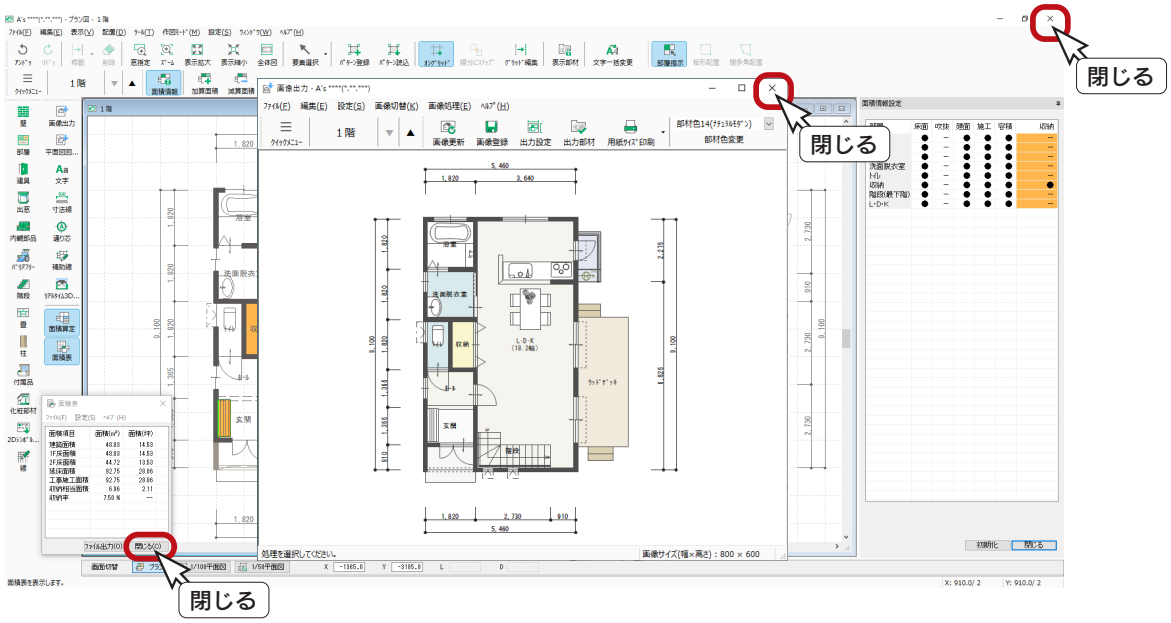
(プレゼンボード) のオートプレゼンテーションでも、収納率のテンプレートを選択することができます。

画像出力の部材色を戻す

画像出力で選択されている部材色が、物件管理、物件選択のサムネイルに反映されます。
「部材色 15(収納率)」のままでもかまいませんが、ここでは、「部材色 14(ナチュラルモダン)」に戻します。

プラン図の終了

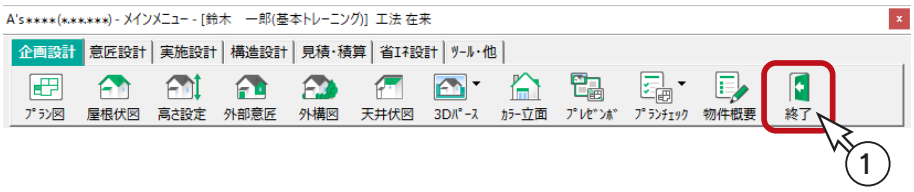
面積表や画像出力を開いている場合は、先に閉じてから、プラン図タイトルバー右端の ✕ （閉じる）、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。
終了時、保存についてのメッセージは表示されませんが、データは WORK フォルダに記憶されています。

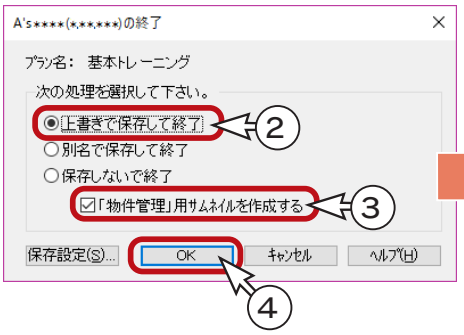


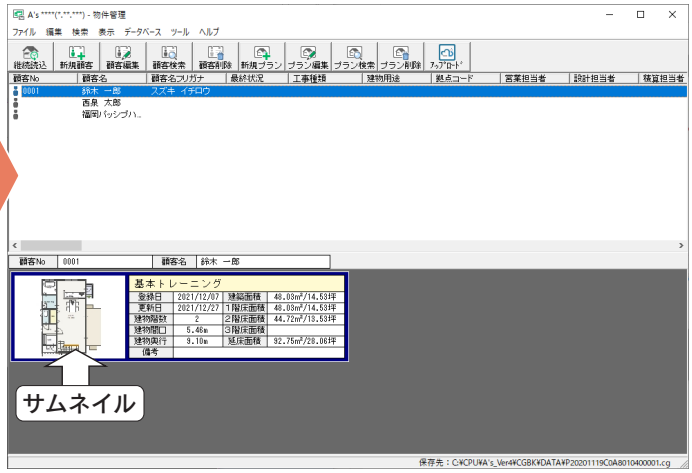
データの保存

プラン図の入力が終わったら、データを正式に保存してみましょう。

①メインメニューの （終了）をクリック
②終了の画面が表示されますので、「上書きで保存して終了」が選択されていることを確認
③「「物件管理」用サムネイルを作成する」にチェックが入っていることを確認
④「OK」をクリック
　＊保存処理後、物件管理の画面に戻ります。



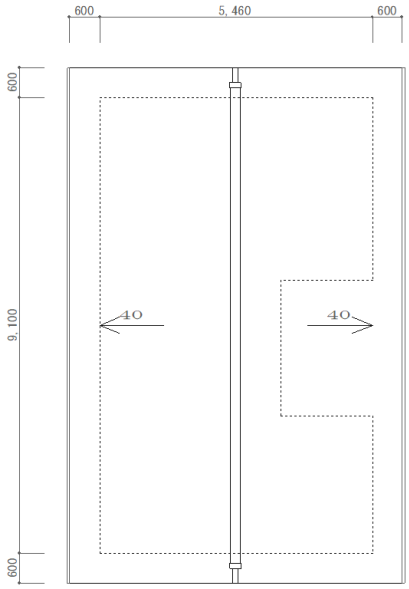




3 屋根伏図

作成する屋根伏図

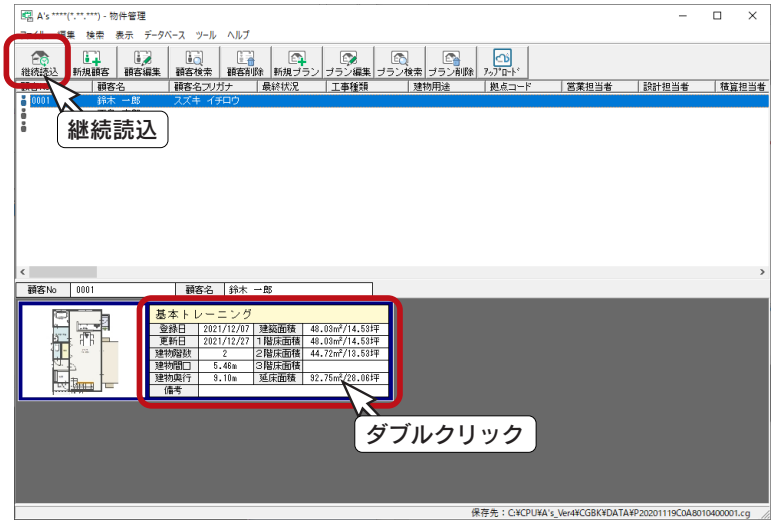
■２階



継続読込

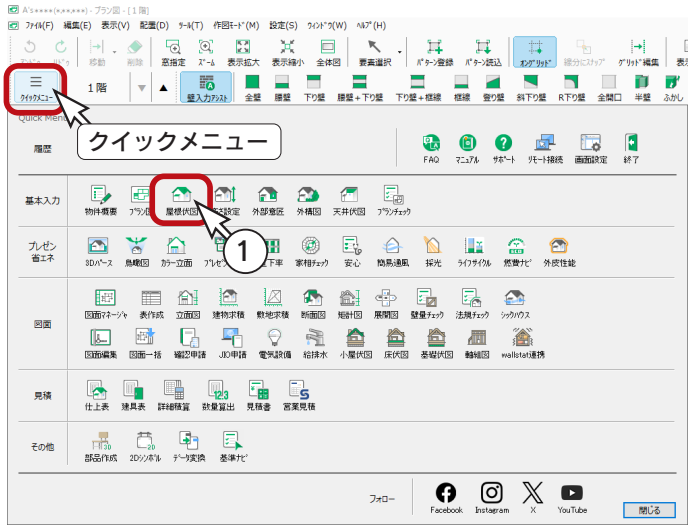
直前に入力していた物件を読み込む場合は、物件管理画面の をクリックしてください。

または、一覧のプランをダブルクリックしてください。
なお、サムネイルではなく、登録日等のデータ側をダブルクリックしてください。



サムネイルをダブルクリックした場合は、全階層のサムネイルを確認できます。

屋根伏図の起動



①クイックメニュー、またはメインメニューの

（屋根伏図）をクリック

＊１階屋根伏図のウィンドウが表示されます。

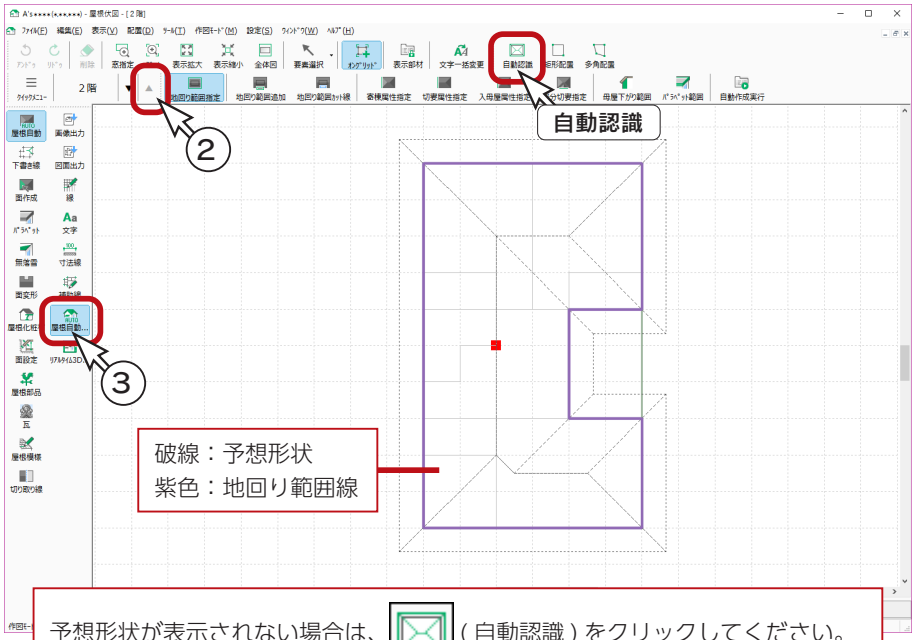
②この物件では、１階に屋根はありませんので、

階層ボタンの（上階選択）をクリック

＊２階屋根伏図のウィンドウが開き、屋根の予想形状も表示されます。

③（屋根自動配置）をクリック

＊ここでは、屋根自動配置を利用して、２階の屋根を入力してみましょう。



予想形状が表示されない場合は、（自動認識）をクリックしてください。

屋根自動配置ウィンドウの操作

屋根自動配置ウィンドウでは、マウス操作により、建物の回転や移動ができます。
下の表を参考に、屋根形状がわかるように、表示を変えてみてください。

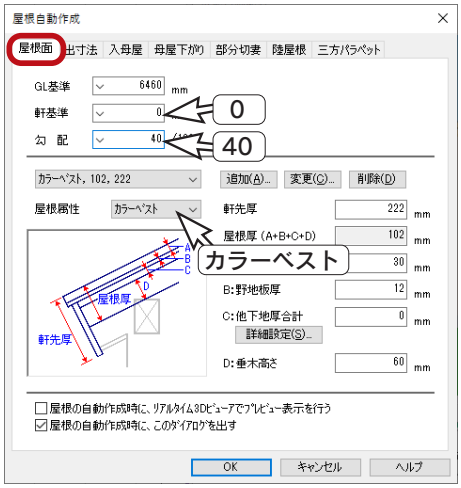
マウス操作	動作	ポインタ	マウス操作	動作	ポインタ
左ドラッグ	建物中心回転		Shift ＋ 左ドラッグ	視点中心回転	
右ドラッグ	建物回転 視点位置移動		Shift ＋ 右ドラッグ	視点位置移動	
中ドラッグ	上下左右移動				

屋根自動配置の設定

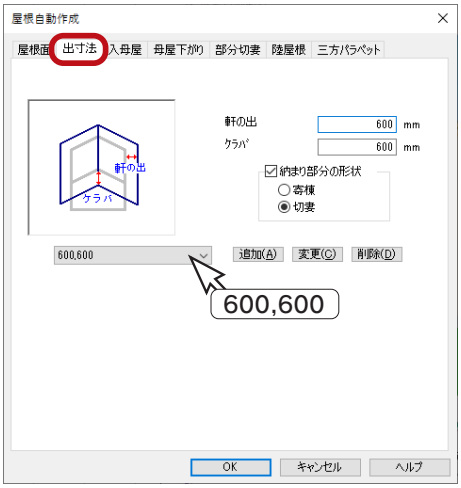
最後の設定を引き継ぐ

屋根の基準高さ、勾配などは、最後の設定を引き継ぎます。
屋根の予想形状が、通常とは異なる高さなどで表示された場合は、屋根自動配置の「設定」ボタン、または「設定」⇒「屋根自動配置」にて、基準高さ、勾配などを修正してください。

屋根面



出寸法



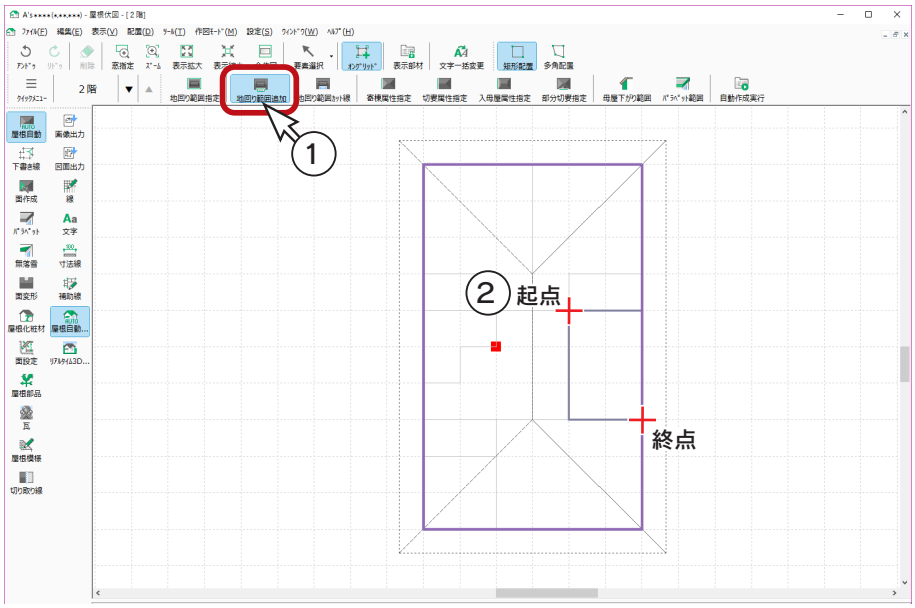
地回り範囲の追加

ベランダの上に、屋根範囲を追加してみましょう。

① （地回り範囲追加）をクリック

②以下のように、起点ー終点を指示

＊屋根の予想形状、屋根自動配置ウィンドウの表示も変わります。



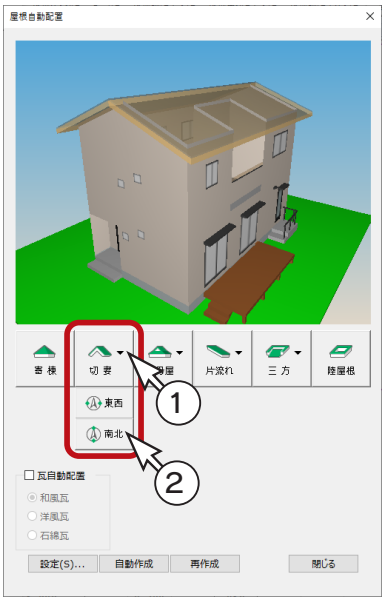
屋根自動配置

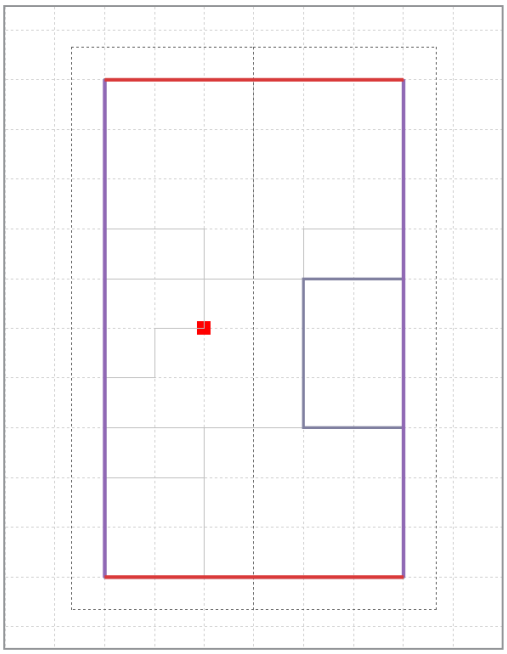
①屋根自動配置ウィンドウの 切 妻 にマウスを合わせる

② 南北 をクリック

＊予想形状が切妻に変わります。

＊切妻となる妻壁側の地回り範囲線は、赤色に変わります。





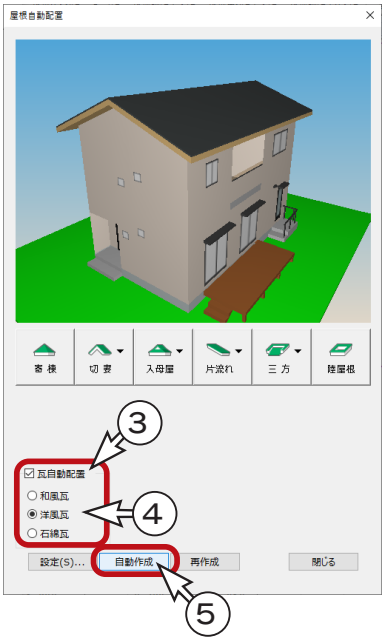
③「瓦自動配置」にチェックを入れる

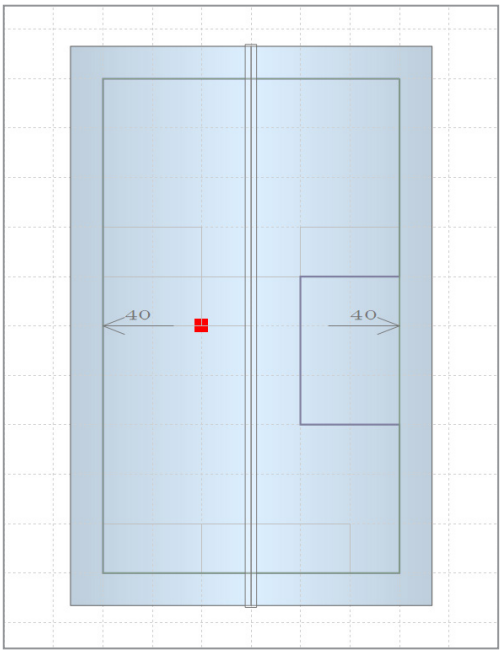
④「洋風瓦」を選択

⑤「自動作成」をクリック

＊屋根伏図ウィンドウの屋根面に、勾配と流れ方向が表示されます。

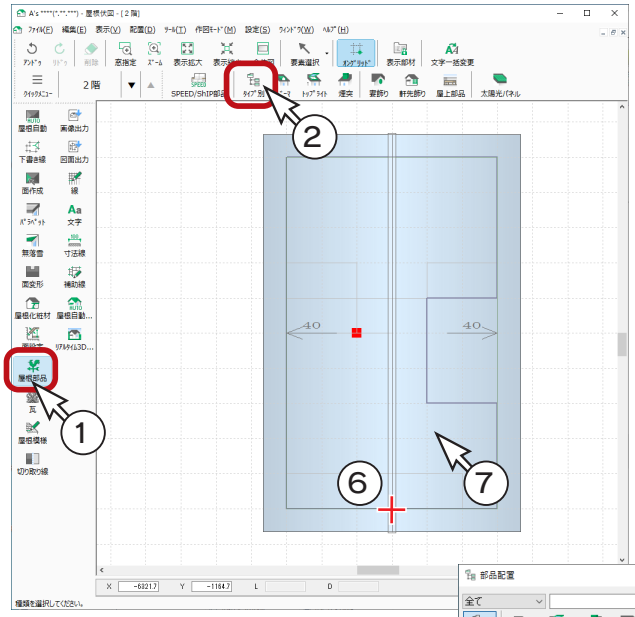
＊屋根自動配置の屋根表示も変わりますが、瓦は表示されません。





屋根部品

（屋根部品）では、ドーマ、煙突、妻飾り等の３次元部品と太陽光パネルを配置することができます。
ここでは、妻飾りを配置してみましょう。



① （屋根部品）をクリック

② （タイプ別）をクリック

＊部品配置ダイアログが表示されます。

③左のツリーから「妻飾り」⇒「鋳物」をクリック

④「鋳物アルミ」をクリック

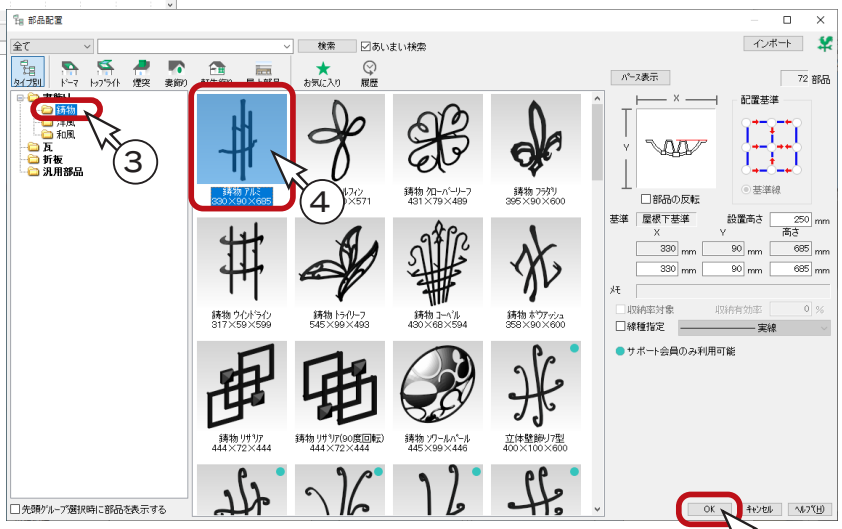
＊妻飾りの設置高さは、初期値が屋根下基準で「250」mm です。

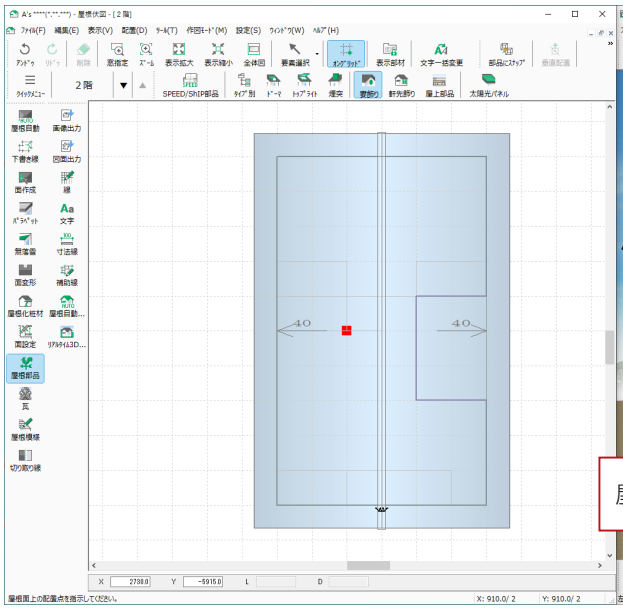
⑤「OK」をクリック

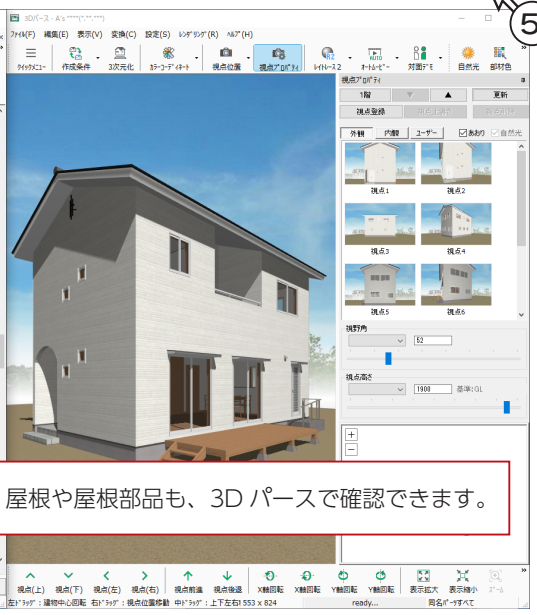
⑥配置点を棟の外郭線上に指示

⑦基準となる屋根を指示

＊２つの屋根の高さが一致しているので、どちらの屋根を指示してもかまいません。







屋根や屋根部品も、3D パースで確認できます。

屋根化粧材

（屋根化粧材）では、軒樋、竪樋、落し口、ドレンなどを配置することができます。

軒樋

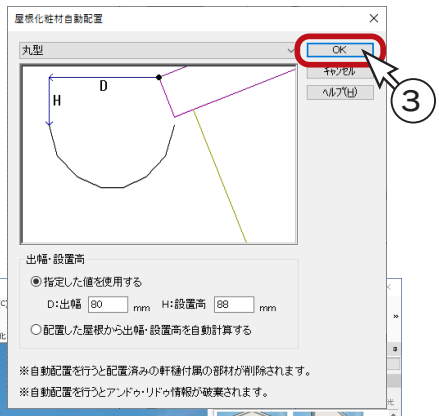
① （屋根化粧材）をクリック

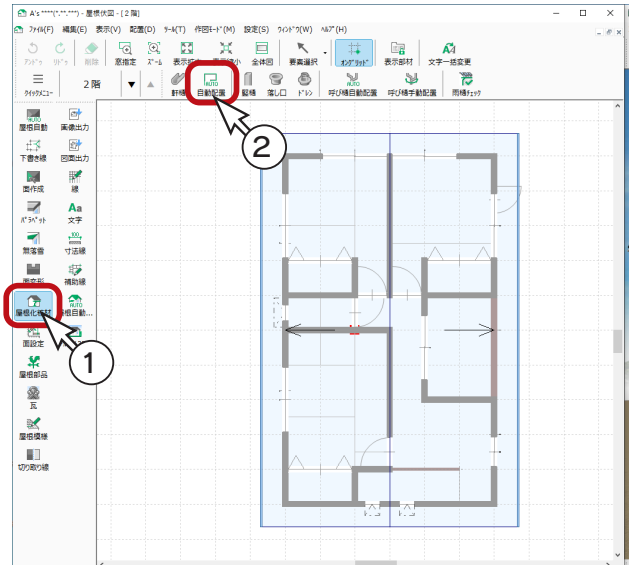
② （自動配置）をクリック

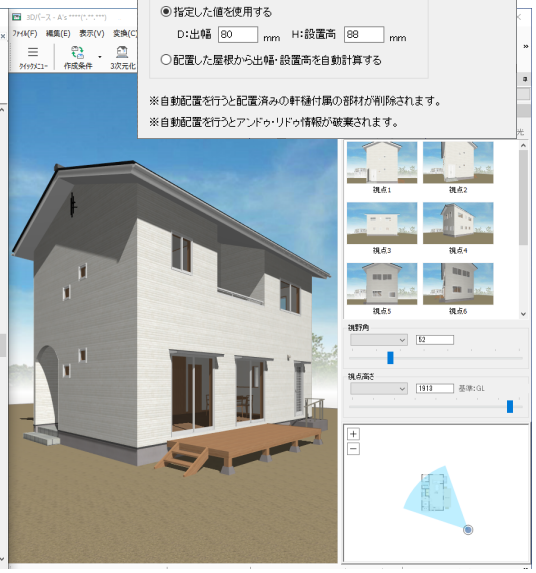
＊ダイアログが表示されます。

③「丸型」を選択し、出幅・設置高は初期の状態で、「OK」をクリック

＊軒樋が自動配置されます。





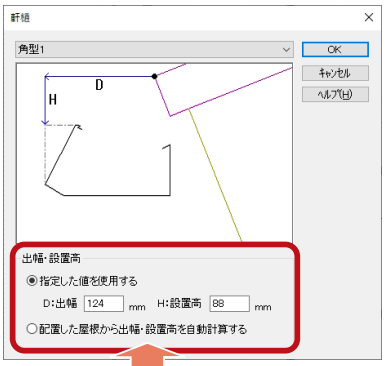


■軒樋の出幅・設置高

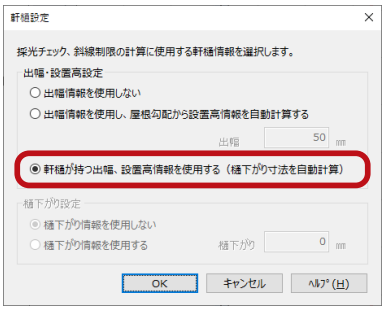
軒樋を配置する際に、軒先に対して出幅・設置高を指定できます。
3D パースで詳細な表現が可能になり、法規チェックでは、採光チェックおよび斜線チェックに反映します。
軒樋の自動配置、手動配置のいずれの場合も可能です。

以下は、 （軒樋）で「角型 1」を選択した例です。

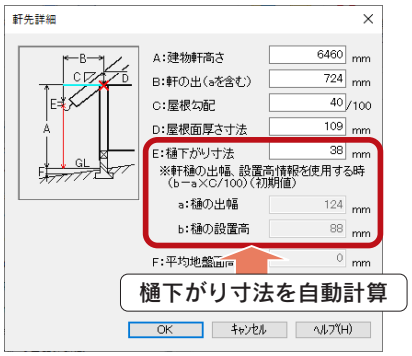
軒樋のダイアログ



法規チェックの軒樋設定



斜線チェック、軒先詳細



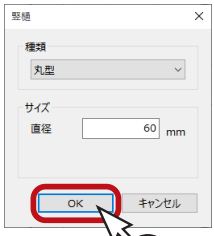
竪樋

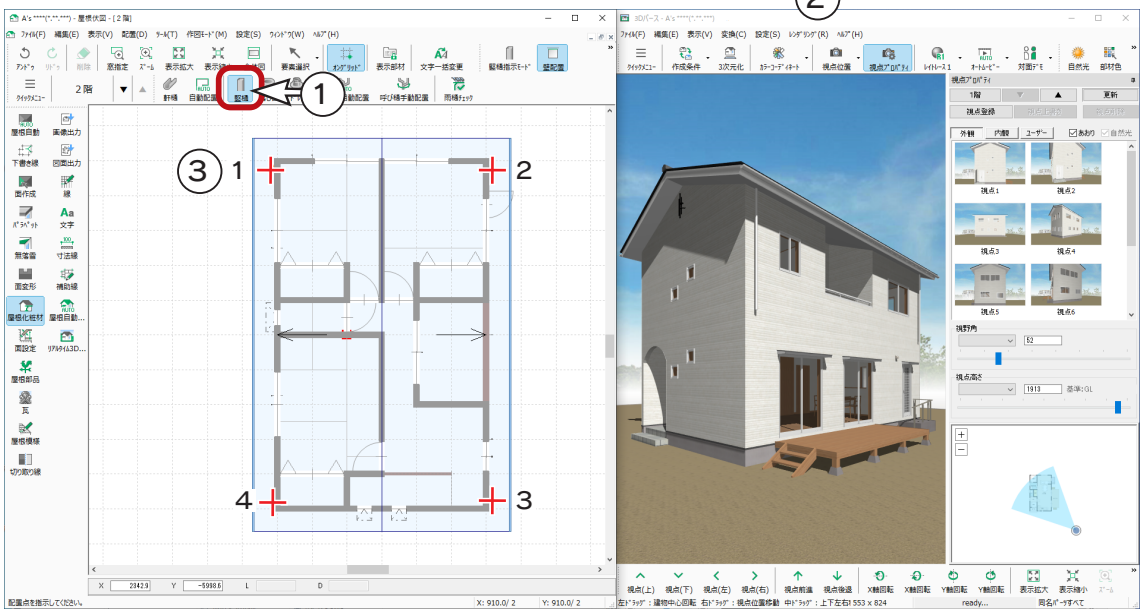
① （竪樋）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

②初期の「丸型」の状態で、「OK」をクリック

③ （壁配置）にて、２階の１～４に配置

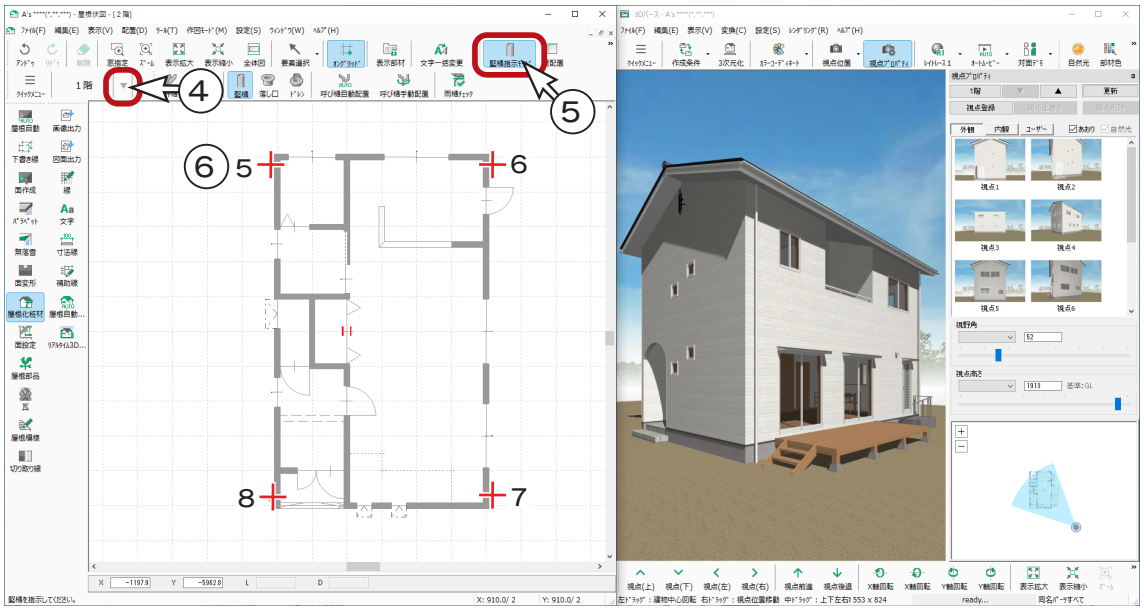




④ （下階選択）をクリックし、１階に移動

⑤ （竪樋指示モード）に変更

⑥２階に配置した竪樋を指示して５～８に配置



落し口

①（上階選択）をクリックし、２階に移動

②（落し口）をクリック

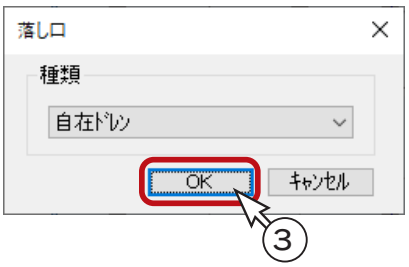
＊ダイアログが表示されます。

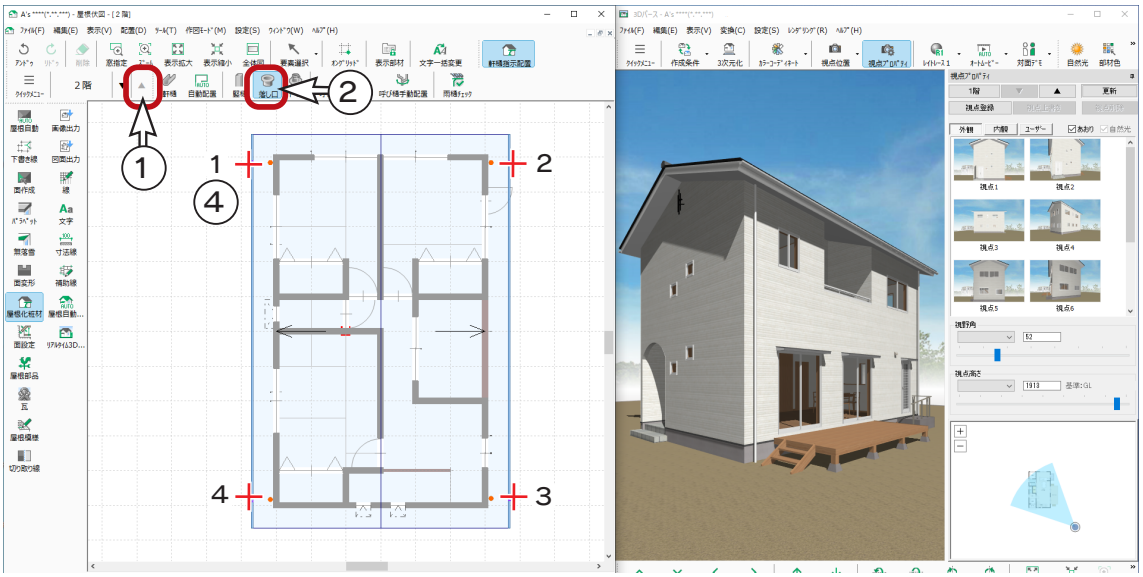
③「自在ドレン」の選択状態で「OK」をクリック

④軒樋指示ー落し口位置指示にて、１～４に配置

＊それぞれ２回ずつクリックすることになります。

＊落し口位置指示の際は、樋のある位置にスナップします。

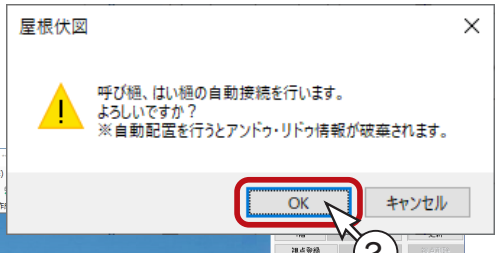


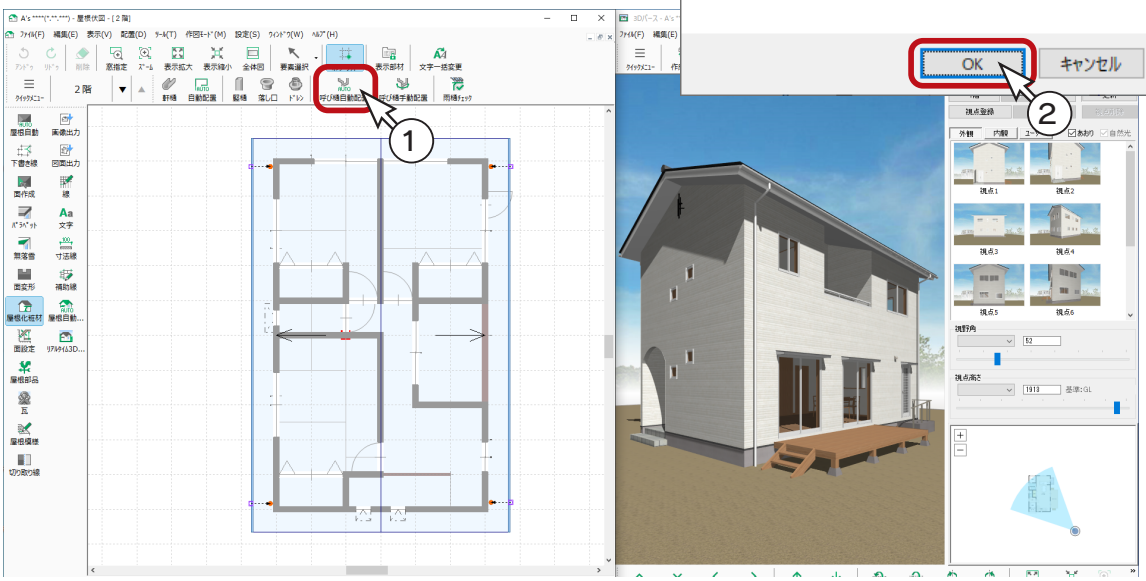


呼び樋・はい樋自動配置

①（呼び樋自動配置）をクリック

②メッセージの内容を確認し、「OK」をクリック





雨樋チェック

軒樋、竪樋、落し口、呼び樋の配置漏れのチェック、および屋根面積と降水量から想定される排水量をもとにしたチェックを行い、雨樋に不足が無いか確認できます。

①（雨樋チェック）をクリック

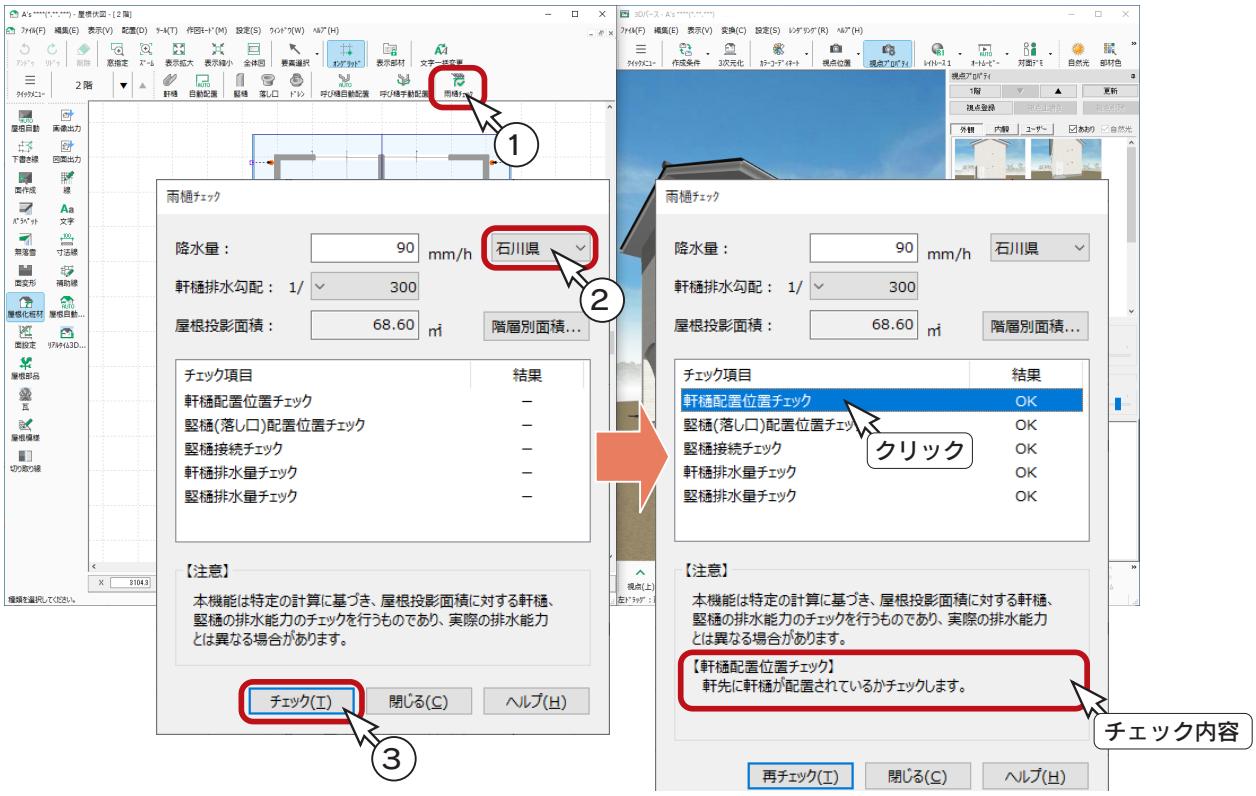
＊ダイアログが表示されます。

②降水量、軒樋排水勾配を設定

＊降水量は、地域を選択することで自動設定できます。ここでは、「石川県」を選択しています。

③「チェック」をクリック

＊チェック結果が表示されます。

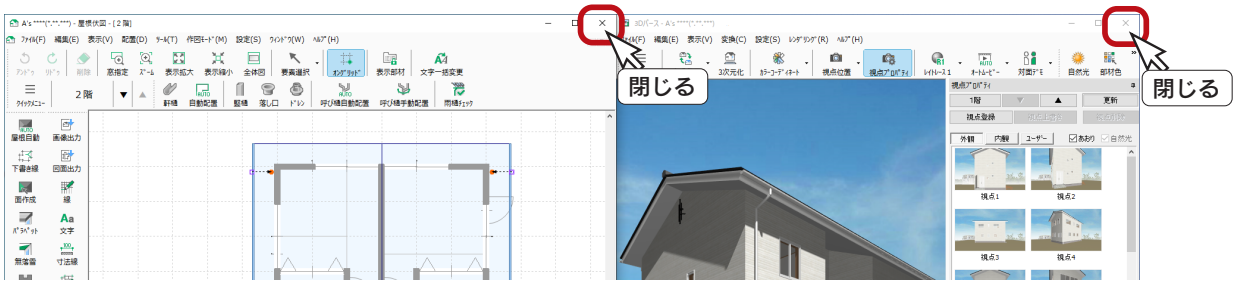


チェック項目をクリックすると、
チェック内容の詳細が表示されます。

屋根伏図の終了

タイトルバー右端の（閉じる）、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。

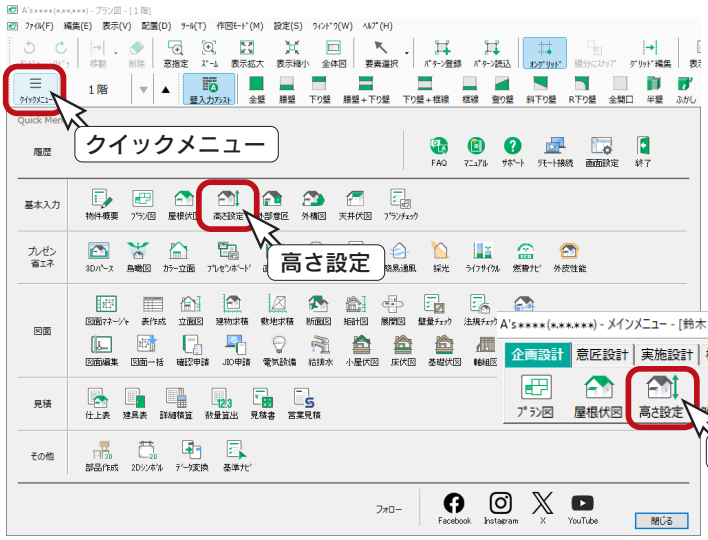
終了時、保存についてのメッセージは表示されませんが、データは WORK フォルダに記憶されています。



4 高さ設定

「高さ設定」では、「プラン図」で配置した部屋・壁・建具・部品・付属品等の高さを確認、修正することができます。
「屋根伏図」で配置した部品の高さ設定も可能です。
簡易立面図や簡易展開図を表示して確認できます。

高さ設定の起動

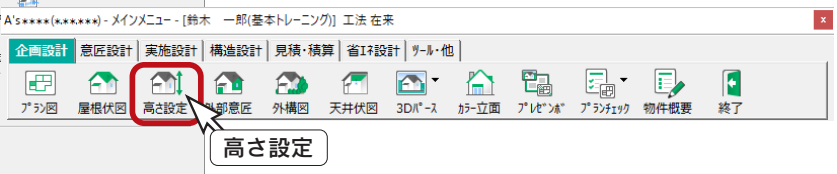


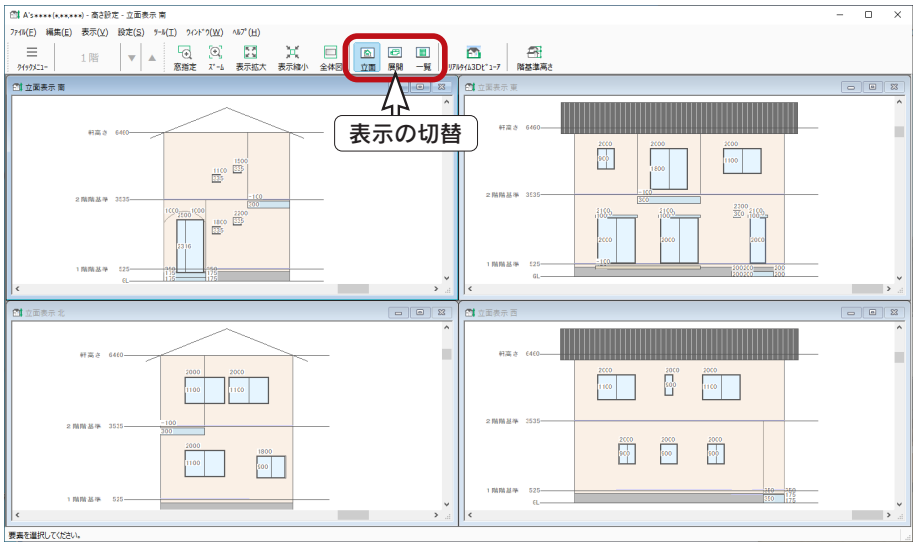
クイックメニュー、またはメインメニューの

（高さ設定）をクリックしてください。

高さ設定のウィンドウが開き、東西南北の簡易立面図が表示されます。

メインメニュー



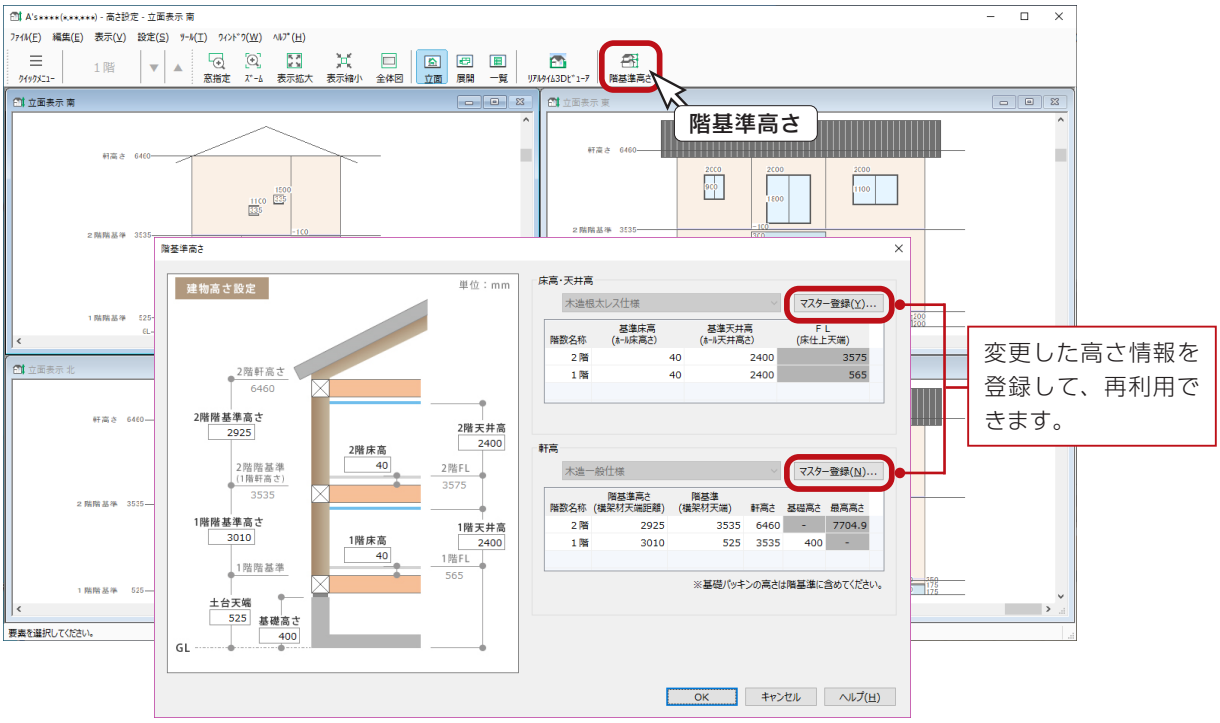


３種類の表示方法

高さ設定の表示方法には、「立面」「展開」「一覧」があります。
初期の表示は「立面」になっていますが、アイコン、もしくは「設定」メニューで切り替えができます。

階基準高さ

（階基準高さ）をクリックすると、各階層の基準高さ、軒高、床高・天井高を確認、修正することができます。



■物件概要と連動

階基準高さの設定は、「物件概要」の「建物高さ」と同じ設定で連動しています。
また、立面図、断面図、矩計図、軸組図にも連動します。

■基礎高さ

ここで指定する基礎高さは、外観パースなどの３Ｄ表現に反映されます。
基礎伏図や矩計図などの基礎高さは、「１階階基準」高さから「土台」の高さを引いたものが利用されます。

■ＦＬ（床仕上天端）について

ＦＬは階基準に床高を加えた高さとなりますが、このときの床高は、ホール（ホール属性）の床高を基準とします。

■最高高さの補正

このダイアログ上では最高高さの数値変更はできませんが、「設定」⇒「最高高さ設定」にて、補正値の入力や端数処理が可能です。端数処理の設定は、立面図、断面図、矩計図、軸組図にも反映されます。

■数値は半角で入力

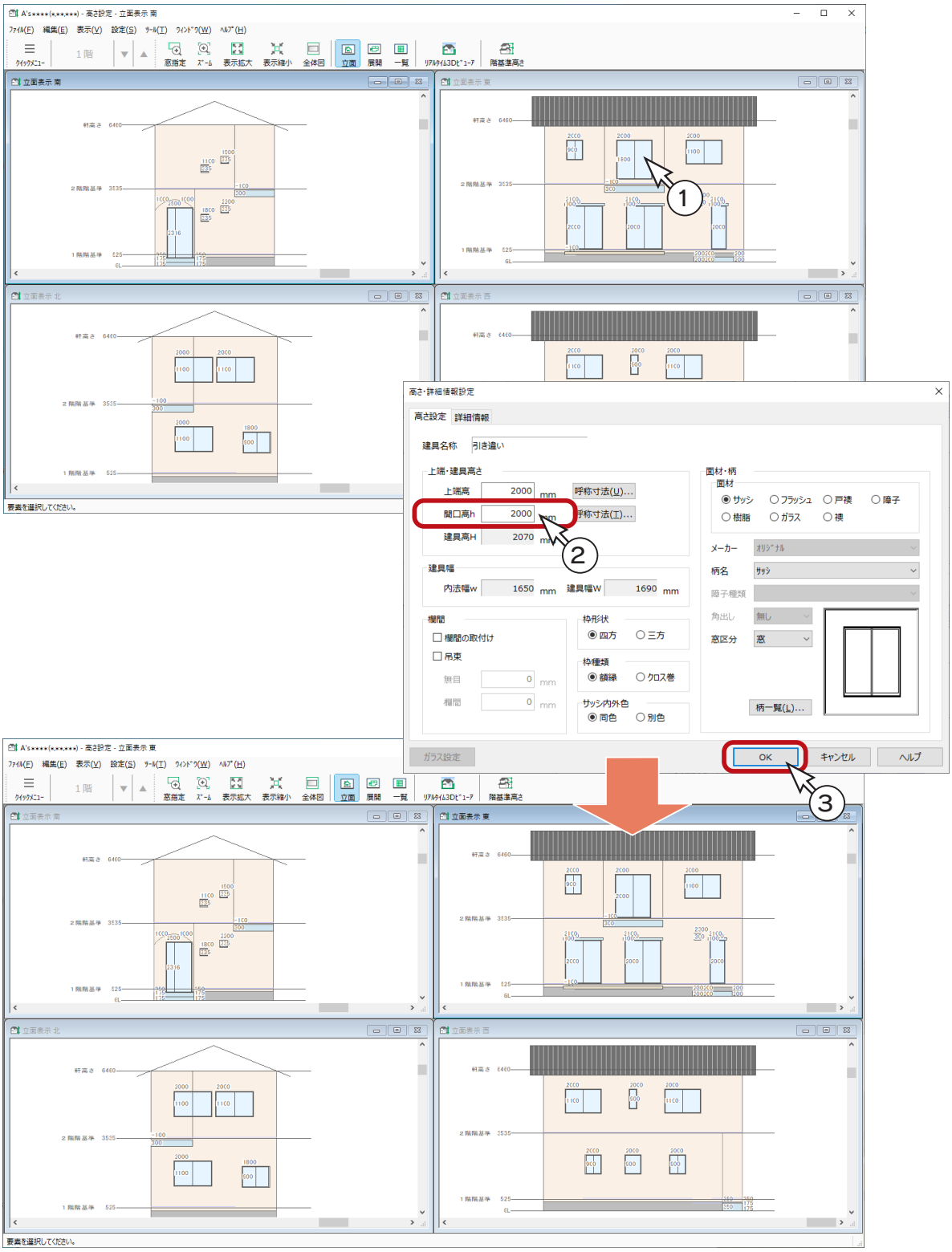
「高さ設定」で数値を入力する場合は、必ず半角で入力してください。

【数値入力制限】 -99999 ～ 99999 mm

立面表示

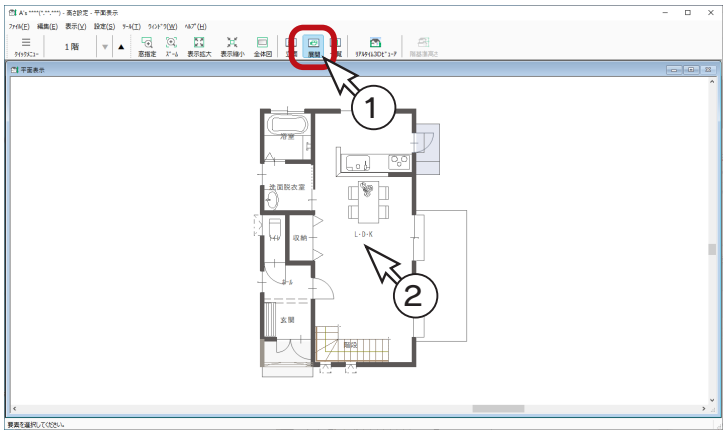
立面表示では、部材をクリックするとそれぞれのダイアログが表示され、設定変更が可能です。
建具の設定を変更してみましょう。

① 2 階のベランダの建具をクリック
②開口高 h を「2000」に変更
　＊直接入力できます。また、「呼称寸法」をクリックして、呼称リストから選択してもかまいません。
③「OK」をクリック

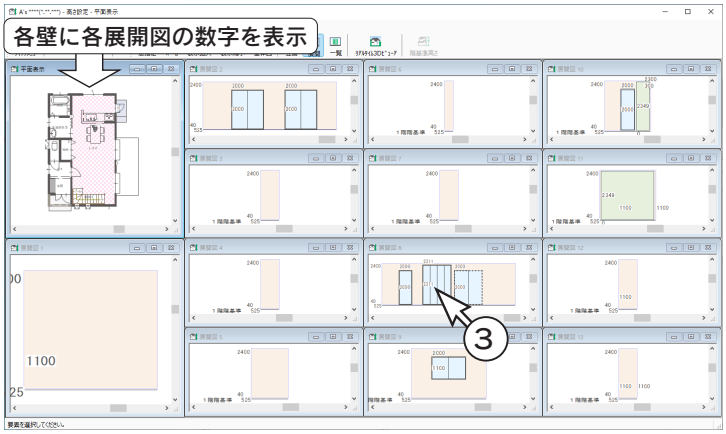


展開表示

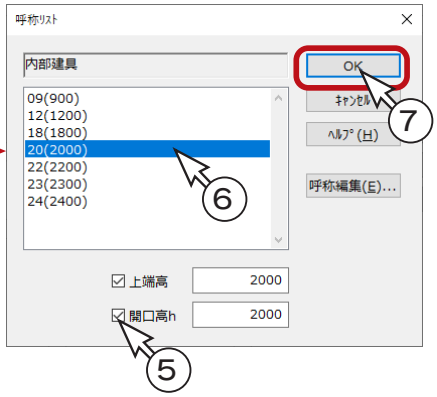
展開表示では、指定した部屋の簡易展開図を表示し、その部屋に配置した部材の高さを確認、変更することができます。
L･D･K の物入の建具高さを変更してみましょう。



① (展開) をクリック
　＊１階のプラン図が表示されます。
②L･D･K の部屋の中をクリック
　＊L･D･K の簡易展開図が表示されます。
　平面表示の L･D･K の各壁に、各展開図の数字が表示されます。
③物入の建具をクリック
　＊ダイアログが表示されます。
④上端高の「呼称寸法」をクリック
⑤開口高 h にもチェックを入れる
⑥一覧から「20(2000)」を選択
⑦呼称リストの「OK」をクリック
⑧高さ・詳細情報設定の「OK」をクリック



展開図の表示順は、異なる場合があります。



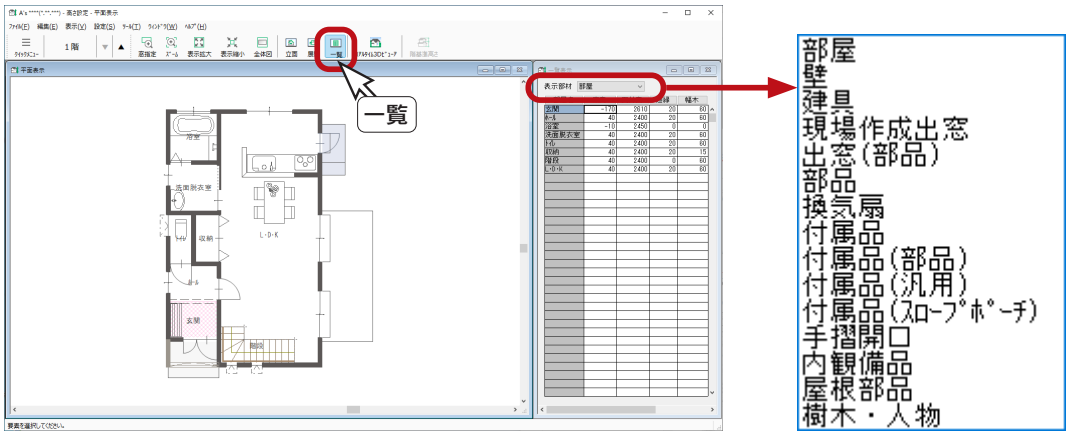
上端高と開口高 h を同時に変更する場合は、両方のチェックを入れてから、呼称寸法を選択してください。

部品の表示

展開表示では、「隅配置」と「壁配置」で配置した部品のみが表示されます。
「任意配置」で配置した部品は、一覧表示で表示されます。

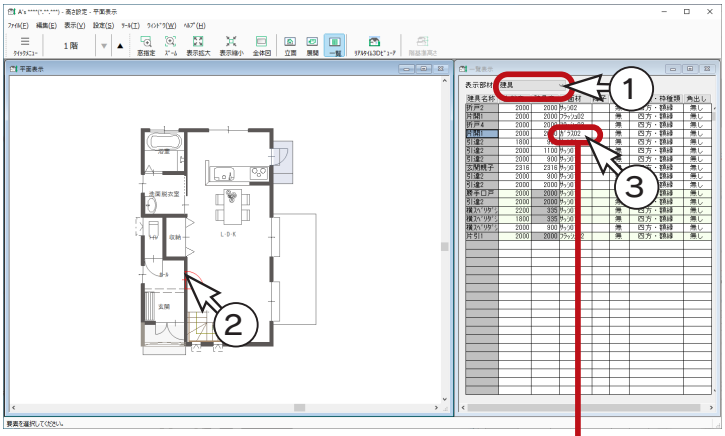
一覧表示

（一覧）をクリックすると、以下のように、平面図と一覧が表示されます。
表示部材のコンボボックスをクリックすると部材種類が表示されますので、切り替えてみてください。

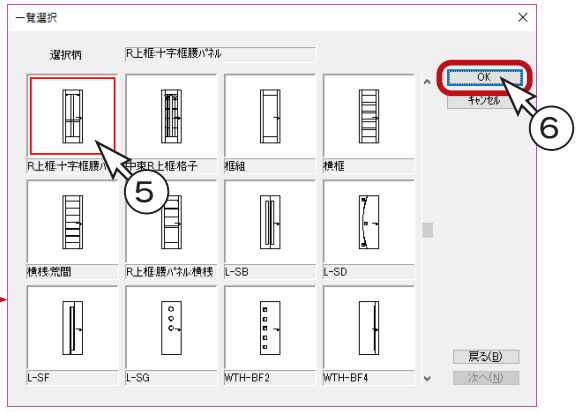


建具

建具の上端高・建具高は、一覧上の数値を直接変更できます。
面材・障子・欄間等は、クリックするとダイアログが表示されます。

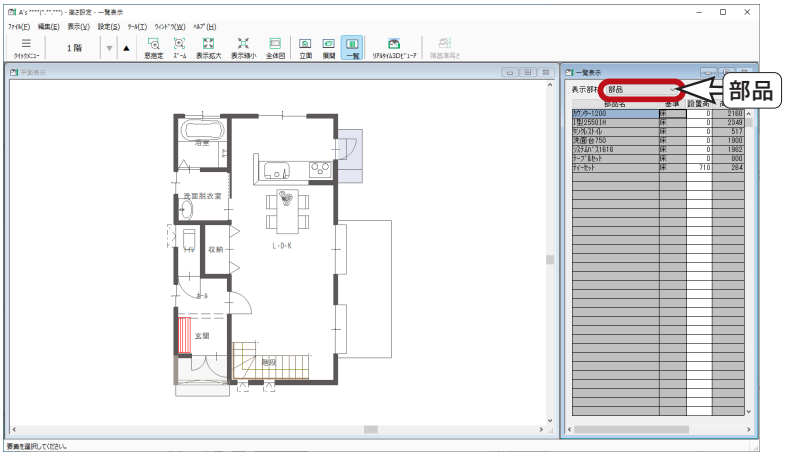


①表示部材を「建具」に設定
　＊１階の建具一覧が表示されます。
②平面表示のＬ･Ｄ･Ｋ入口の建具をクリック
　＊「片開１」が反転表示されます。
③「片開１」の面材をクリック
　＊ダイアログが表示されます。
④「柄一覧」をクリック
⑤一覧から柄を選択
　＊この例では、以下を選択しています。
　　メーカー：オリジナル１
　　柄名：Ｒ上框：十字框腰パネル
⑥「OK」をクリック
⑦「OK」をクリック

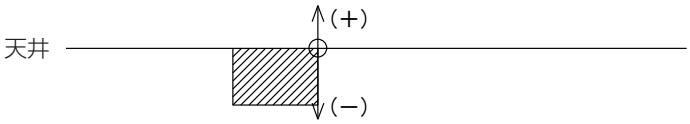


部品

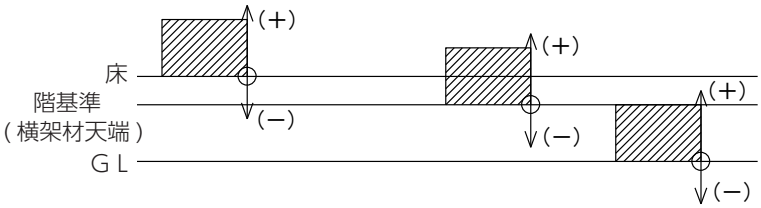
一覧表示で、表示部材を「部品」に設定すると、配置されている内観部品の基準、設置高、高さが表示されます。
設置高のみ変更が可能です。



部品によって基準が異なります。
照明部品は、床置きのもの以外は、天井基準になっています。

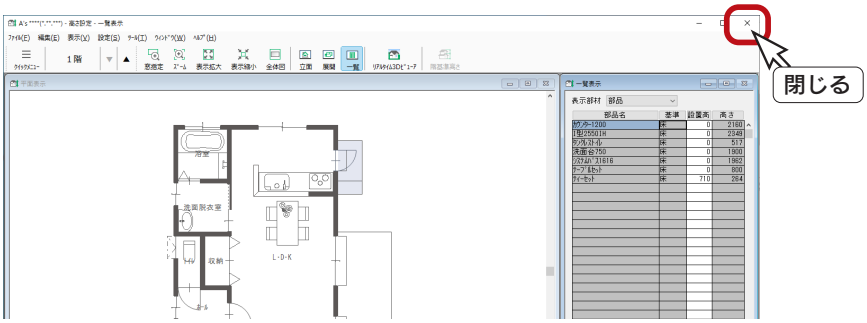


【数値入力制限】
設置高.....-9999 ～ 9999 mm



高さ設定の終了

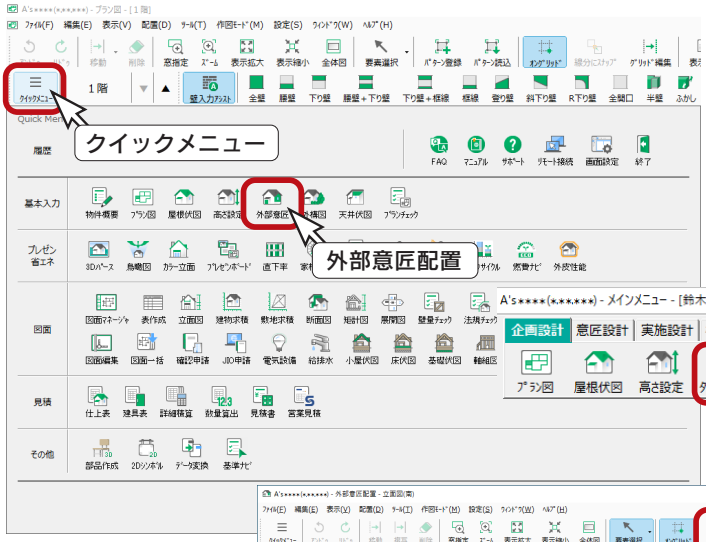
タイトルバー右端の ✕ （閉じる）、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。



5 外部意匠配置

「外部意匠配置」では、付け梁、付け柱、部分サイディングなど、「3D パース」「立面図」の表現のための外部化粧材を配置することができます。

外部意匠配置の起動

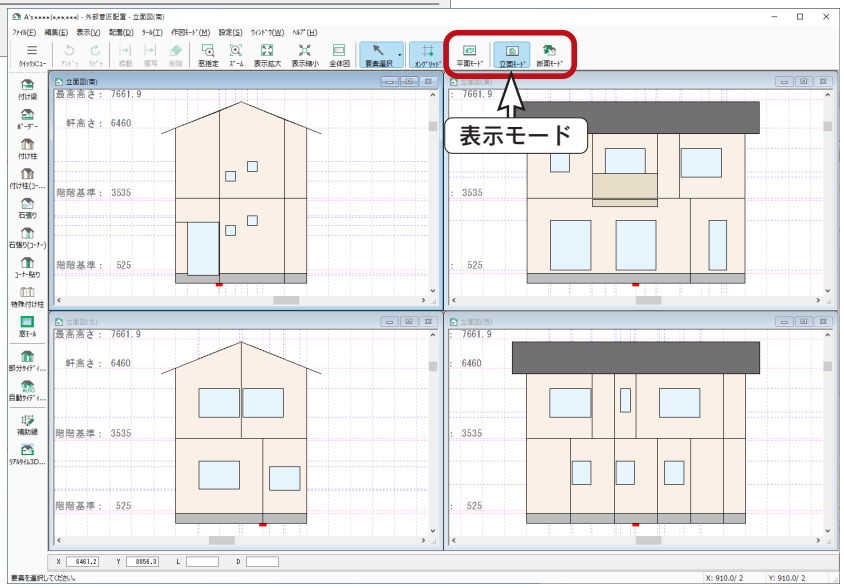


クイックメニュー、またはメインメニューの

（外部意匠配置）をクリックしてください。

外部意匠配置のウィンドウが開き、東西南北の簡易立面図が表示されます。

メインメニュー



3 種類の表示モード

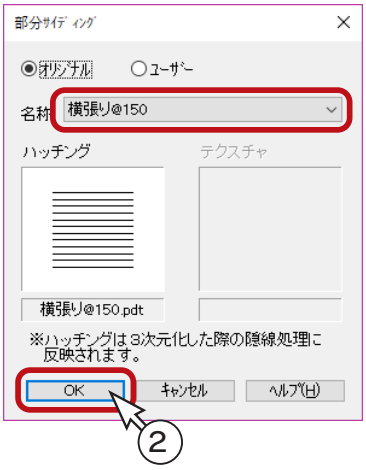
外部意匠配置の表示モードには、「平面モード」「立面モード」「断面モード」があります。
初期の表示は「立面モード」になっていますが、アイコン、もしくは「設定」メニューで切り替えができます。

補助グリッドについて

外部意匠配置のウィンドウには、「プラン図」等と同様のグリッド以外に、軒高と建具開口端が補助グリッドとして表示されます。
「設定」⇒「補助グリッド設定」にて、軒高・建具開口端・意匠部材端の表示の有無を設定することができます。
外部化粧材を配置すると、配置した位置に自動で補助線が生成されます。

部分サイディング

南面に部分サイディングを配置しましょう。



①（部分サイディング）をクリック

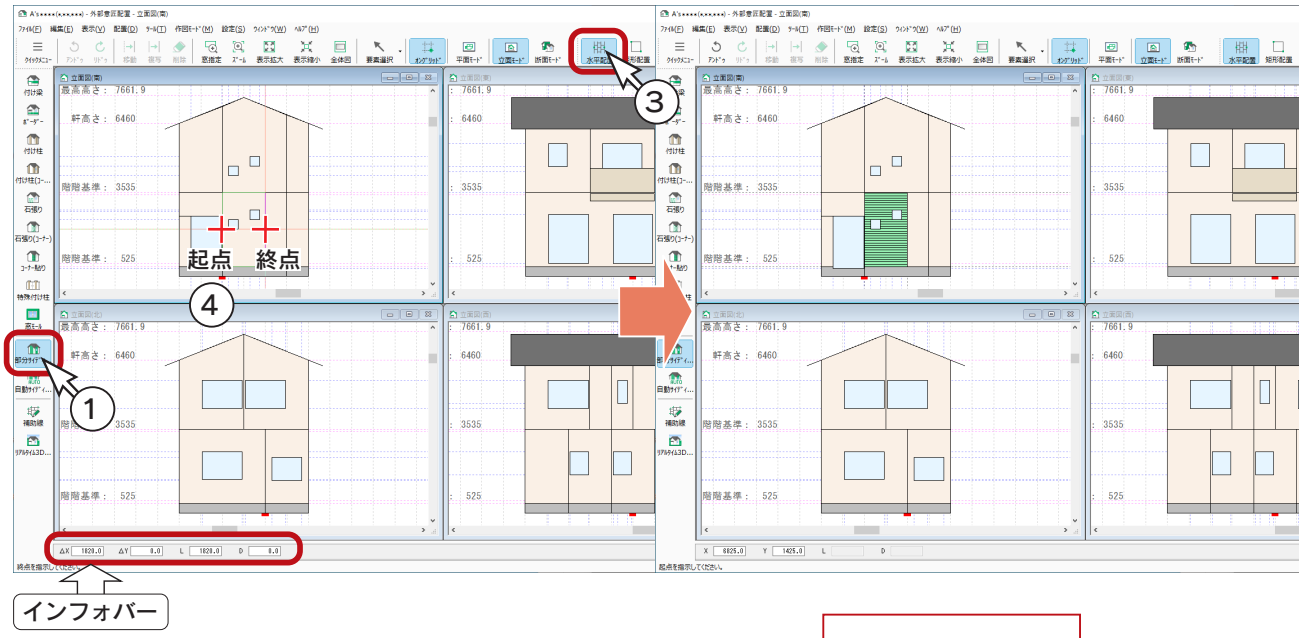
＊ダイアログが表示されます。

②「横張り@ 150」を確認し、「OK」をクリック

③（水平配置）を確認

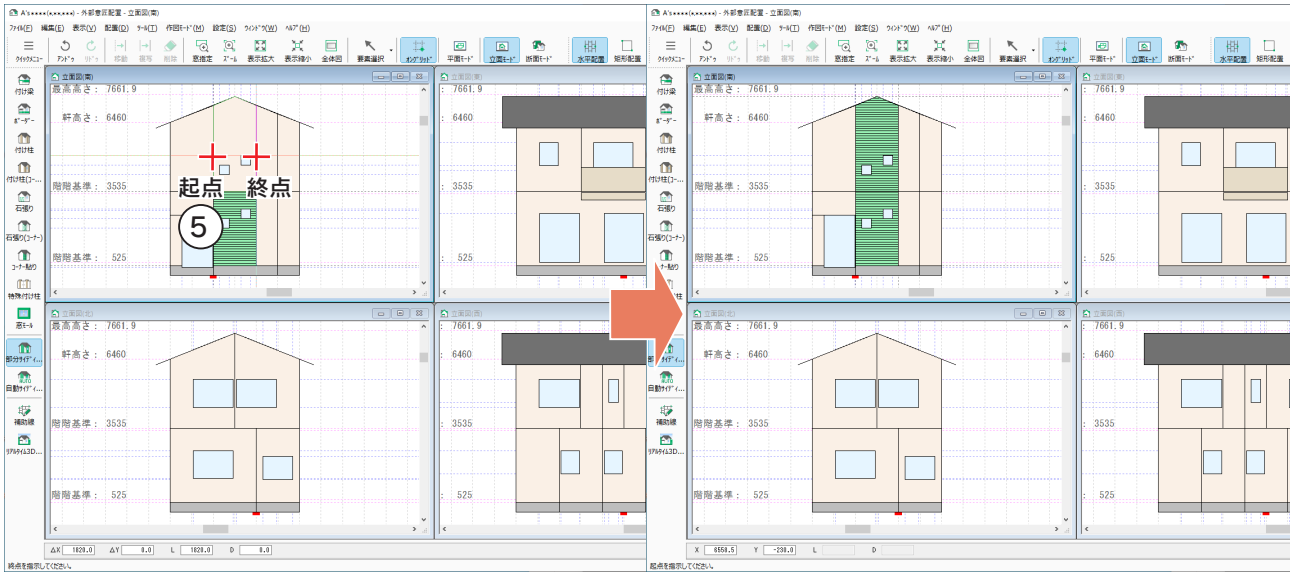
④図のように、起点－終点を指示

＊起点は、インフォバーで X の値が「0.0」と表示される位置です。終点は「1820.0」です。



階層別に入力します。

⑤続けて 2 階に、同様に、起点－終点を指示

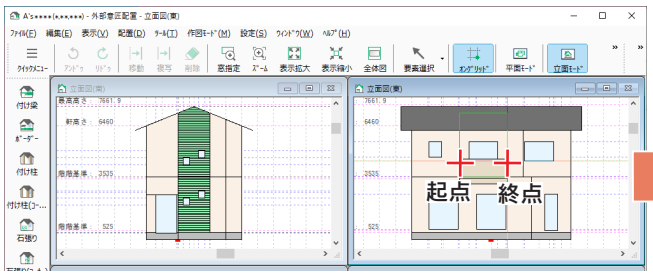


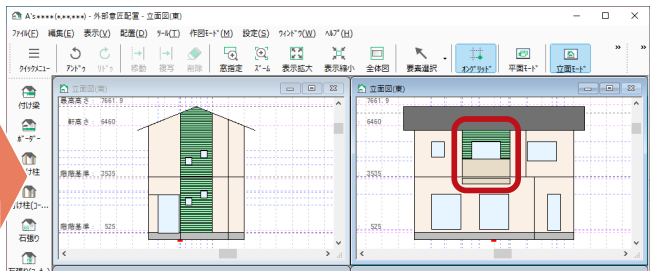
バルコニー手摺の部分サイディング

このトレーニングでは入力しませんが、バルコニー手摺の部分サイディングについて補足します。

■立面モードでは配置されない

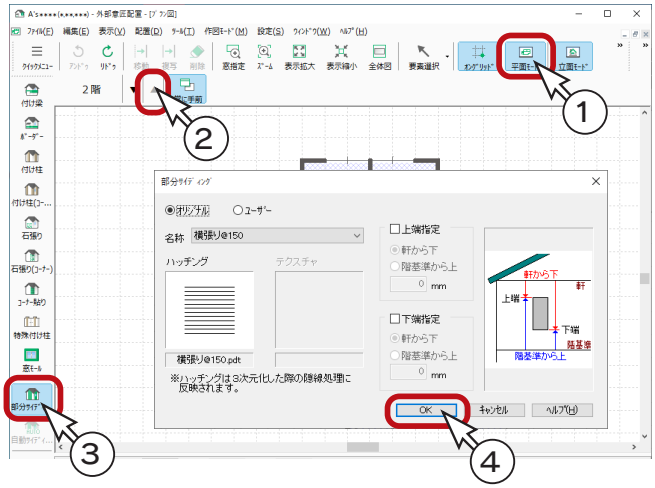
例えば、前ページと同じ要領でバルコニーのある外壁に部分サイディングを入力すると、バルコニーの奥の外壁にのみ配置され、バルコニー手摺には配置されません。





■平面モードで配置できる

平面モードを利用することで、バルコニー手摺に部分サイディングを配置することができます。
例えば、以下のように操作します。



①（平面モード）をクリック
＊プラン図が表示されます。

②（上階選択）をクリックし、2 階を表示

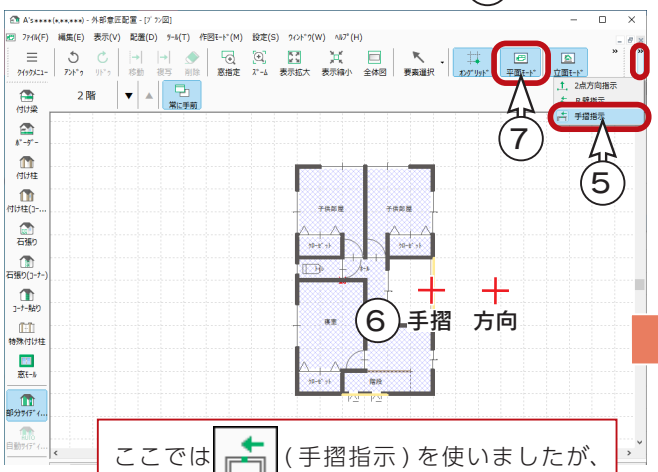
③（部分サイディング）をクリック
＊ダイアログが表示されます。

④配置するサイディングを設定し、「OK」をクリック

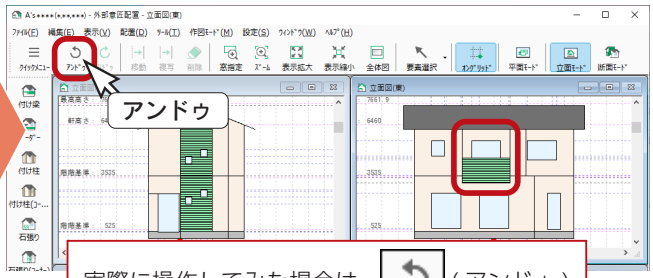
⑤作図モードを（手摺指示）に設定
＊アイコンが表示されていない場合は、をクリックして選択してください。

⑥バルコニー手摺を指示し、方向を指示
＊部分サイディングが配置されます。
＊方向の指示で内側を指示すると、手摺の内側に配置することができます。

⑦（平面モード）をクリックし、（立面モード）に戻る



ここでは（手摺指示）を使いましたが、（2 点方向指示）でも配置できます。



実際に操作してみた場合は、（アンドゥ）をクリックしてください。

平面モードでは、バルコニー手摺以外にも、立面モードでうまく配置できない部分（この物件では、凹型のポーチやバルコニーの内側の外壁など）にも配置できます。

付け柱

サイディングの境に、付け柱を配置しましょう。

① （付け柱）をクリック

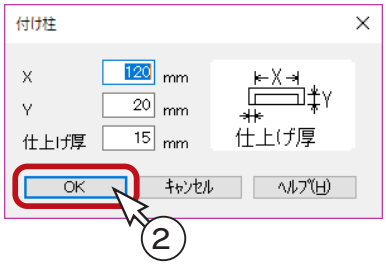
＊ダイアログが表示されます。

②サイズを確認し、「OK」をクリック

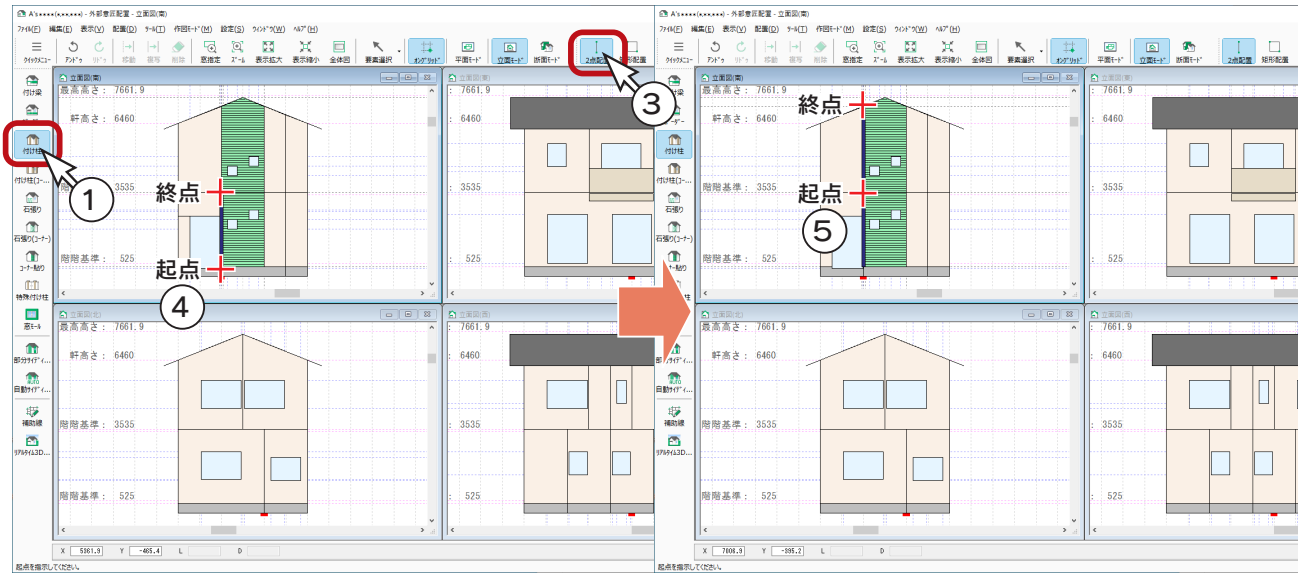
③ （2 点配置）を確認

④図のように、1 階に起点－終点を指示

⑤続けて、2 階に起点－終点を指示

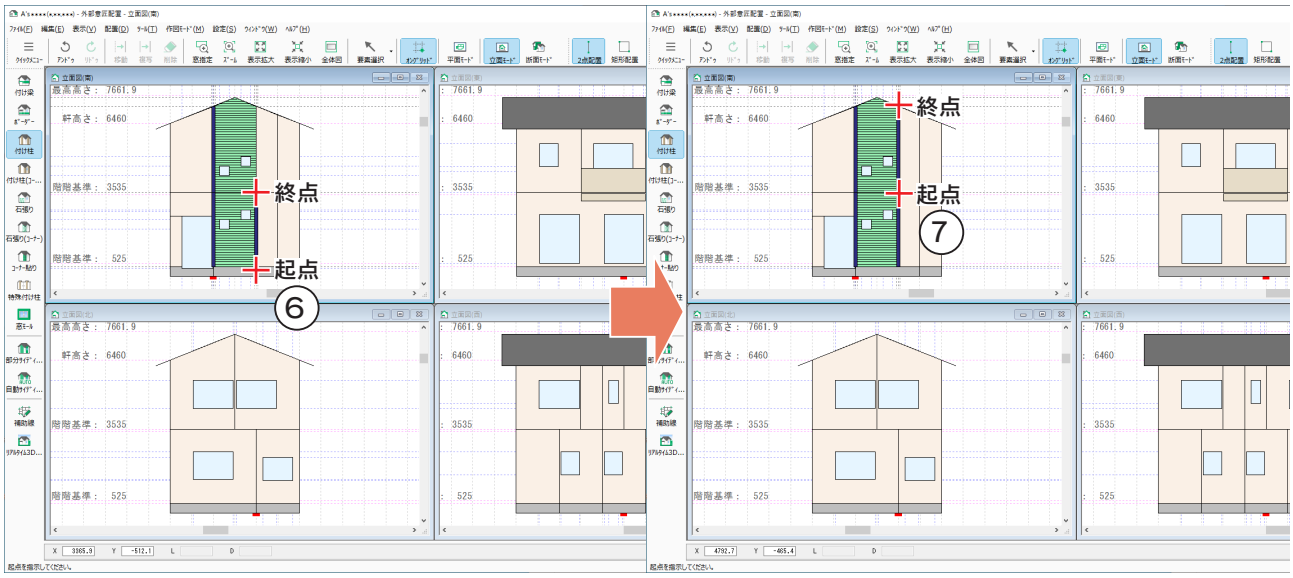


階層別に入力します。



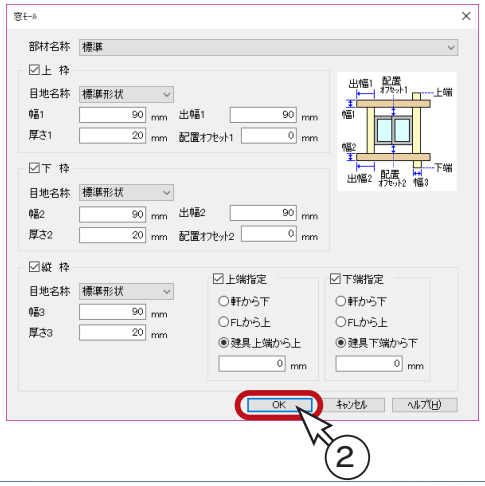
⑥同様に、1 階に起点－終点を指示

⑦続けて、2 階に起点－終点を指示



窓モール

南面の窓に、窓モールを配置しましょう。



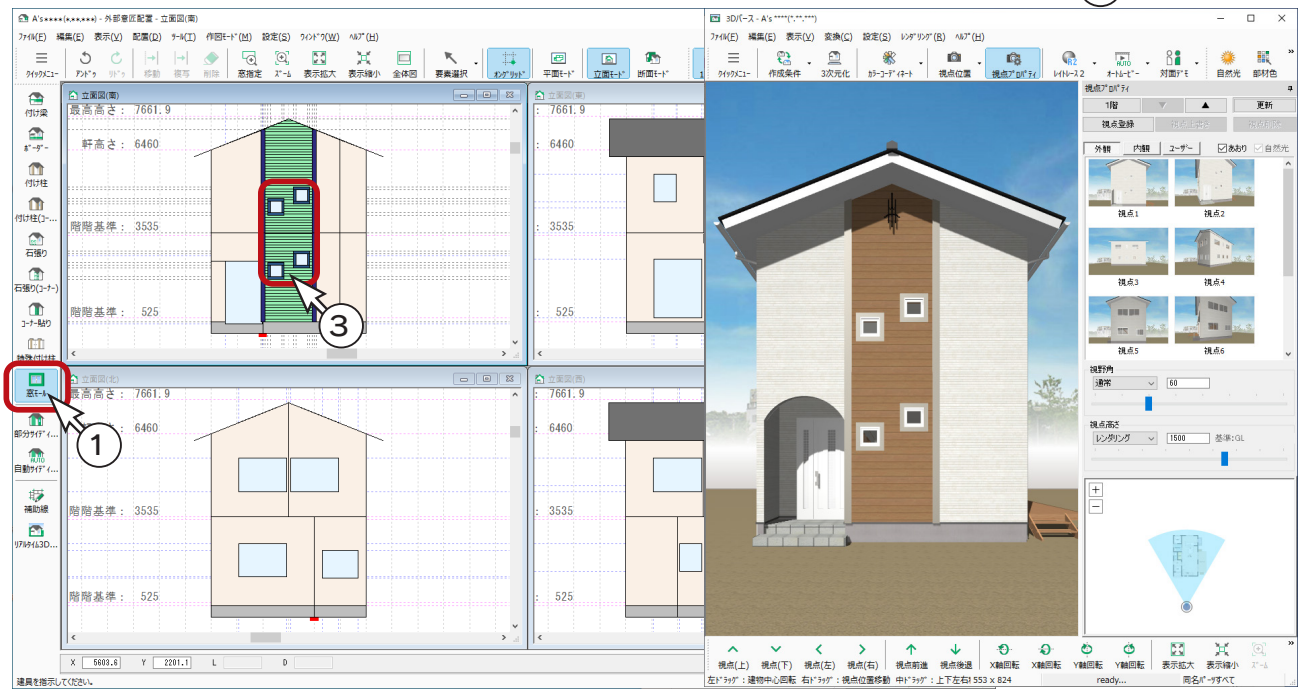
① （窓モール）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

②サイズを確認し、「OK」をクリック

③南面の窓４つを、それぞれ指示

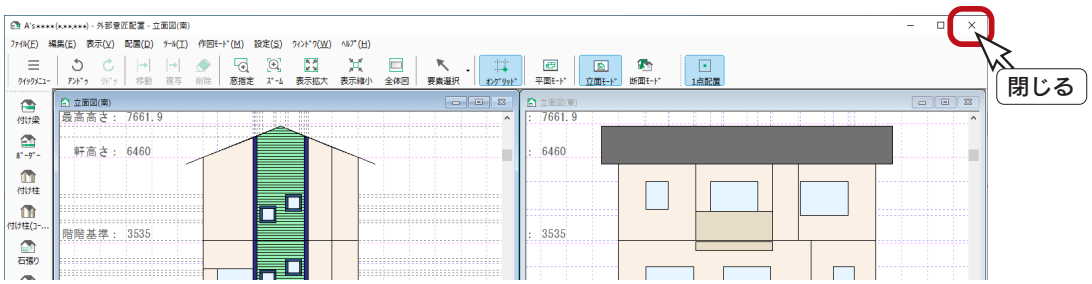
＊窓モールの配置モードは、 （1 点配置）です。



配置した外部意匠も、3D パースで確認できます。

外部意匠配置の終了

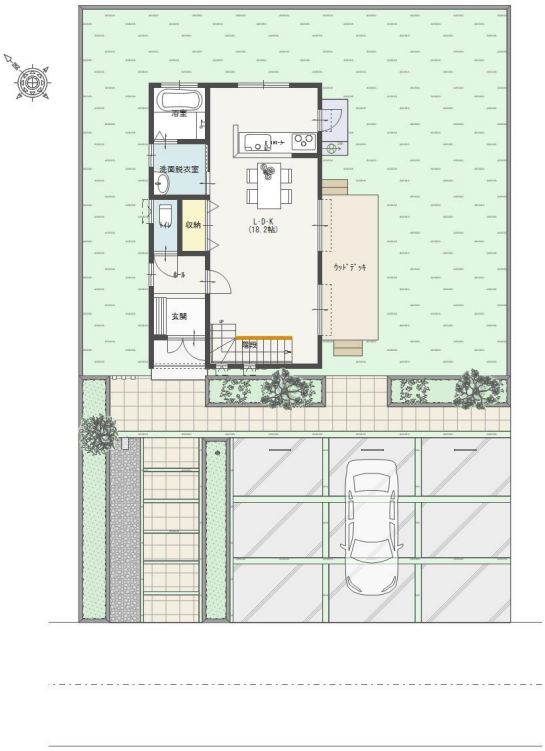
タイトルバー右端の （閉じる）、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。



6 外構図

「外構図」では、敷地形状の入力のほか、敷地面に高低を設定したり、外構部品（門扉・塀・樹木等）を配置したりすることができます。
外構図の入力データは、「敷地求積図」「配置図図面出力」「法規チェック」に利用されるほか、「3Dパース」や「立面図」にも反映されます。

作成する外構図



オート外構・手動入力について

ここでは、外構セット配置を使用しています。
「オート外構」につきましては、『初級編』をご覧ください。
また、外構図の手動入力につきましては、『基本詳細編』をご覧ください。

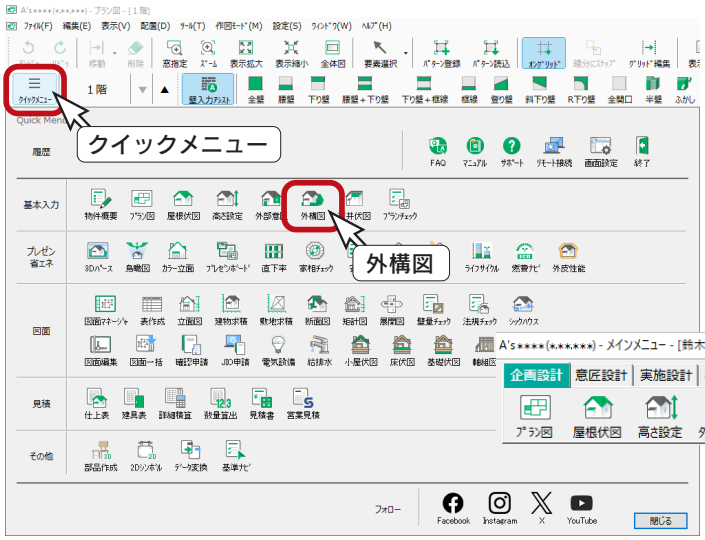
法規チェックのための外構図とは

「法規チェック」のためには、以下のデータが必要不可欠です。

プラン図	壁、部屋名、建具 （出窓、ポーチ、テラス、バルコニーは入力されていれば読み込む）
屋根伏図	屋根
外構図	敷地線、境界条件、用途地域、真北方向、敷地に対する建物の位置

これらのデータが入力されていない場合は、「法規チェック」の機能が動作しません。
また、「法規チェック」は、４階以上の建物には対応していません。

外構図の起動

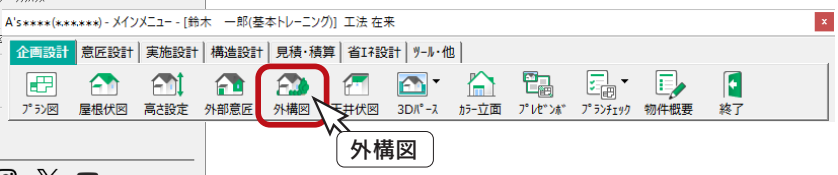


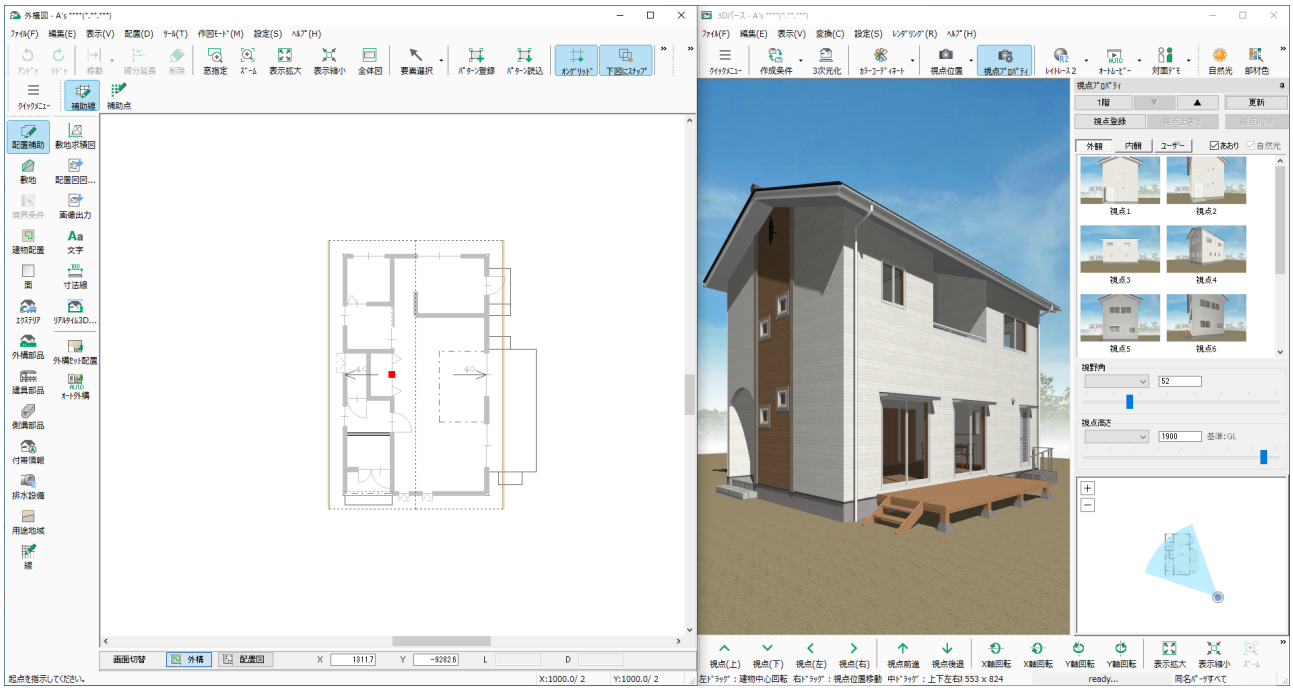
クイックメニュー、またはメインメニューの

（外構図）をクリックしてください。

外構図のウィンドウが表示されます。
外構図を起動した際は、建物線と屋根線のみが表示されます。

メインメニュー





外構セット配置

あらかじめ登録してある外構データを一括で読み込むことによって、簡単操作で外構データ付きの建物をプレゼンに利用できます。

① （外構セット配置）をクリック

＊外構セットデータを選択する画面が表示されます。

②左側のツリーから「03_オプション 1-【広間口タイプ】」の「オープン」をクリック

③右側のサムネイルから「オープン W24」をクリック

＊表示イメージやサムネイルサイズの切替が可能です。

④「取込み」をクリック

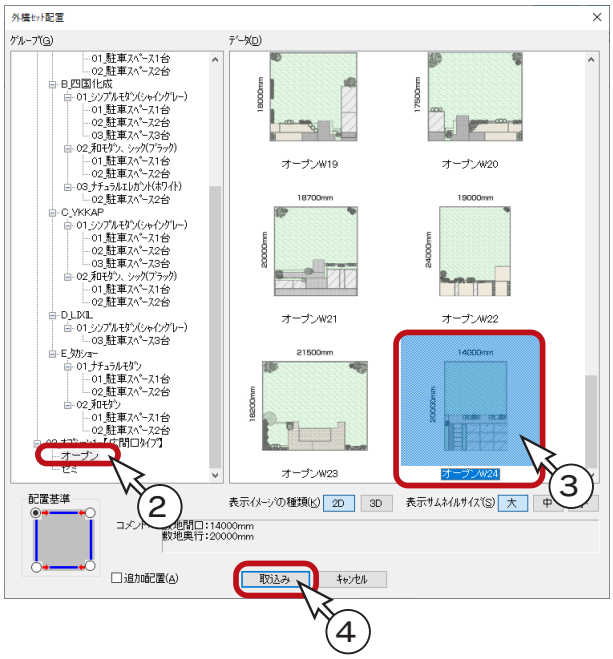
＊敷地線、外構データが存在する場合は、既存データの扱いを選択できます。

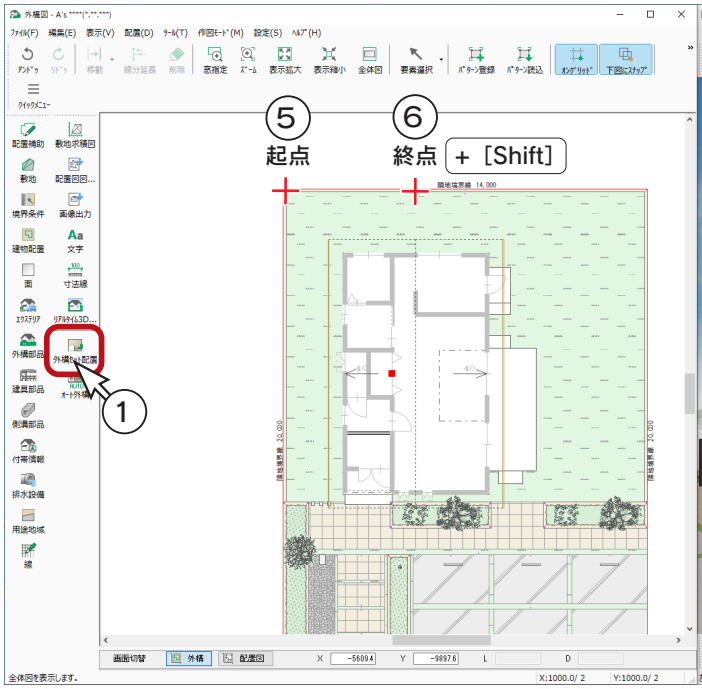
⑤下図のように、起点を指示

⑥ [Shift] キーを押しながら、終点を指示

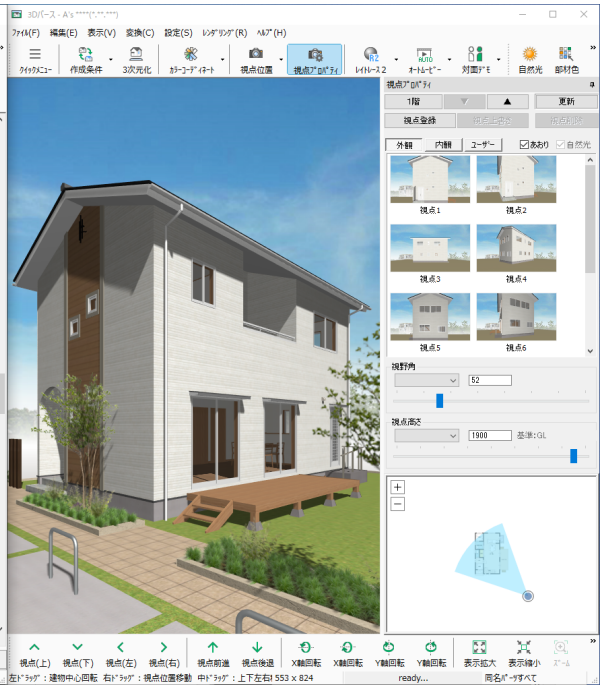
＊起点は配置基準の設定位置です。終点で配置方向を指示します。
建物の周辺と玄関の位置に合わせて配置します。

＊起点－終点の長さは、短くても長くてもかまいません。





外構セットデータのアプローチと、建物の玄関を合わせるようにします。



配置した外構も、3D パースで確認できます。

外構部品の配置

外構部品の配置方法は、基本的には内観部品と同じです。
ここでは、自動車を配置してみましょう。

部品配置の前に、敷地全体が表示されるように、調整してください。

① （外構部品）をクリック

＊外構部品種類のアイコンが表示されます。

② （自動車）をクリック

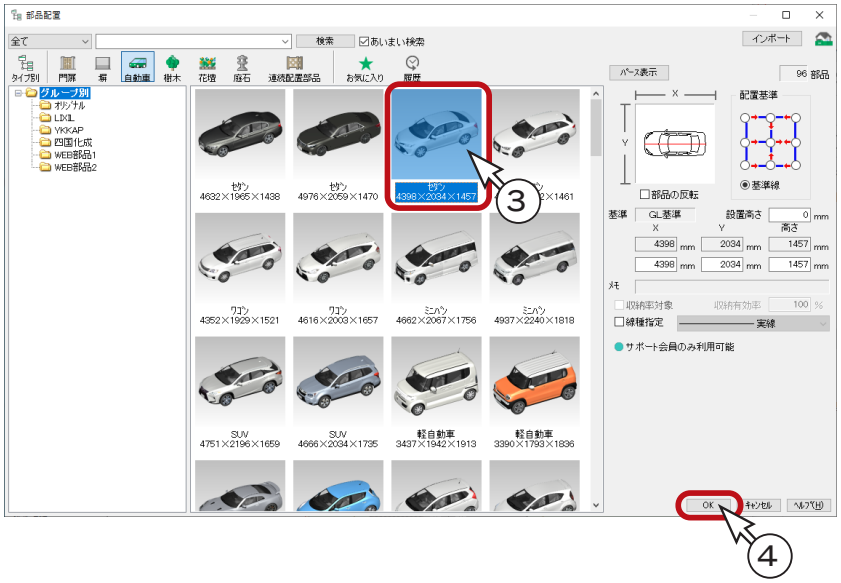
＊ダイアログが表示されます。

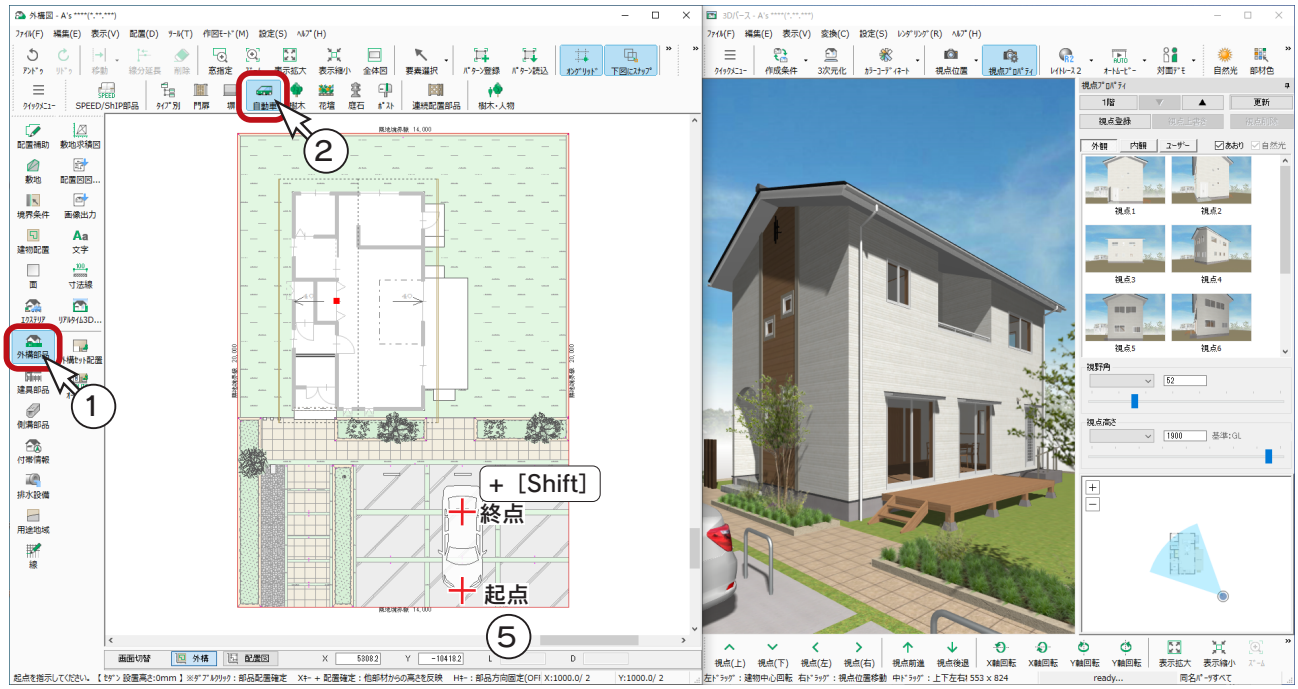
③白の「セダン」をクリック

④「OK」をクリック

⑤図のように、起点－終点を指示

＊垂直に配置するには、[Shift] キーを押しながら終点を指示します。





法規チェックのために

「法規チェック」のために、境界条件、真北方向、用途地域を設定します。

パースやプレゼンボードを作成するときは、省略してもかまいません。

境界条件

敷地を入力すると、自動ですべての境界線が「一般隣地」に設定され、「隣地境界線」の文字が配置されます。
ここでは、画面下側の境界条件を「道路境界線」に変更しましょう。

① （境界条件）をクリック

②画面下側の敷地線を指示

③ダイアログが表示されるので、境界条件を「前面道路」に設定

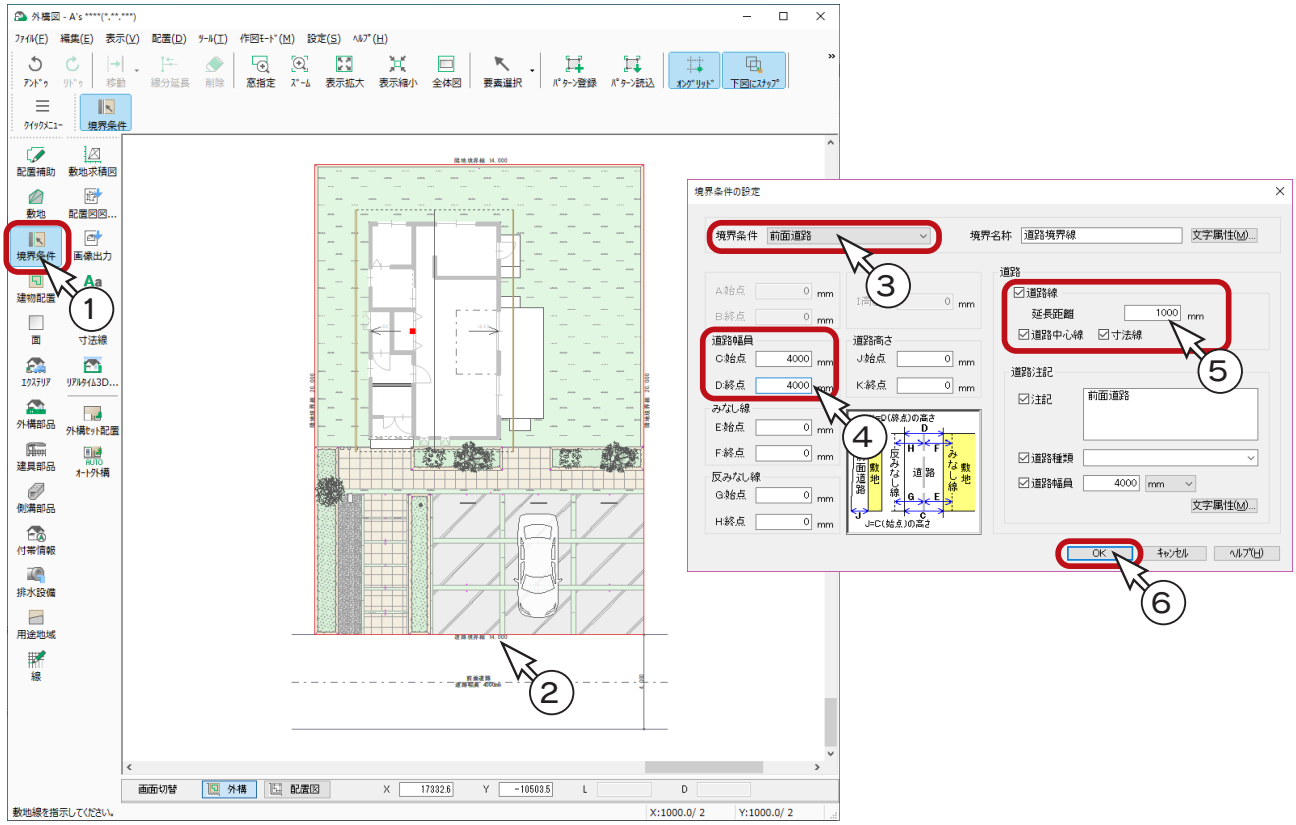
④道路幅員の始点・終点をともに「4000」と入力

＊始点に数値を入力後、終点の入力欄をクリックすると、同じ数値が入力されます。

⑤道路線、道路中心線にチェックが入っていることを確認し、道路線の延長距離を「1000」に設定

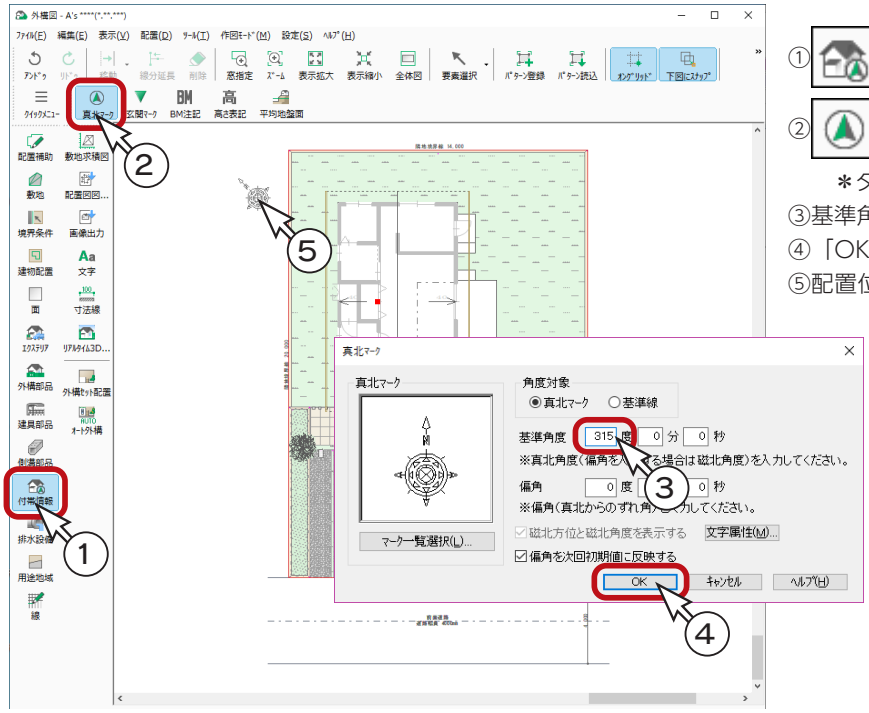
＊チェックが入っていない場合は、入れてください。

⑥「OK」をクリック



（要素選択）で境界条件の文字をダブルクリックしても、設定変更が可能です。

真北マーク



① （付帯情報）をクリック

② （真北マーク）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

③基準角度を「315」度に設定

④「OK」をクリック

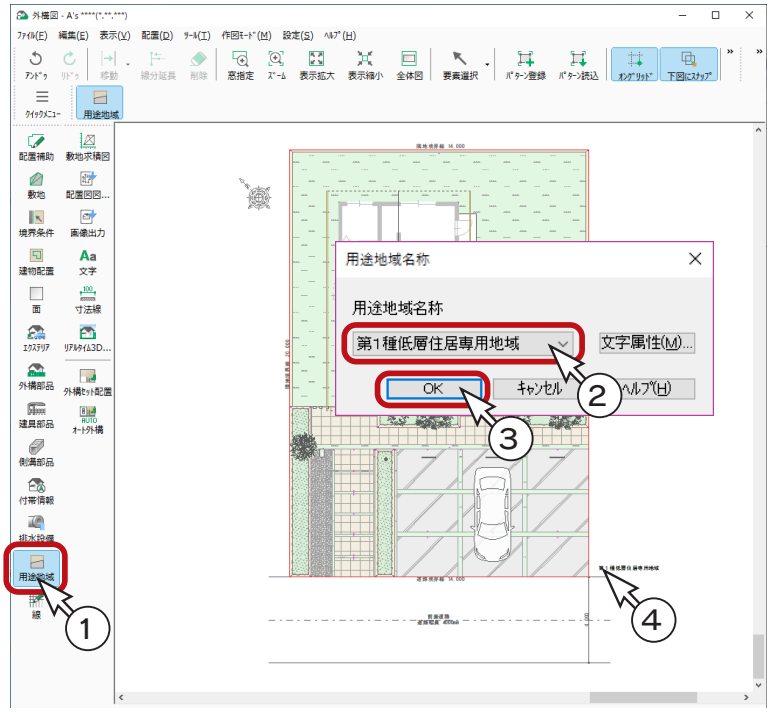
⑤配置位置を指示

真北マークの方向はレンダリングにも影響する

真北マークを配置すると、マークの示す方向がプログラム上では北と認識され、３Ｄパースの太陽の位置に反映しますので、レンダリングにも影響します。

用途地域

敷地を入力した時点で、物件概要で指定した用途地域が表示されます。
このトレーニングでは、敷地入力時には未指定なので、設定してみましょう。



① （用途地域）をクリック

＊ダイアログが表示されます。

②用途地域名称を設定

＊ここでは、「第１種低層住居専用地域」に設定します。

③「OK」をクリック

④配置位置を指示

配置図 (画像) の出力

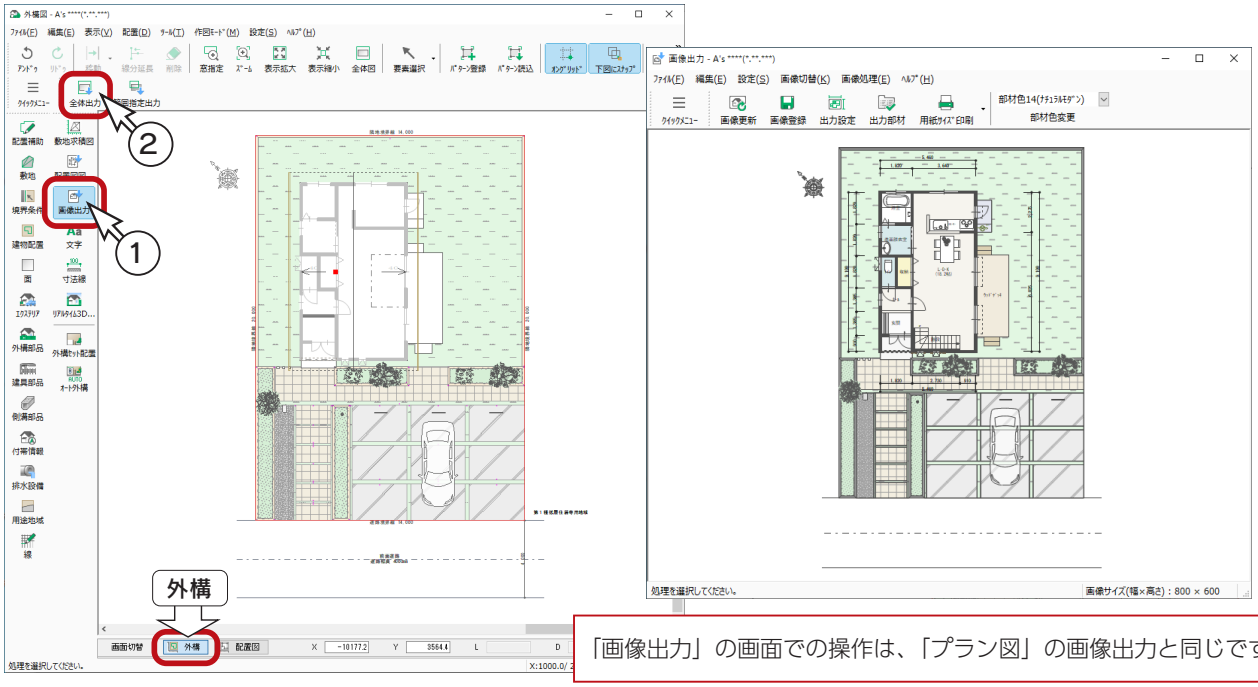
配置図 (画像) は、「外構」の画面表示で作成します。

①外構の画面にて、ツールバーの (画像出力) をクリック

② (全体出力) をクリック

＊一部分を出力する場合は、 (範囲指定出力) をクリック後、出力範囲を対角 2 点の矩形で指定します。

＊処理後、別ウィンドウに配置図のカラー画像が表示されます。

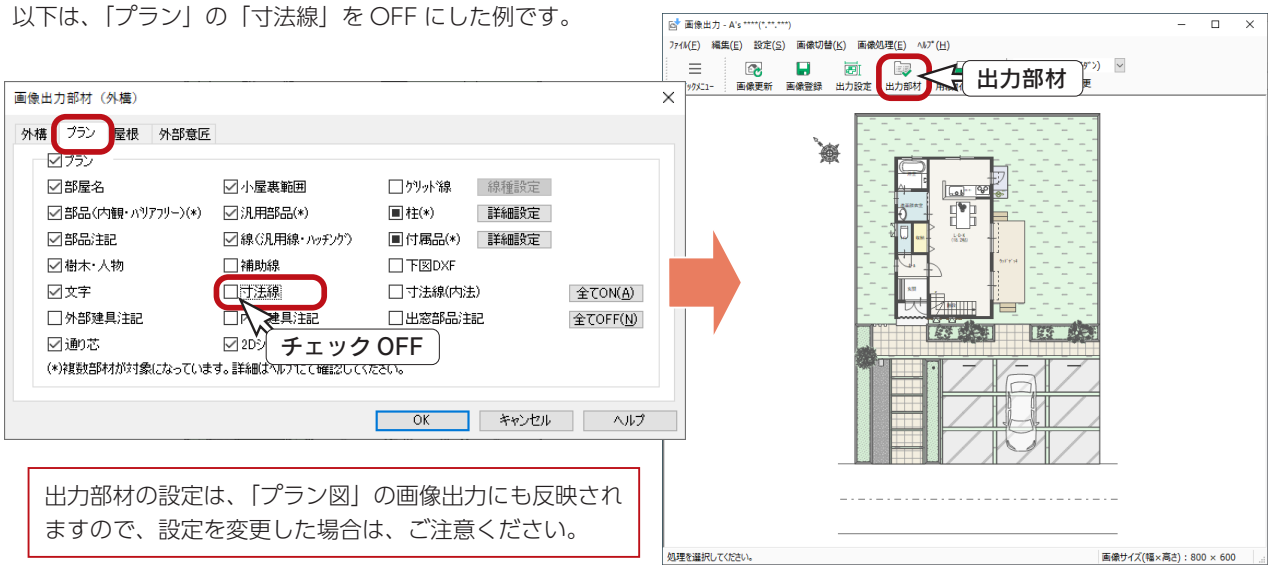


「画像出力」の画面での操作は、「プラン図」の画像出力と同じです。

出力部材の利用

画像出力の (出力部材) では、「外構」、「プラン」など、アプリケーションごとに、部材の出力の有無を設定できます。

以下は、「プラン」の「寸法線」を OFF にした例です。

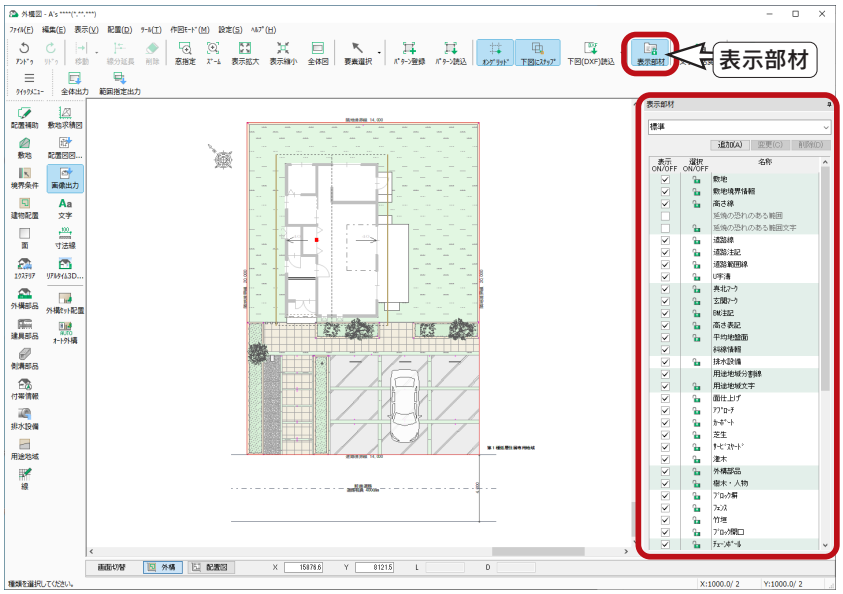


出力部材の設定は、「プラン図」の画像出力にも反映されますので、設定を変更した場合は、ご注意ください。

表示部材の利用

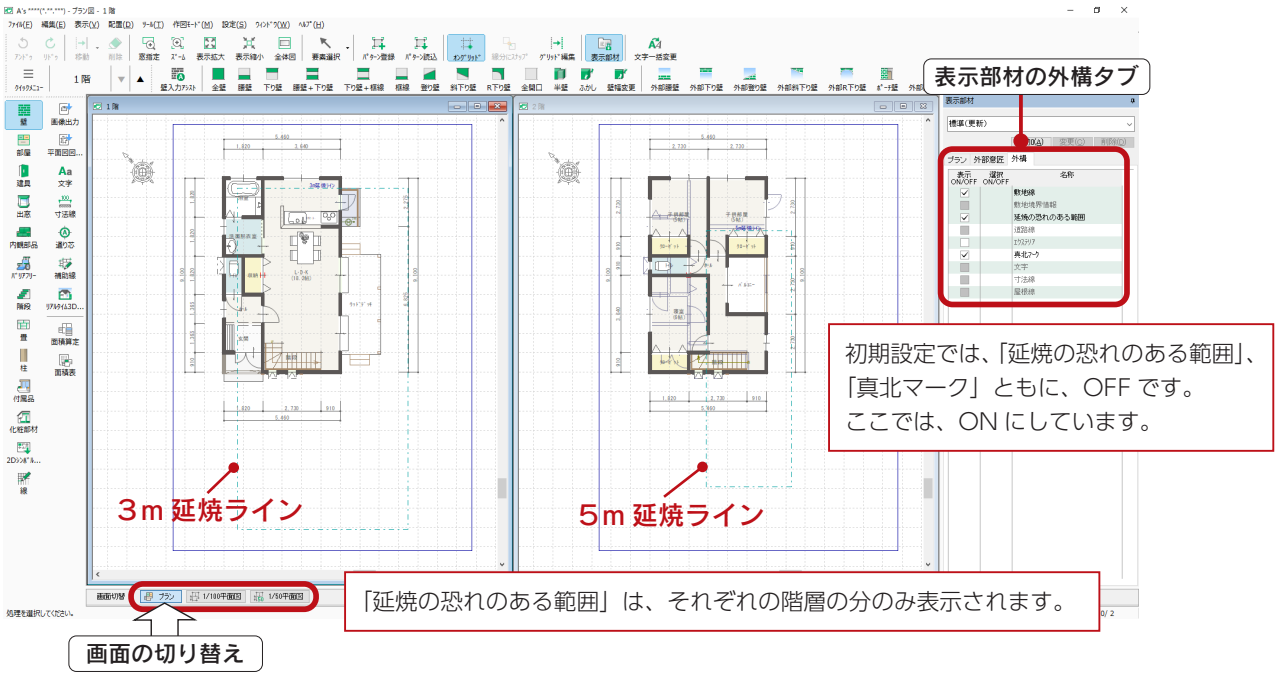
（表示部材）をクリックすると、画面右側に表示部材一覧が表示されます。

表示部材一覧では、部材の表示 / 非表示のほか、要素選択のロック / 解除も可能です。



プラン図での「延焼の恐れのある範囲」「真北マーク」表示

プラン図では、「プラン」、「1/100 平面図」、「1/50 平面図」のいずれの画面表示でも「延焼の恐れのある範囲」及び「真北マーク」を表示できます。「プラン」画面で、どこが延焼範囲であるかを確認しながら、建具の配置などができます。

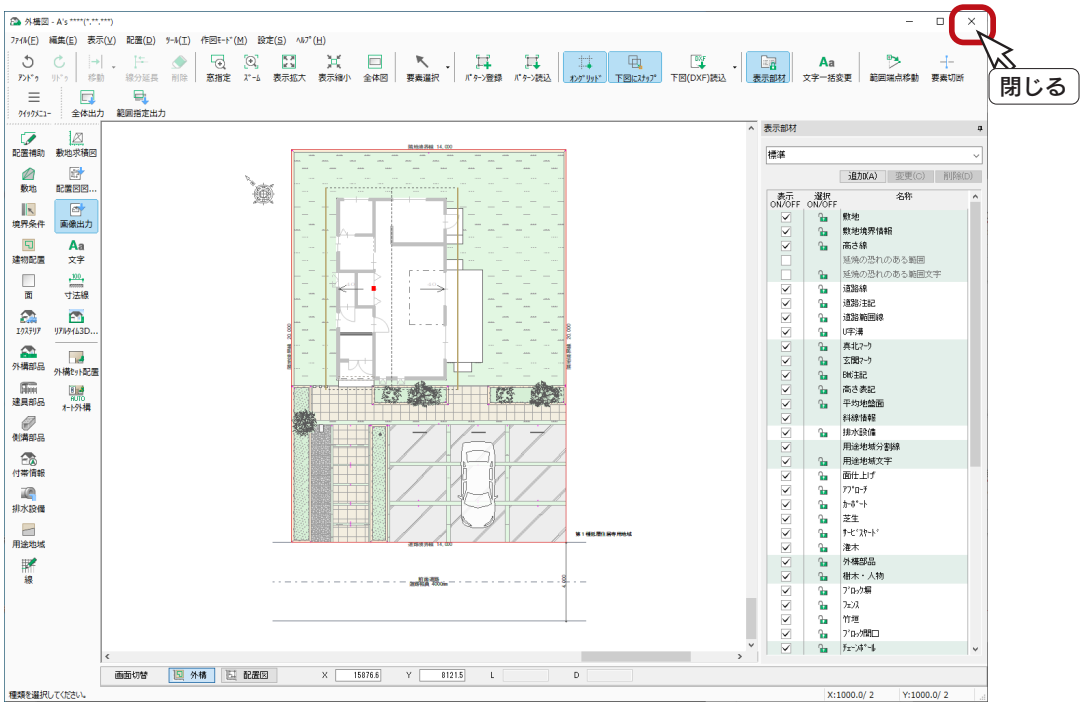


プレゼンボード用の真北マークの画像出力

プレゼンボードのオートプレゼンテーションで、平面図画像が含まれるテンプレートを使用した場合、真北マークの画像が単独で出力され、プレゼンボードの編集に使用できます。

外構図の終了

タイトルバー右端の ✕ （閉じる）をクリック、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。



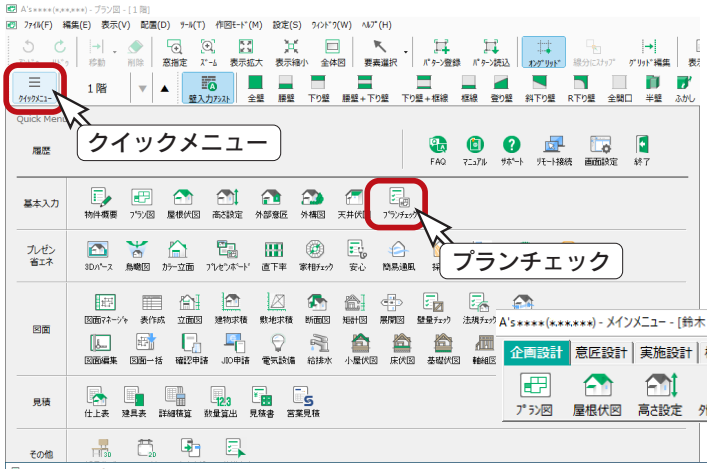
7 プランチェック

「プランチェック」では、以下のデータについてチェックを行います。

プラン図	壁、区画、建具、庇
屋根伏図	屋根
外部意匠配置	部分サイディング

「プランチェック」では、チェックや判定を行うのみです。
「プラン図」など、他のアプリケーションのデータに影響はありません。

プランチェックの起動

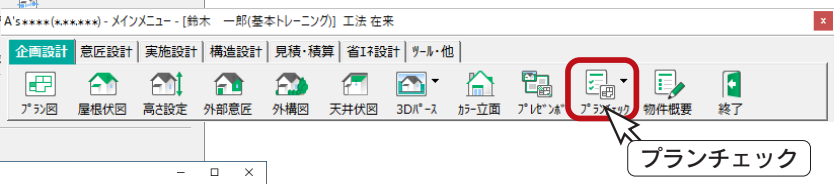


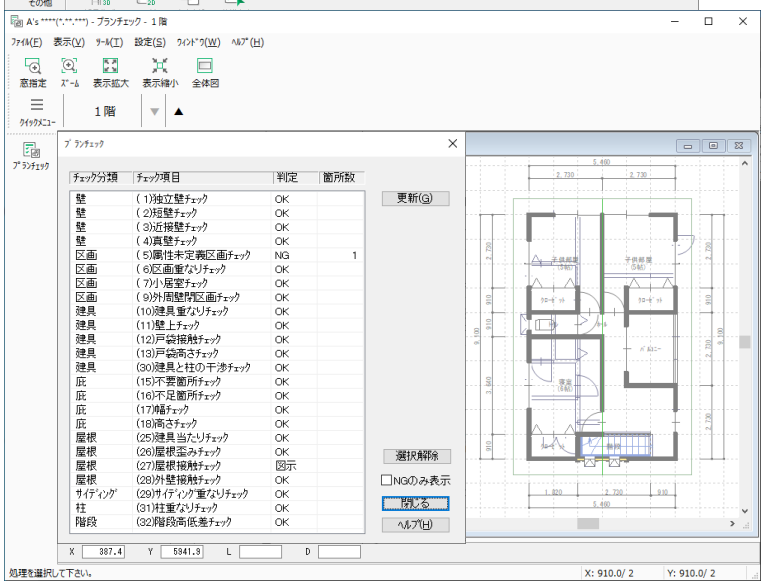
クイックメニュー、またはメインメニューの

（プランチェック）をクリックしてください。

プランチェックの画面が表示され、チェック結果も表示されます。

メインメニュー



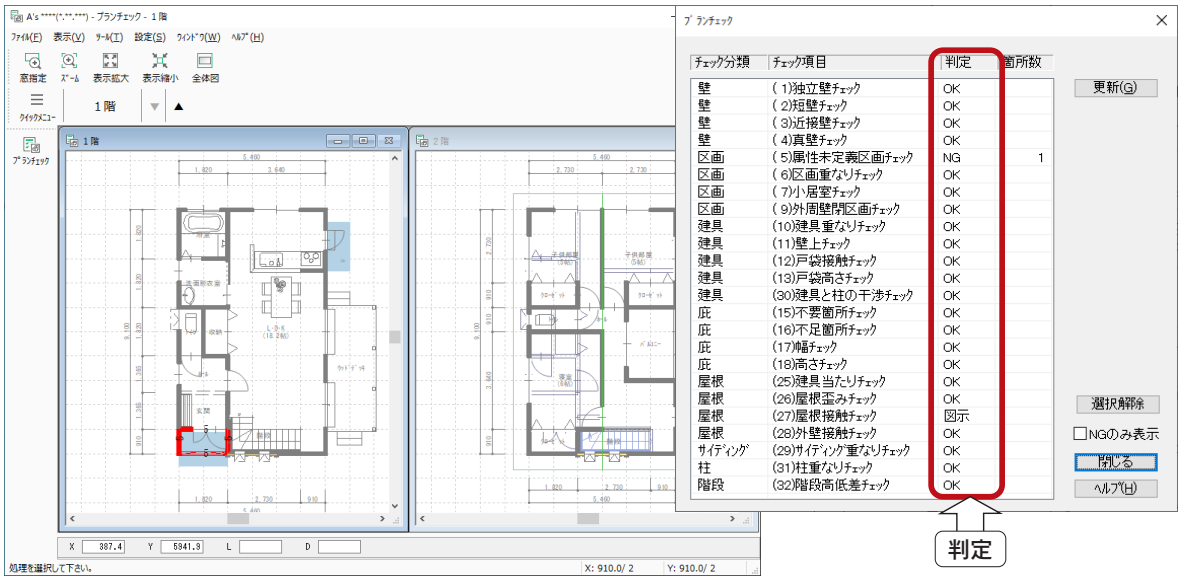


アイコンが異なる場合は、プルダウンメニューから選択してください。

チェック結果の確認

チェック結果の画面にて、判定を確認します。

「閉じる」をクリックすると、チェック結果の画面が閉じますが、ツールバーの（プランチェック）をクリックして再表示することができます。



■判定について

判定は「OK」か「NG」を表示します。
「NG」の項目については、NG 箇所数も表示します。
「屋根接触チェック」は、常に「図示」と表示される項目です。

チェック項目の詳細はヘルプに

物件によっては意図的な入力もありますので、全てのチェックが「OK」にならなくてもかまいません。
チェック項目の詳細は、ヘルプをご覧ください。

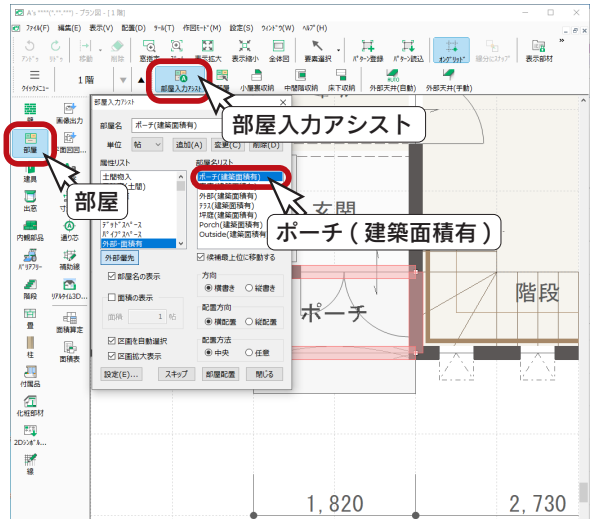
■NG があったら？

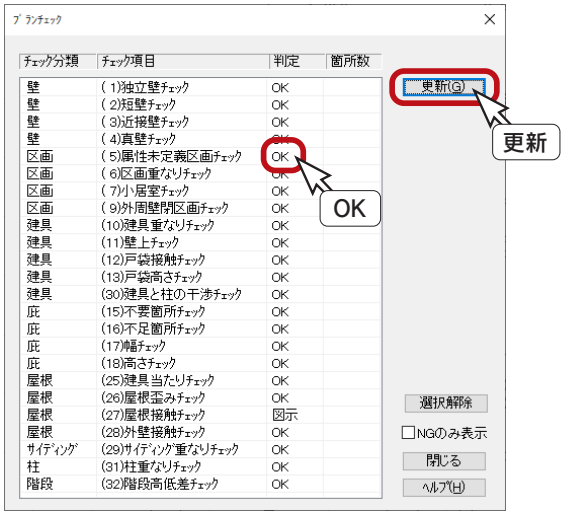
チェックに「NG」があった場合は、「プラン図」や「屋根伏図」の修正が必要となります。
この物件では、「区画：(5) 属性未定義区画チェック」に「NG」があり、確認すると、ポーチ部分になります。

「プラン図」に戻り、（部屋）にて、ポーチ部分を「ポーチ（建築面積有）」に設定します。

以下の例では、（部屋入力アシスト）で設定しています。

プランチェック結果の「更新」をクリックすると、変更が反映され、「NG」は解消します。

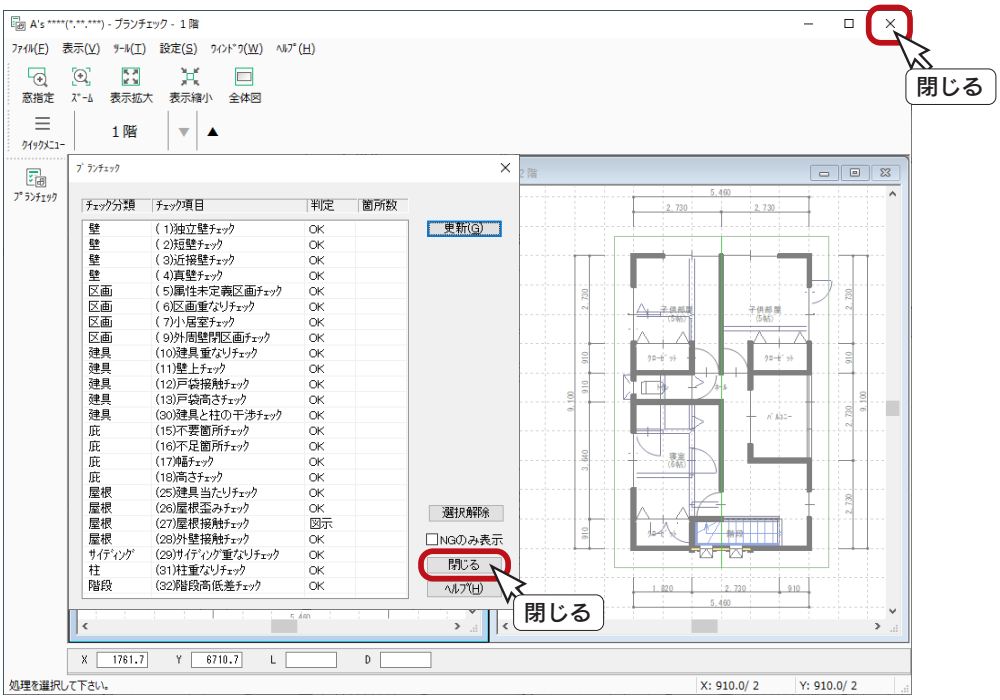




プランチェックの終了

まず、プランチェック結果の「閉じる」をクリックします。

次に、タイトルバー右端の ✕ （閉じる）をクリック、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。

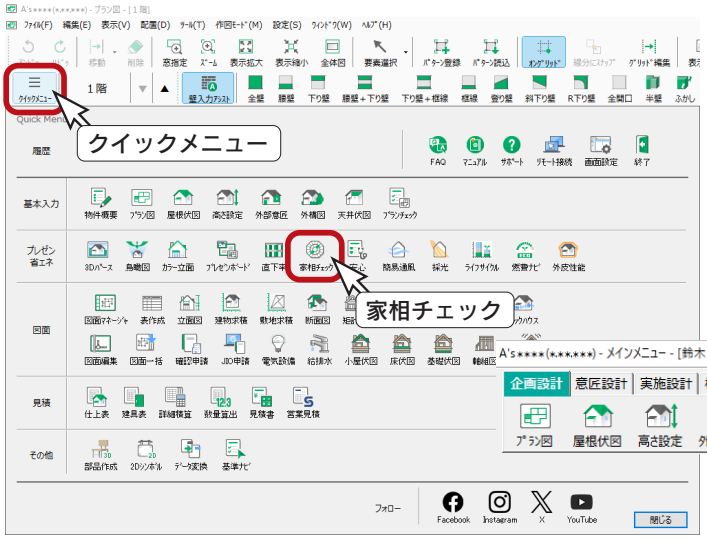


8 家相チェック

「家相チェック」では、家相を気にするお施主様に対して、設計時にプレゼンができます。
家相は、古く中国からの言い伝えによって現存しているため、それぞれの地方や人によって考え方が異なります。
本システムでは、それぞれのお客様が利用できるように、自由度を高くしました。

「家相チェック」では、チェックを行うのみです。
「プラン図」など、他のアプリケーションのデータに影響はありません。

家相チェックの起動

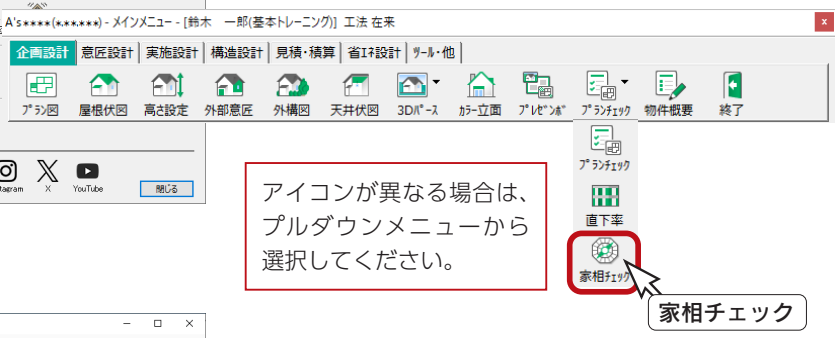


クイックメニュー、またはメインメニューの

（家相チェック）をクリックしてください。

家相チェックのウィンドウが表示されます。

メインメニュー



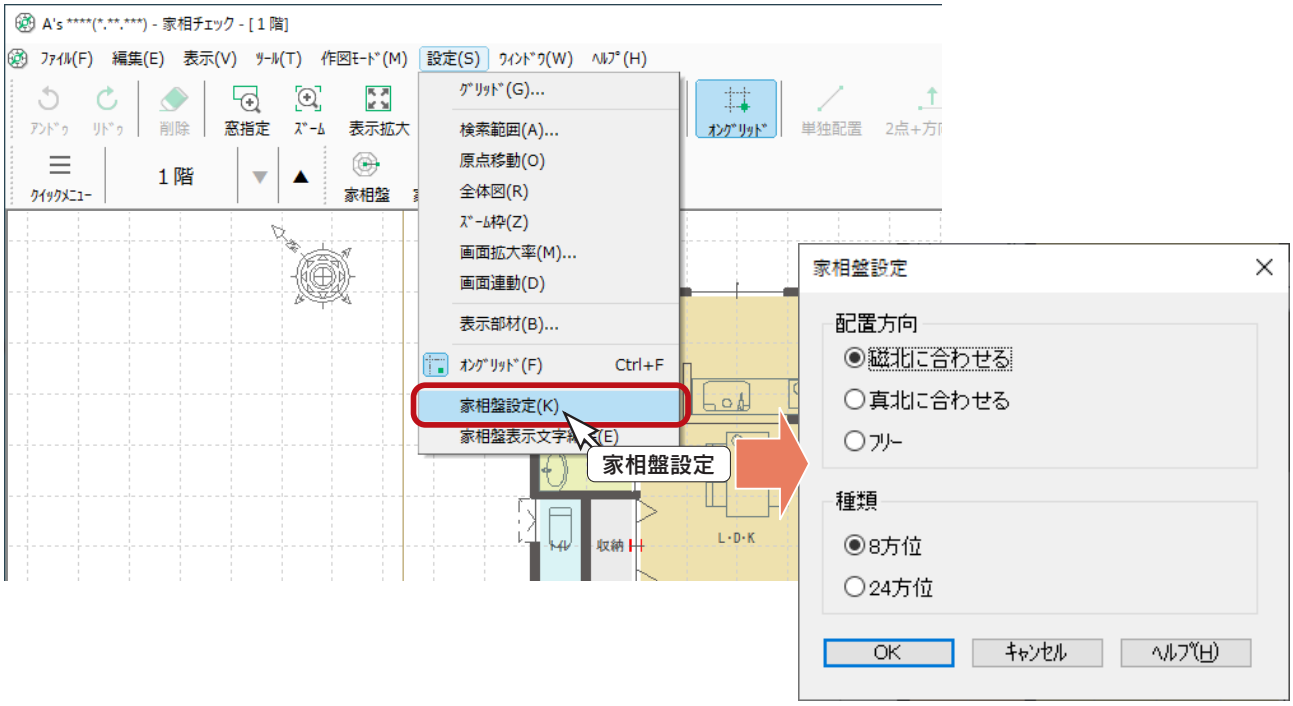
アイコンが異なる場合は、プルダウンメニューから選択してください。

真北マークの読み込み

「外構図」で真北マークを配置済みの場合は、真北マークが表示されます。

家相盤設定

家相盤の配置の前に、「設定」⇒「家相盤設定」を確認し、必要に応じて変更してください。
ここでは、初期設定のままとします。



■配置方向

磁北に合わせる・・・・・ 家相盤の方位を「外構図」で配置した真北マークの磁北方位に合わせます。
真北に合わせる・・・・・ 家相盤の方位を「外構図」で配置した真北マークの真北方位に合わせます。
フリー・・・・・・・・・・・・・「外構図」で配置した真北マークの各方位に関わらず家相盤の方位を自由に設定できます。

＊初期設定は、「磁北に合わせる」です。

家相盤設定の変更は、次回の家相盤配置から有効となり、配置済みの家相盤には反映されません。
種類で、「２４方位」を選択した場合は、家相チェック時に表示するメッセージを登録する必要があります。初期状態では登録されていません。(⇒【基本編－ 119】参照)

家相盤の配置

①（家相盤）をクリック

＊画面に緑色（　）と青色（　）のマークが表示されます。

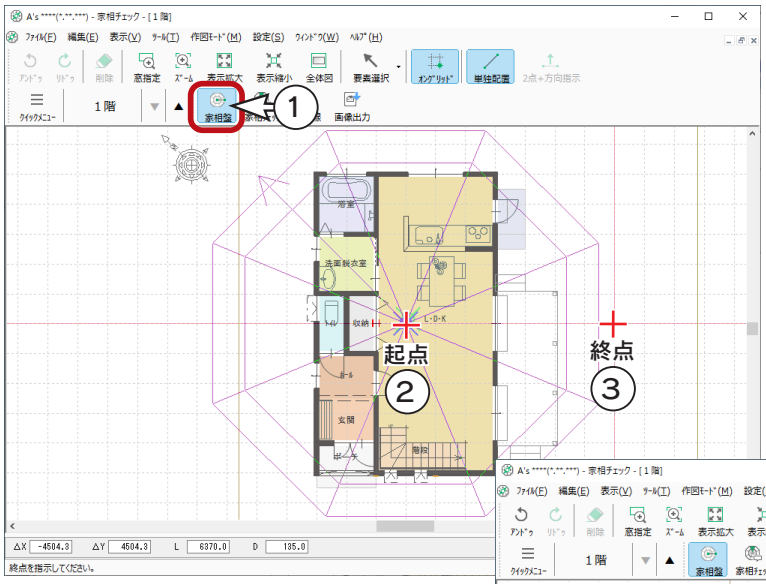
緑色（　）・・・・・各階層の外部の張り欠けを考慮した重心

青色（　）・・・・・建物最外周を矩形にしたときの中心

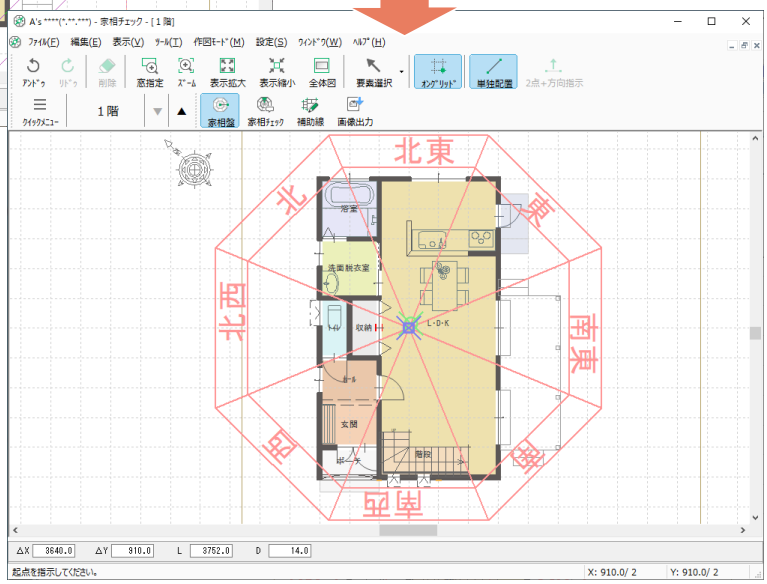
②ここでは、青色（　）のマークを起点に指示

③図のように終点を指示

＊終点により、家相盤の大きさが決まり、配置されます。



「外構図」で真北マークが配置されていて、配置方向の設定が「磁北に合わせる」または「真北に合わせる」の場合、終点をどのように指示しても、家相盤の方位は変わりません。



壁量チェックの重心について

「家相チェック」の重心は、階層ごとの重心です。
一方、「壁量チェック」の重心は、全階層を考慮しているため、「家相チェック」とは異なる場合があります。

２階の家相盤について

２階の家相盤は、１階の家相盤を参照して表示されますが、２階で改めて配置すると、１階と２階は独立したものとして扱われます。

家相盤の配置では、必要に応じて（補助線）をご利用ください。

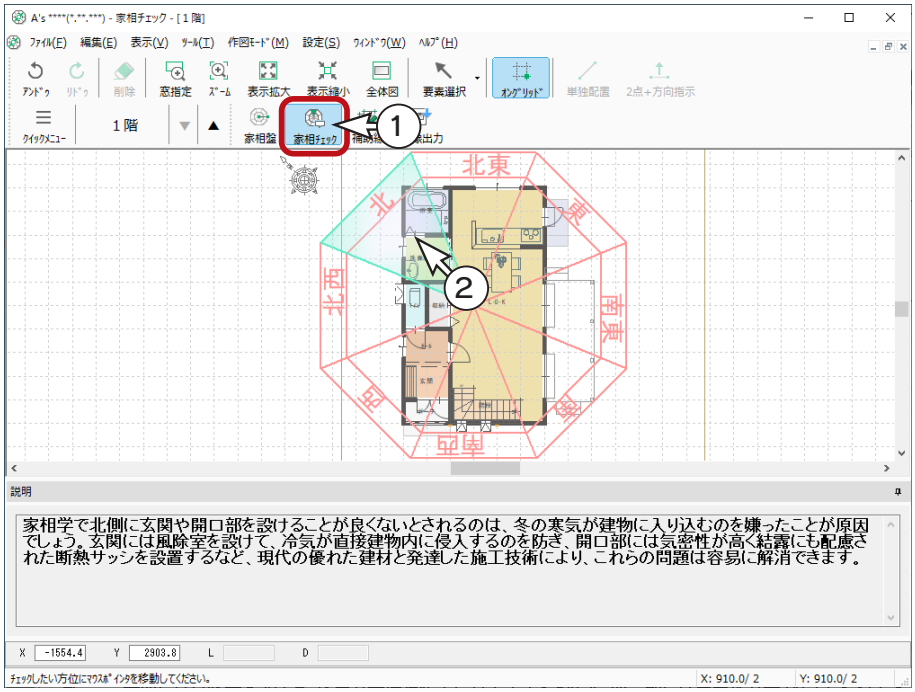
家相チェック

① （家相チェック）をクリック

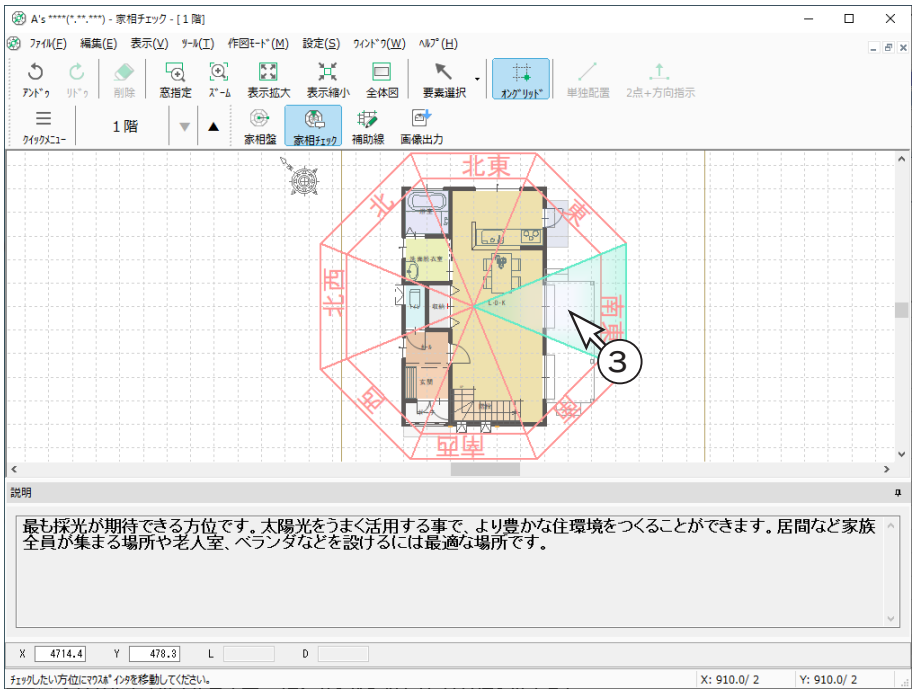
②家相盤上のチェックしたい方位にマウスを合わせる

＊画面下部にメッセージが表示されます。

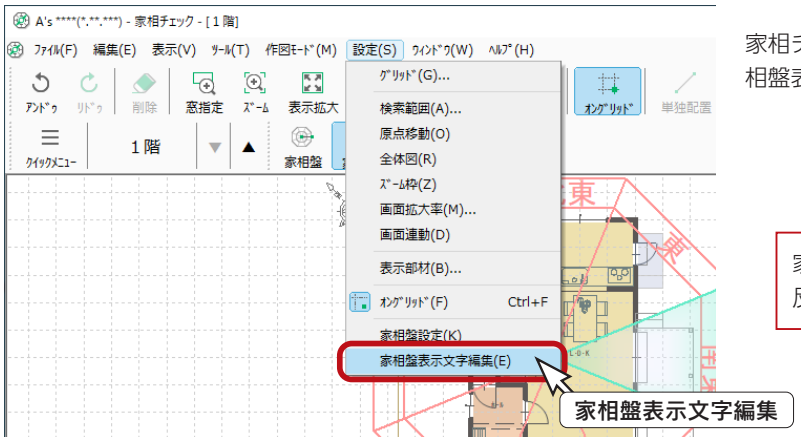
メッセージは、自由に編集が可能です。（次ページ参照）



③別の方位もマウスを合わせて確認



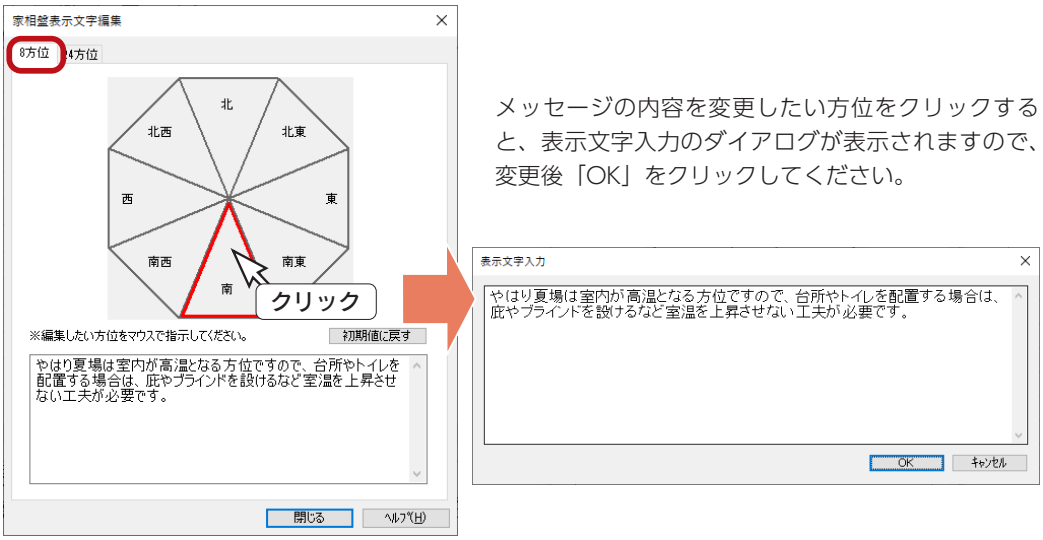
家相盤表示文字編集



家相チェックで表示されるメッセージは、「設定」⇒「家相盤表示文字編集」で変更することができます。

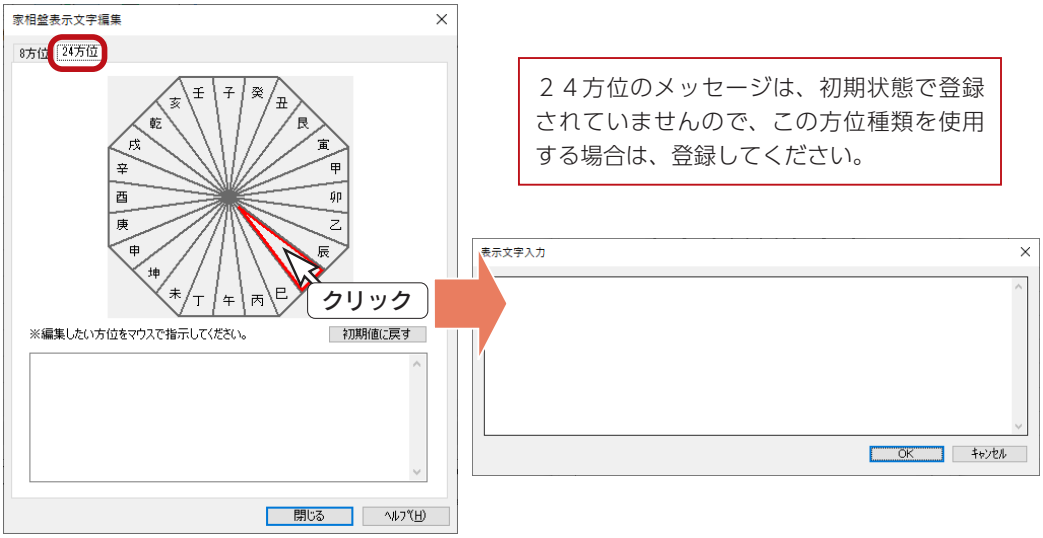
家相盤を配置後でも、メッセージの変更は反映されます。

■８方位



メッセージの内容を変更したい方位をクリックすると、表示文字入力のダイアログが表示されますので、変更後「OK」をクリックしてください。

■２４方位



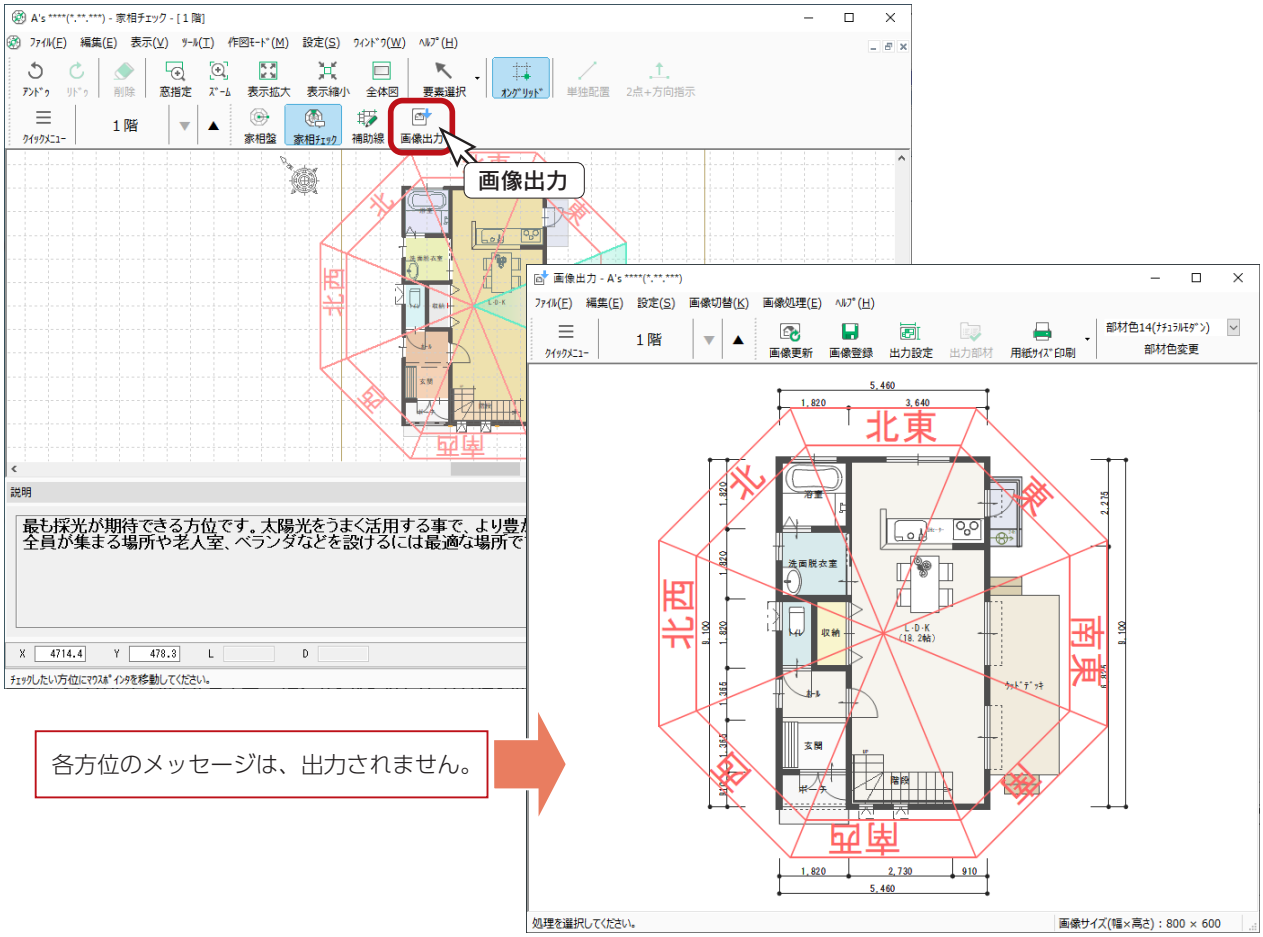
２４方位のメッセージは、初期状態で登録されていませんので、この方位種類を使用する場合は、登録してください。

「初期値に戻す」ボタンでは、編集前の状態に戻すことができます。
８方位では８方位、２４方位では２４方位の全ての変更が対象です。

メッセージは物件ごとではなく、システムに保存されますので、別の物件でも同じ内容となります。
また、PC ごとにメッセージを編集している場合は、同じ物件でもメッセージの内容が異なることになります。

家相盤の画像出力

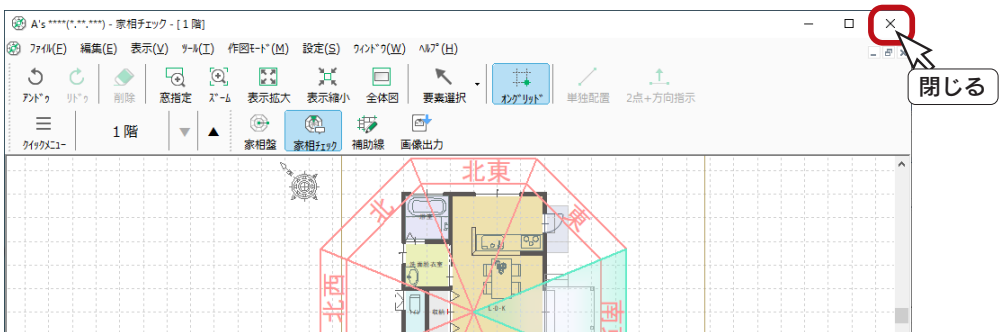
（画像出力）では、家相盤を配置した画面を画像として保存することができます。



「画像出力」の画面での操作は、「プラン図」の画像出力と同じです。

家相チェックの終了

タイトルバー右端の ✕（閉じる）をクリック、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリックしてください。



データの保存・終了

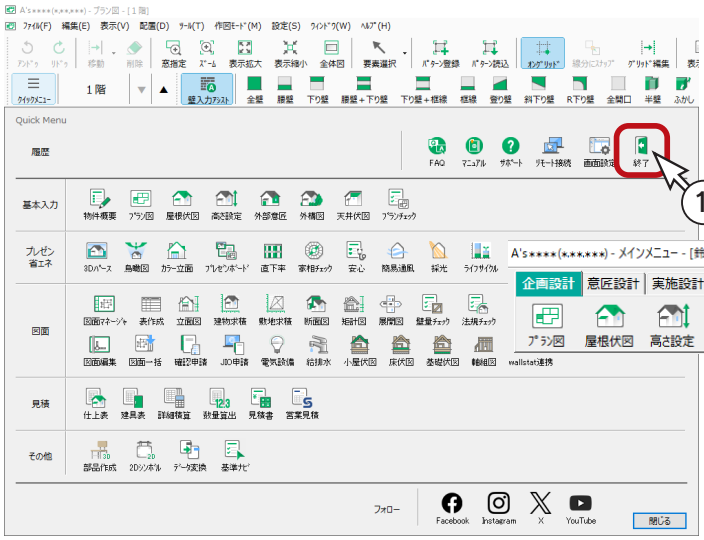
データを正式に保存し、終了しましょう。

①クイックメニュー、またはメインメニューの （終了）をクリック

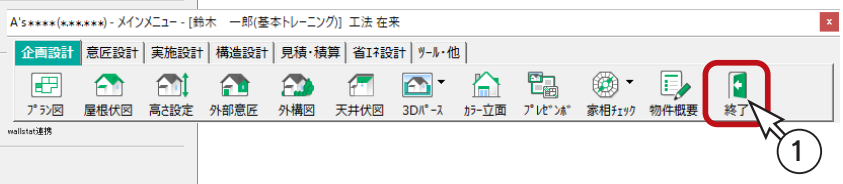
②終了の画面が表示されますので、「上書きで保存して終了」が選択されていることを確認
③「OK」をクリック
　＊保存処理後、物件管理の画面に戻ります。

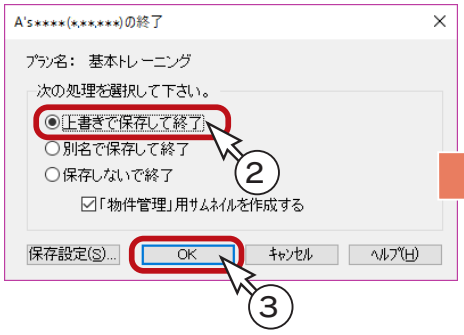
④タイトルバー右端の （閉じる）をクリック、もしくは「ファイル」⇒「終了」とクリック

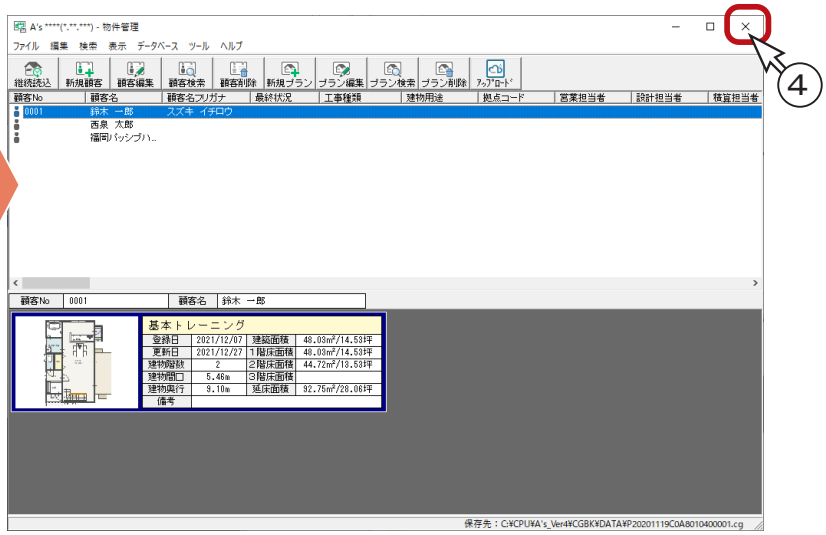
クイックメニュー



メインメニュー







1) 本書の内容の一部、または全部を株式会社シーピーユーの書面による許可なく複製、送信すること、及び他の言語に翻訳することを禁じます。
2) 本書の内容には万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きの点がありましたら弊社までご連絡ください。
3) 本書は予告なく変更することがあります。
4) 本書とプログラムの動作が異なる場合は、プログラムが優先します。尚、README に最新情報が記載されていますのでご利用ください。
5) 表記上の固有商品は各社の商標または登録商標です。

A's 2024 トレーニングマニュアル
基本編

2023 年 10 月 17 日　第 1 版発行

発行所　株式会社シーピーユー
〒 921-8043　金沢市西泉 4-60
［大 代 表］ TEL　(076) 241-0001
FAX　(076) 241-0002